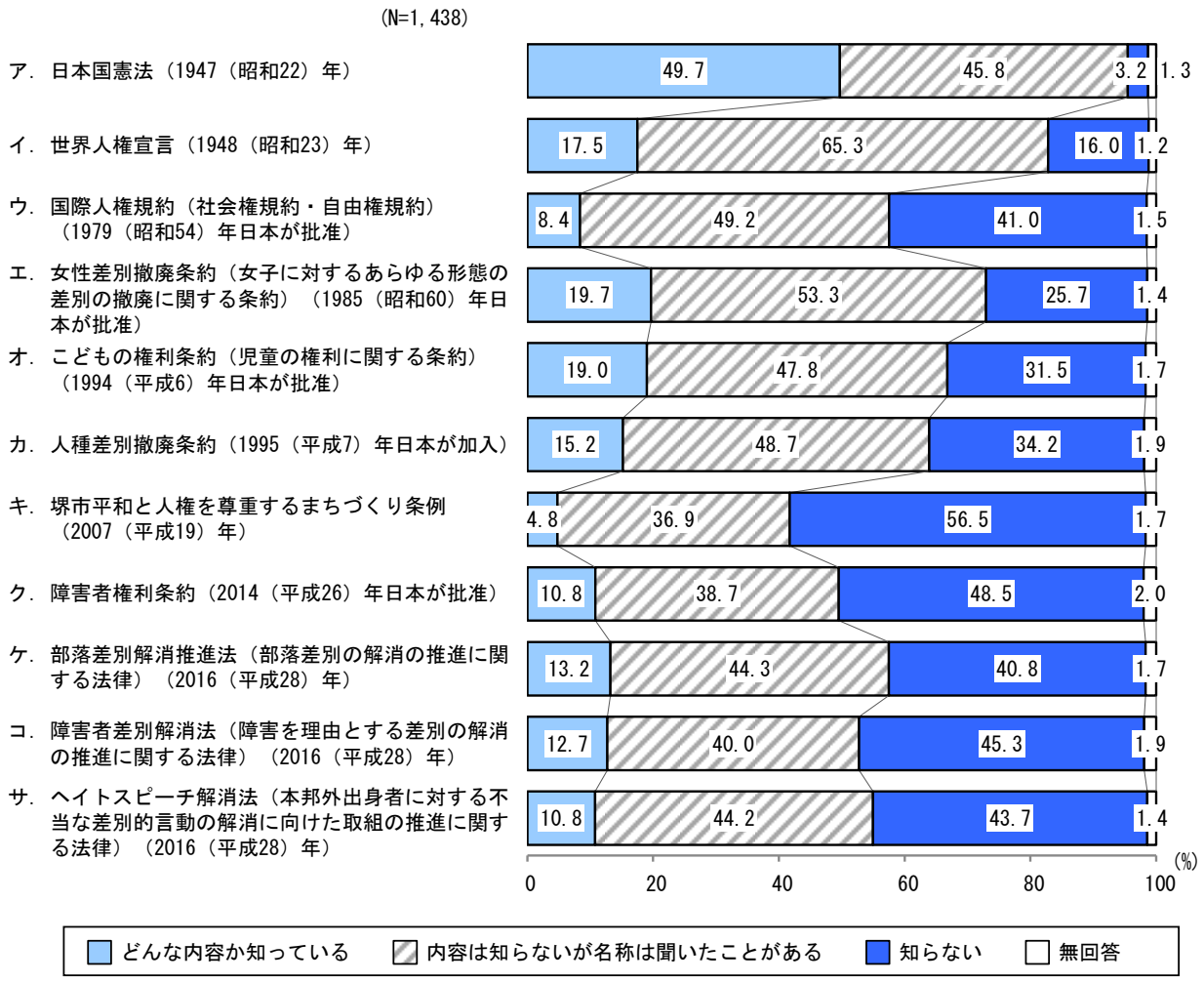
Ⅱ　調査結果

1　人権に関する考え方について

（1）人権に関する宣言、法律、条約等の認知状況

問1　あなたは、次の人権に関する宣言や条約、法律等について、どの程度知っていますか。
（それぞれあてはまる番号1つに○）

【図表1-1　人権に関する宣言、法律、条約等の認知状況】

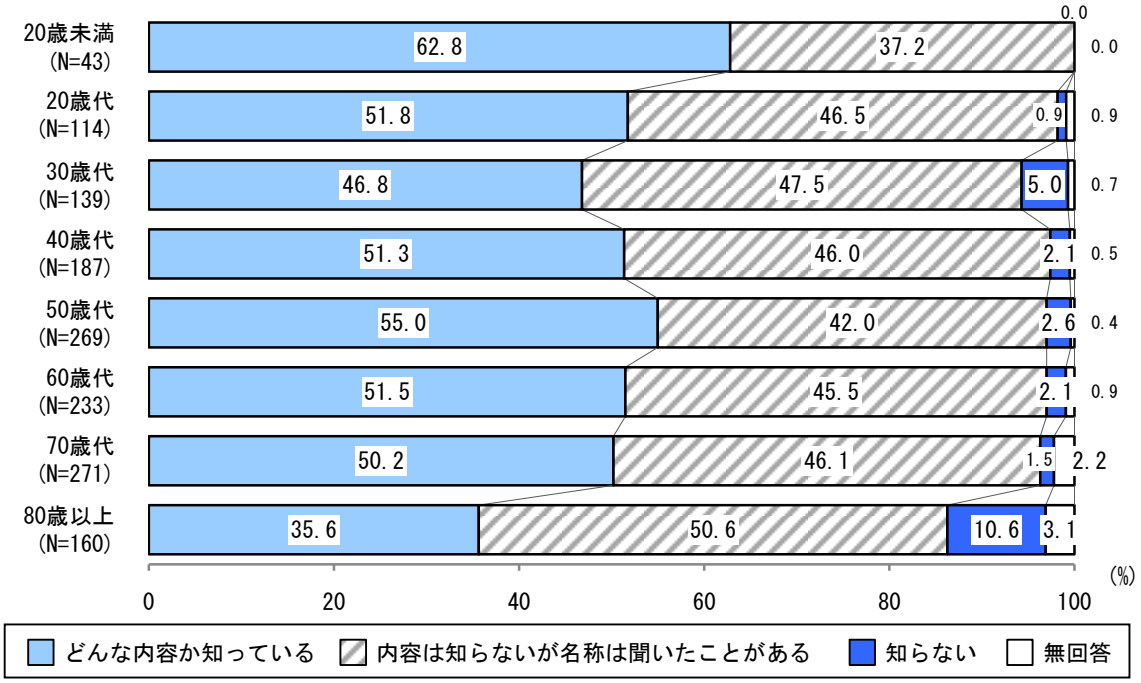


人権に関する宣言、法律、条約等の認知状況について、「どんな内容か知っている」が最も高い項目は「ア.日本国憲法（1947（昭和22）年）」（49.7%）で、各項目の中で唯一４割以上となっている。次いで「エ．女性差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）（1985（昭和60）年日本が批准）」（19.7%）、「オ．こどもの権利条約（児童の権利に関する条約）（1994（平成6）年日本が批准）」（19.0%）、「イ．世界人権宣言（1948（昭和23）年）」（17.5%）、「カ．人種差別撤廃条約（1995（平成7）年日本が加入）」（15.2%）となっている。

「知らない」の上位５項目は、割合が高い順に「キ．堺市平和と人権を尊重するまちづくり条例（2007（平成19）年）」（56.5%）、「ク．障害者権利条約（2014（平成26）年日本が批

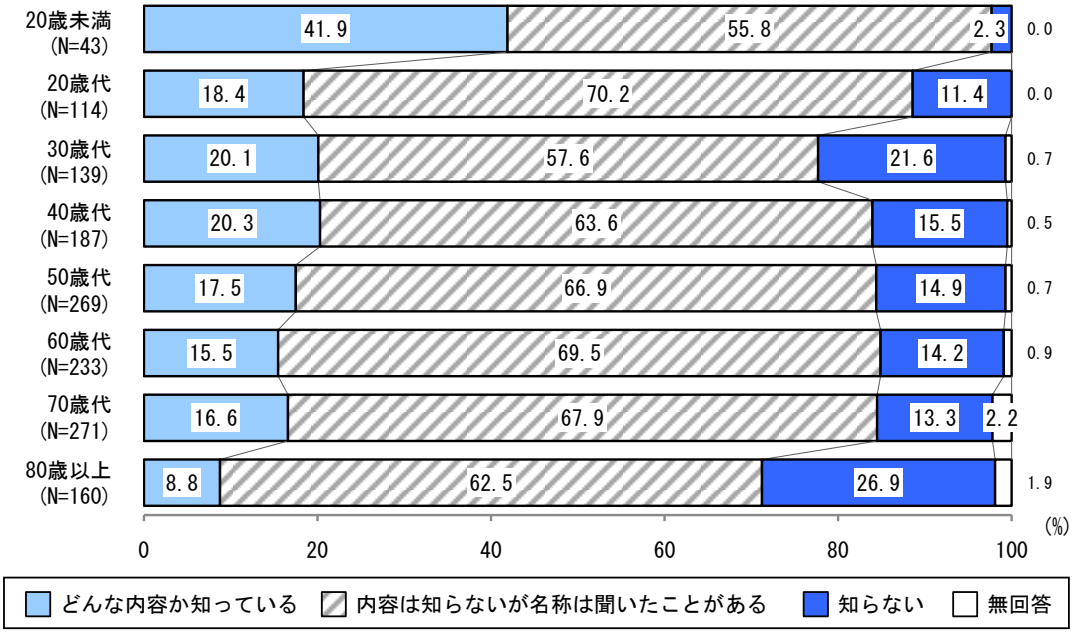
准)」(48.5%)、「コ. 障害者差別解消法(障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)(2016(平成28)年)」(45.3%)、「サ. ヘイトスピーチ解消法(本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律)(2016(平成28)年)」(43.7%)、「ウ. 国際人権規約(社会権規約・自由権規約)(1979(昭和54)年日本が批准)」(41.0%)となっている。(図表1-1)

【図表1-1-1　年齢別　ア.日本国憲法(1947(昭和22)年)】



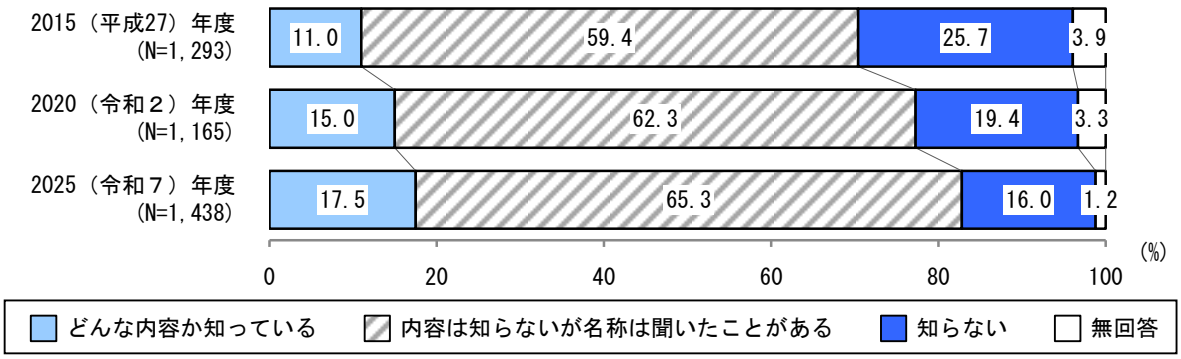
「ア.日本国憲法(1947(昭和22)年)」を年齢別でみると、いずれの年代も「どんな内容か知っている」が３割を超えており、なかでも20歳未満、20・40～70歳代では過半数を占めている。「知らない」の割合は80歳以上で約１割を占めている。(図表1-1-1)

【図表1-1-2　年齢別　イ.世界人権宣言（1948（昭和23）年)】



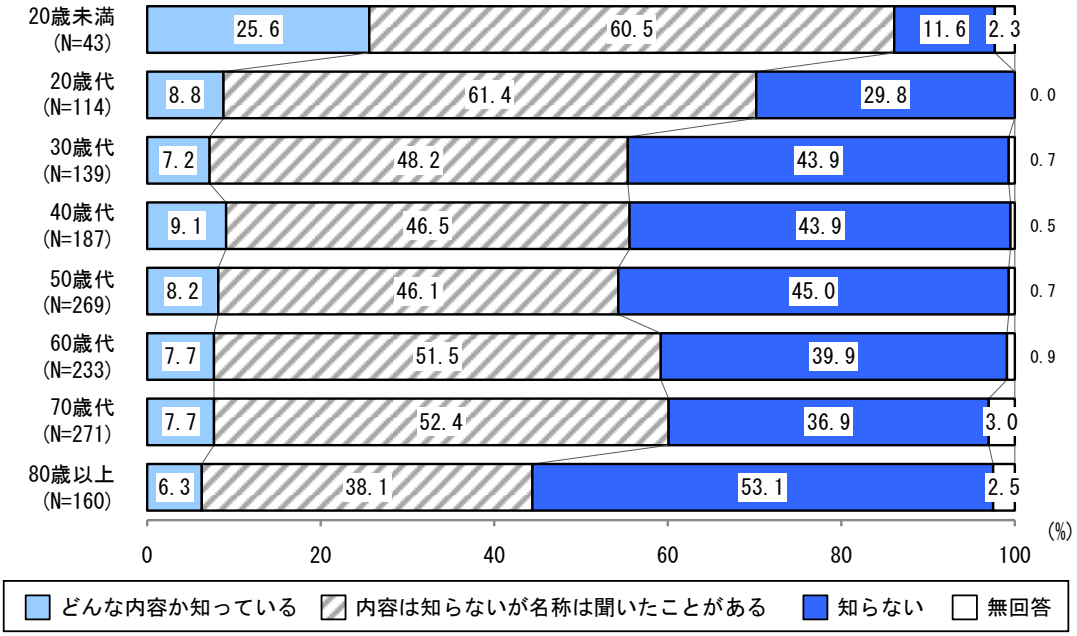
「イ．世界人権宣言（1948（昭和23）年)」を年齢別でみると、20歳未満は「どんな内容か知っている」の割合が41.9%と高くなっている。「知らない」の割合は30歳代、80歳以上で２割台と高くなっている。(図表1-1-2)

【図表1-1-3　経年比較　イ.世界人権宣言（1948（昭和23）年)】



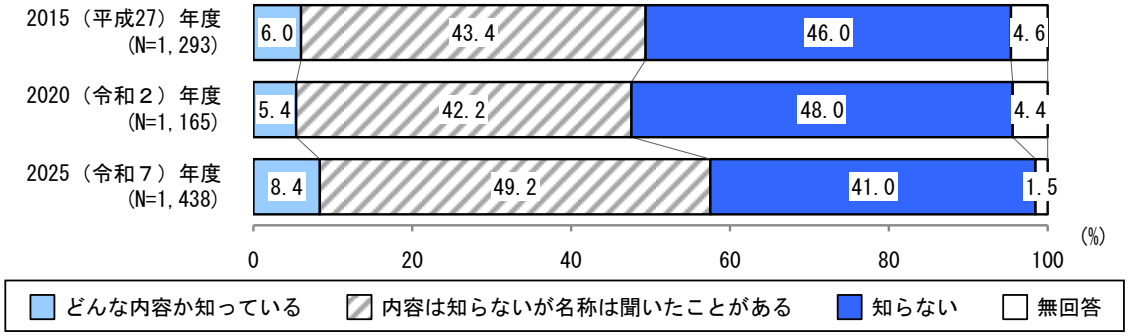
「イ.世界人権宣言（1948（昭和23）年)」の経年比較をみると、「どんな内容か知っている」と「内容は知らないが名称は聞いたことがある」の割合は増加傾向にあり、「どんな内容か知っている」の割合は前々回調査から6.5ポイント、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」の割合は前々回調査から5.9ポイント増加している。(図表1-1-3)

【図表1-1-4　年齢別　ウ.国際人権規約（社会権規約・自由権規約）（1979（昭和54）年日本が批准）】



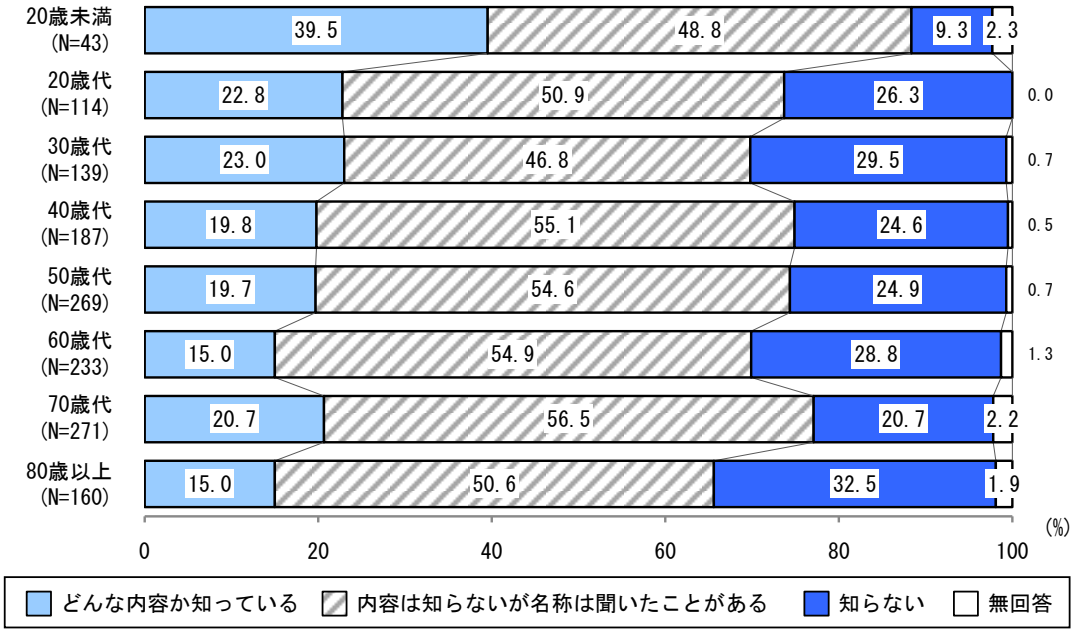
「ウ．国際人権規約（社会権規約・自由権規約）（1979（昭和54）年日本が批准）」を年齢別でみると、30歳代以上では「知らない」の割合が３割以上と高く、80歳以上が53.1％と最も高くなっている。（図表1-1-4）

【図表1-1-5　経年比較　ウ.国際人権規約（社会権規約・自由権規約）（1979（昭和54）年日本が批准）】



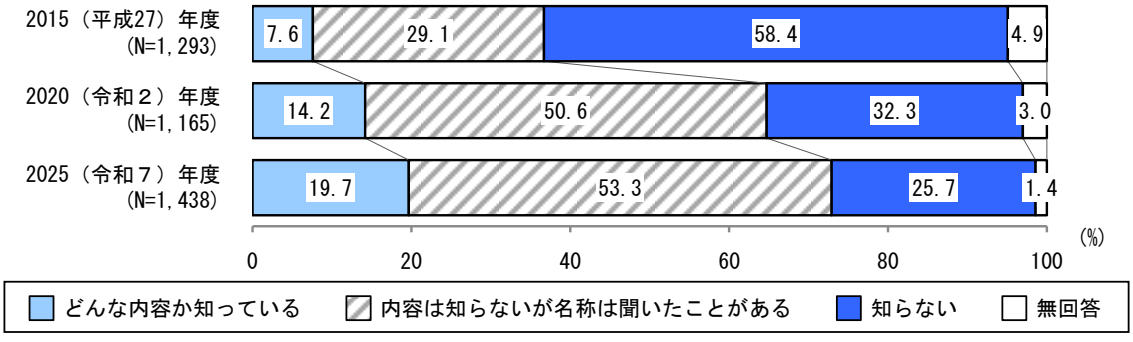
「ウ.国際人権規約（社会権規約・自由権規約）（1979（昭和54）年日本が批准）」の経年比較をみると、「どんな内容か知っている」と「内容は知らないが名称は聞いたことがある」の割合は今回調査が最も高く、「知らない」の割合は前回調査と比べて7.0ポイント減少している。（図表1-1-5）

【図表1-1-6　年齢別　エ.女性差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）（1985（昭和60）年日本が批准）】



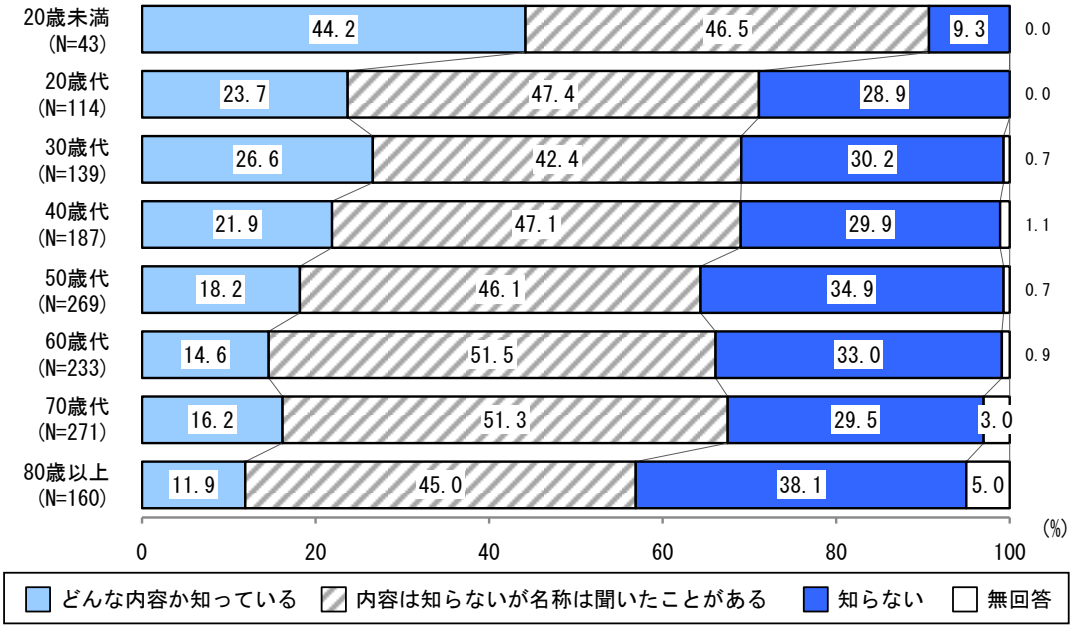
「エ.女性差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）（1985（昭和60）年日本が批准）」を年齢別でみると、「知らない」の割合は20歳代以上で２割以上となっており、80歳以上が32.5%で最も高くなっている。（図表1-1-6）

【図表1-1-7　経年比較　エ.女性差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）（1985（昭和60）年日本が批准）】



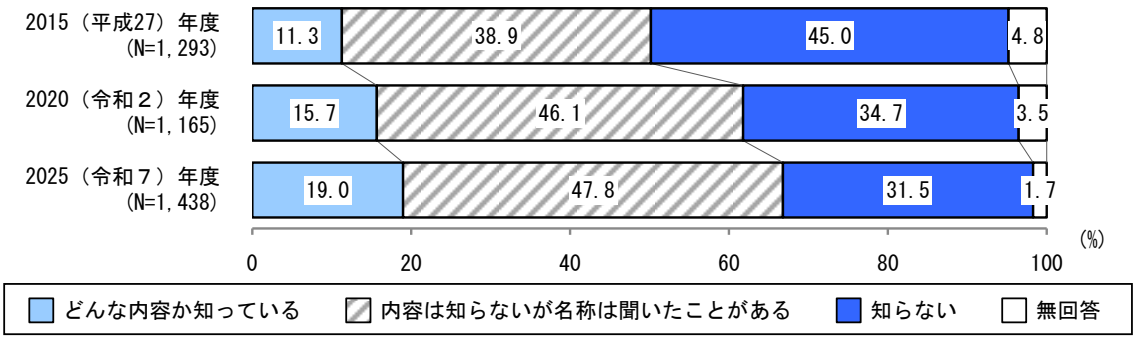
「エ.女性差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）（1985（昭和60）年日本が批准）」の経年比較をみると、「どんな内容か知っている」と「内容は知らないが名称は聞いたことがある」の割合は増加傾向にあり、なかでも「内容は知らないが名称は聞いたことがある」は前々回調査と比べて24.2ポイント増加している。（図表1-1-7）

【図表1-1-8　年齢別　オ.こどもの権利条約（児童の権利に関する条約）（1994（平成6）年日本が批准）】



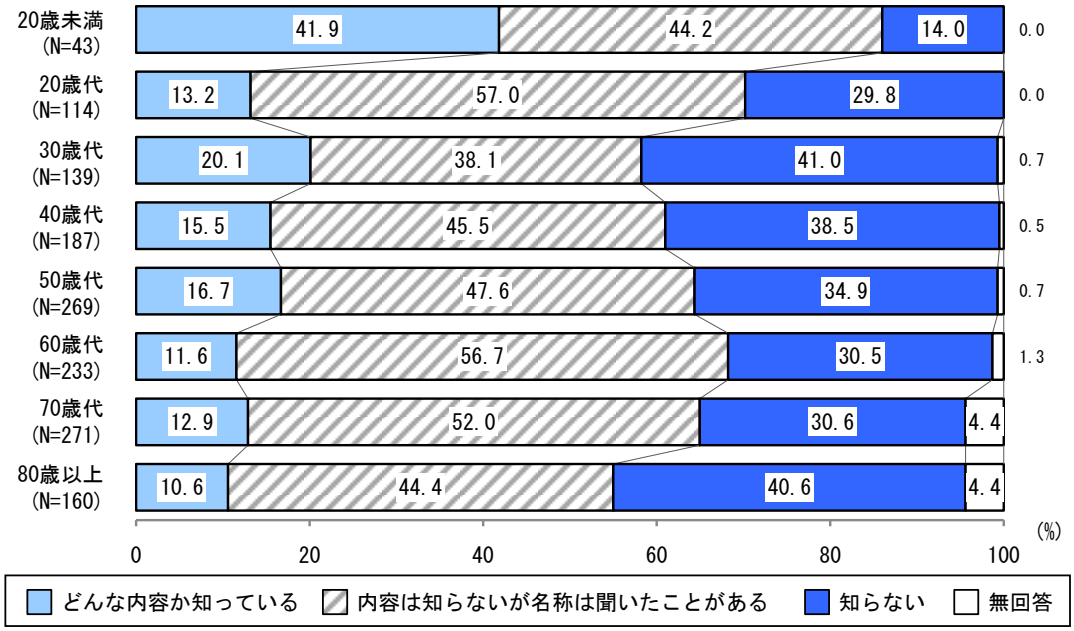
「オ.こどもの権利条約（児童の権利に関する条約）（1994（平成6）年日本が批准）」を年齢別でみると、いずれも年代も「内容は知らないが名称は聞いたことがある」が４割以上を占めており、「知らない」の割合は30・50・60歳代、80歳以上で３割以上となっている。（図表1-1-8）

【図表1-1-9　経年比較　オ.こどもの権利条約（児童の権利に関する条約）（1994（平成6）年日本が批准）】



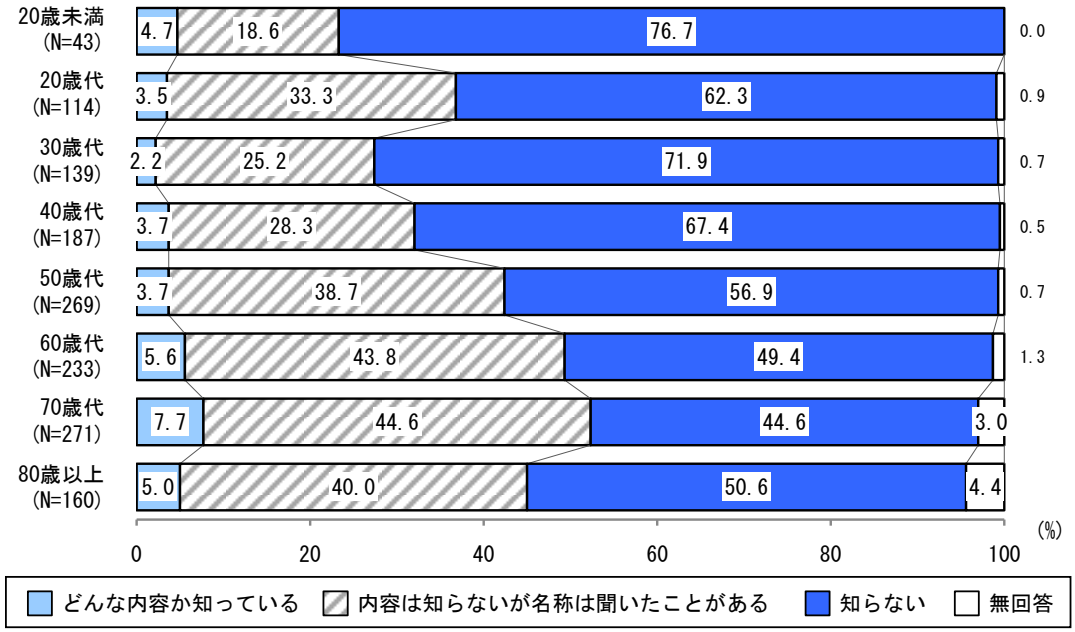
「オ.こどもの権利条約（児童の権利に関する条約）（1994（平成6）年日本が批准）」の経年比較をみると、「どんな内容か知っている」と「内容は知らないが名称は聞いたことがある」の割合は増加傾向にあり、なかでも「内容は知らないが名称は聞いたことがある」は前々回調査と比べて8.9ポイント増加している。（図表1-1-9）

【図表1-1-10　年齢別　カ.人種差別撤廃条約（1995（平成7）年日本が加入）】



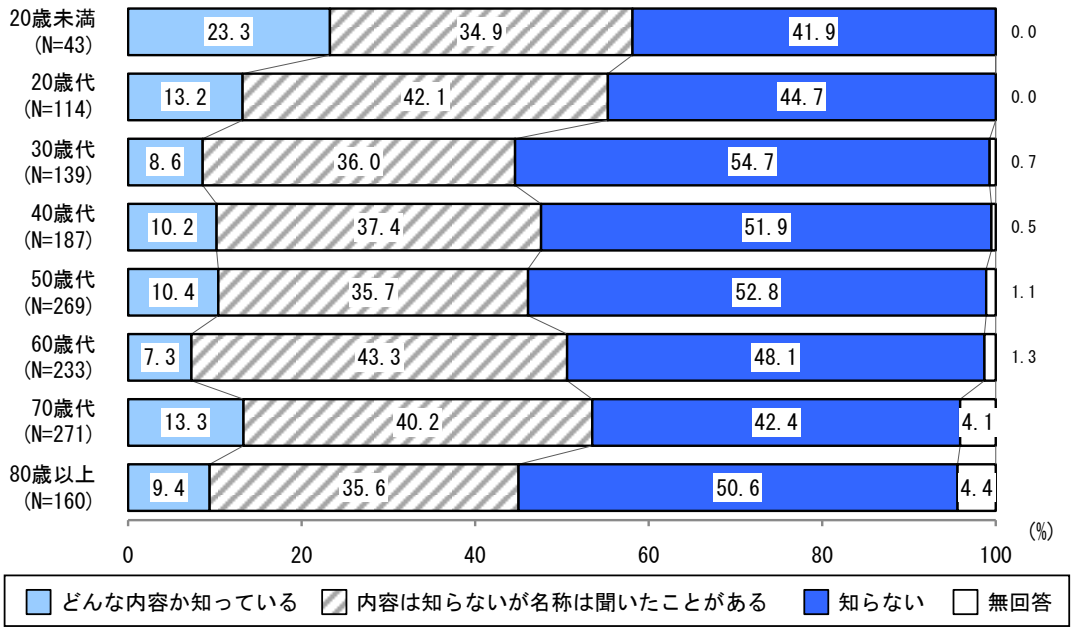
「カ．人種差別撤廃条約（1995（平成7）年日本が加入）」を年齢別でみると、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」の割合は20・60・70歳代で５割台と高く、「知らない」の割合は30歳代が41.0%で最も高くなっている。（図表1-1-10）

【図表1-1-11　年齢別　キ.堺市平和と人権を尊重するまちづくり条例（2007（平成19）年）】



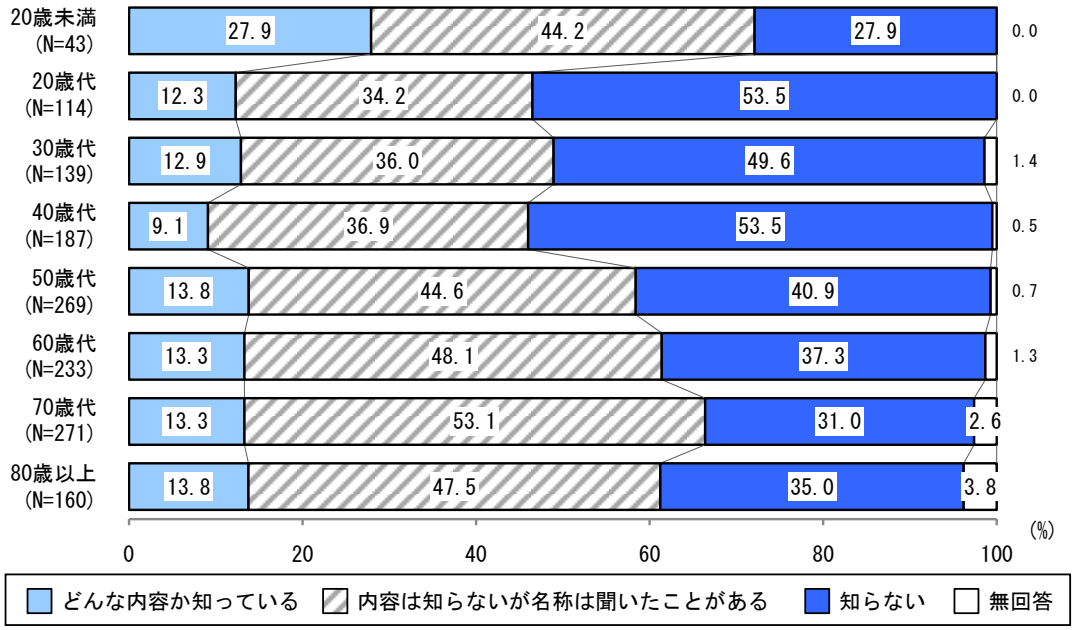
「キ.堺市平和と人権を尊重するまちづくり条例（2007（平成19）年）」を年齢別でみると、「知らない」の割合は60・70歳代以外の年代で過半数を占めており、20歳未満、30歳代が７割台と高くなっている。（図表1-1-11）

【図表1-1-12　年齢別　ク.障害者権利条約（2014（平成26）年日本が批准)】



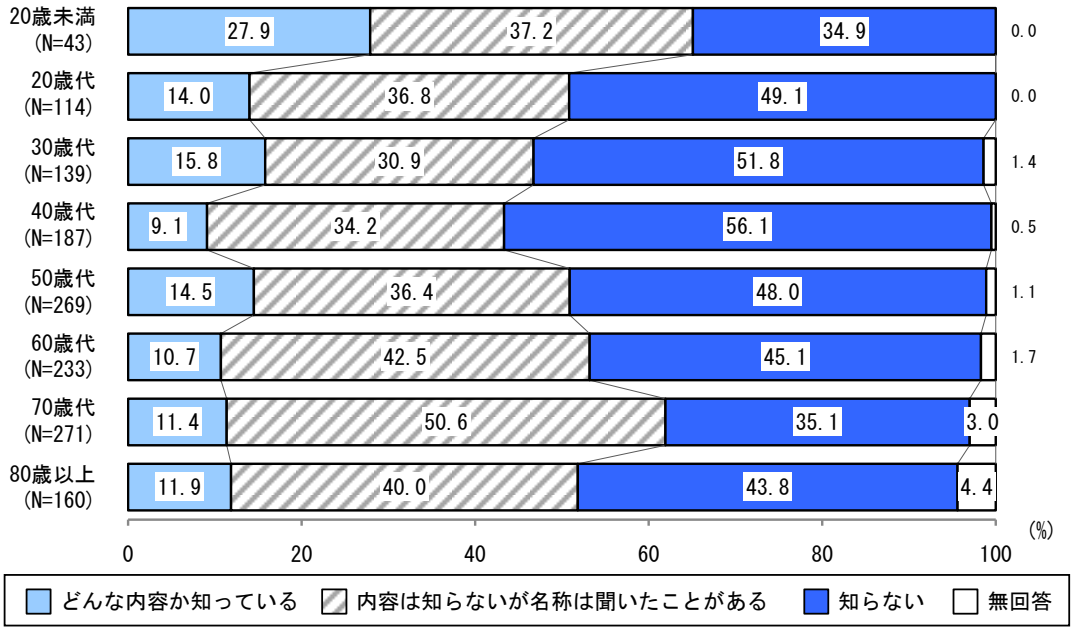
「ク.障害者権利条約（2014（平成26）年日本が批准)」を年齢別でみると、いずれの年代も「知らない」が最も多く、30歳代が54.7%で最も高い割合となっている。（図表1-1-12）

【図表1-1-13　年齢別　ケ.部落差別解消推進法（部落差別の解消の推進に関する法律）（2016（平成28）年）】



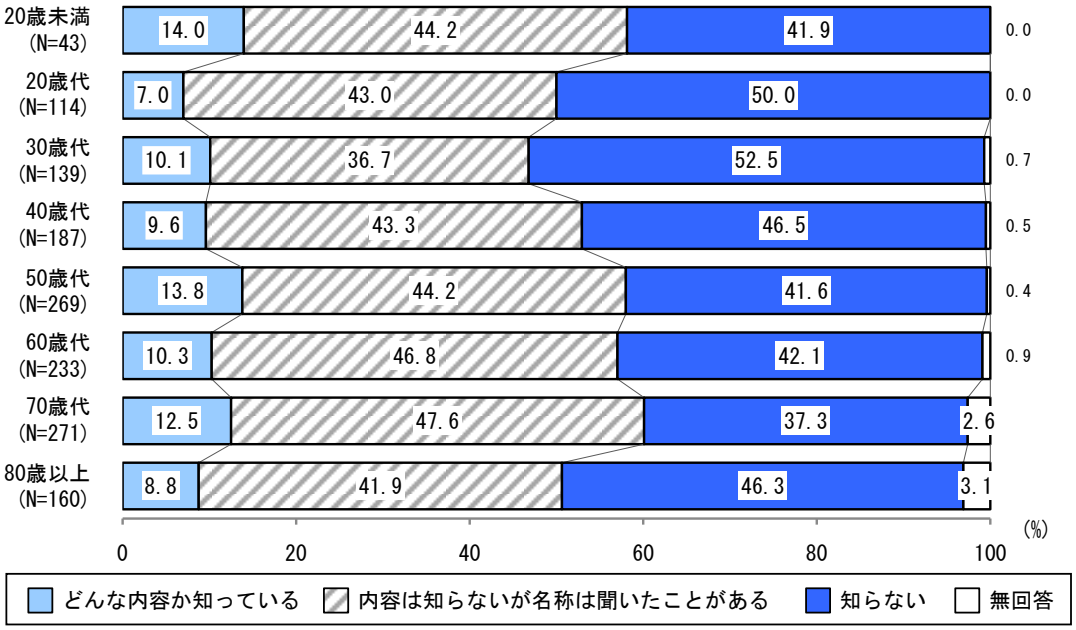
「ケ.部落差別解消推進法（部落差別の解消の推進に関する法律）（2016（平成28）年）」を年齢別でみると、20～40歳代では「知らない」が最も多くなっている。「内容は知らないが名称は聞いたことがある」の割合は70歳代が53.1%で最も高くなっている。（図表1-1-13）

【図表1-1-14　年齢別　コ.障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）（2016（平成28）年）】



「コ.障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）（2016（平成28）年）」を年齢別でみると。20～60歳代と80歳以上では「知らない」が最も多く、40歳代が56.1%で最も高くなっている。「内容は知らないが名称は聞いたことがある」の割合は70歳代が50.6%で最も高くなっている。（図表1-1-14）

【図表1-1-15　年齢別　サ.ヘイトスピーチ解消法（本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律）（2016（平成28）年）】

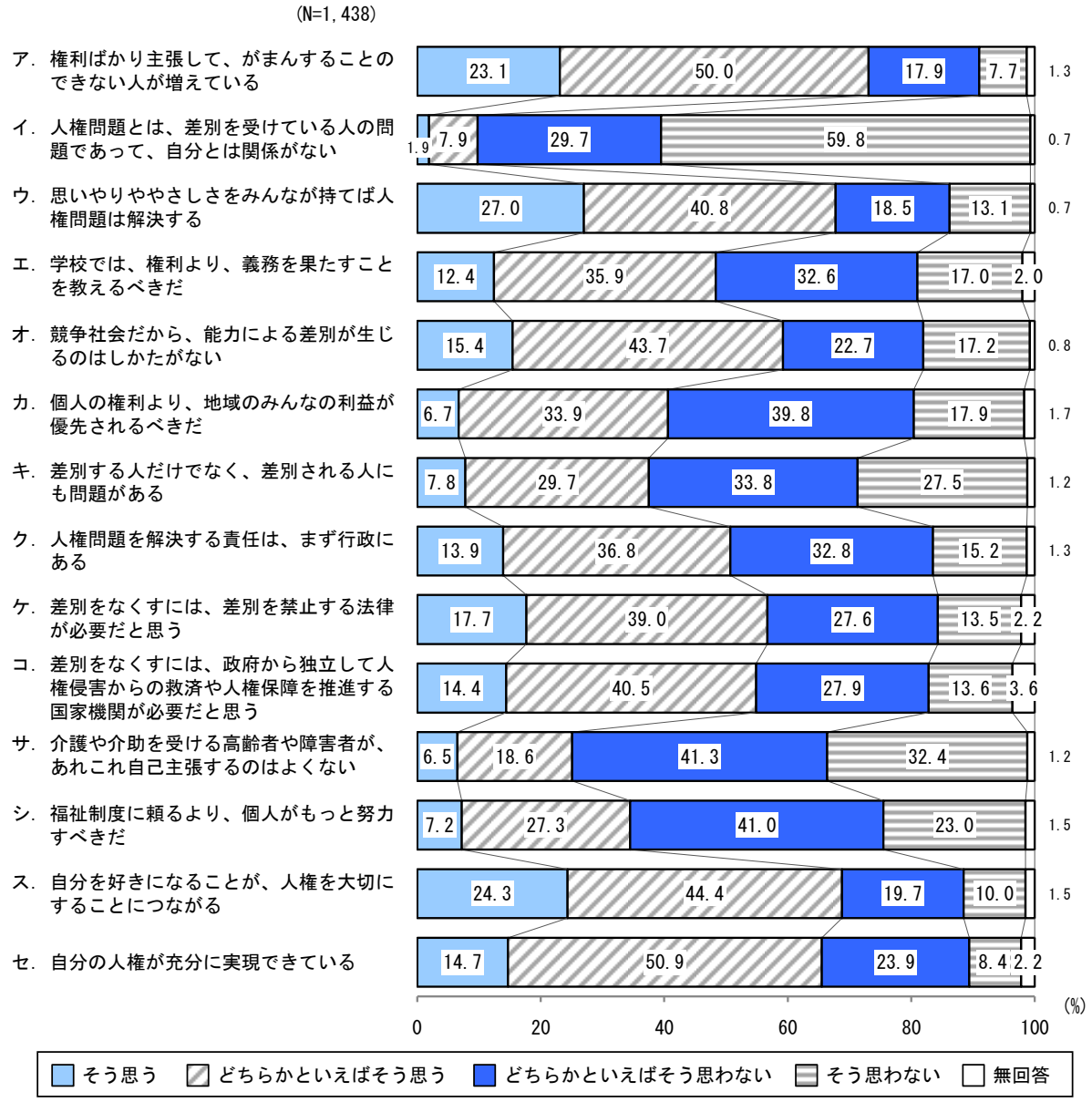


「サ.ヘイトスピーチ解消法（本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律）（2016（平成28）年）」を年齢別でみると、20～40歳代と80歳以上では「知らない」が最も多く、30歳代が52.5%で最も高くなっている。（図表1-1-15）

（２）人権に関する考え方

問２　人権について、いろいろな考え方がありますが、あなたはどう思いますか。それぞれについて、あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。
（それぞれあてはまる番号１つに○）

【図表1-2　人権に関する考え方】

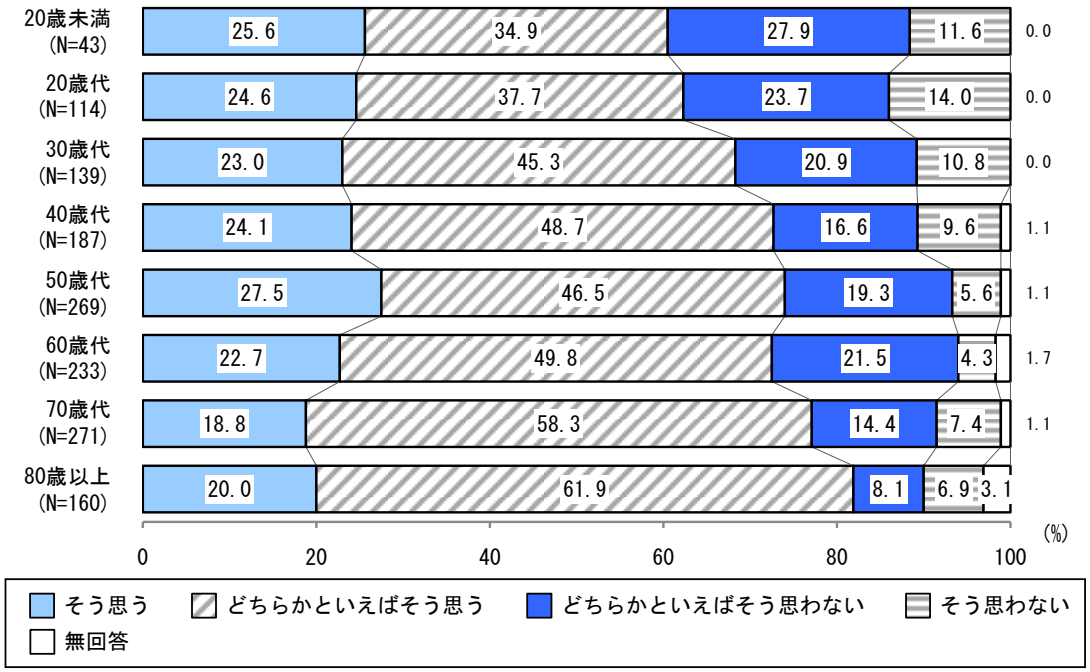


人権に関する考え方について、“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）を上回る項目は、「ア．権利ばかり主張して、がまんすることのできない人が増えている」（73.1%）が最も高く、次いで「ス．自分を好きになることが、人権を大切にすることにつながる」（68.7%）、「ウ．思いやりややさしさをみんなが持てば人権問題は解決する」（67.8%）、「セ．自分の人権が充分に実現できている」（65.6%）、「オ．競争社会だから、能力による差別が生じるのはしかたがない」（59.1%）などとなっている。

一方で、“そう思わない”が”そう思う”を上回る項目は、「イ．人権問題とは、差別を受

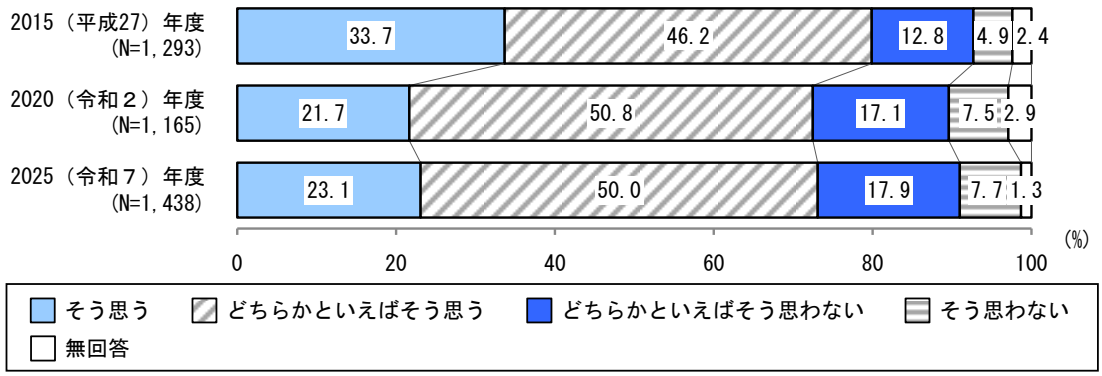
けている人の問題であって、自分とは関係がない」(89.5%) が最も高く、次いで「サ．介護や介助を受ける高齢者や障害者が、あれこれ自己主張するのはよくない」(73.7%)、「シ．福祉制度に頼るより、個人がもっと努力すべきだ」(64.0%)、「キ．差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」(61.3%)、「カ．個人の権利より、地域のみんなの利益が優先されるべきだ」(57.7%) などとなっている。(図表1-2)

【図表1-2-1　年齢別　ア.権利ばかり主張して、がまんすることのできない人が増えている】



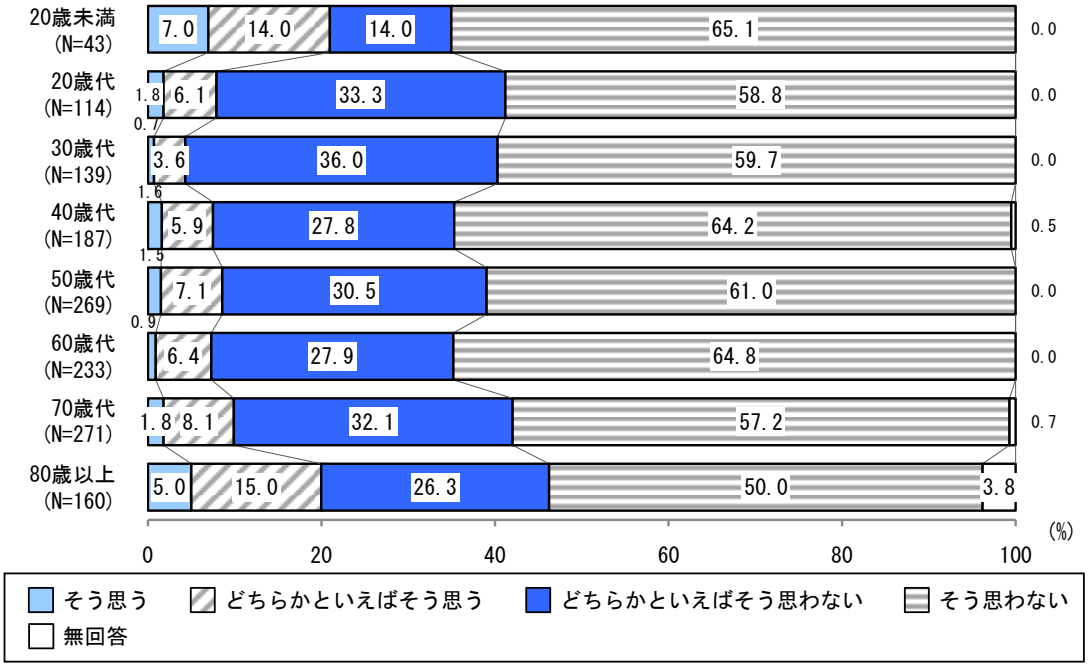
「ア.権利ばかり主張して、がまんすることのできない人が増えている」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は80歳以上が81.9%で最も高くなっている。一方で、“そう思わない”の割合は20歳未満が39.5%で最も高く、概ね若い年代ほど割合が高くなっている。(図表1-2-1)

【図表1-2-2　経年比較　ア.権利ばかり主張して、がまんすることのできない人が増えている】



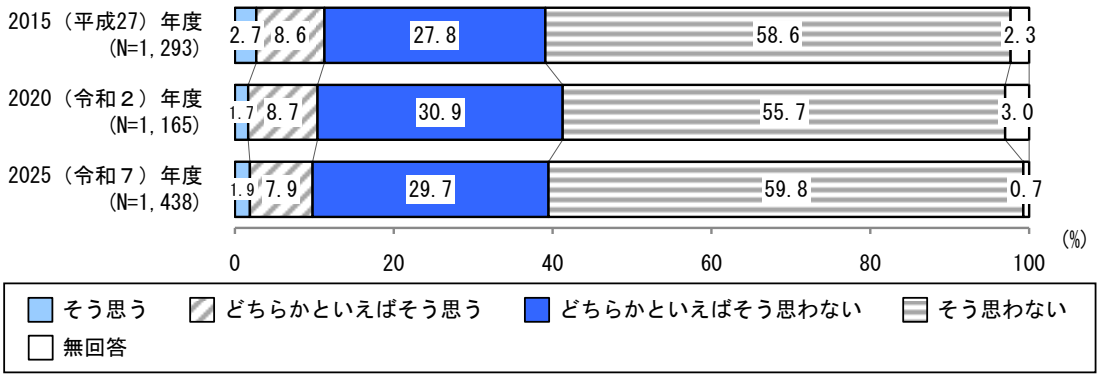
「ア.権利ばかり主張して、がまんすることのできない人が増えている」を経年比較でみると、“そう思う”の割合は前々回調査が79.9%で最も高く、今回調査は前々回調査から6.8ポイント減少している。(図表1-2-2)

【図表1-2-3　年齢別　イ.人権問題とは、差別を受けている人の問題であって、自分とは関係がない】



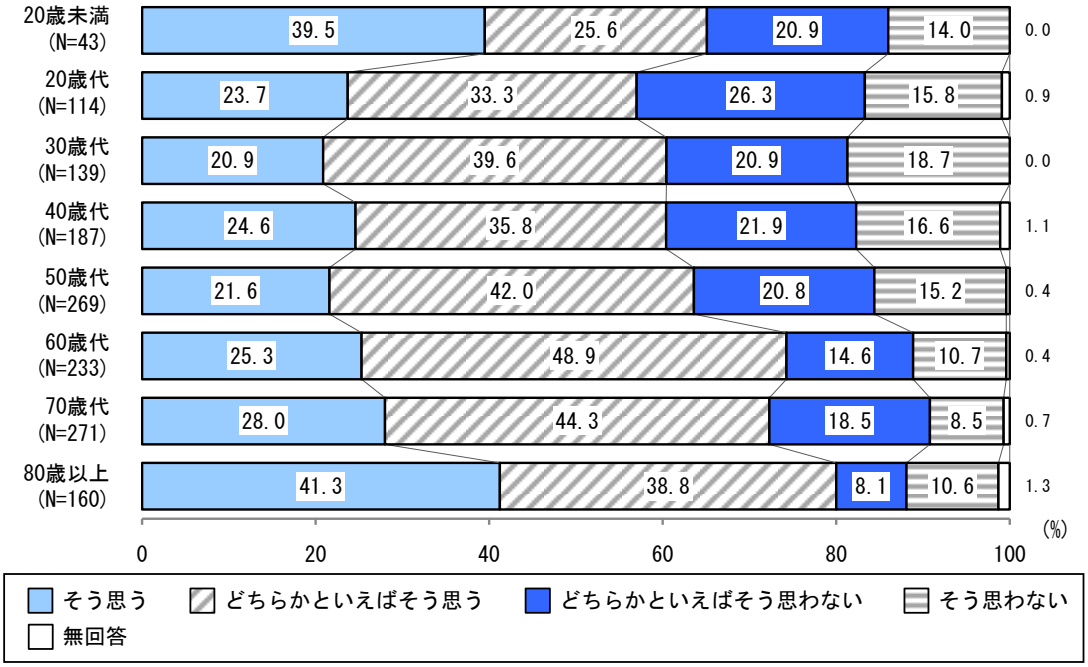
「イ.人権問題とは、差別を受けている人の問題であって、自分とは関係がない」を年齢別でみると、いずれも“そう思わない”の割合が７割以上を占めており、20～60歳代で９割台を占め、その中でも30歳代が95.7%で最も高くなっている。（図表I-2-3）

【図表1-2-4　経年比較　イ.人権問題とは、差別を受けている人の問題であって、自分とは関係がない】



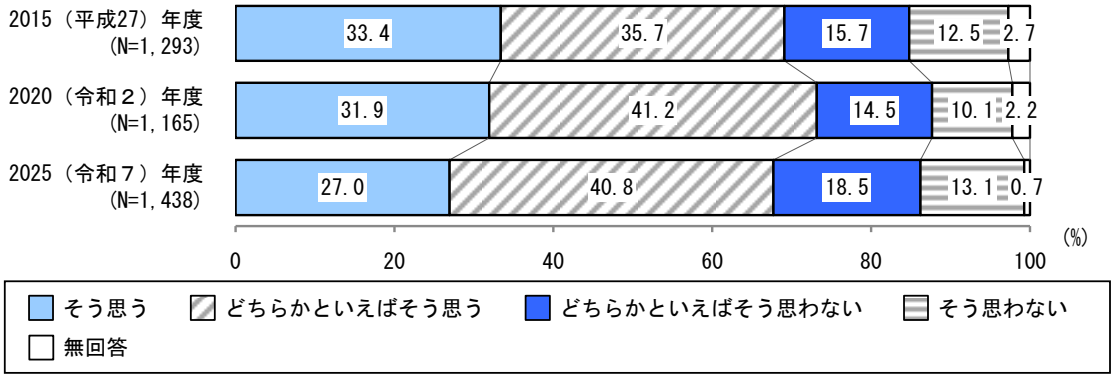
「イ.人権問題とは、差別を受けている人の問題であって、自分とは関係がない」を経年比較でみると、“そう思わない”の割合は増加傾向にあり、前々回調査と比べて3.1ポイント増加している。（図表I-2-4）

【図表1-2-5　年齢別　ウ.思いやりややさしさをみんなが持てば人権問題は解決する】



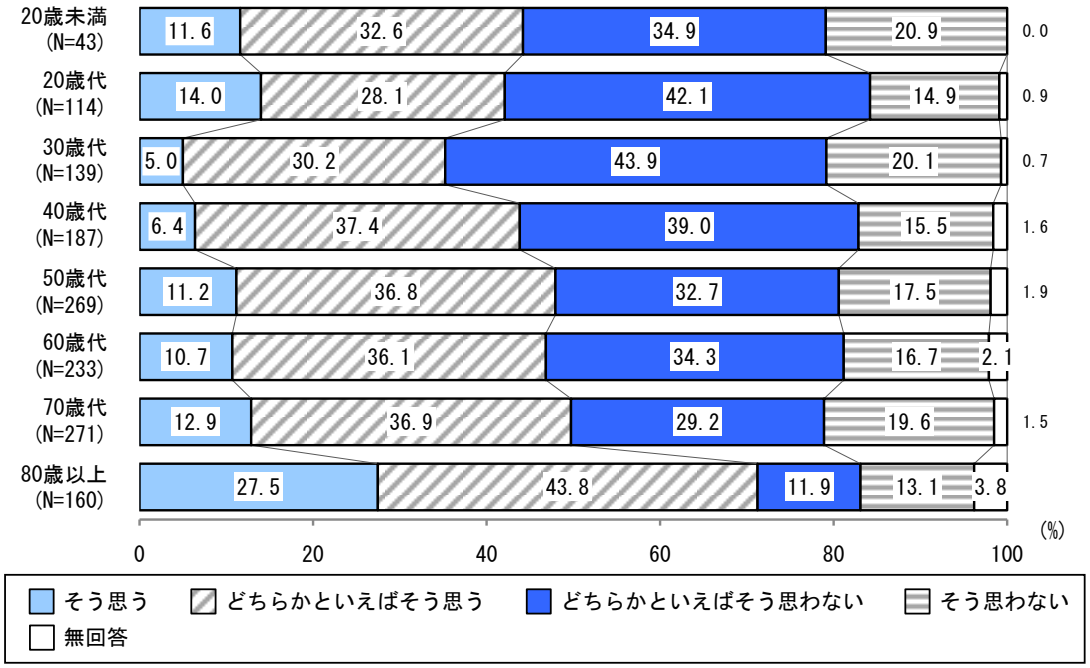
「ウ.思いやりややさしさをみんなが持てば人権問題は解決する」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は概ね高齢になるほど割合が高く、60歳代以上の年代で７割以上となっており、その中で80歳以上が80.1％で最も高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は20歳代が42.1％で最も高くなっている。（図表1-2-5）

【図表1-2-6　経年比較　ウ.思いやりややさしさをみんなが持てば人権問題は解決する】



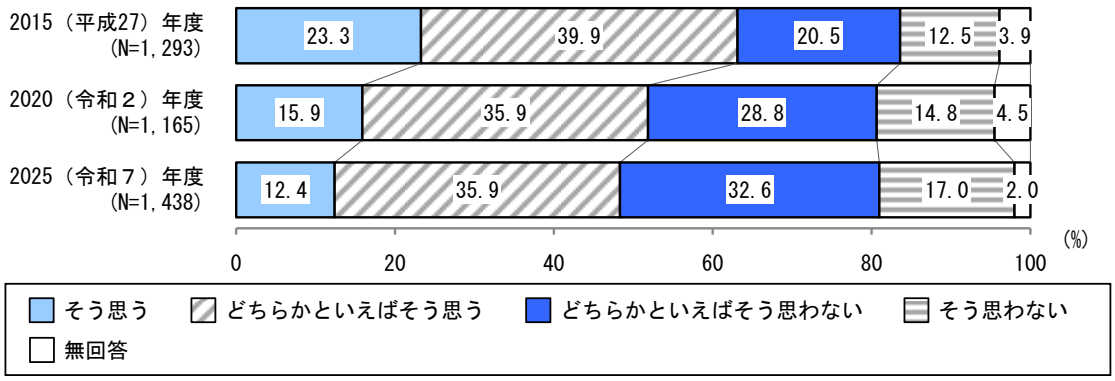
「ウ.思いやりややさしさをみんなが持てば人権問題は解決する」を経年比較でみると、“そう思う”の割合は前回調査と比べ5.3ポイント減少する一方で、“そう思わない”の割合が前回調査から7.0ポイント増加している。（図表1-2-6）

【図表1-2-7　年齢別　エ.学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ】



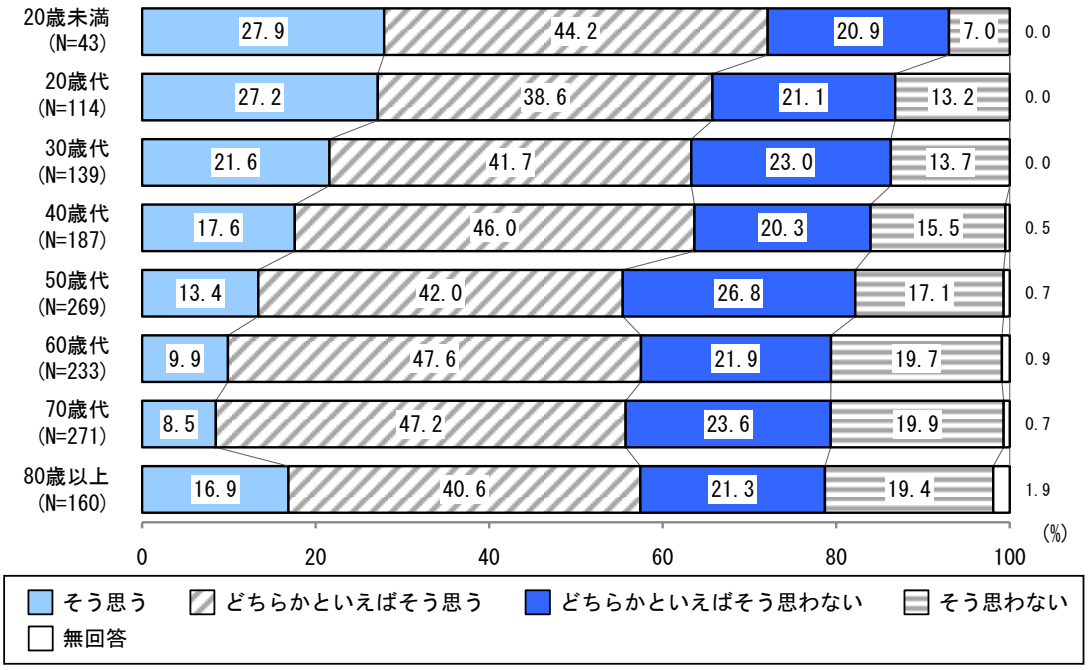
「エ．学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は80歳以上が71.3%と最も高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は30歳代が64.0%で最も高く、60歳代までの年代で過半数を占めている。（図表1-2-7）

【図表1-2-8　経年比較　エ.学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ】



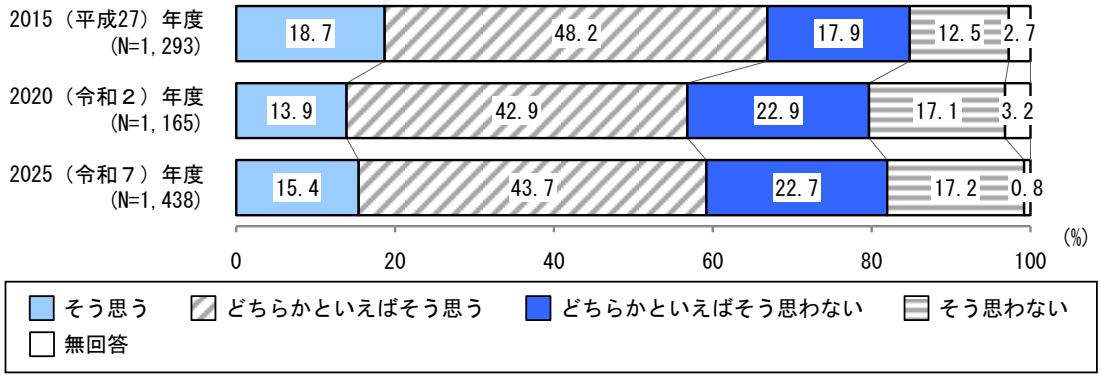
「エ．学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ」を経年比較でみると、“そう思う”の割合は減少傾向にあり、前々回調査から14.9ポイント減少している。一方、“そう思わない”の割合は増加傾向にあり、前々回調査から16.6ポイント増加している。（図表1-2-8）

【図表1-2-9　年齢別　オ.競争社会だから、能力による差別が生じるのはしかたがない】



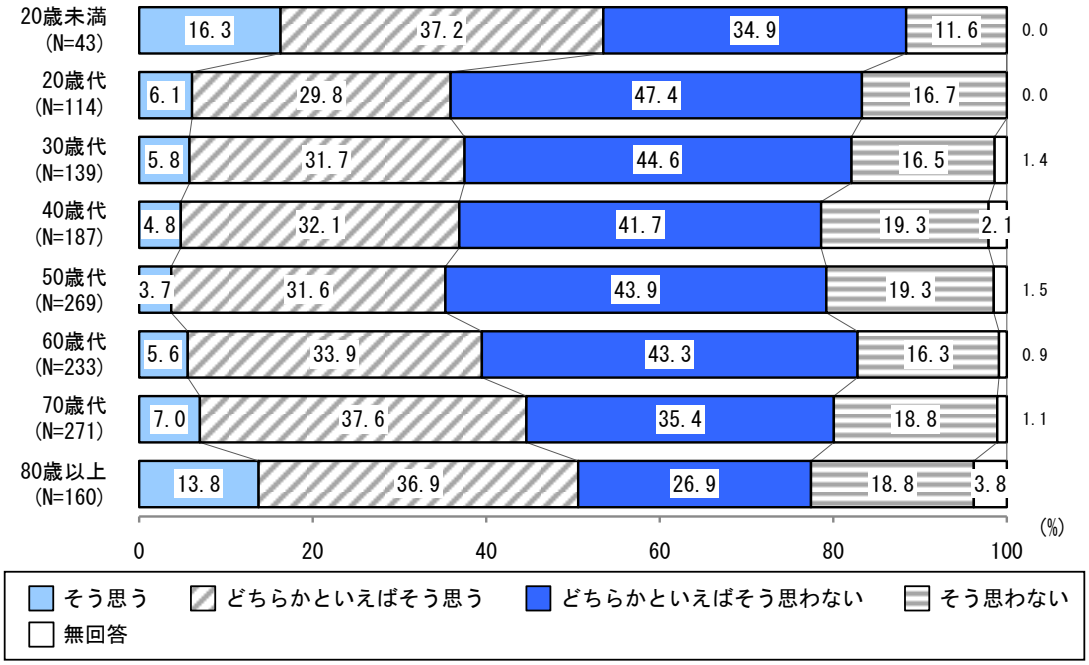
「オ．競争社会だから、能力による差別が生じるのはしかたがない」を年齢別でみると、“そう思う”の割合はいずれも過半数を占め、20歳未満が72.1%と最も高く、高齢になるほど割合が低くなる傾向にある。一方、“そう思わない”の割合は50歳代以上の年代で４割台となっている。（図表I-2-9）

【図表1-2-10　経年比較　オ.競争社会だから、能力による差別が生じるのはしかたがない】



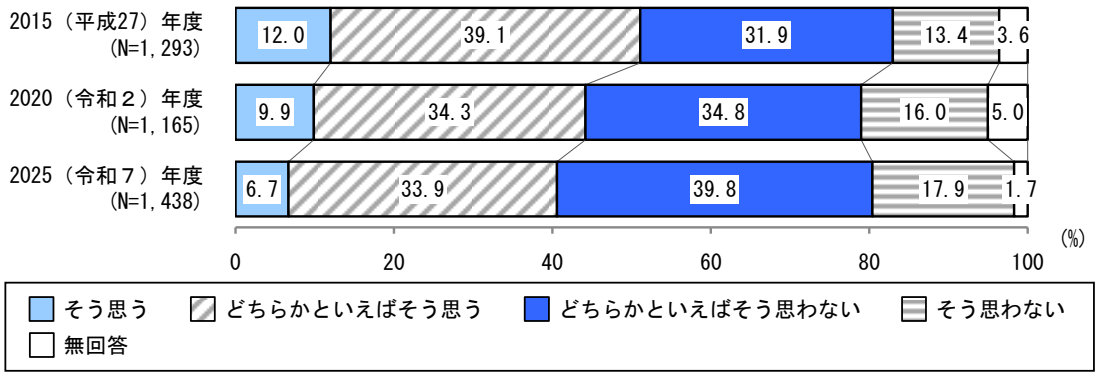
「オ.競争社会だから、能力による差別が生じるのはしかたがない」を経年比較でみると、“そう思う”の割合は前々回調査から7.8ポイント減少しているが、前回調査からは2.3ポイント増加している。（図表I-2-10）

【図表1-2-11　年齢別　カ.個人の権利より、地域のみんなの利益が優先されるべきだ】



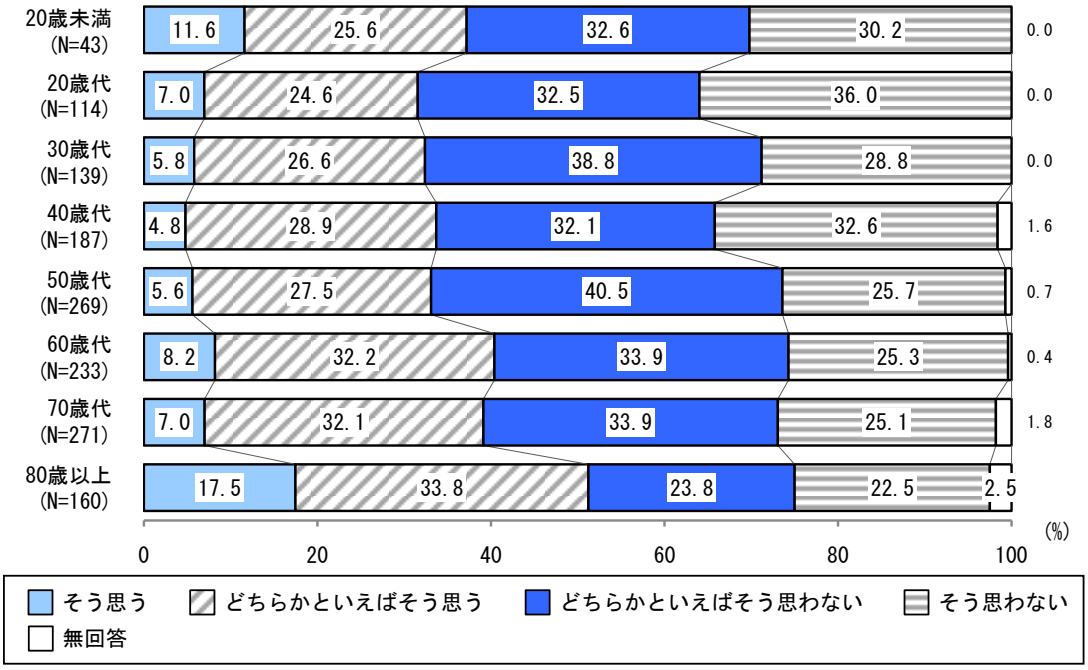
「カ．個人の権利より、地域のみんなの利益が優先されるべきだ」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は60歳代以上では増加傾向となっている。一方、“そう思わない”の割合は20～70歳代で５割以上を占め、20歳代が64.1％で最も高くなっている。（図表1-2-11）

【図表1-2-12　経年比較　カ.個人の権利より、地域のみんなの利益が優先されるべきだ】



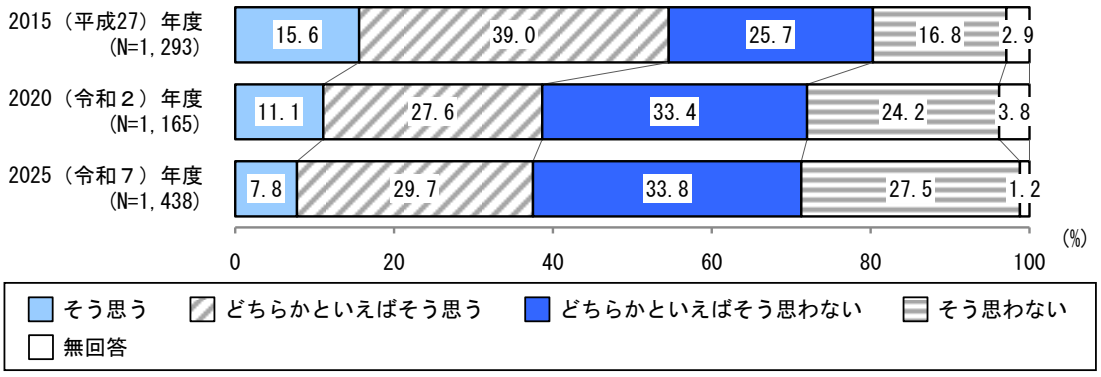
「カ．個人の権利より、地域のみんなの利益が優先されるべきだ」を経年比較でみると、“そう思う”の割合は減少傾向にあり、前々回調査から10.5ポイント減少している。一方、“そう思わない”の割合は増加傾向にあり、前々回調査から12.4ポイント増加している。（図表1-2-12）

【図表1-2-13　年齢別　キ.差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある】



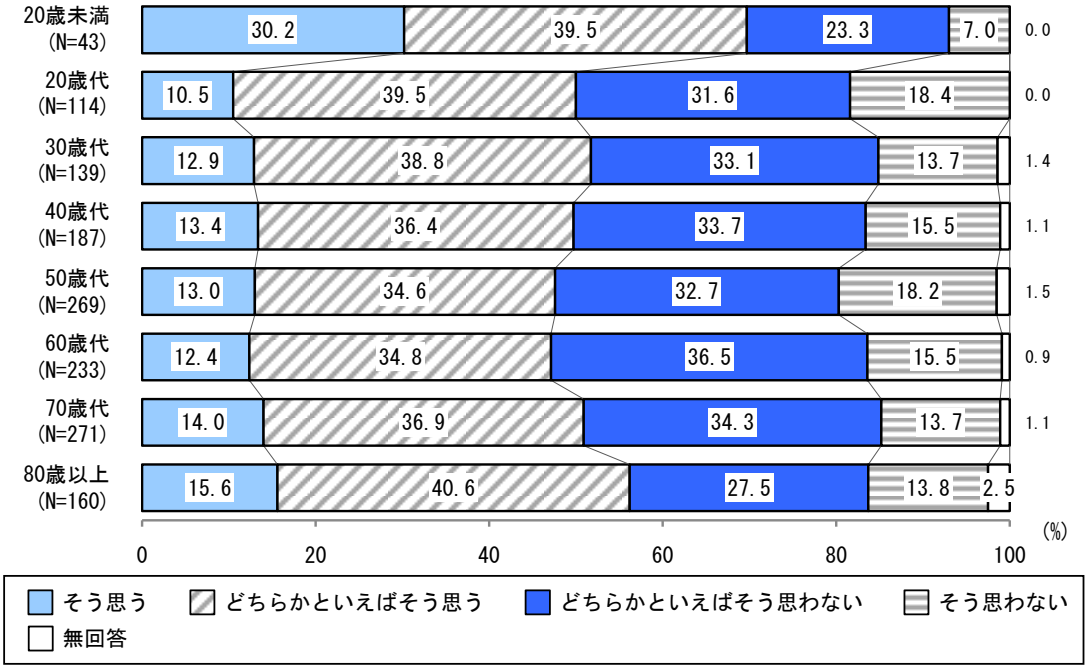
「キ．差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は80歳以上が51.3%で最も高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は50歳代までの年代で６割以上を占めており、60歳代以降では高齢になるほど割合が低くなっている。（図表1-2-13）

【図表1-2-14　経年比較　キ.差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある】



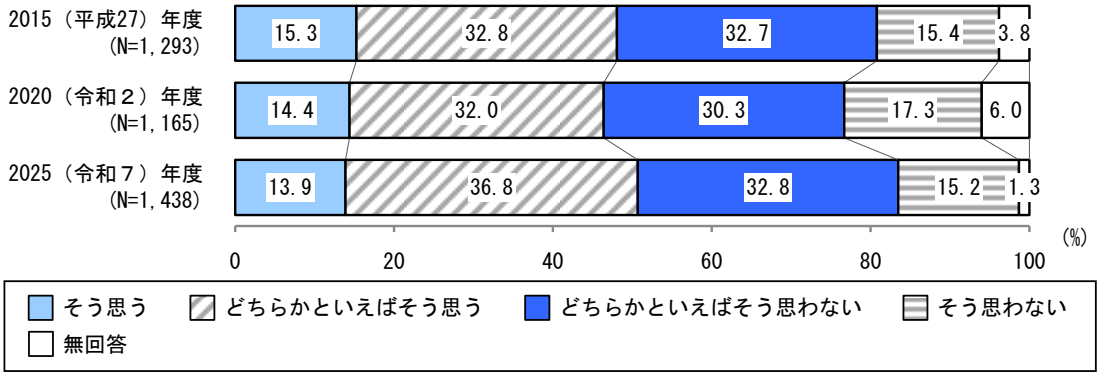
「キ．差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」を経年比較でみると、“そう思う”の割合は減少傾向にあり、前々回調査から17.1ポイント減少している。一方、“そう思わない”の割合は増加傾向にあり、前々回調査から18.8ポイント増加している。(図表1-2-14)

【図表1-2-15　年齢別　ク.人権問題を解決する責任は、まず行政にある】



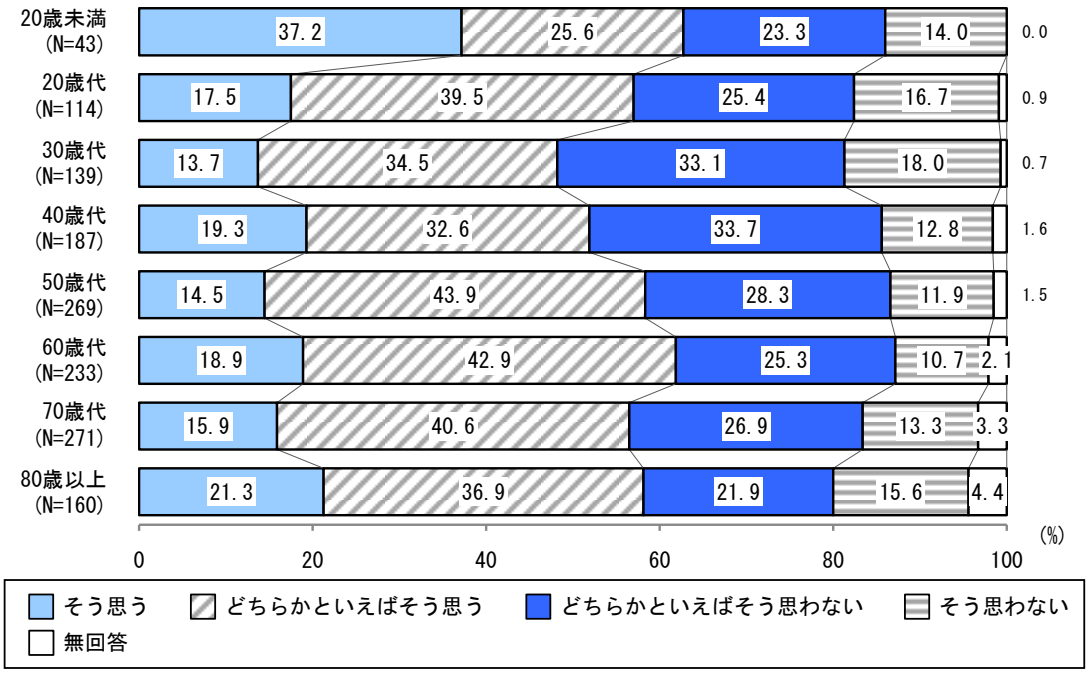
「ク．人権問題を解決する責任は、まず行政にある」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳未満が69.7%で最も高く、20歳未満、20・30・70歳代、80歳以上で５割以上となっている。一方、“そう思わない”の割合は20歳代以上で４割以上となっており、60歳代が52.0%で最も高くなっている。（図表I-2-15）

【図表1-2-16　経年比較　ク.人権問題を解決する責任は、まず行政にある】



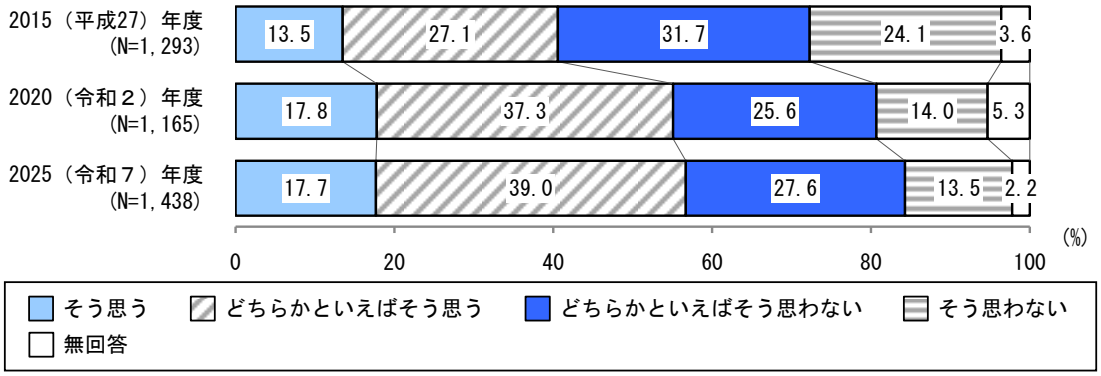
「ク．人権問題を解決する責任は、まず行政にある」を経年比較でみると、前々回調査以降“そう思う”と“そう思わない”の割合が同程度で推移している。一方、“そう思う”の割合は前回調査から4.3ポイント増加している。（図表I-2-16）

【図表1-2-17　年齢別　ケ.差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だと思う】



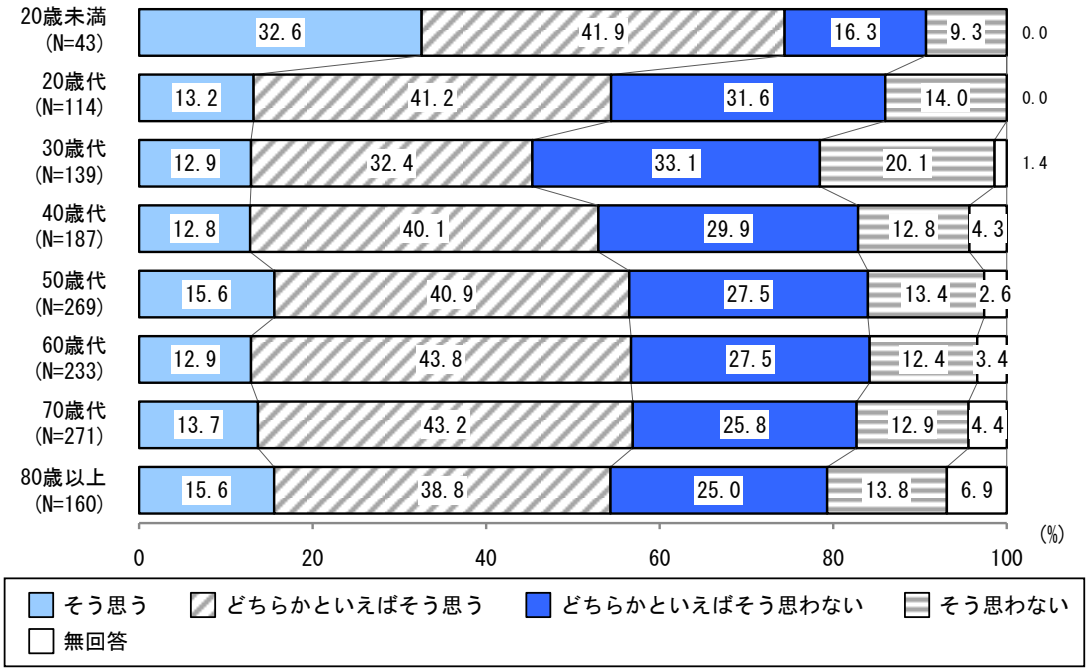
「ケ．差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だと思う」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は30歳代以外の年代で過半数を占めており、20歳未満と60歳代では６割台となっている。一方、“そう思わない”の割合は30歳代が51.1%で最も高くなっている。（図表1-2-17）

【図表1-2-18　経年　ケ.差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だと思う】



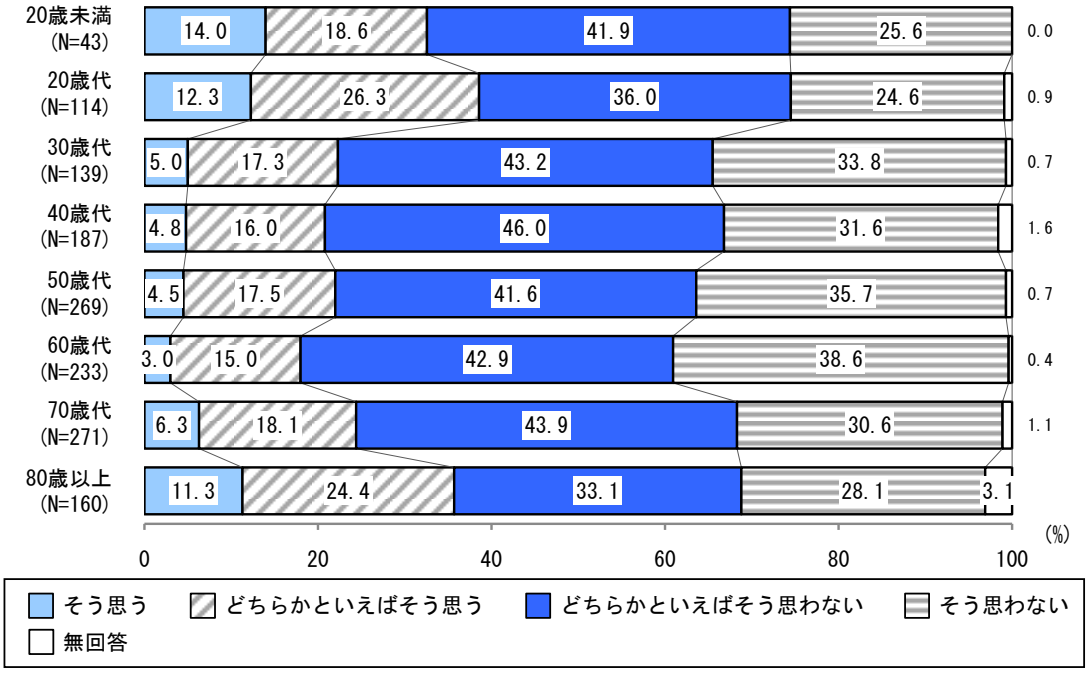
「ケ．差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だと思う」を経年比較でみると、“そう思う”の割合は増加傾向にあり、前々回調査から16.1ポイント増加している。一方、“そう思わない”の割合は前々回調査から14.7ポイント減少している。（図表1-2-18）

【図表1-2-19　年齢別　コ.差別をなくすには、政府から独立して人権侵害からの救済や人権保障を推進する国家機関が必要だと思う】



「コ．差別をなくすには、政府から独立して人権侵害からの救済や人権保障を推進する国家機関が必要だと思う」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は、20歳未満、20歳代・40歳代以上では５割以上を占め、その中でも20歳未満が74.5%で最も高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は、20～50歳代では４割以上を占め、その中でも30歳代が53.2%で最も高くなっている。（図表1-2-19）

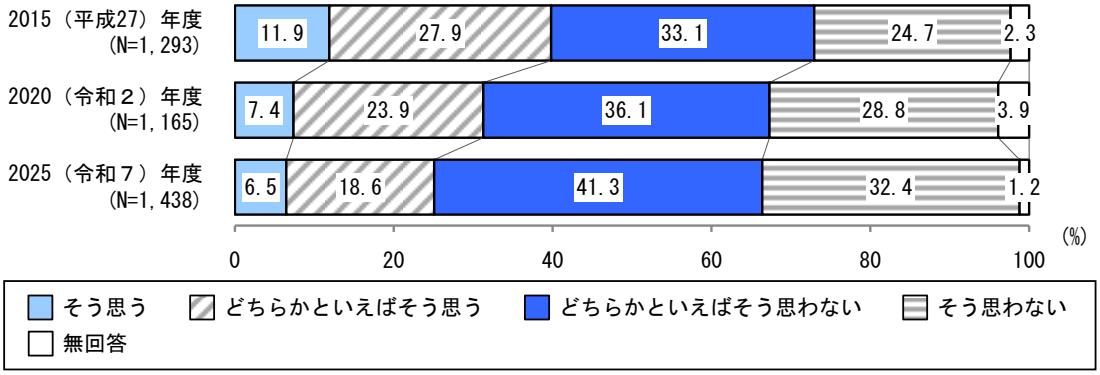
【図表1-2-20　年齢別　サ.介護や介助を受ける高齢者や障害者が、あれこれ自己主張するのはよくない】



「サ．介護や介助を受ける高齢者や障害者が、あれこれ自己主張するのはよくない」を年

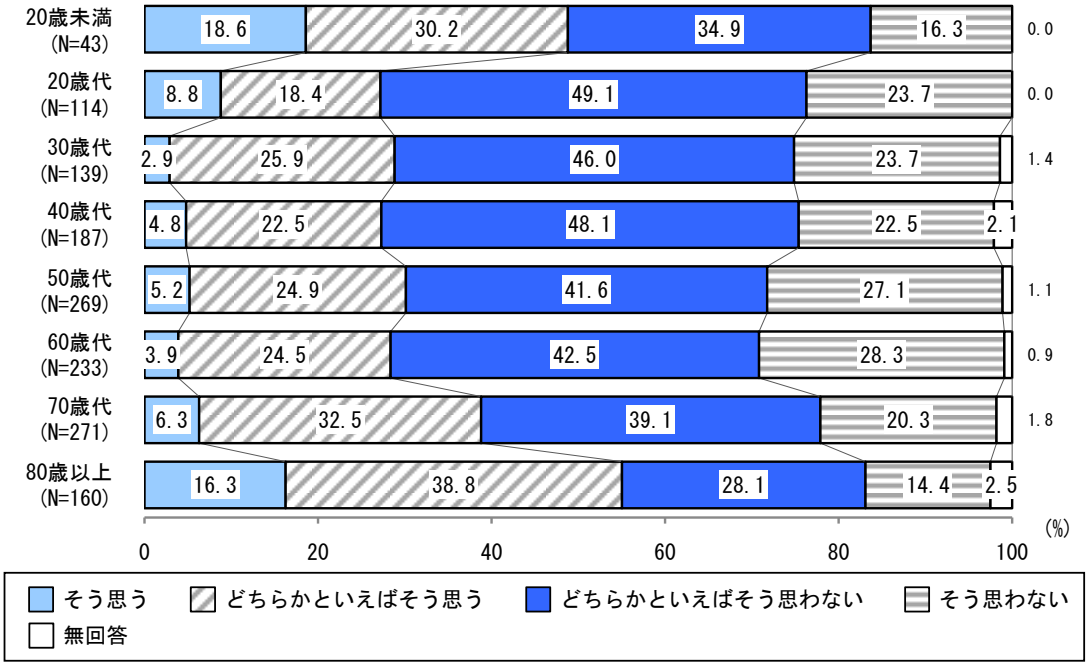
齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳代が38.6%で最も高く、次いで80歳以上が35.7%となっている。一方、“そう思わない”の割合はいずれの年代も過半数を占めており、60歳代が81.5%で最も高くなっている。（図表1-2-20）

【図表1-2-21　経年比較　サ.介護や介助を受ける高齢者や障害者が、あれこれ自己主張するのはよくない】



「サ．介護や介助を受ける高齢者や障害者が、あれこれ自己主張するのはよくない」を経年比較でみると、“そう思う”の割合は減少傾向にあり、前々回調査から14.7ポイント減少している。一方、“そう思わない”の割合は増加傾向にあり、前々回調査から15.9ポイント増加している。（図表1-2-21）

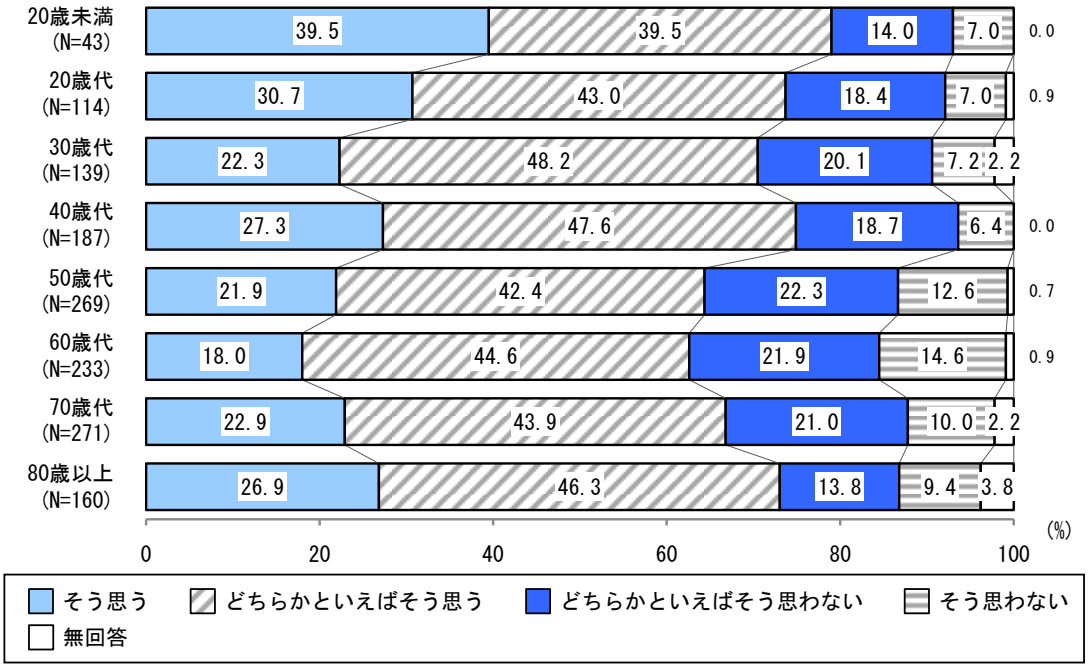
【図表1-2-22　年齢別　シ.福祉制度に頼るより、個人がもっと努力すべきだ】



「シ．福祉制度に頼るより、個人がもっと努力すべきだ」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は80歳以上が55.1%で最も高く、次いで20歳未満が48.8%となっている。一方、“そう思わない”の割合は70歳代までの年代で過半数を占め、20歳代が72.8%で最も高くなってい

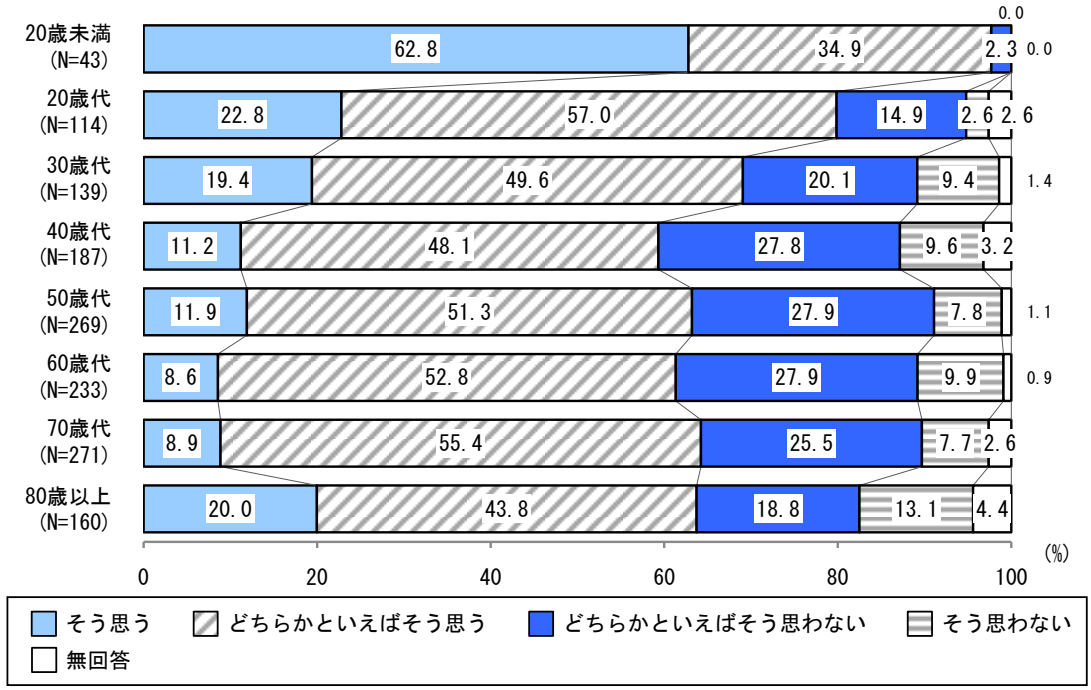
る。（図表1-2-22）

【図表1-2-23　年齢別　ス.自分を好きになることが、人権を大切にすることにつながる】



「ス．自分を好きになることが、人権を大切にすることにつながる」を年齢別でみると、“そう思う”の割合はいずれも過半数を占めており、20歳未満が79.0%で最も高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は60歳代が36.5%で最も高くなっている。（図表1-2-23）

【図表1-2-24　年齢別　セ.自分の人権が充分に実現できている】

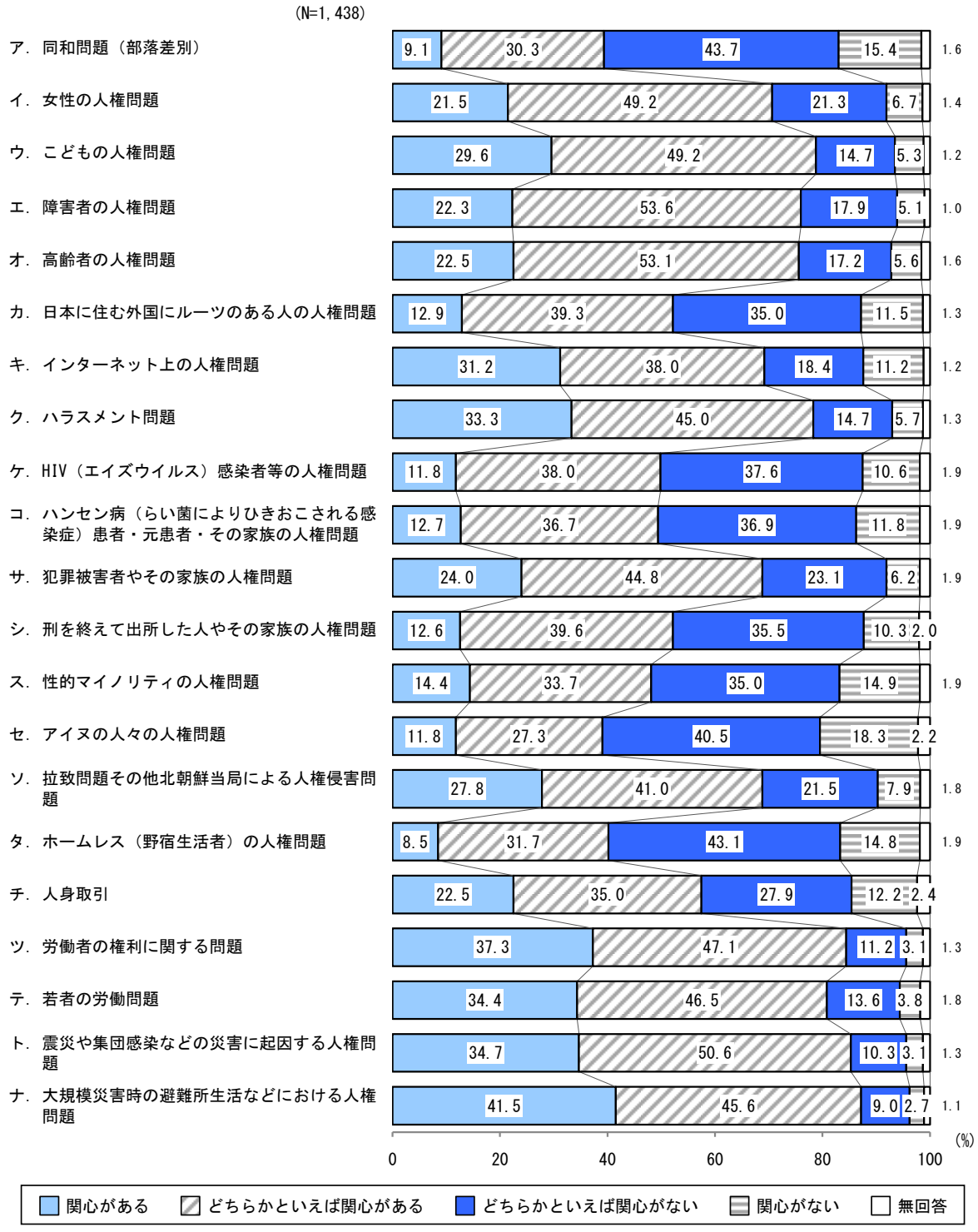


「セ．自分の人権が充分に実現できている」を年齢別でみると、“そう思う”の割合がいずれも過半数を占め、20歳未満が97.7%で最も高く、次いで20歳代が79.8%となっている。一方、“そう思わない”の割合は60歳代が37.8%で最も高くなっている。（図表1-2-24）

（3）人権問題への関心

問３　あなたは、次の人権問題にどのくらい関心がありますか。
（それぞれあてはまる番号１つに○）

【図表1-3　人権問題への関心】

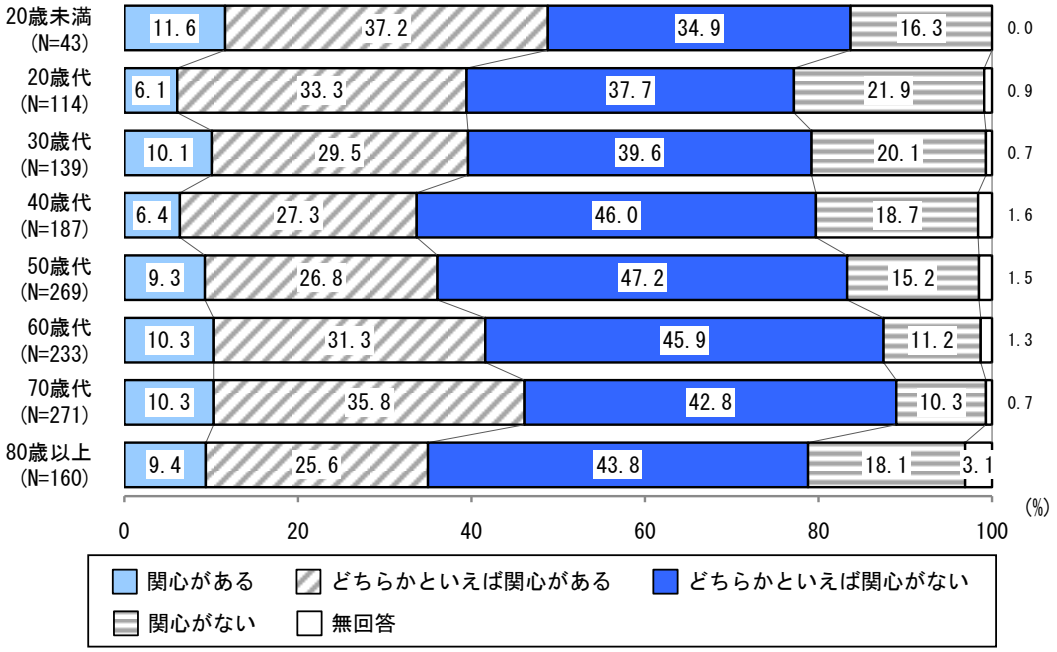


人権問題への関心について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」をあわせた“関心がある”の割合は「ナ．大規模災害時の避難所生活などにおける人権問題」が87.1%で最も高く、次いで「ト．震災や集団感染などの災害に起因する人権問題」が85.3%、「ツ．

労働者の権利に関する問題」が84.4%、「テ．若者の労働問題」が80.9%となっている。一方、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」をあわせた“関心がない”の割合は「ア．同和問題(部落差別)」が59.1%で最も高く、次いで「セ．アイヌの人々の人権問題」が58.8%、「タ．ホームレス（野宿生活者）の人権問題」が57.9%となっている。

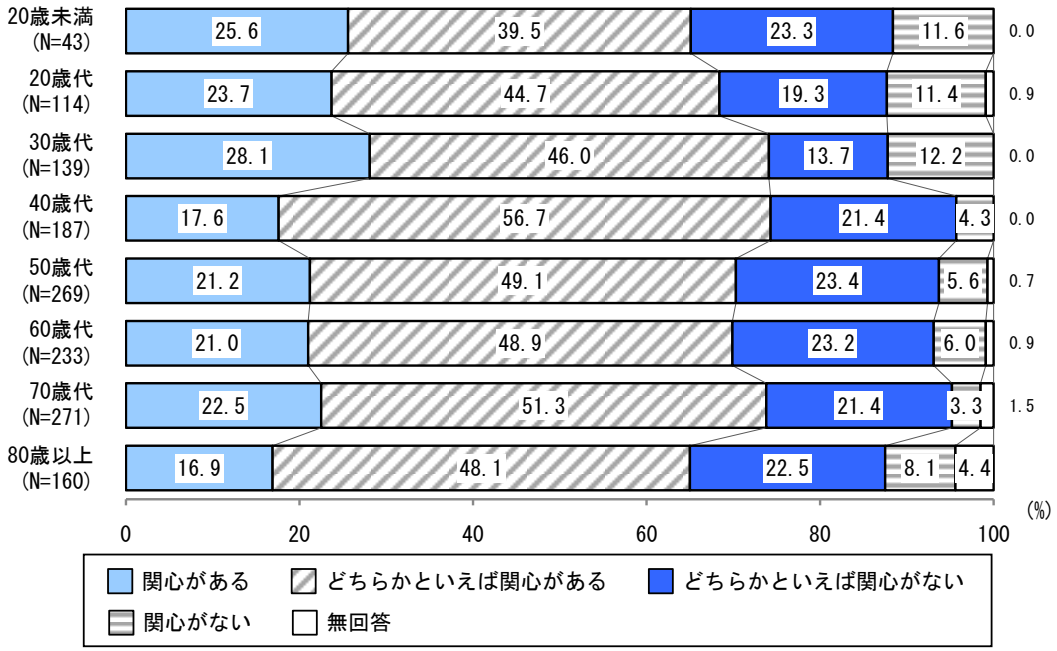
“関心がない”が“関心がある”を上回っている項目は、「ア．同和問題(部落差別)」(59.1%)、「ス．性的マイノリティの人権問題」(49.9%)、「セ．アイヌの人々の人権問題」(58.8%)、「タ．ホームレス（野宿生活者）の人権問題」(57.9%）となっている。(図表1-3)

【図表1-3-1　年齢別　ア．同和問題（部落差別)】



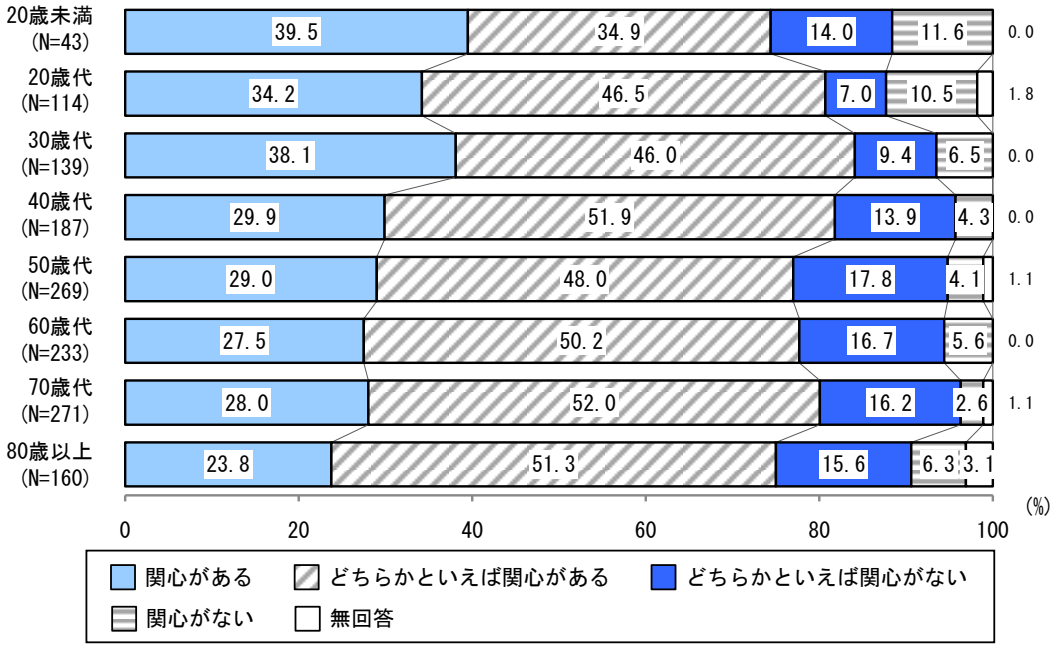
「ア．同和問題（部落差別)」を年齢別でみると、“関心がある”の割合は20歳未満が48.8%で最も高く、次いで70歳代が46.1%となっている。一方、“そう思わない”の割合はいずれも過半数を占めており、40歳代が64.7%で最も高くなっている。(図表1-3-1)

【図表1-3-2　年齢別　イ．女性の人権問題】



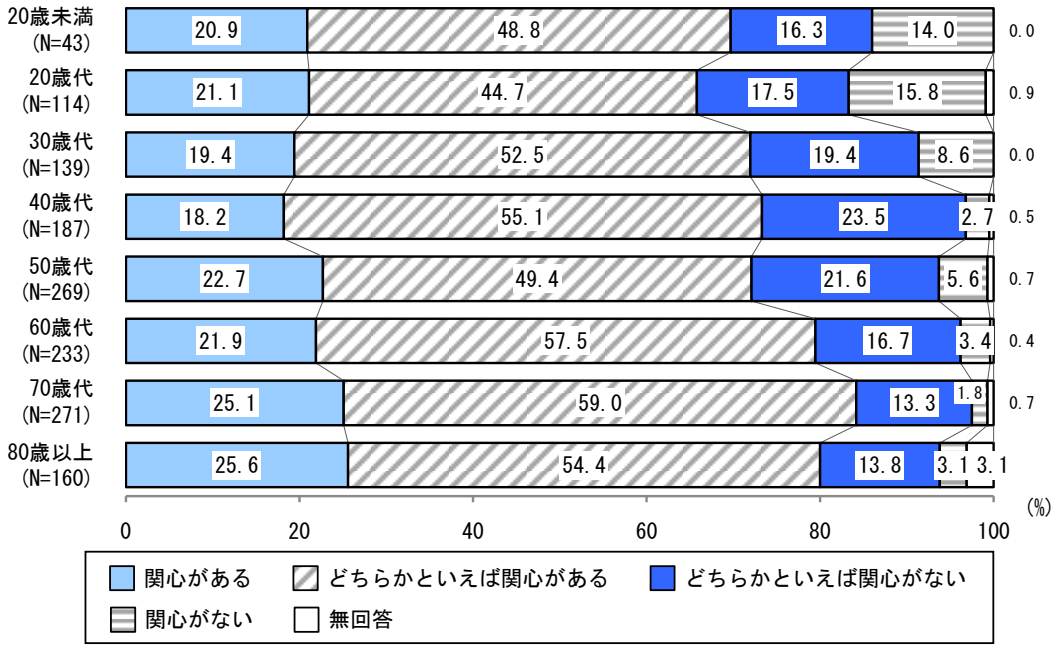
「イ．女性の人権問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合はいずれも過半数を占めており、30～50・70歳代では７割台と高くなっている。一方、“関心がない”の割合は20歳未満が34.9%で最も高く、次いで20歳代が30.7%となっている。（図表1-3-2）

【図表1-3-3　年齢別　ウ．こどもの人権問題】



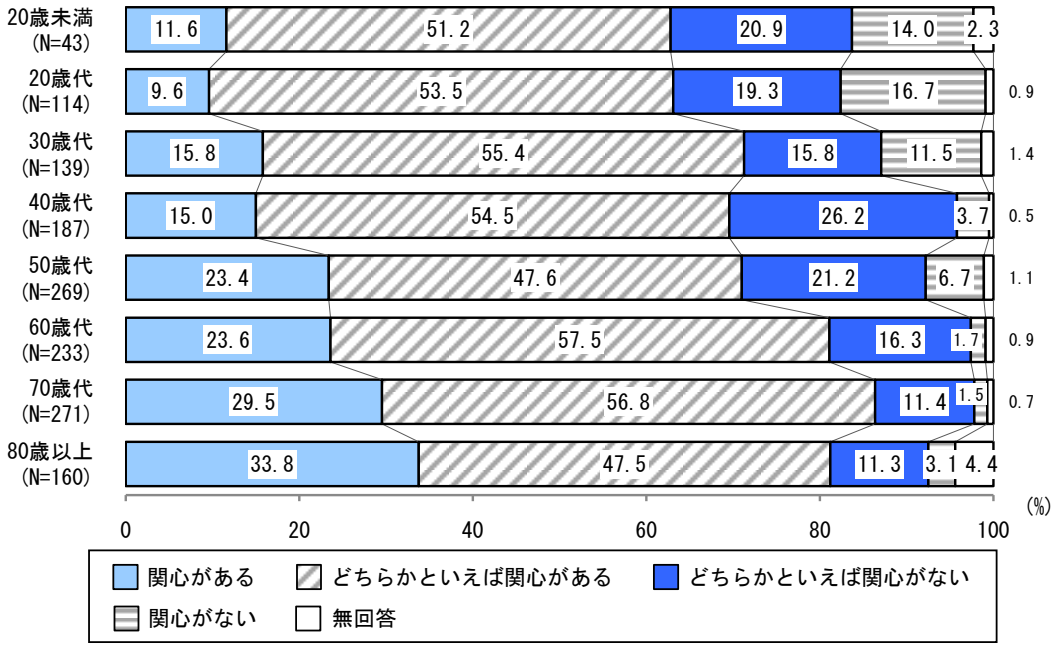
「ウ．こどもの人権問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合はいずれも過半数を占めており、30歳代が84.1%で最も高く、20～40・70歳代で８割台と高くなっている。一方、“関心がない”の割合は20歳未満が25.6%で最も高く、次いで60歳代が22.3%となっている。（図表1-3-3）

【図表1-3-4　年齢別　エ．障害者の人権問題】



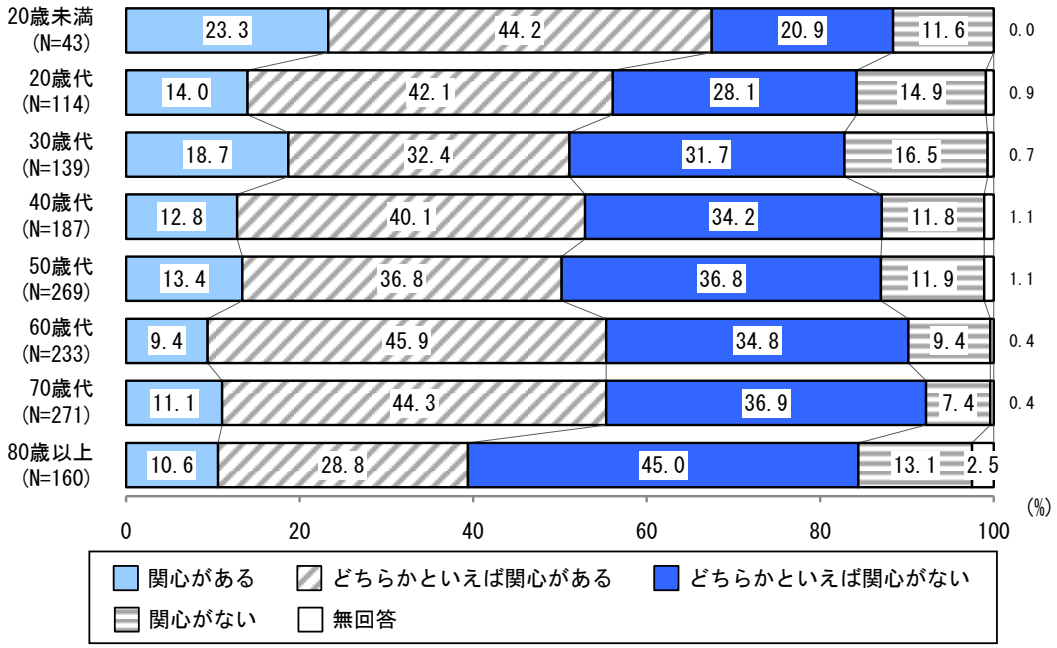
「エ．障害者の人権問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合はいずれも過半数を占めており、70歳代以上で８割台と高くなっている。一方、“関心がない”の割合は20歳代が33.3%で最も高く、次いで20歳未満が30.3%、30歳代が28.0%となっている。（図表I-3-4）

【図表1-3-5　年齢別　オ．高齢者の人権問題】



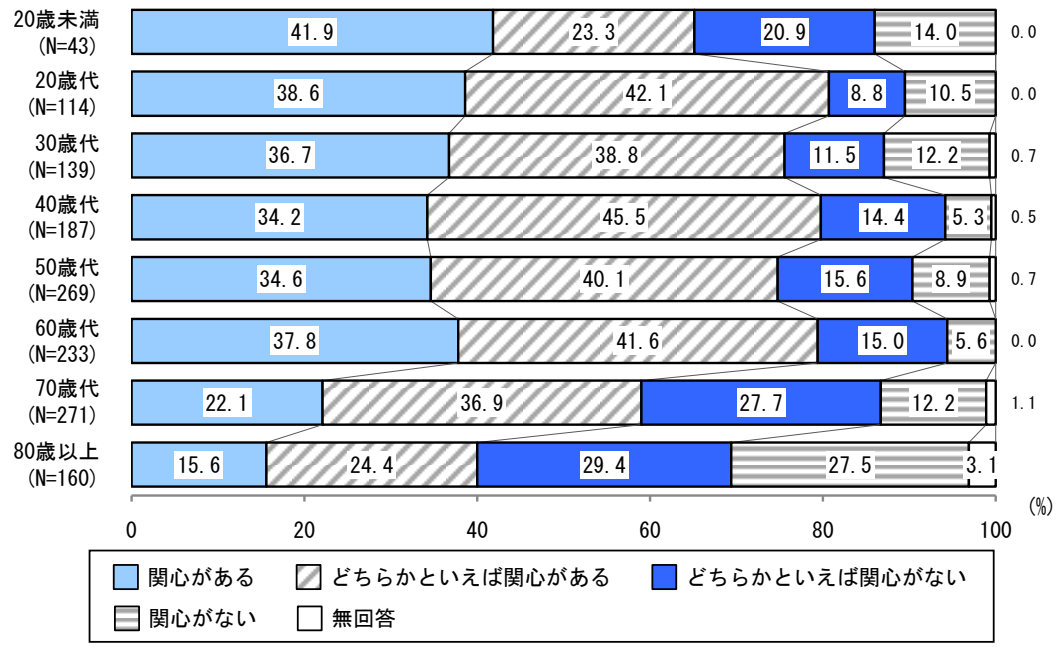
「オ．高齢者の人権問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合は高齢になるほど高くなる傾向にあり、70歳代が86.3%で最も高くなっている。一方、“関心がない”の割合は20歳未満が34.9%で最も高く、次いで20歳代が36.0%となっている。（図表I-3-5）

【図表1-3-6　年齢別　カ．日本に住む外国にルーツのある人の人権問題】



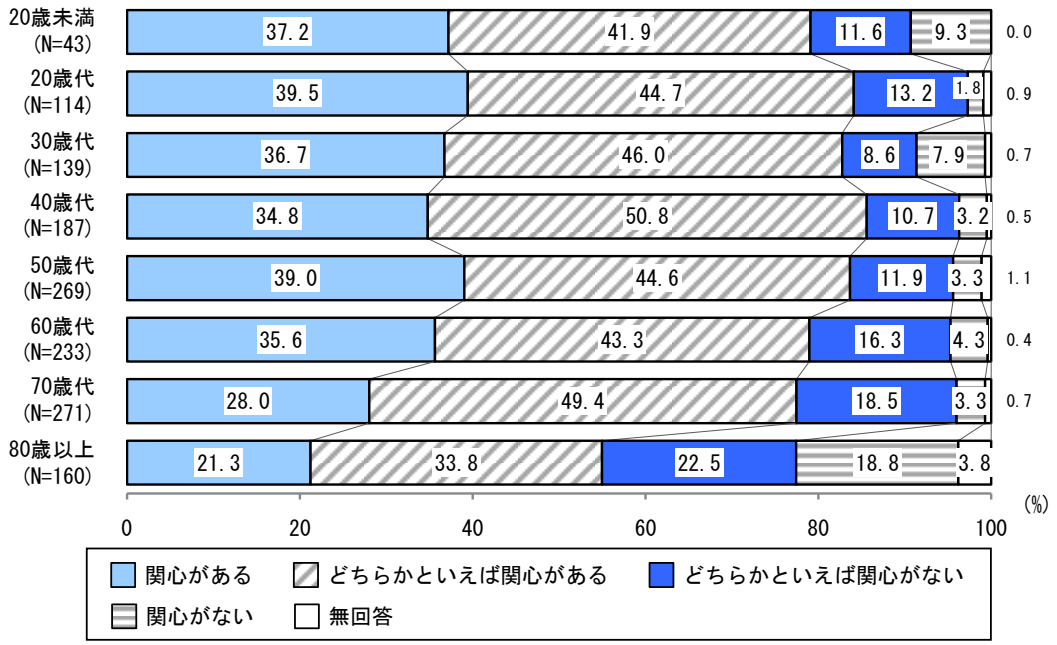
「カ．日本に住む外国にルーツのある人の人権問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合は20歳未満が67.5%で最も高く、高齢になるほど割合が低くなる傾向にある。一方、“関心がない”の割合は80歳以上が58.1%で最も高く、次いで50歳代が48.7%、30歳代が48.2%となっている。（図表1-3-6）

【図表1-3-7　年齢別　キ．インターネット上の人権問題】



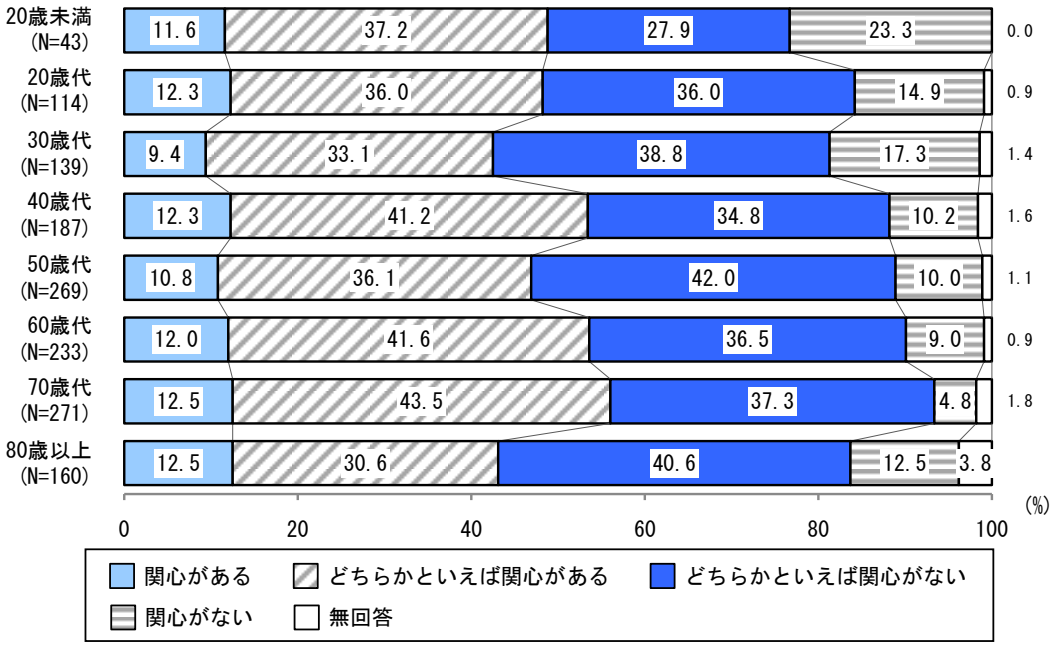
「キ．インターネット上の人権問題」を年齢別でみると、80歳以上では“関心がある”より“関心がない”のほうが高く、“関心がない”が56.9%となっている。70歳代までの年代は“関心がある”の割合が過半数を占めており、20歳代が80.7%で最も高くなっている。（図表1-3-7）

【図表1-3-8　年齢別　ク．ハラスメント問題】



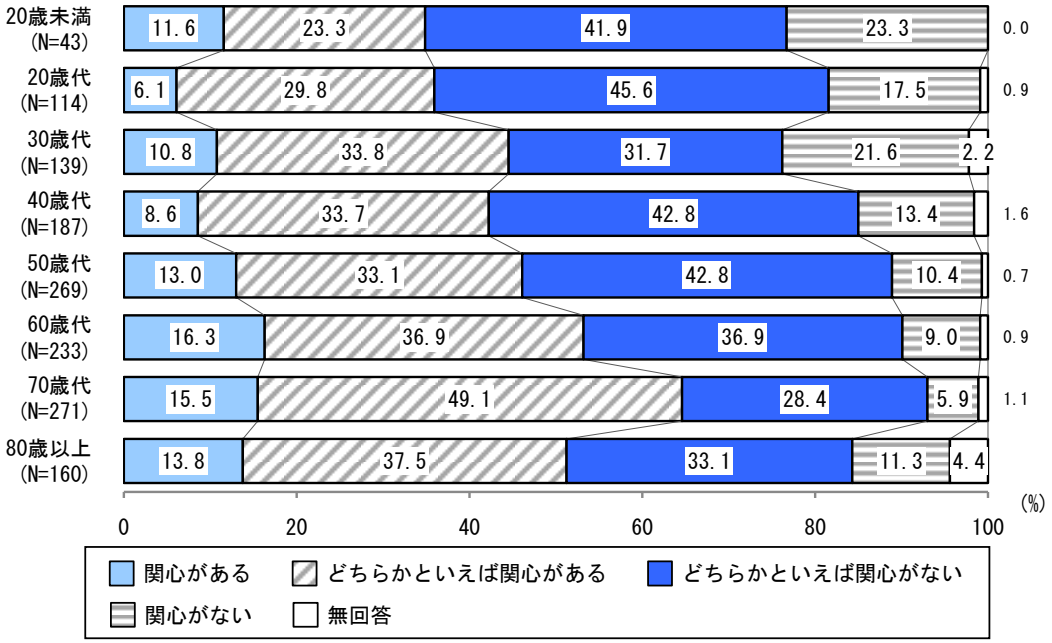
「ク．ハラスメント問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合はいずれも過半数を占めており、20歳～50歳代で８割台と高くなっている。一方、“関心がない”の割合は80歳以上が41.3%で最も高くなっている。（図表1-3-8）

【図表1-3-9　年齢別　ケ．HIV（エイズウイルス）感染者等の人権問題】



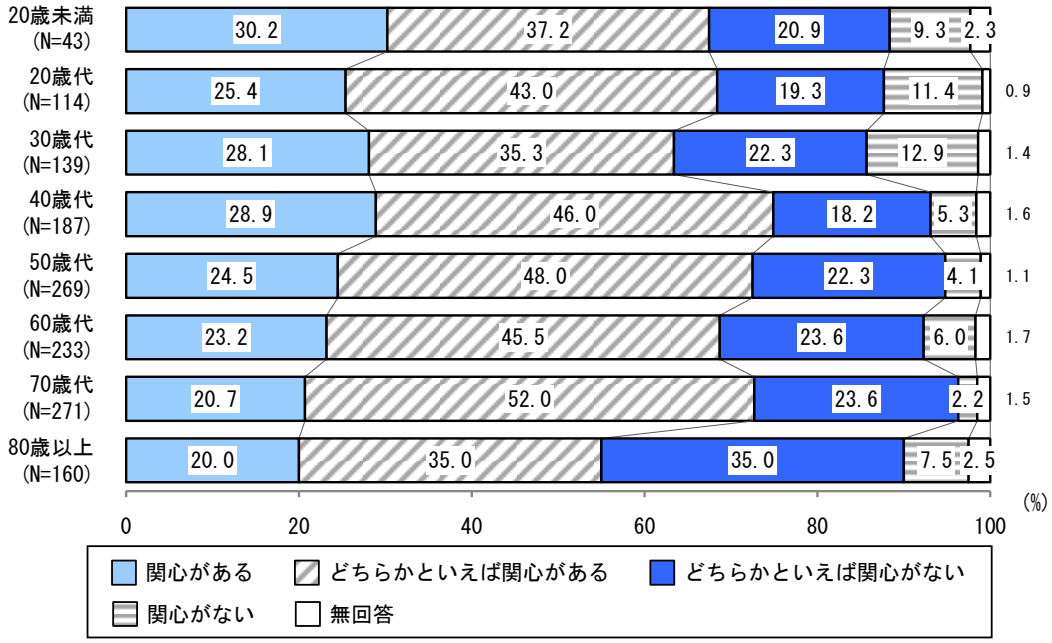
「ケ．HIV（エイズウイルス）感染者等の人権問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合は40・60・70歳代で５割台となっている。一方、“関心がない”の割合は30歳代が56.1%で最も高く、20歳未満～30歳代、50歳代、80歳以上で５割台となっている。（図表1-3-9）

【図表1-3-10　年齢別　コ．ハンセン病（らい菌によりひきおこされる感染症）患者・元患者・その家族の人権問題】



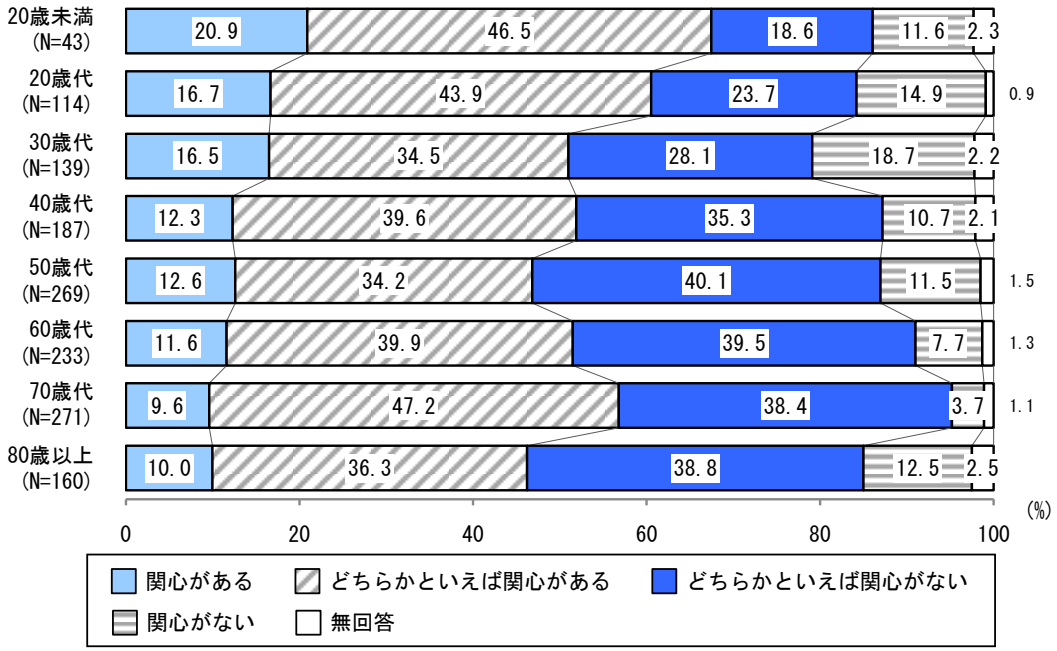
「コ．ハンセン病（らい菌によりひきおこされる感染症）患者・元患者・その家族の人権問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合は高齢になるほど高くなる傾向にあり、70歳代が64.6%で最も高いが、80歳以上は51.3%に減少している。一方、“関心がない”の割合は50歳代までの年代は過半数を占めている。（図表1-3-10）

【図表1-3-11　年齢別　サ．犯罪被害者やその家族の人権問題】



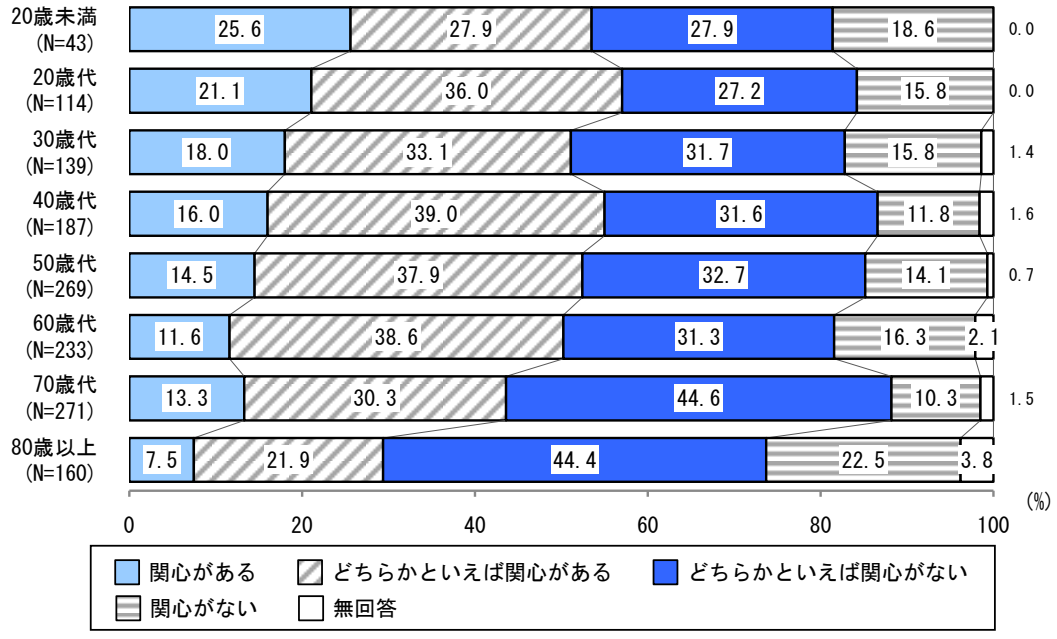
「サ．犯罪被害者やその家族の人権問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合はいずれも過半数を占めており、40・50・70歳代で７割台と高くなっている。一方、“関心がない”の割合は80歳以上が42.5%で最も高く、30歳代までの年代では３割台となっている。（図表1-3-11）

【図表1-3-12　年齢別　シ．刑を終えて出所した人やその家族の人権問題】



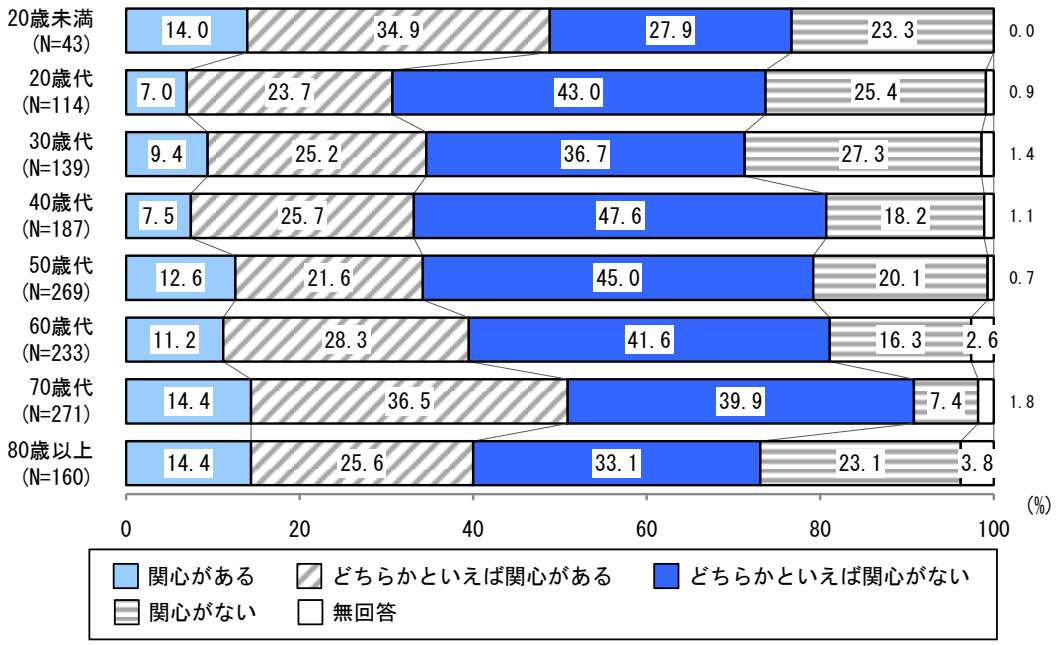
「シ．刑を終えて出所した人やその家族の人権問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合は20歳未満が67.4%で最も高く、次いで20歳代が60.6%、70歳代が56.8%となっている。一方、“関心がない”の割合は50歳代が51.6%で最も高く、次いで80歳以上が51.3%となっている。（図表1-3-12）

【図表1-3-13　年齢別　ス．性的マイノリティの人権問題】



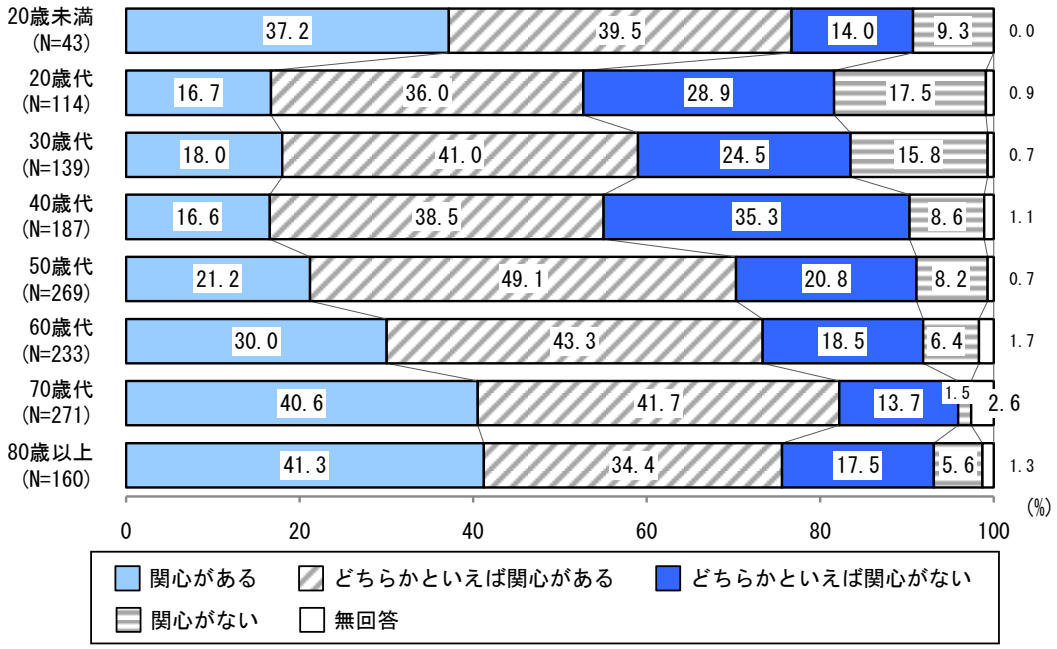
「ス．性的マイノリティの人権問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合は、20歳代が57.1%で最も高く、高齢になるほど低くなる傾向にあり、80歳以上は29.4%で最も低くなっている。一方、“関心がない”の割合は70歳代以上では過半数を占めており、その中でも80歳以上が66.9%で最も高くなっている。（図表1-3-13）

【図表1-3-14　年齢別　セ．アイヌの人々の人権問題】



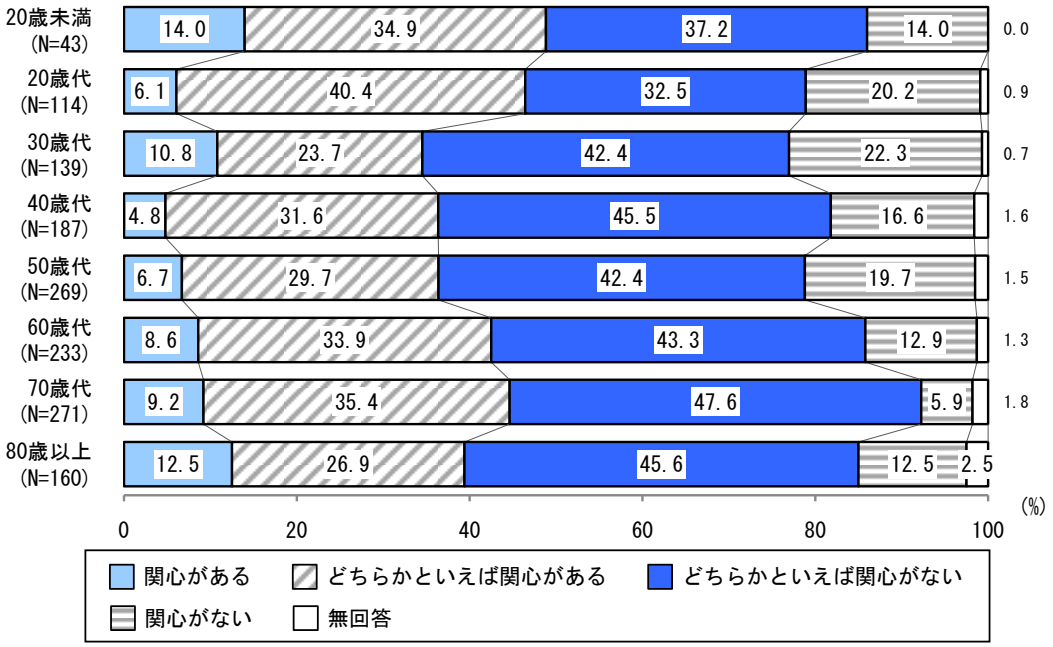
「セ．アイヌの人々の人権問題」を年齢別でみると、70歳代では“関心がない”より“関心がある”のほうが高く、“関心がある”が50.9%となっている。それ以外の年代は“関心がない”の割合が過半数を占めており、20～50歳代では６割台となっている。（図表1-3-14）

【図表1-3-15　年齢別　ソ．拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題】



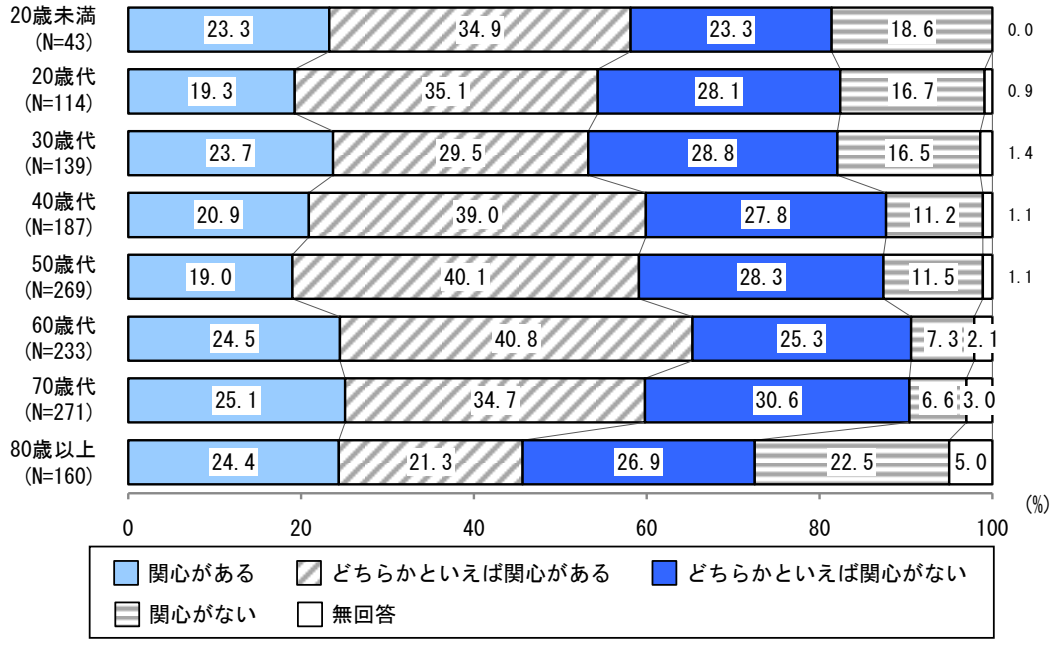
「ソ．拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合は70歳代が82.3%で最も高く、次いで20歳未満が76.7%、80歳以上が75.7%となっている。一方、“関心がない”の割合は20～40歳代が４割台と高くなっている。（図表1-3-15）

【図表1-3-16　年齢別　タ．ホームレス（野宿生活者）の人権問題】



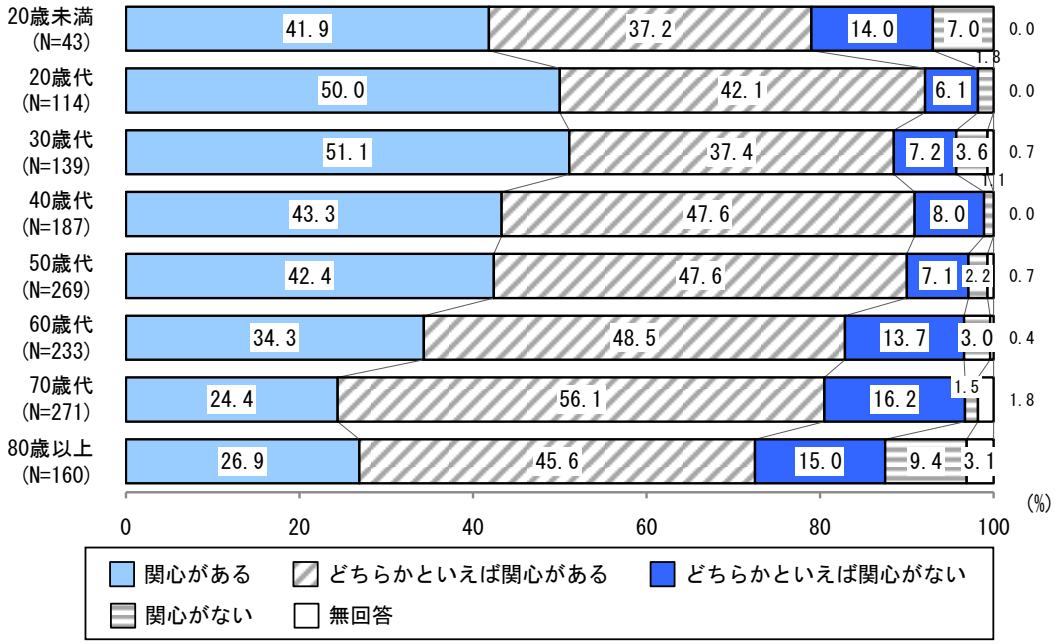
「タ．ホームレス（野宿生活者）の人権問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合は20歳未満が48.9%で最も高く、次いで20歳代が46.5%であり、いずれも３～４割台となっている。一方、“関心がない”の割合はいずれも過半数を占めており、30歳代が64.7%で最も高くなっている。（図表1-3-16）

【図表1-3-17　年齢別　チ．人身取引】



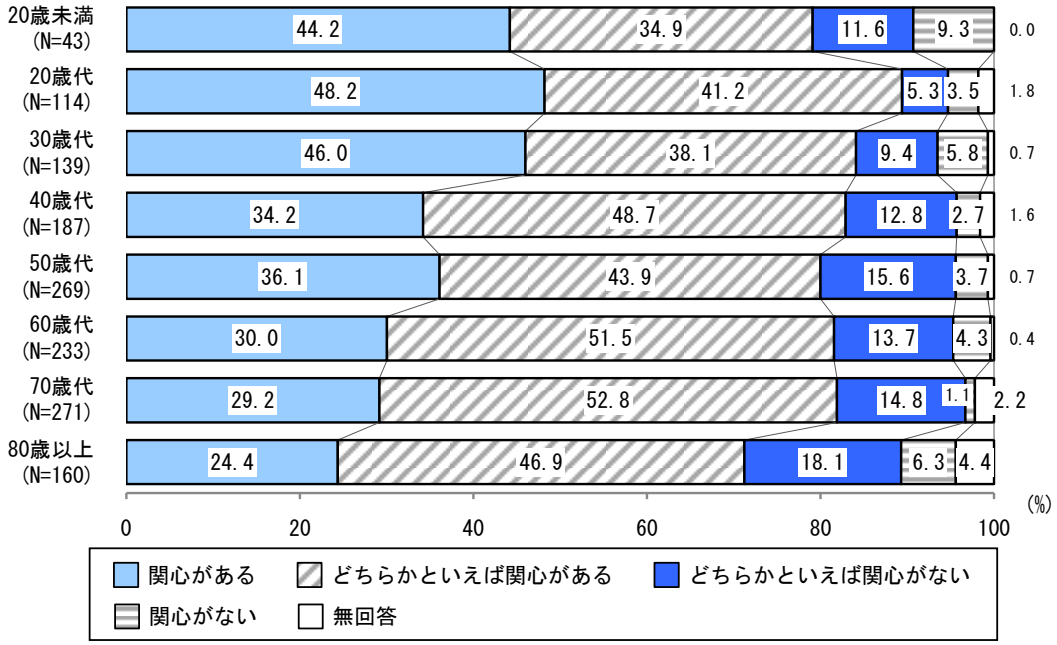
「チ．人身取引」を年齢別でみると、80歳以上では“関心がある”より“関心がない”のほうが高くなっているが、それ以外の年代は“関心がある”の割合が過半数を占めており、60歳代が65.3%で最も高くなっている。（図表1-3-17）

【図表1-3-18　年齢別　ツ．労働者の権利に関する問題】



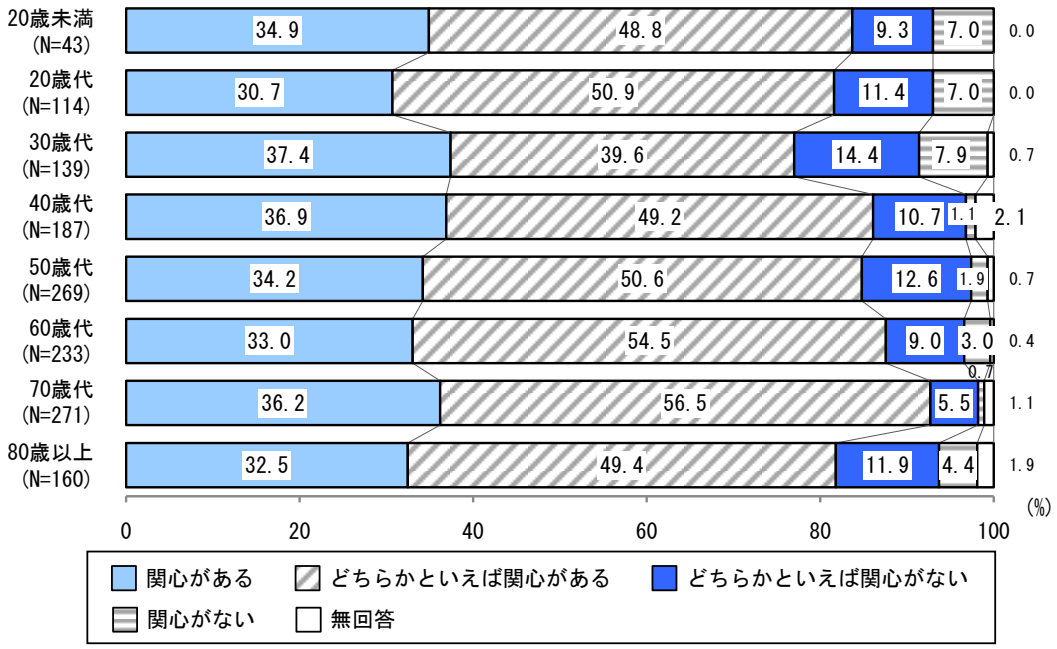
「ツ．労働者の権利に関する問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合はいずれも７割以上であり、20・40・50歳代は９割台となっている。一方、“関心がない”の割合は20歳未満と80歳以上以外では２割未満となっている。（図表1-3-18）

【図表1-3-19　年齢別　テ．若者の労働問題】



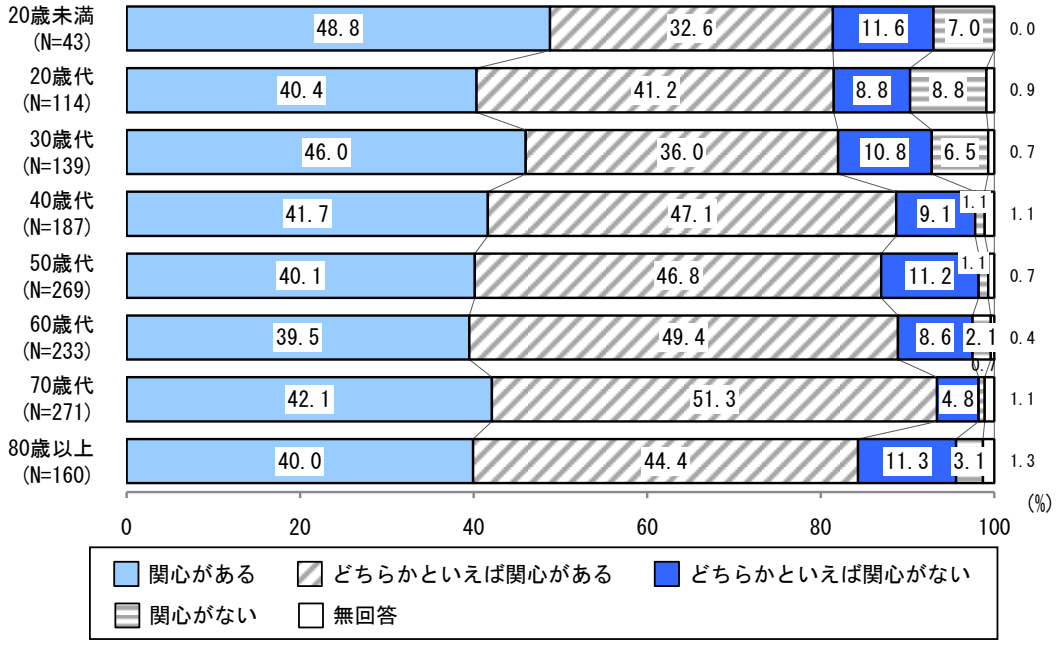
「テ．若者の労働問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合がいずれも７割以上を占める。“関心がある”の割合は、20～70歳代が８割台と高く、その中でも20歳代が89.4%と最も高くなっている。（図表1-3-19）

【図表1-3-20　年齢別　ト．震災や集団感染などの災害に起因する人権問題】



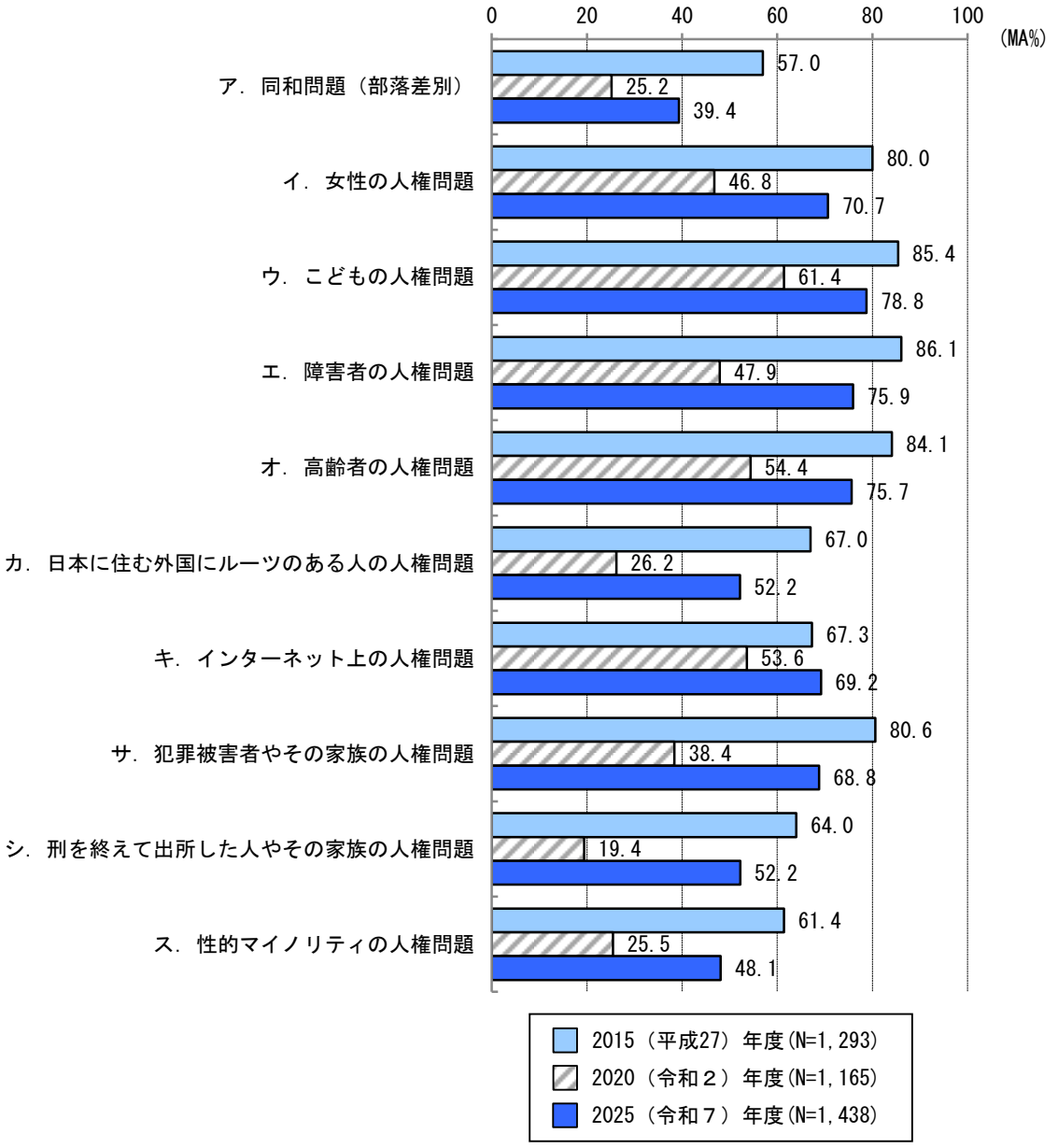
「ト．震災や集団感染などの災害に起因する人権問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合はいずれも７割以上であり、その中でも20歳未満、20歳代、40歳代以上は８割以上で、さらに70歳代が92.7%と最も高くなっている。（図表1-3-20）

【図表1-3-21　年齢別　ナ．大規模災害時の避難所生活などにおける人権問題】



「ナ.大規模災害時の避難所生活などにおける人権問題」を年齢別でみると、“関心がある”の割合はいずれも８割以上で、その中でも70歳代が93.4%と最も高くなっている。一方、“関心がない”の割合は20歳未満が18.6%で最も高くなっている。（図表1-3-21）

【図表1-3-22　経年比較　人権問題への関心】



※注：2015（平成27）年度：「関心がある」＋「少し関心がある」
2020（令和２）年度：人権問題で関心のあるものを選択（複数回答）
2025（令和７）年度：「関心がある」＋「どちらかといえば関心がある」

人権問題への関心について、経年比較でみると、前々回調査では「エ．障害者の人権問題」が最も多いが、前回調査及び今回調査では「ウ．こどもの人権問題」が最も多くなっている。

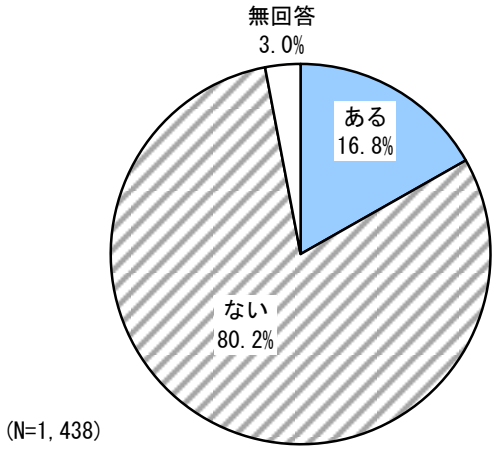
なお、前回調査では、人権問題で関心のあるものを複数回答で回答する形式の本設問に対し、前々回調査及び今回調査では各人権問題それぞれについての関心度を４件法で単一回答形式で問うものであるため、数値を比較する際は注意が必要である。（図表I-3-22）

２．自分自身に関することについて

（１）人権を侵害された経験

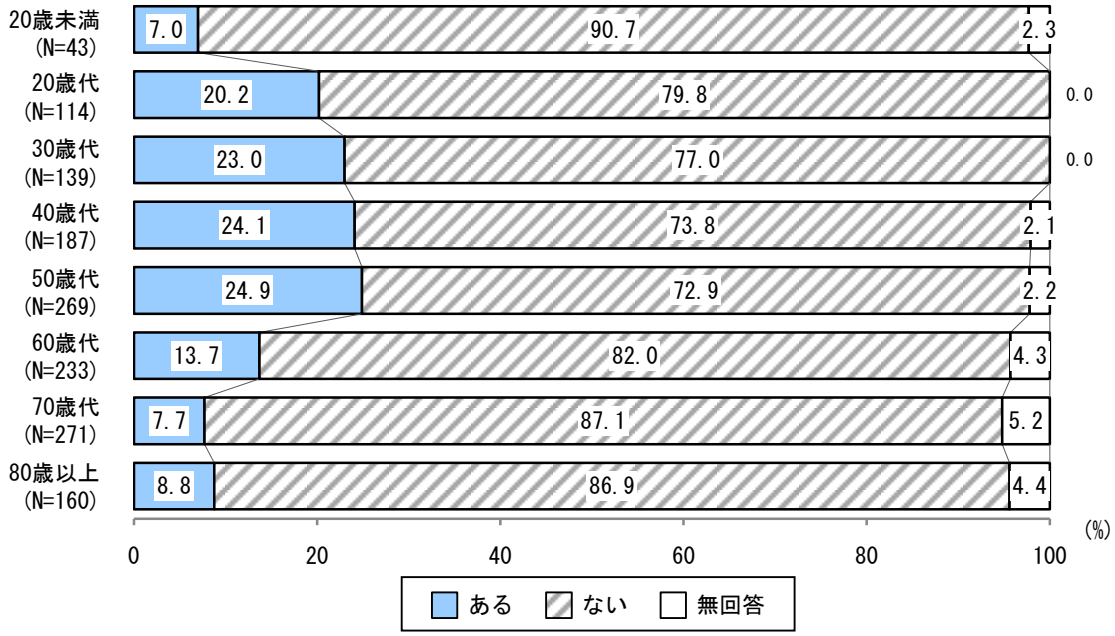
問４　あなたは日常生活の中で、過去５年ほどの間に人権を侵害されたと感じたことはありますか。（あてはまる番号１つに○）

【図表2-1　人権を侵害された経験】



人権を侵害された経験については、「ある」が16.8%、「ない」が80.2%となっている。（図表2-1）

【図表2-1-1　年齢別　人権を侵害された経験】



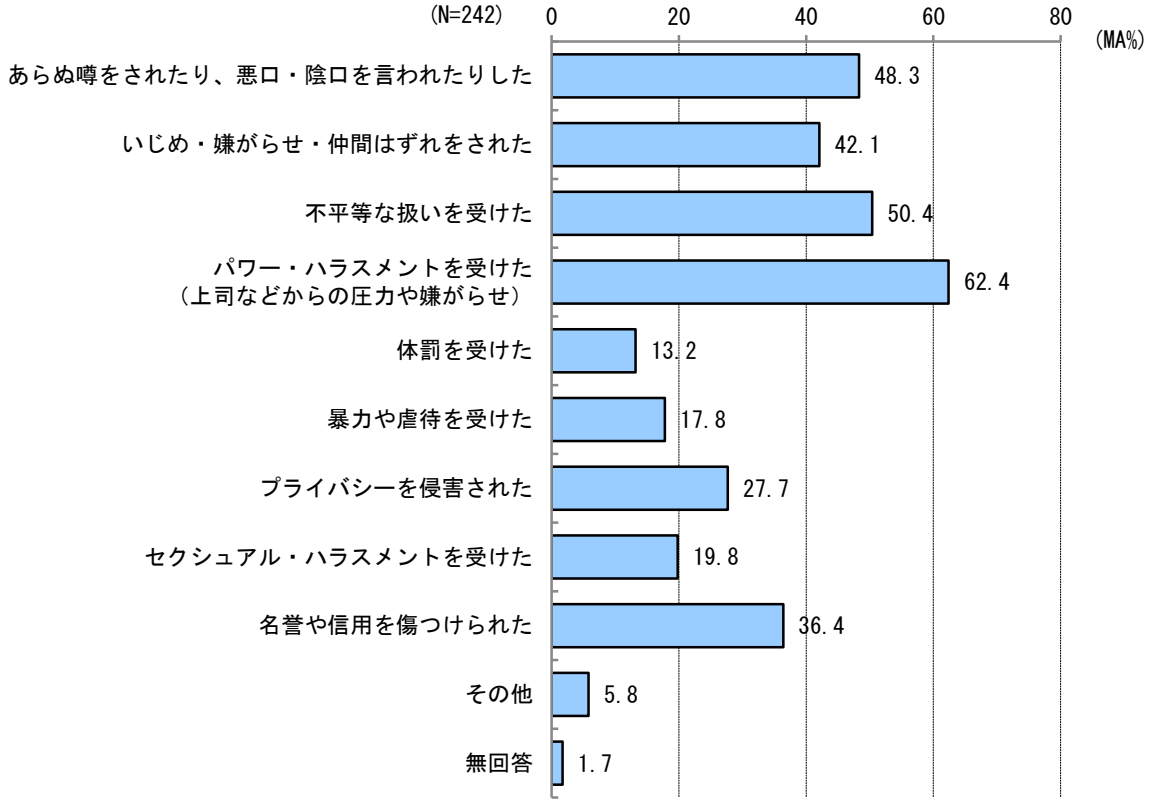
年齢別でみると、いずれの年齢も「ない」が７割以上となっている。「ある」の割合は、20～50歳代は２割台と高くなっており、その中でも50歳代が24.9%で最も高く、次いで40歳代が24.1%となっている。（図表2-1-1）

（２）人権を侵害された内容と相手

問４で、「1.ある」と答えた方にお聞きします。

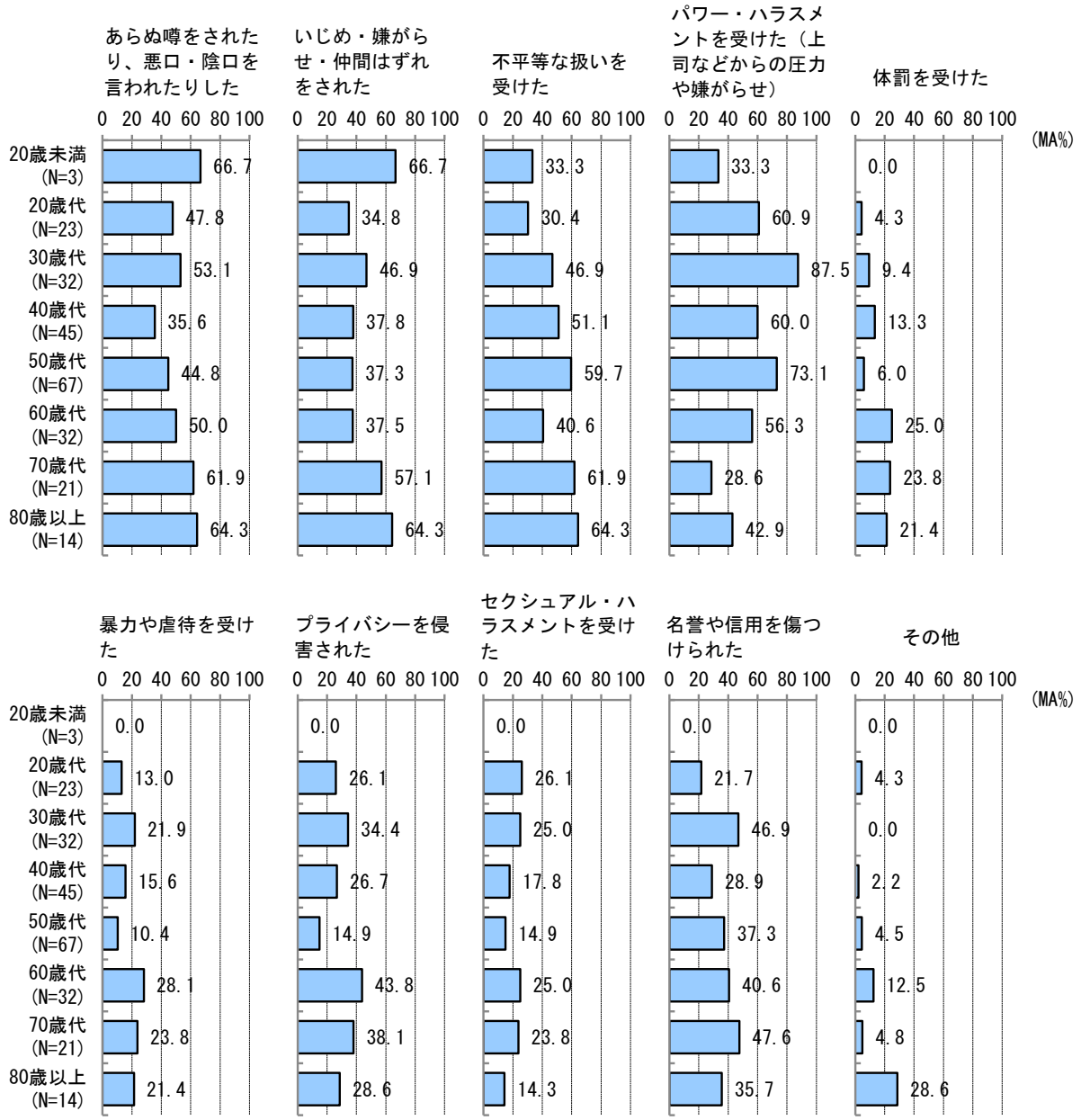
問５　それはどのような内容で、誰（どこ）から人権を侵害されたと感じましたか。（それぞれあてはまる番号すべてに○）

【図表2-2-1　人権を侵害された内容】



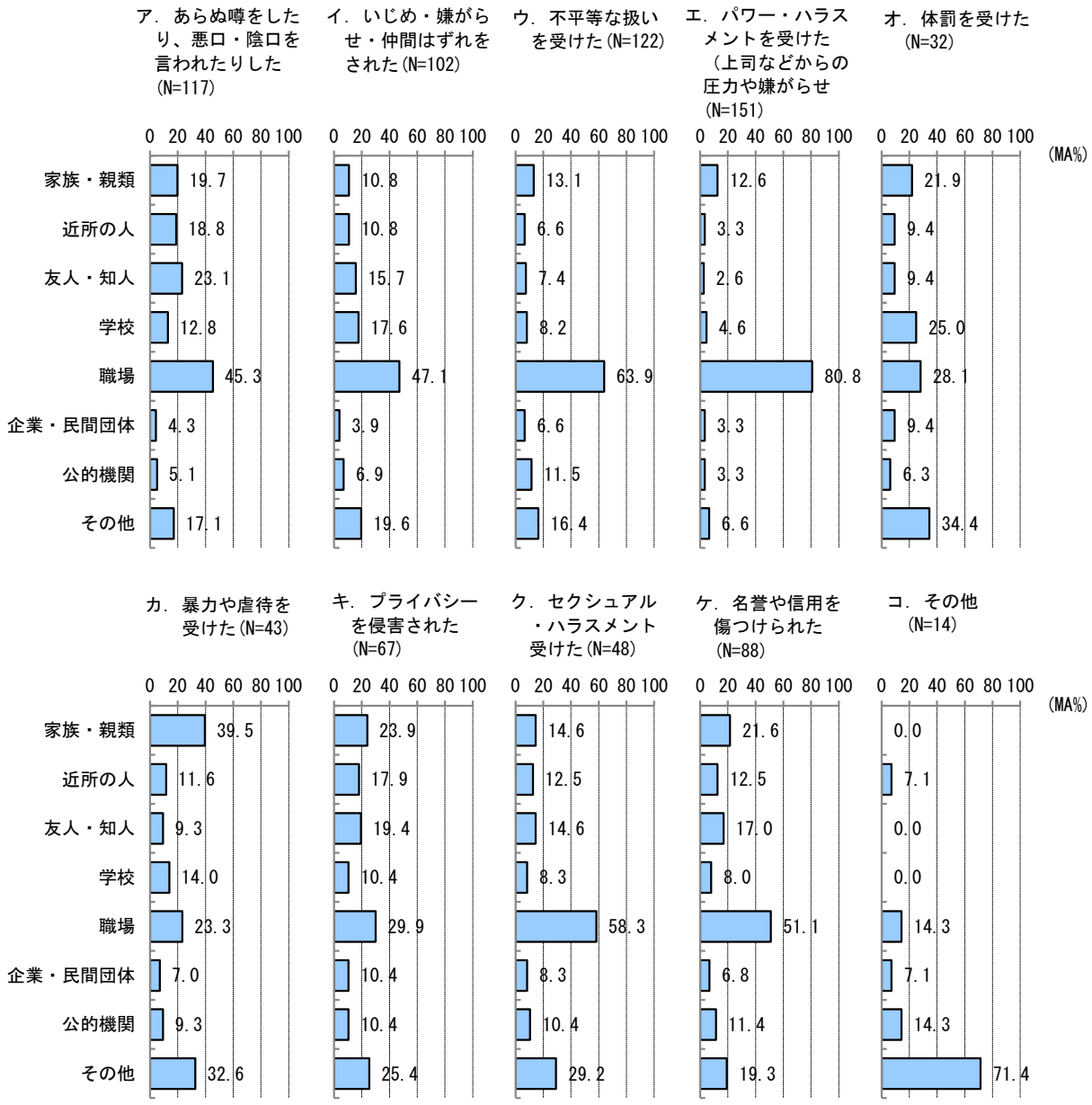
人権を侵害された経験があると回答した人に、その内容についてたずねると、「パワー・ハラスメントを受けた（上司などからの圧力や嫌がらせ）」が62.4%で最も多く、次いで「不平等な扱いを受けた」が50.4%、「あらぬ噂をされたり、悪口・陰口を言われたりした」が48.3%、「いじめ・嫌がらせ・仲間はずれをされた」が42.1%となっている。（図表2-2-1）

【図表2-2-1-1　年齢別　人権を侵害された内容】



人権を侵害された内容を年齢別でみると、母数が少ないため読み取りには注意が必要だが、20～60歳代では「パワー・ハラスメントを受けた（上司などからの圧力や嫌がらせ）」が最も多く、次いで40～50歳代では「不平等な扱いを受けた」、20・30・60歳代では「あらぬ噂をされたり、悪口・陰口を言われたりした」が続いている。（図表2-2-1-1）

【図表2-2-2　人権を侵害された相手】



人権を侵害された相手について、“カ．暴力や虐待を受けた”は「家族・親類」が39.5%で最も多く、それ以外の項目は「職場」が最も多くなっている。(図表2-2-2)

【図表2-2-2-1　年齢別　ア．あらぬ噂をされたり、悪口・陰口を言われたりした】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	家族・親類	近所の人	友人・知人	学校	職場	企業・民間団体	公的機関	その他	無回答
20歳未満	2	－	－	1	2	－	－	－	－	－
	100.0	－	－	50.0	100.0	－	－	－	－	－
20歳代	11	1	2	2	6	4	－	－	－	－
	100.0	9.1	18.2	18.2	54.5	36.4	－	－	－	－
30歳代	17	3	1	7	2	10	－	－	1	－
	100.0	17.6	5.9	41.2	11.8	58.8	－	－	5.9	－
40歳代	16	3	5	4	1	8	－	1	2	－
	100.0	18.8	31.3	25.0	6.3	50.0	－	6.3	12.5	－
50歳代	30	3	4	4	2	21	3	3	6	－
	100.0	10.0	13.3	13.3	6.7	70.0	10.0	10.0	20.0	－
60歳代	16	6	5	5	2	4	1	2	6	－
	100.0	37.5	31.3	31.3	12.5	25.0	6.3	12.5	37.5	－
70歳代	13	5	1	3	－	3	－	－	3	－
	100.0	38.5	7.7	23.1	－	23.1	－	－	23.1	－
80歳以上	9	1	3	1	－	2	1	－	2	－
	100.0	11.1	33.3	11.1	－	22.2	11.1	－	22.2	－

「ア．あらぬ噂をされたり、悪口・陰口を言われたりした」を年齢別でみると、30～50歳代では「職場」が最も多く、60～70歳代では「家族・親類」が最も多くなっている。（図表2-2-2-1）

【図表2-2-2-2　年齢別　イ．いじめ・嫌がらせ・仲間はずれをされた】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	家族・親類	近所の人	友人・知人	学校	職場	企業・民間団体	公的機関	その他	無回答
20歳未満	2	－	－	1	2	－	－	－	－	－
	100.0	－	－	50.0	100.0	－	－	－	－	－
20歳代	8	1	－	1	3	3	－	－	1	－
	100.0	12.5	－	12.5	37.5	37.5	－	－	12.5	－
30歳代	15	1	1	3	2	11	1	－	－	－
	100.0	6.7	6.7	20.0	13.3	73.3	6.7	－	－	－
40歳代	17	2	2	3	4	8	－	1	3	－
	100.0	11.8	11.8	17.6	23.5	47.1	－	5.9	17.6	－
50歳代	25	1	1	1	2	18	2	3	4	－
	100.0	4.0	4.0	4.0	8.0	72.0	8.0	12.0	16.0	－
60歳代	12	2	5	4	3	4	1	2	4	－
	100.0	16.7	41.7	33.3	25.0	33.3	8.3	16.7	33.3	－
70歳代	12	3	1	2	1	2	－	－	4	－
	100.0	25.0	8.3	16.7	8.3	16.7	－	－	33.3	－
80歳以上	9	－	－	1	1	2	－	1	4	－
	100.0	－	－	11.1	11.1	22.2	－	11.1	44.4	－

「イ．いじめ・嫌がらせ・仲間はずれをされた」を年齢別でみると、20～50歳代では「職場」が最も多く、20歳代では「学校」も同率で最も多くなっている。（図表2-2-2-2）

【図表2-2-2-3　年齢別　ウ．不平等な扱いを受けた】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	家族・親類	近所の人	友人・知人	学校	職場	企業・民間団体	公的機関	その他	無回答
20歳未満	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－
	100.0	－	－	－	100.0	－	－	－	－	－
20歳代	7	1	－	1	－	4	1	1	1	－
	100.0	14.3	－	14.3	－	57.1	14.3	14.3	14.3	－
30歳代	15	3	1	2	3	10	－	2	－	－
	100.0	20.0	6.7	13.3	20.0	66.7	－	13.3	－	－
40歳代	23	1	2	2	4	16	1	2	4	－
	100.0	4.3	8.7	8.7	17.4	69.6	4.3	8.7	17.4	－
50歳代	40	3	1	1	－	32	5	6	4	－
	100.0	7.5	2.5	2.5	－	80.0	12.5	15.0	10.0	－
60歳代	13	4	2	3	2	7	1	2	3	－
	100.0	30.8	15.4	23.1	15.4	53.8	7.7	15.4	23.1	－
70歳代	13	4	1	－	－	5	－	－	4	－
	100.0	30.8	7.7	－	－	38.5	－	－	30.8	－
80歳以上	9	－	－	－	－	4	－	1	4	－
	100.0	－	－	－	－	44.4	－	11.1	44.4	－

「ウ．不平等な扱いを受けた」を年齢別でみると、いずれの年代も「職場」が最も多くなっている。（図表2-2-2-3）

【図表2-2-2-4　年齢別　エ．パワー・ハラスメントを受けた（上司などからの圧力や嫌がらせ）】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	家族・親類	近所の人	友人・知人	学校	職場	企業・民間団体	公的機関	その他	無回答
20歳未満	1	－	－	－	－	1	1	－	－	－
	100.0	－	－	－	－	100.0	100.0	－	－	－
20歳代	14	2	1	－	1	11	－	－	－	－
	100.0	14.3	7.1	－	7.1	78.6	－	－	－	－
30歳代	28	4	－	1	2	24	－	－	－	－
	100.0	14.3	－	3.6	7.1	85.7	－	－	－	－
40歳代	27	3	1	1	2	23	－	2	2	－
	100.0	11.1	3.7	3.7	7.4	85.2	－	7.4	7.4	－
50歳代	49	3	1	1	1	44	3	2	1	－
	100.0	6.1	2.0	2.0	2.0	89.8	6.1	4.1	2.0	－
60歳代	18	5	1	1	1	13	1	1	2	－
	100.0	27.8	5.6	5.6	5.6	72.2	5.6	5.6	11.1	－
70歳代	6	1	－	－	－	3	－	－	2	－
	100.0	16.7	－	－	－	50.0	－	－	33.3	－
80歳以上	6	－	－	－	－	3	－	－	3	－
	100.0	－	－	－	－	50.0	－	－	50.0	－

「エ．パワー・ハラスメントを受けた（上司などからの圧力や嫌がらせ）」を年齢別でみると、いずれの年代も「職場」が最も多く30～50歳代は８割台と高くなっている。（図表2-2-2-4）

【図表2-2-2-5　年齢別　オ．体罰を受けた】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	家族・親類	近所の人	友人・知人	学校	職場	企業・民間団体	公的機関	その他	無回答
20歳未満	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
20歳代	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －
30歳代	3 100.0	1 33.3	－ －	－ －	－ －	1 33.3	－ －	－ －	1 33.3	－ －
40歳代	6 100.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	3 50.0	3 50.0	1 16.7	1 16.7	2 33.3	－ －
50歳代	4 100.0	－ －	－ －	－ －	1 25.0	2 50.0	－ －	－ －	1 25.0	－ －
60歳代	8 100.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	3 37.5	2 25.0	1 12.5	1 12.5	3 37.5	－ －
70歳代	5 100.0	2 40.0	－ －	1 20.0	1 20.0	－ －	－ －	－ －	2 40.0	－ －
80歳以上	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	1 33.3	－ －	－ －	2 66.7	－ －

「オ．体罰を受けた」を年齢別でみると、40歳代は「学校」と「職場」が最も多く、60歳代では「学校」が最も多くなっている。（図表2-2-2-5）

【図表2-2-2-6　年齢別　カ．暴力や虐待を受けた】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	家族・親類	近所の人	友人・知人	学校	職場	企業・民間団体	公的機関	その他	無回答
20歳未満	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
20歳代	3 100.0	2 66.7	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	1 33.3	1 33.3	－ －
30歳代	7 100.0	3 42.9	1 14.3	－ －	－ －	2 28.6	－ －	－ －	2 28.6	－ －
40歳代	7 100.0	3 42.9	1 14.3	2 28.6	2 28.6	1 14.3	1 14.3	1 14.3	2 28.6	－ －
50歳代	7 100.0	5 71.4	－ －	1 14.3	－ －	3 42.9	1 14.3	1 14.3	2 28.6	－ －
60歳代	9 100.0	1 11.1	2 22.2	1 11.1	4 44.4	3 33.3	1 11.1	1 11.1	2 22.2	－ －
70歳代	5 100.0	2 40.0	－ －	－ －	－ －	1 20.0	－ －	－ －	2 40.0	－ －
80歳以上	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－ －

「カ．暴力や虐待を受けた」を年齢別でみると、60歳代は「学校」が最も多いが、それ以外の年代は「家族・親類」が最も多くなっている。（図表2-2-2-6）

【図表2-2-2-7　年齢別　キ．プライバシーを侵害された】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	家族・親類	近所の人	友人・知人	学校	職場	企業・民間団体	公的機関	その他	無回答
20歳未満	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
20歳代	6 100.0	3 50.0	－ －	1 16.7	－ －	3 50.0	1 16.7	1 16.7	－ －	－ －
30歳代	11 100.0	4 36.4	2 18.2	3 27.3	2 18.2	4 36.4	－ －	－ －	1 9.1	－ －
40歳代	12 100.0	－ －	2 16.7	4 33.3	1 8.3	6 50.0	1 8.3	1 8.3	2 16.7	－ －
50歳代	10 100.0	3 30.0	1 10.0	－ －	1 10.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0	3 30.0	－ －
60歳代	14 100.0	4 28.6	4 28.6	3 21.4	3 21.4	4 28.6	3 21.4	2 14.3	6 42.9	－ －
70歳代	8 100.0	1 12.5	1 12.5	2 25.0	－ －	1 12.5	1 12.5	1 12.5	2 25.0	－ －
80歳以上	4 100.0	－ －	1 25.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 75.0	－ －

「キ．プライバシーを侵害された」を年齢別でみると、20・30歳代では「家族・親類」と「職場」が最も多くなっている。40歳代も「職場」が最も多く、60歳代では「家族・親類」と「近所の人」、「職場」が同率で最も多くなっている。（図表2-2-2-7）

【図表2-2-2-8　年齢別　ク．セクシュアル・ハラスメントを受けた】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	家族・親類	近所の人	友人・知人	学校	職場	企業・民間団体	公的機関	その他	無回答
20歳未満	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
20歳代	6 100.0	1 16.7	1 16.7	－ －	－ －	3 50.0	－ －	－ －	1 16.7	－ －
30歳代	8 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	8 100.0	－ －	2 25.0	2 25.0	－ －
40歳代	8 100.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	5 62.5	－ －	1 12.5	3 37.5	－ －
50歳代	10 100.0	3 30.0	－ －	2 20.0	－ －	6 60.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0	－ －
60歳代	8 100.0	1 12.5	2 25.0	3 37.5	3 37.5	4 50.0	2 25.0	1 12.5	3 37.5	－ －
70歳代	5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	－ －	2 40.0	－ －	－ －	1 20.0	－ －
80歳以上	2 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	2 100.0	－ －

「ク．セクシュアル・ハラスメントを受けた」を年齢別でみると、いずれの年代も「職場」が最も多くなっている。（図表2-2-2-8）

【図表2-2-2-9　年齢別　ケ．名誉や信用を傷つけられた】

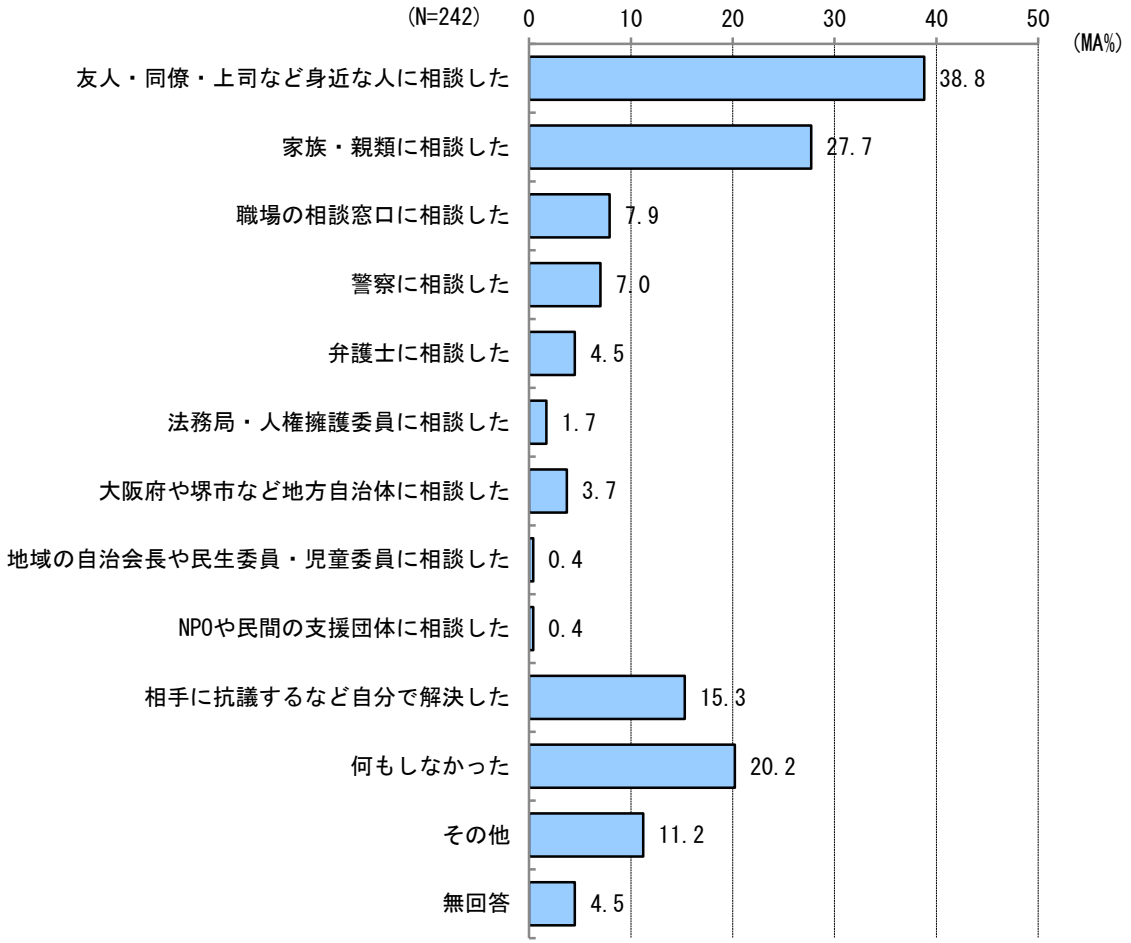
上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	家族・親類	近所の人	友人・知人	学校	職場	企業・民間団体	公的機関	その他	無回答
20歳未満	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
20歳代	5	1	－	2	1	2	－	－	－	－
	100.0	20.0	－	40.0	20.0	40.0	－	－	－	－
30歳代	15	3	－	6	2	7	1	2	1	－
	100.0	20.0	－	40.0	13.3	46.7	6.7	13.3	6.7	－
40歳代	13	3	3	2	1	6	－	1	3	－
	100.0	23.1	23.1	15.4	7.7	46.2	－	7.7	23.1	－
50歳代	25	3	1	2	1	18	3	4	6	－
	100.0	12.0	4.0	8.0	4.0	72.0	12.0	16.0	24.0	－
60歳代	13	4	3	3	2	8	2	3	3	－
	100.0	30.8	23.1	23.1	15.4	61.5	15.4	23.1	23.1	－
70歳代	10	4	2	－	－	2	－	－	2	－
	100.0	40.0	20.0	－	－	20.0	－	－	20.0	－
80歳以上	5	－	1	－	－	2	－	－	2	－
	100.0	－	20.0	－	－	40.0	－	－	40.0	－

「ケ．名誉や信用を傷つけられた」を年齢別でみると、30～60歳代では「職場」が最も多いが、70歳代では「家族・親類」が最も多くなっている。(図表2-2-2-9)

（３）人権を侵害されたときの対応

問４で、「1.ある」と答えた方にお聞きします。
問６　あなたは人権を侵害された時、どうしましたか。（あてはまる番号すべてに○）

【図表2-3　人権を侵害されたときの対応】



人権を侵害された経験があると回答した人に、その時の対応についてたずねると、「友人・同僚・上司など身近な人に相談した」が38.8%で最も多く、次いで「家族・親類に相談した」が27.7%、「何もしなかった」が20.2%、「相手に抗議するなど自分で解決した」が15.3%となっている。（図表2-3）

【図表2-3-1　年齢別　人権を侵害されたときの対応】

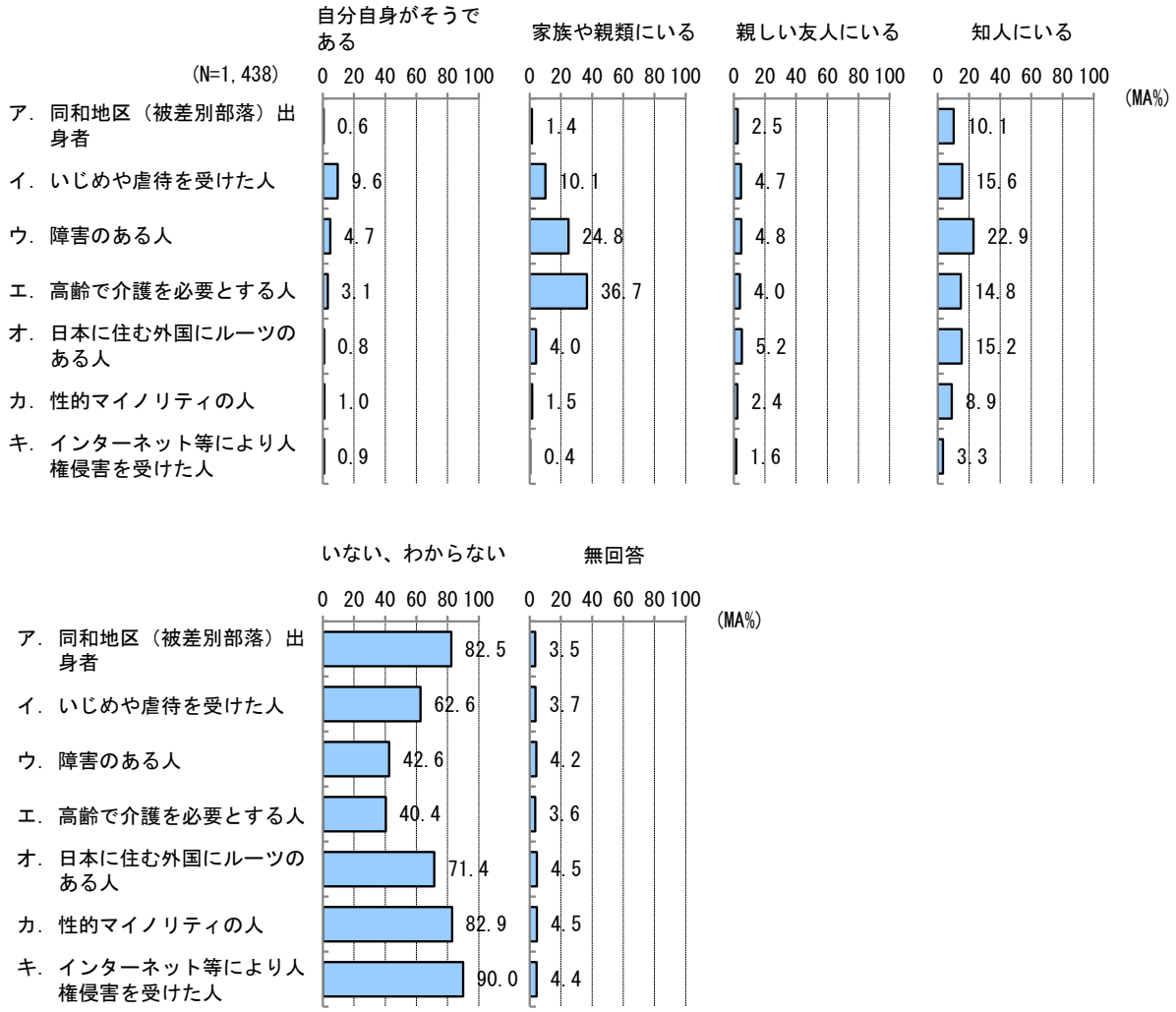
上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	友人・同僚・上司など身近な人に相談した	家族・親類に相談した	職場の相談窓口に相談した	警察に相談した	弁護士に相談した	法務局・人権擁護委員に相談した	大阪府や堺市など地方自治体に相談した	地域の自治会長や民生委員・児童委員に相談した	NPOや民間の支援団体に相談した	相手に抗議するなど自分で解決した	何もしなかった	その他	無回答
20歳未満	3	2	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	100.0	66.7	66.7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
20歳代	23	9	13	－	1	－	－	－	－	－	2	3	1	1
	100.0	39.1	56.5	－	4.3	－	－	－	－	－	8.7	13.0	4.3	4.3
30歳代	32	17	13	2	4	1	－	1	－	－	6	6	2	1
	100.0	53.1	40.6	6.3	12.5	3.1	－	3.1	－	－	18.8	18.8	6.3	3.1
40歳代	45	21	11	8	2	－	－	2	－	－	7	7	6	－
	100.0	46.7	24.4	17.8	4.4	－	－	4.4	－	－	15.6	15.6	13.3	－
50歳代	67	29	18	1	2	2	1	2	－	－	5	19	10	1
	100.0	43.3	26.9	1.5	3.0	3.0	1.5	3.0	－	－	7.5	28.4	14.9	1.5
60歳代	32	8	7	5	4	4	2	2	1	1	11	5	4	1
	100.0	25.0	21.9	15.6	12.5	12.5	6.3	6.3	3.1	3.1	34.4	15.6	12.5	3.1
70歳代	21	6	1	2	3	－	1	1	－	－	5	4	3	3
	100.0	28.6	4.8	9.5	14.3	－	4.8	4.8	－	－	23.8	19.0	14.3	14.3
80歳以上	14	2	2	1	1	3	－	1	－	－	1	3	－	3
	100.0	14.3	14.3	7.1	7.1	21.4	－	7.1	－	－	7.1	21.4	－	21.4

年齢別でみると、30～50・70歳代では「友人・同僚・上司など身近な人に相談した」が最も多く、60歳代では「相手に抗議するなど自分で解決した」が最も多くなっている。「何もしなかった」の割合は50歳代が最も高く、次いで80歳以上となっている。（図表2-3-1）

（4）身近な人について

問７　あなたやあなたの身近な人の中に、以下のような方はいますか。
（あてはまる番号すべてに○）

【図表2-4　身近な人について】



身近な人については、いずれの項目も「いない、わからない」が最も高くなっている。

“身近にいる”（「家族や親類にいる」、「親しい友人にいる」、「知人にいる」をあわせた割合）が高い項目は、高い順に「エ．高齢で介護を必要とする人」（55.5%）、「ウ．障害のある人」（52.5%）、「イ．いじめや虐待を受けた人」（30.4%）となっている。

「ウ.障害のある人」は「家族や親戚にいる」及び「知人にいる」がそれぞれ２割程度となっている。「エ.高齢で介護を必要とする人」は「家族や親類にいる」が36.7%みられる。（図表2-4）

【図表2-4-1　年齢別　ア.同和地区（被差別部落）出身者】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	自分自身がそうである	家族や親類にいる	親しい友人にいる	知人にいる	いない、わからない	無回答
20歳未満	43	－	－	－	－	42	1
	100.0	－	－	－	－	97.7	2.3
20歳代	114	－	2	2	5	105	－
	100.0	－	1.8	1.8	4.4	92.1	－
30歳代	139	1	－	3	9	125	2
	100.0	0.7	－	2.2	6.5	89.9	1.4
40歳代	187	3	3	3	18	156	5
	100.0	1.6	1.6	1.6	9.6	83.4	2.7
50歳代	269	1	3	9	24	223	9
	100.0	0.4	1.1	3.3	8.9	82.9	3.3
60歳代	233	2	6	12	35	177	7
	100.0	0.9	2.6	5.2	15.0	76.0	3.0
70歳代	271	1	4	7	35	216	9
	100.0	0.4	1.5	2.6	12.9	79.7	3.3
80歳以上	160	－	1	－	19	126	14
	100.0	－	0.6	－	11.9	78.8	8.8

「ア．同和地区（被差別部落）出身者」を年齢別でみると、いずれも「いない、わからない」が最も多く、７割以上を占めている。なかでも20歳代が92.1%で最も高くなっている。「知人にいる」の割合は60歳代が15.0%で最も高くなっている。（図表2-4-1）

【図表2-4-2　年齢別　イ.いじめや虐待を受けた人】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	自分自身がそうである	家族や親類にいる	親しい友人にいる	知人にいる	いない、わからない	無回答
20歳未満	43	1	1	3	10	29	－
	100.0	2.3	2.3	7.0	23.3	67.4	－
20歳代	114	18	11	8	21	66	－
	100.0	15.8	9.6	7.0	18.4	57.9	－
30歳代	139	38	17	19	39	53	－
	100.0	27.3	12.2	13.7	28.1	38.1	－
40歳代	187	36	21	13	40	100	2
	100.0	19.3	11.2	7.0	21.4	53.5	1.1
50歳代	269	24	38	13	35	161	10
	100.0	8.9	14.1	4.8	13.0	59.9	3.7
60歳代	233	16	28	6	33	150	9
	100.0	6.9	12.0	2.6	14.2	64.4	3.9
70歳代	271	4	21	3	28	211	9
	100.0	1.5	7.7	1.1	10.3	77.9	3.3
80歳以上	160	1	8	－	14	119	18
	100.0	0.6	5.0	－	8.8	74.4	11.3

「イ．いじめや虐待を受けた人」を年齢別でみると、30歳代を除く各年代では、いずれも「いない、わからない」が最も多く、５割以上を占め、70歳代以上の年代が７割台と高い。

30歳代は、「いない、わからない」の割合が他の年代に比べ低く、「自分自身がそうである」「親しい友人にいる」「知人にいる」の各割合が高くなっている。（図表2-4-2）

【図表2-4-3　年齢別　ウ．障害のある人】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	自分自身がそうである	家族や親類にいる	親しい友人にいる	知人にいる	いない、わからない	無回答
20歳未満	43	－	5	2	11	26	1
	100.0	－	11.6	4.7	25.6	60.5	2.3
20歳代	114	12	23	5	31	47	－
	100.0	10.5	20.2	4.4	27.2	41.2	－
30歳代	139	7	38	8	44	50	2
	100.0	5.0	27.3	5.8	31.7	36.0	1.4
40歳代	187	7	50	12	52	74	3
	100.0	3.7	26.7	6.4	27.8	39.6	1.6
50歳代	269	13	79	18	57	106	9
	100.0	4.8	29.4	6.7	21.2	39.4	3.3
60歳代	233	9	62	14	51	99	9
	100.0	3.9	26.6	6.0	21.9	42.5	3.9
70歳代	271	10	64	5	57	132	8
	100.0	3.7	23.6	1.8	21.0	48.7	3.0
80歳以上	160	9	33	2	24	71	23
	100.0	5.6	20.6	1.3	15.0	44.4	14.4

「ウ．障害のある人」を年齢別でみると、いずれも「いない、わからない」が最も多く、なかでも20歳未満が60.5%で最も高くなっている。「家族や親類にいる」の割合は50歳代が29.4%で最も高く、「知人にいる」の割合は30歳代が31.7%で最も高くなっている。（図表2-4-3）

【図表2-4-4　年齢別　エ．高齢で介護を必要とする人】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	自分自身がそうである	家族や親類にいる	親しい友人にいる	知人にいる	いない、わからない	無回答
20歳未満	43	－	9	－	4	30	1
	100.0	－	20.9	－	9.3	69.8	2.3
20歳代	114	1	46	2	12	53	－
	100.0	0.9	40.4	1.8	10.5	46.5	－
30歳代	139	－	60	3	21	58	2
	100.0	－	43.2	2.2	15.1	41.7	1.4
40歳代	187	1	65	12	36	78	4
	100.0	0.5	34.8	6.4	19.3	41.7	2.1
50歳代	269	2	138	7	28	95	6
	100.0	0.7	51.3	2.6	10.4	35.3	2.2
60歳代	233	5	108	8	33	80	5
	100.0	2.1	46.4	3.4	14.2	34.3	2.1
70歳代	271	10	70	17	50	120	9
	100.0	3.7	25.8	6.3	18.5	44.3	3.3
80歳以上	160	24	26	7	25	62	20
	100.0	15.0	16.3	4.4	15.6	38.8	12.5

「エ．高齢で介護を必要とする人」を年齢別でみると、20歳未満、20・40・70歳以上では「いない、わからない」が最も多く、30・50～60歳代では「家族や親類にいる」が最も多くなっている。（図表2-4-4）

【図表2-4-5　年齢別　オ．日本に住む外国にルーツのある人】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	自分自身がそうである	家族や親類にいる	親しい友人にいる	知人にいる	いない、わからない	無回答
20歳未満	43	1	1	5	13	24	1
	100.0	2.3	2.3	11.6	30.2	55.8	2.3
20歳代	114	1	7	8	28	70	1
	100.0	0.9	6.1	7.0	24.6	61.4	0.9
30歳代	139	3	6	12	39	82	2
	100.0	2.2	4.3	8.6	28.1	59.0	1.4
40歳代	187	1	10	14	44	115	5
	100.0	0.5	5.3	7.5	23.5	61.5	2.7
50歳代	269	1	8	15	37	199	9
	100.0	0.4	3.0	5.6	13.8	74.0	3.3
60歳代	233	3	12	12	31	172	7
	100.0	1.3	5.2	5.2	13.3	73.8	3.0
70歳代	271	1	11	5	17	228	10
	100.0	0.4	4.1	1.8	6.3	84.1	3.7
80歳以上	160	1	1	3	9	123	25
	100.0	0.6	0.6	1.9	5.6	76.9	15.6

「オ．日本に住む外国にルーツのある人」を年齢別でみると、いずれも「いない、わからない」が最も多い。身近にいる人では、いずれの年齢も「知人にいる」が多く、その割合は20歳未満が30.2%で最も高くなっている。また、「親しい友人にいる」の割合も20歳未満が11.6%で最も高くなっている。（図表2-4-5）

【図表2-4-6　年齢別　カ．性的マイノリティの人】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	自分自身がそうである	家族や親類にいる	親しい友人にいる	知人にいる	いない、わからない	無回答
20歳未満	43	2	－	2	4	37	1
	100.0	4.7	－	4.7	9.3	86.0	2.3
20歳代	114	2	1	7	24	82	－
	100.0	1.8	0.9	6.1	21.1	71.9	－
30歳代	139	4	3	7	37	91	2
	100.0	2.9	2.2	5.0	26.6	65.5	1.4
40歳代	187	2	3	5	16	159	5
	100.0	1.1	1.6	2.7	8.6	85.0	2.7
50歳代	269	2	8	7	18	225	10
	100.0	0.7	3.0	2.6	6.7	83.6	3.7
60歳代	233	2	2	5	14	205	8
	100.0	0.9	0.9	2.1	6.0	88.0	3.4
70歳代	271	－	3	1	11	244	12
	100.0	－	1.1	0.4	4.1	90.0	4.4
80歳以上	160	－	－	－	3	134	23
	100.0	－	－	－	1.9	83.8	14.4

「カ．性的マイノリティの人」を年齢別でみると、いずれも「いない、わからない」が最も多くなっている。身近にいる人では「知人にいる」が多く、その割合は20・30歳代が２割台と高くなっている。（図表2-4-6）

【図表2-4-7　年齢別　キ．インターネット等により人権侵害を受けた人】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	自分自身がそうである	家族や親類にいる	親しい友人にいる	知人にいる	いない、わからない	無回答
20歳未満	43	－	－	－	1	41	1
	100.0	－	－	－	2.3	95.3	2.3
20歳代	114	1	－	2	10	102	－
	100.0	0.9	－	1.8	8.8	89.5	－
30歳代	139	2	－	4	7	126	1
	100.0	1.4	－	2.9	5.0	90.6	0.7
40歳代	187	2	2	2	8	167	6
	100.0	1.1	1.1	1.1	4.3	89.3	3.2
50歳代	269	3	－	6	12	240	10
	100.0	1.1	－	2.2	4.5	89.2	3.7
60歳代	233	3	3	5	5	213	8
	100.0	1.3	1.3	2.1	2.1	91.4	3.4
70歳代	271	2	1	1	4	254	10
	100.0	0.7	0.4	0.4	1.5	93.7	3.7
80歳以上	160	－	－	1	1	135	23
	100.0	－	－	0.6	0.6	84.4	14.4

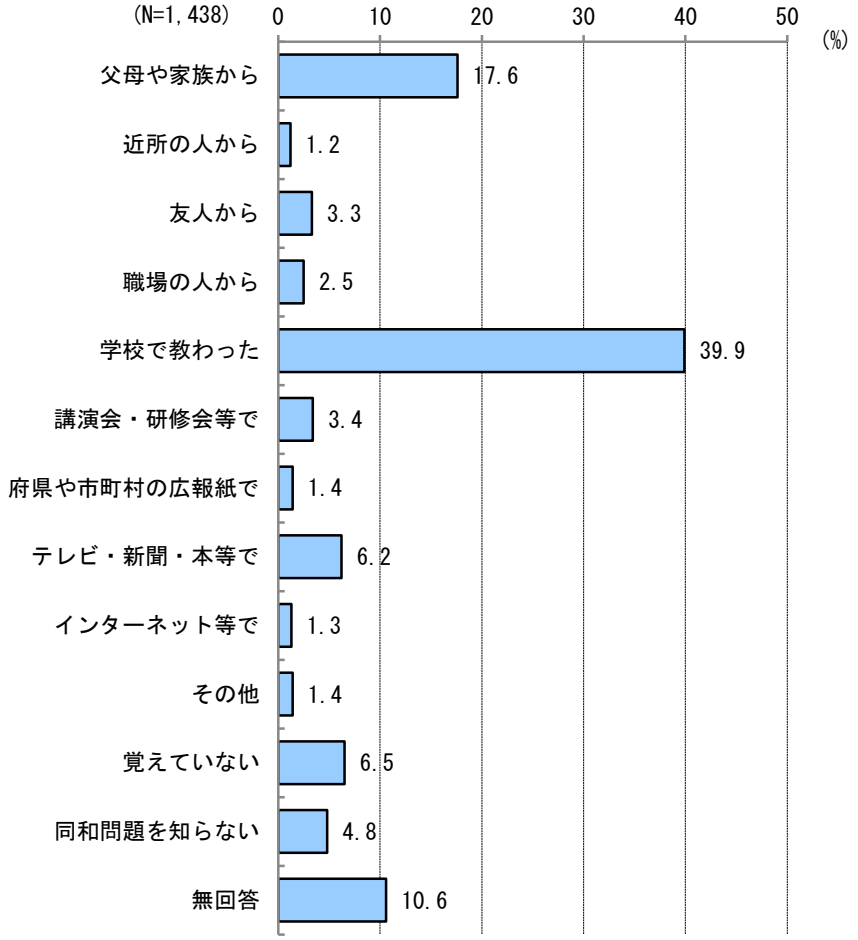
「キ．インターネット等により人権侵害を受けた人」を年齢別でみると、いずれも「いない、わからない」が最も多く、20歳未満、30・60・70歳代では９割台となっている。(図表2-4-7)

３．同和問題（部落差別）について

（１）同和問題（部落差別）や同和地区（被差別部落）を知った経緯

問８　あなたは同和問題（部落差別）や同和地区（被差別部落）があることを、どのようにして知りましたか。（あてはまる番号１つに○）

【図表3-1　同和問題（部落差別）や同和地区（被差別部落）を知った経緯】



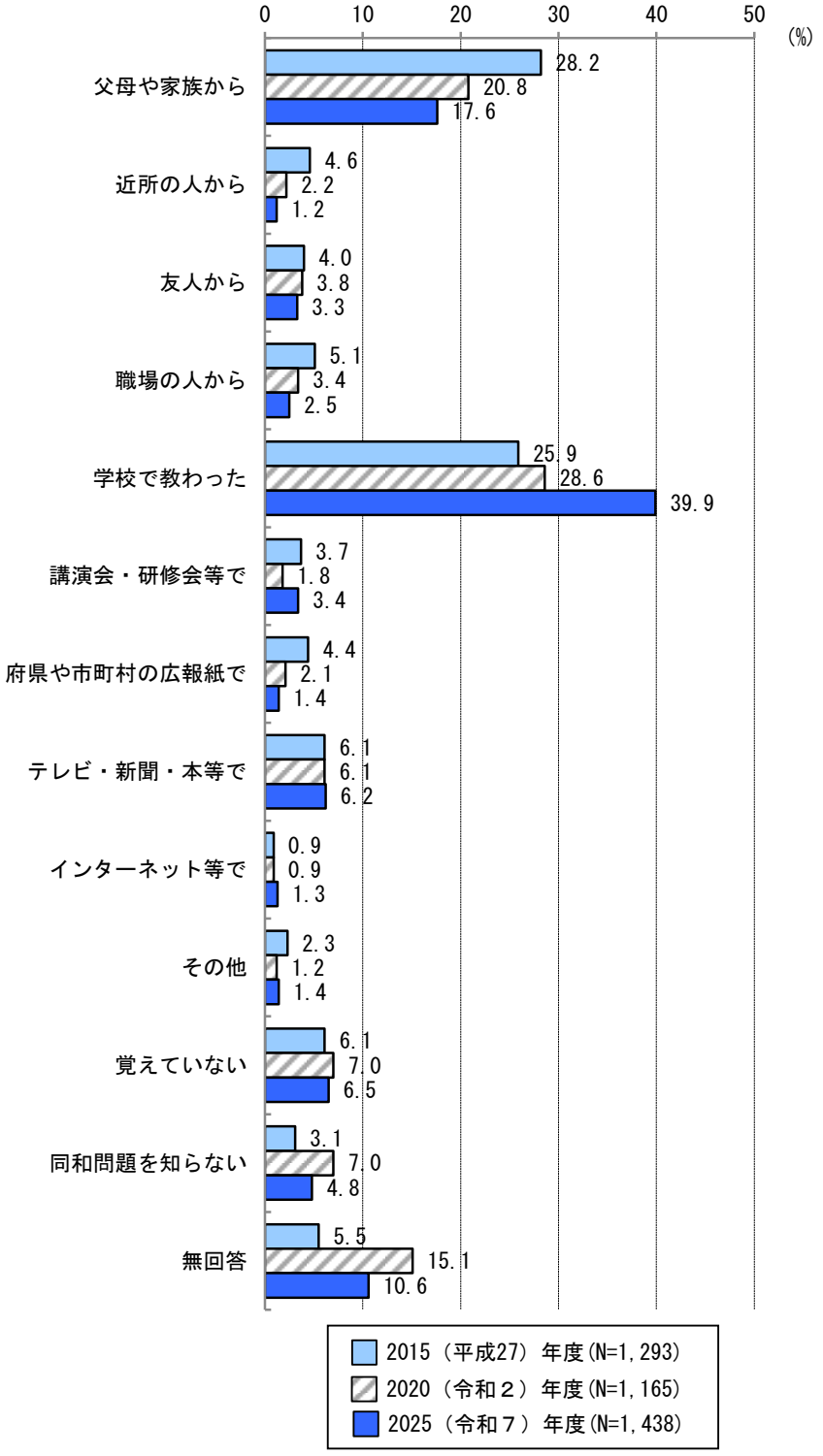
同和問題（部落差別）や同和地区（被差別部落）を知った経緯については、「学校で教わった」が39.9%で最も多く、次いで「父母や家族から」が17.6%、「テレビ・新聞・本等で」が6.2%となっている。一方、「覚えていない」は6.5%となっている。（図表3-1）

【図表3-1-1　年齢別　同和問題（部落差別）や同和地区（被差別部落）を知った経緯】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	父母や家族から	近所の人から	友人から	職場の人から	学校で教わった	講演会・研修会等で	府県や市町村の広報紙で	テレビ・新聞・本等で	インターネット等で	その他	覚えていない	同和問題を知らない	無回答
20歳未満	43	1	－	－	－	31	2	－	－	－	－	2	6	1
	100.0	2.3	－	－	－	72.1	4.7	－	－	－	－	4.7	14.0	2.3
20歳代	114	16	－	2	2	47	3	－	5	4	2	13	16	4
	100.0	14.0	－	1.8	1.8	41.2	2.6	－	4.4	3.5	1.8	11.4	14.0	3.5
30歳代	139	23	－	4	1	64	4	－	6	7	1	3	19	7
	100.0	16.5	－	2.9	0.7	46.0	2.9	－	4.3	5.0	0.7	2.2	13.7	5.0
40歳代	187	23	－	4	3	107	2	2	5	2	2	13	10	14
	100.0	12.3	－	2.1	1.6	57.2	1.1	1.1	2.7	1.1	1.1	7.0	5.3	7.5
50歳代	269	38	1	7	4	163	5	－	8	2	2	8	6	25
	100.0	14.1	0.4	2.6	1.5	60.6	1.9	－	3.0	0.7	0.7	3.0	2.2	9.3
60歳代	233	48	2	7	4	109	7	3	11	2	2	13	2	23
	100.0	20.6	0.9	3.0	1.7	46.8	3.0	1.3	4.7	0.9	0.9	5.6	0.9	9.9
70歳代	271	68	6	14	15	44	20	11	32	2	7	19	3	30
	100.0	25.1	2.2	5.2	5.5	16.2	7.4	4.1	11.8	0.7	2.6	7.0	1.1	11.1
80歳以上	160	35	8	9	7	5	5	4	21	－	4	19	6	37
	100.0	21.9	5.0	5.6	4.4	3.1	3.1	2.5	13.1	－	2.5	11.9	3.8	23.1

年齢別でみると、60歳代までの年代は「学校で教わった」が最も多いが、70歳代以上では「父母や家族から」が最も多くなっている。（図表3-1-1）

【図表3-1-2　経年比較　同和問題（部落差別）や同和地区（被差別部落）を知った経緯】

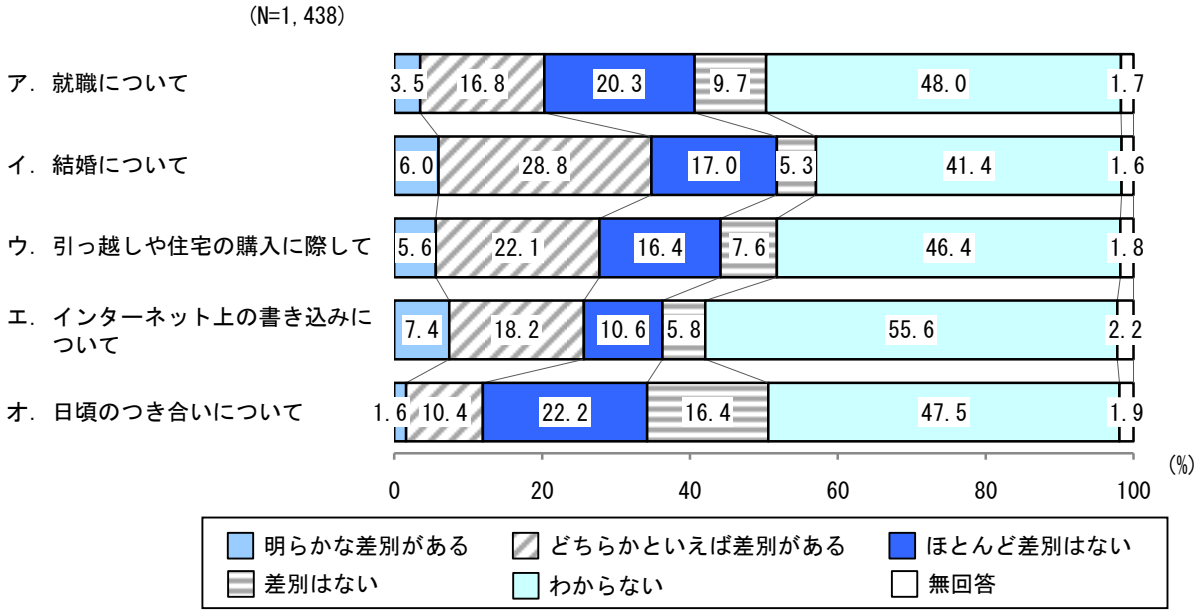


経年比較でみると、前々回調査では「父母や家族から」が28.2%で最も多く、調査を行うごとに低下し、前回調査及び今回調査では「学校で教わった」が最も多くなっている。「父母や家族から」、「近所の人から」、「友人から」、「職場の人から」、「府県や市町村の広報紙で」の割合は減少傾向にあるが、「学校で教わった」は増加傾向となっている。（図表3-1-2）

（２）就職、結婚、引っ越しや住宅の購入時等の部落差別について

問９　現在、次のことについて部落差別があると思いますか。（それぞれあてはまる番号１つに○）

【図表3-2　就職、結婚、引っ越しや住宅の購入時等の部落差別について】

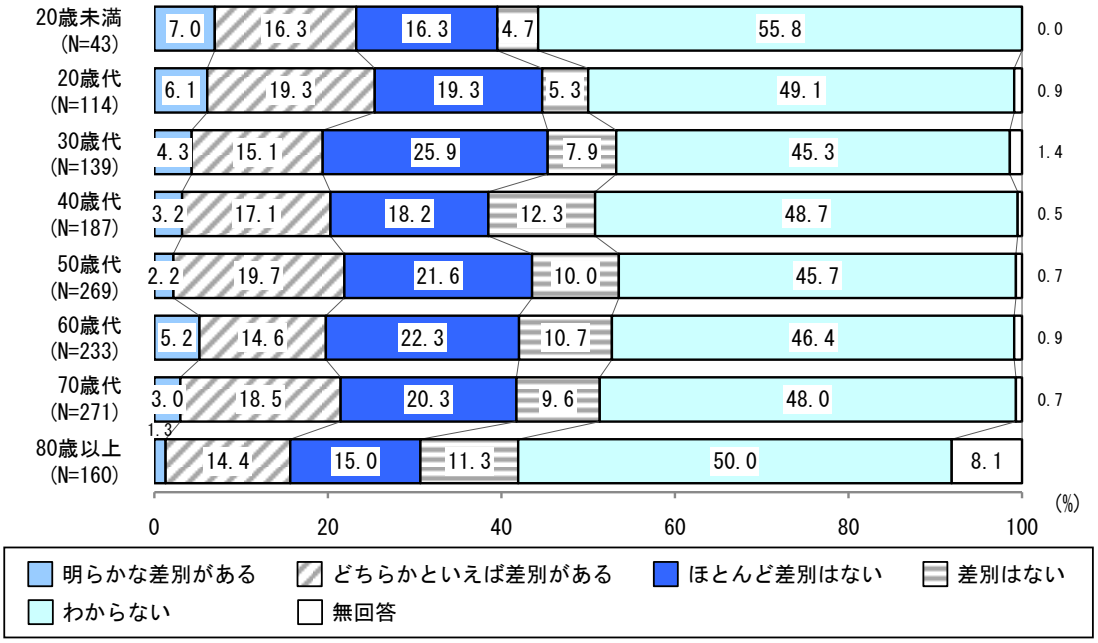


就職、結婚、引っ越しや住宅の購入時等の部落差別についてたずねた。

「明らかな差別がある」の割合は「エ．インターネット上の書き込みについて」が7.4%で最も高い。「明らかな差別がある」と「どちらかといえば差別がある」をあわせた“差別がある”の割合は「イ．結婚について」が34.8%で最も高く、次いで「ウ．引っ越しや住宅の購入に際して」が27.7%、「エ．インターネット上の書き込みについて」が25.6%となっている。

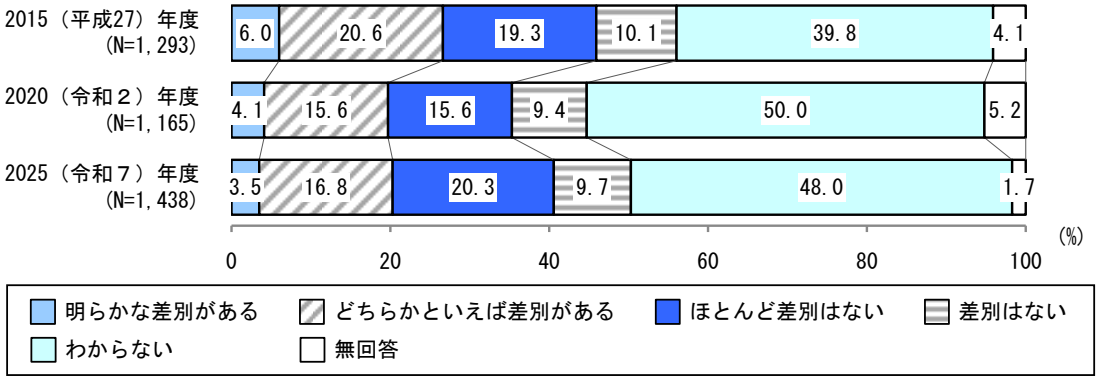
一方、「ほとんど差別はない」と「差別はない」をあわせた“差別はない”割合は「オ．日頃のつき合いについて」が38.6%と最も高く、次いで「ア．就職について」が30.0%となっている。（図表3-2）

【図表3-2-1　年齢別　ア.就職について】



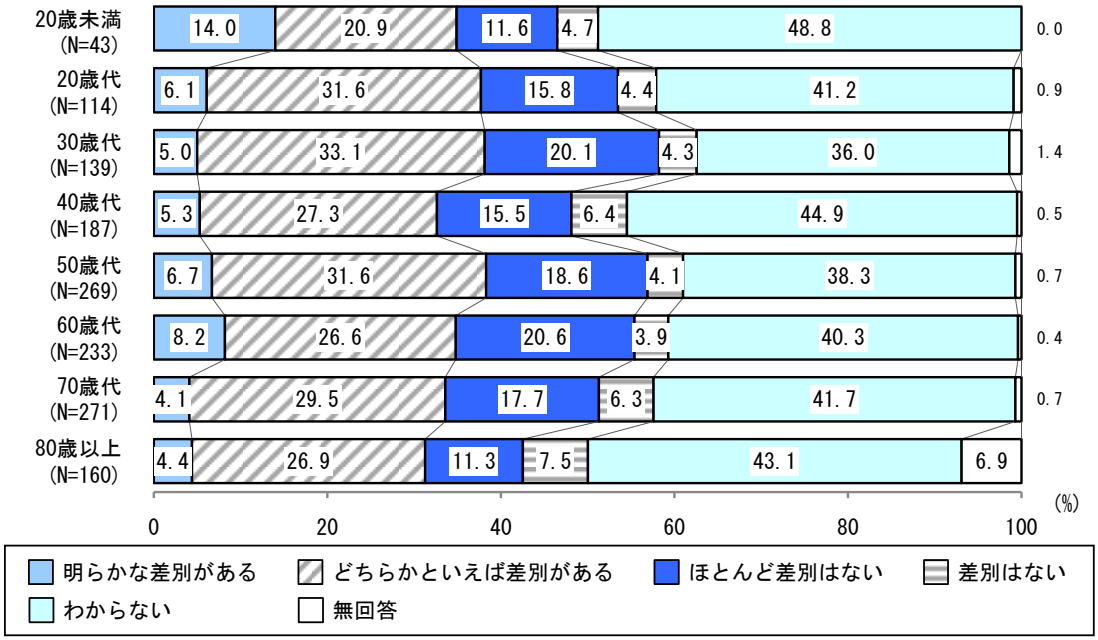
「ア．就職について」を年齢別でみると、“差別がある”の割合は20歳代が25.4%で最も高く、次いで20歳未満が23.3%となっている。一方、“差別はない”の割合は30歳代が33.8%で最も高く、次いで60歳代が33.0%、50歳代が31.6%となっている。（図表3-2-1）

【図表3-2-2　経年比較　ア.就職について】



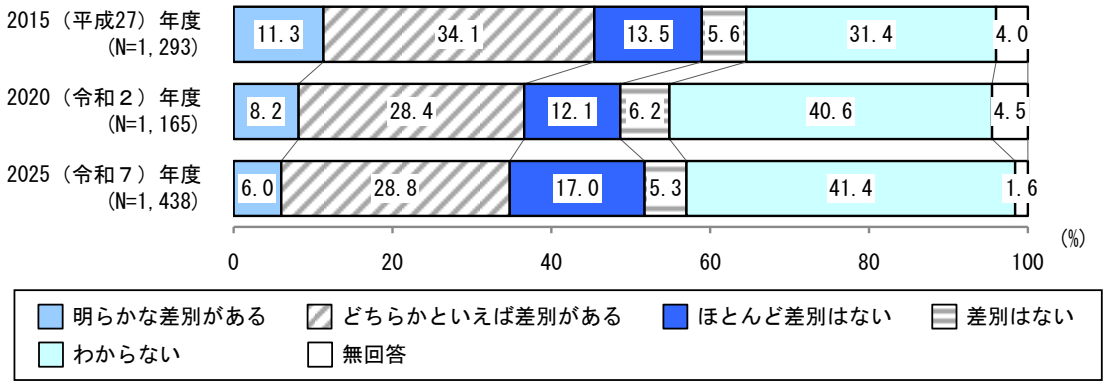
「ア．就職について」を経年比較でみると、“差別がある”の割合は前々回調査から6.3ポイント減少している。一方、“差別はない”の割合は前々回調査と比べて0.6ポイント、前回調査と比べて5.0ポイント、それぞれ増加している。（図表3-2-2）

【図表3-2-3　年齢別　イ.結婚について】



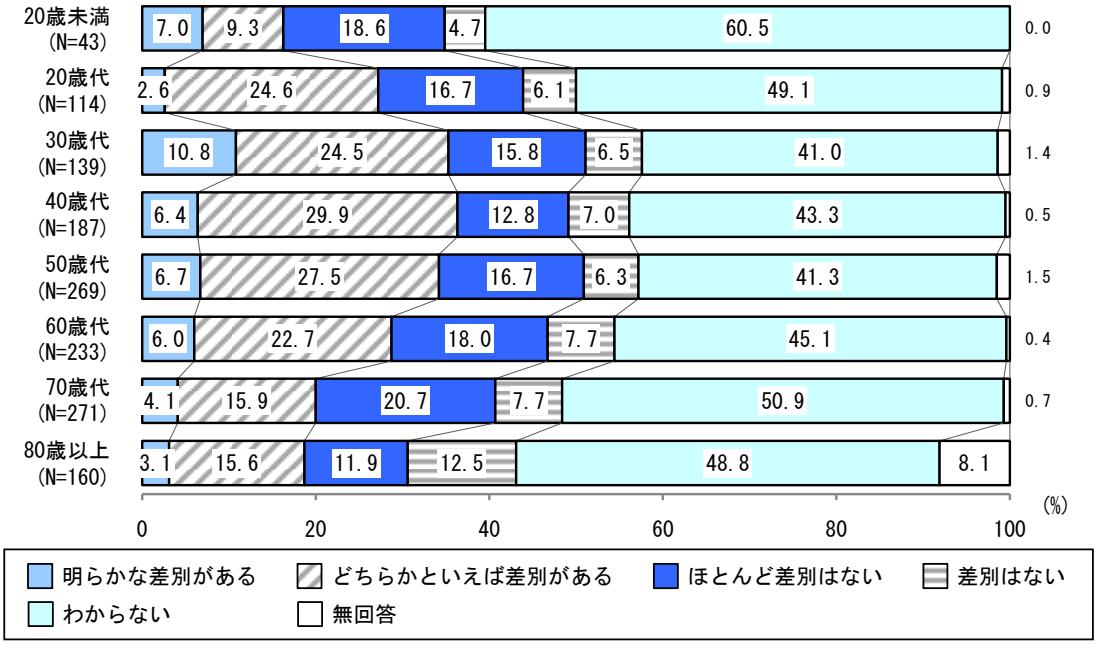
「イ．結婚について」を年齢別でみると、“差別がある”の割合は50歳代が38.3%で最も高く、次いで30歳代が38.1%となっている。一方、“差別はない”の割合は60歳代が24.5%で最も高く、次いで30歳代が24.4%となっている。（図表3-2-3）

【図表3-2-4　経年比較　イ.結婚について】



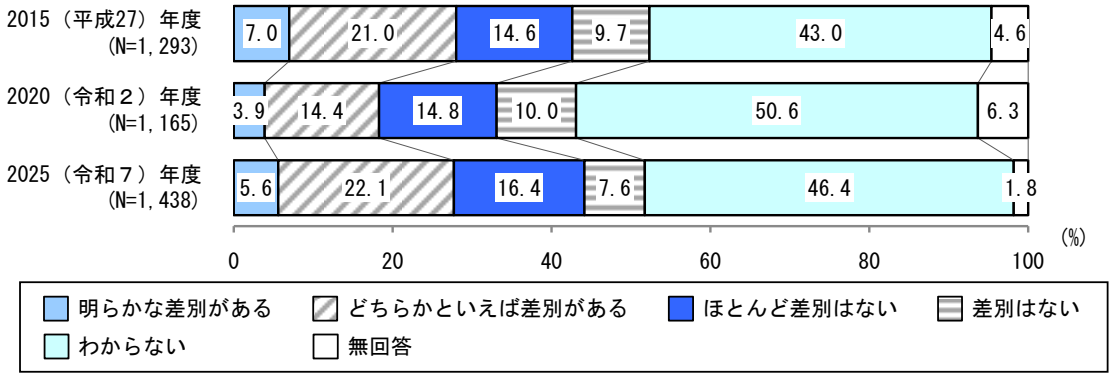
「イ．結婚について」を経年比較でみると、“差別がある”の割合は減少傾向にあり、前々回調査と比べて10.6ポイント低くなっている。一方、“差別はない”の割合は増加傾向にあり前々回調査と比べて3.2ポイント高くなっている。（図表3-2-4）

【図表3-2-5　年齢別　ウ.引っ越しや住宅の購入に際して】



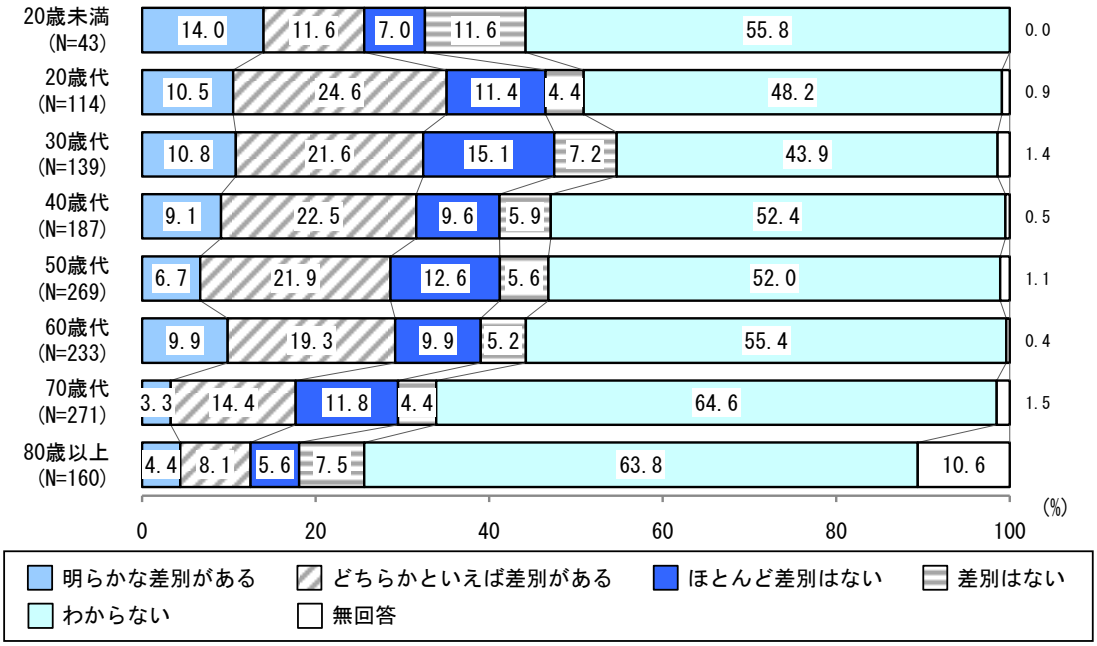
「ウ．引っ越しや住宅の購入に際して」を年齢別でみると、“差別がある”の割合は40歳代が36.3%で最も高く、次いで30歳代が35.3%となっている。一方、“差別はない”の割合は70歳代が28.4%で最も高く、次いで60歳代が25.7%となっている。（図表3-2-5）

【図表3-2-6　経年比較　ウ.引っ越しや住宅の購入に際して】



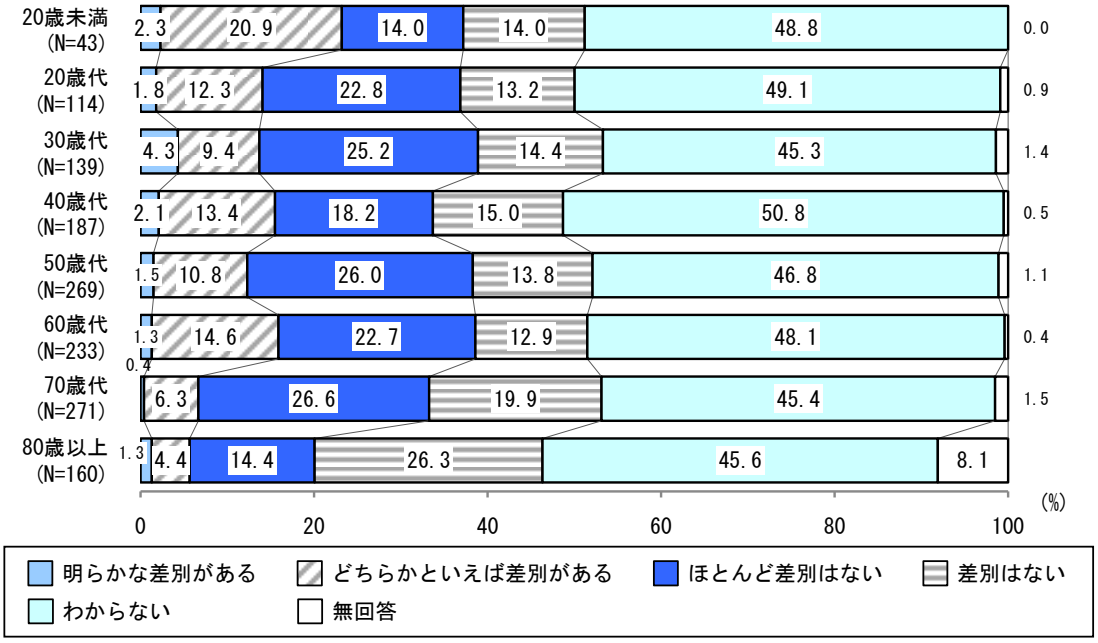
「ウ．引っ越しや住宅の購入に際して」を経年比較でみると、“差別がある”の割合は前々回調査から前回調査は9.7ポイント減少しているが、前回調査から今回調査では、逆に9.4ポイント増加している。（図表3-2-6）

【図表3-2-7　年齢別　エ.インターネット上の書き込みについて】



「エ.インターネット上の書き込みについて」を年齢別でみると、“差別がある”の割合は、20～40歳代で３割台で、その中でも20歳代が35.1%で最も高くなっている。一方、“差別はない”の割合は30歳代が22.3%で最も高く、次いで20歳未満が18.6%となっている。(図表3-2-7)

【図表3-2-8　年齢別　オ.日頃のつき合いについて】

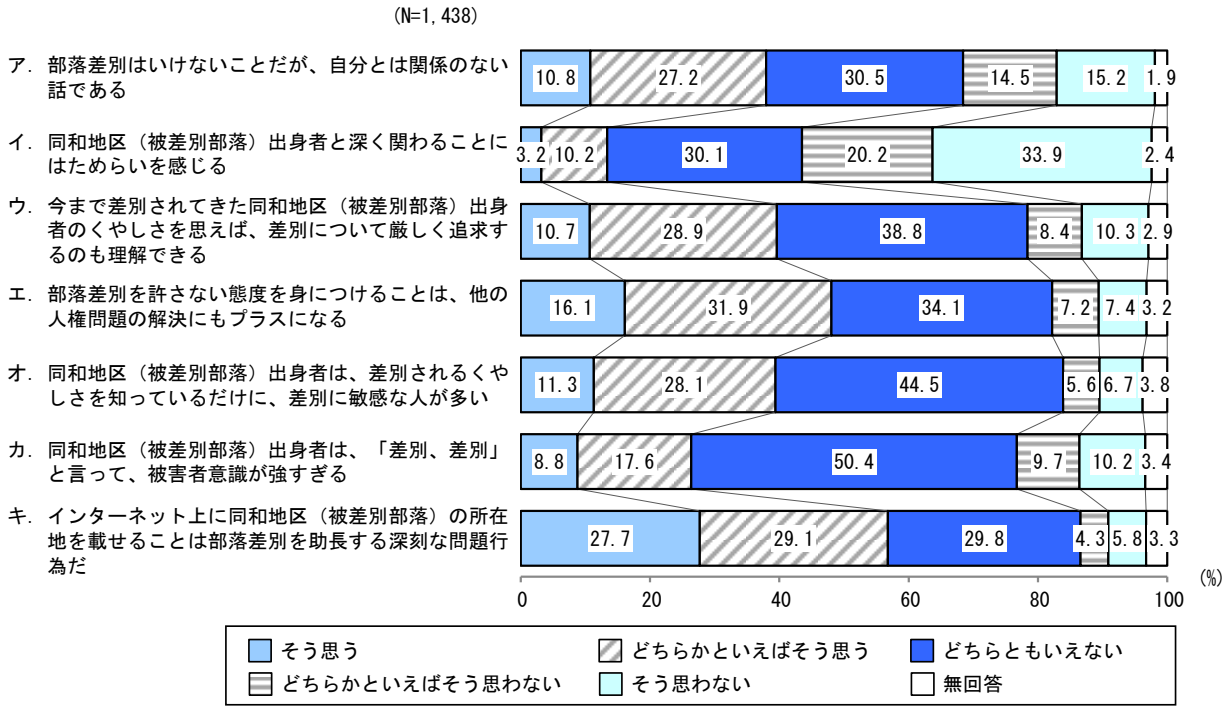


「オ．日頃のつき合いについて」を年齢別でみると、“差別がある”の割合は20歳未満が23.2%で最も高く、次いで60歳代が15.9%となっている。一方、“差別はない”の割合は70歳以上で４割台と高く、その中でも70歳代が46.5%で最も高くなっている。(図表3-2-8)

（３）同和問題（部落差別）についての考え方

問10　同和問題（部落差別）について、次のような意見がありますが、あなたはどう思いますか。（それぞれあてはまる番号１つに○）

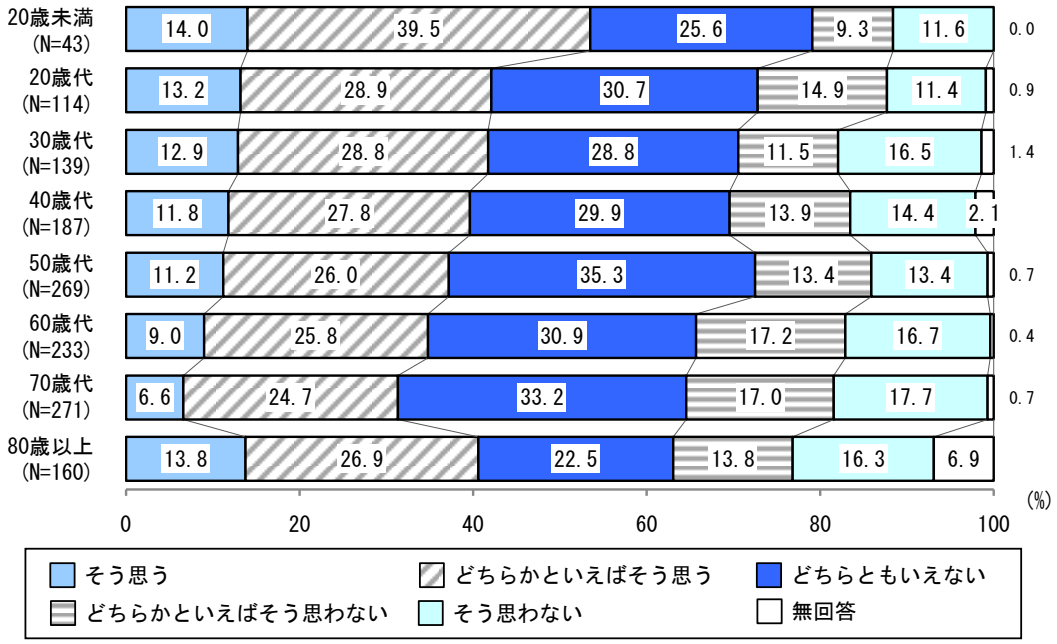
【図表3-3　同和問題（部落差別）についての考え方】



同和問題についての考え方についてたずねた。

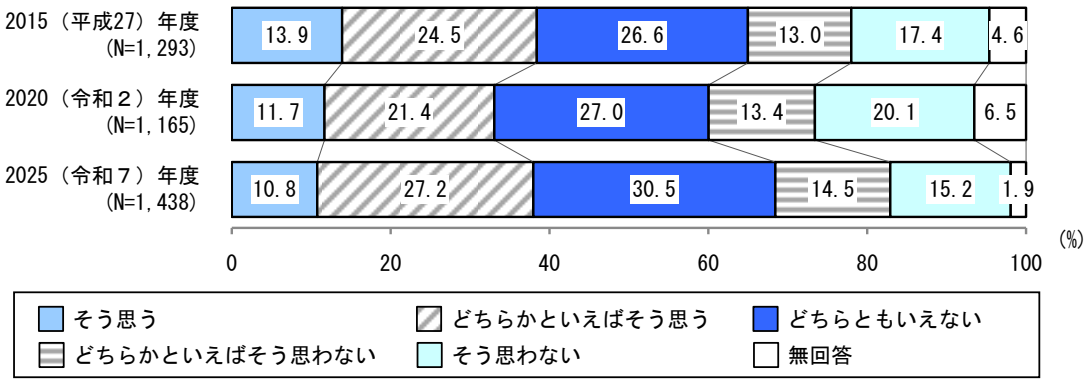
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合は「キ．インターネット上に同和地区（被差別部落）の所在地を載せることは部落差別を助長する深刻な問題行為だ」が56.8%で最も高く、次いで「エ．部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題の解決にもプラスになる」が48.0%、「ウ．今まで差別されてきた同和地区（被差別部落）出身者のくやしさを思えば、差別について厳しく追求するのも理解できる」が39.6%となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”割合は「イ．同和地区（被差別部落）出身者と深く関わることにはためらいを感じる」が54.1%で最も高く、次いで「ア．部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である」が29.7%となっている。（図表3-3）

【図表3-3-1　年齢別　ア.部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である】



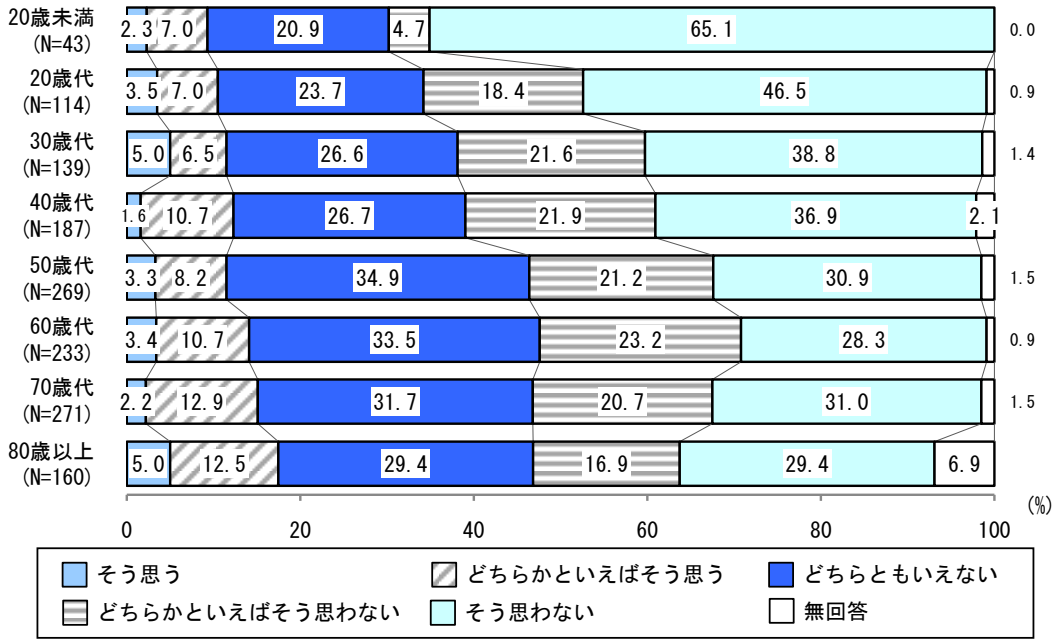
「ア．部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳未満が53.5%で最も高く、70歳代までの年代は高齢になるほど“そう思う”の割合が低くなっている。一方、“そう思わない”の割合は60歳代以上の年代が３割台で、その中でも70歳代が34.7%で最も高くなっている。（図表3-3-1）

【図表3-3-2　経年比較　ア.部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である】



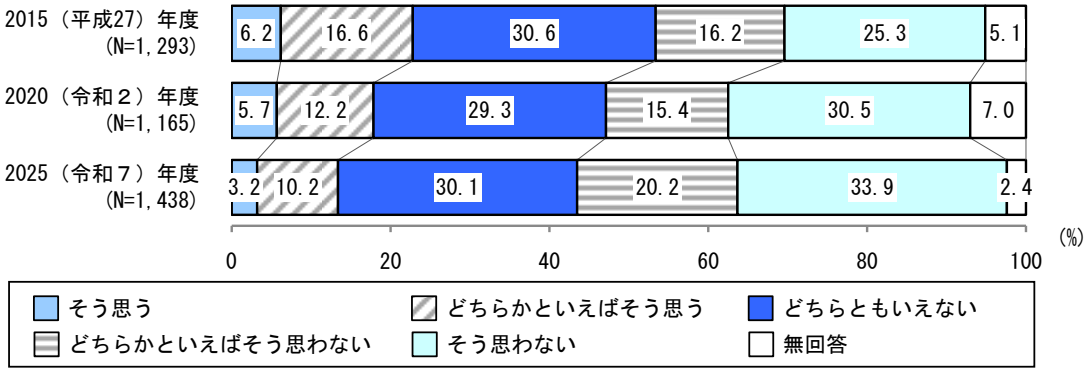
「ア.部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である」を経年比較でみると、“そう思う”の割合は前回調査から4.9ポイント増加している。一方、“そう思わない”の割合は前回調査から3.8ポイント減少している。（図表3-3-2）

【図表3-3-3　年齢別　イ.同和地区（被差別部落）出身者と深く関わることにはためらいを感じる】



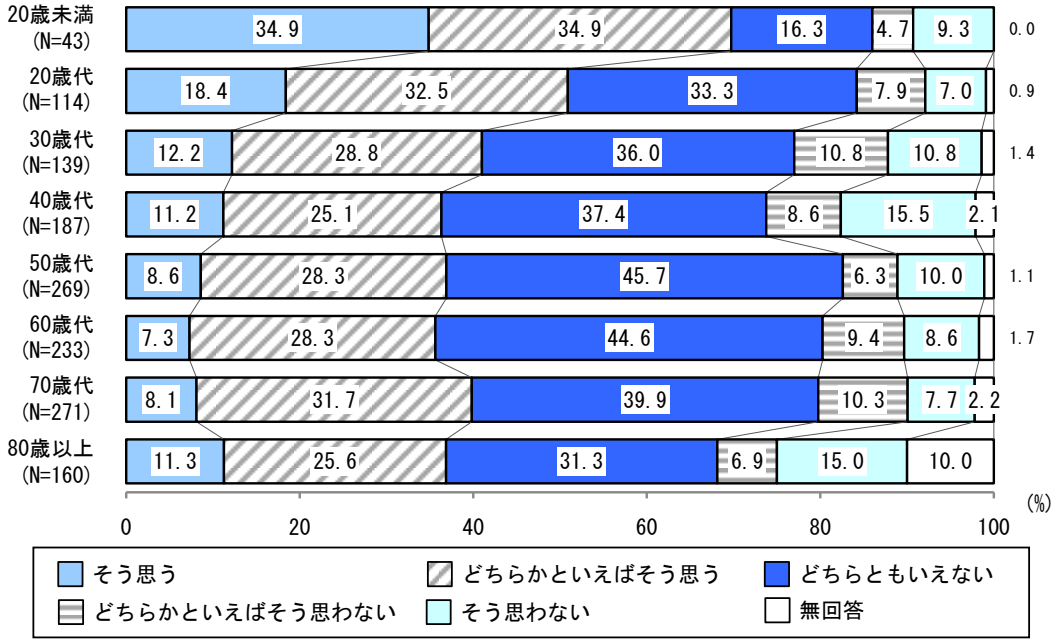
「イ．同和地区（被差別部落）出身者と深く関わることにはためらいを感じる」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は概ね高齢になるほど高くなる傾向にある。一方、“そう思わない”の割合は20歳未満が69.8%で最も高く、高齢になるほど減少傾向にある。(図表3-3-3)

【図表3-3-4　経年比較　イ.同和地区（被差別部落）出身者と深く関わることにはためらいを感じる】



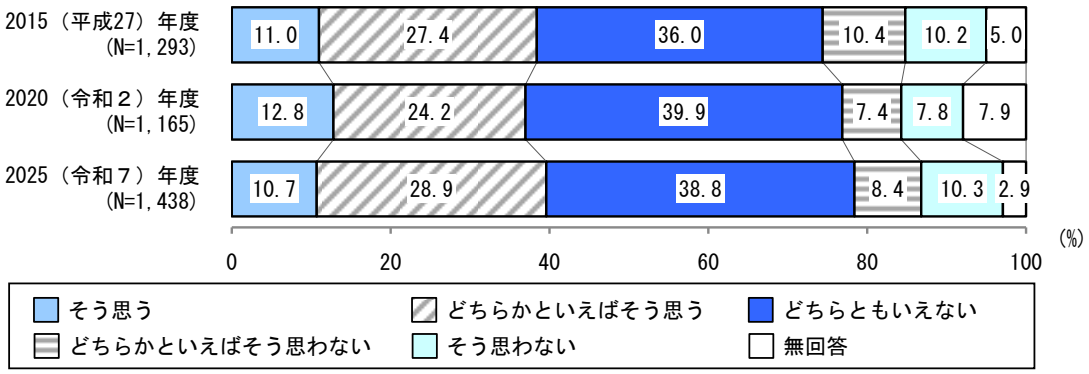
「イ．同和地区（被差別部落）出身者と深く関わることにはためらいを感じる」を経年比較でみると、“そう思う”の割合は減少傾向であり、前々回調査から9.4ポイント減少している。一方、“そう思わない”の割合は増加傾向であり、前々回調査から12.6ポイント増加している。(図表3-3-4)

【図表3-3-5　年齢別　ウ.今まで差別されてきた同和地区（被差別部落）出身者のくやしさを思えば、差別について厳しく追求するのも理解できる】



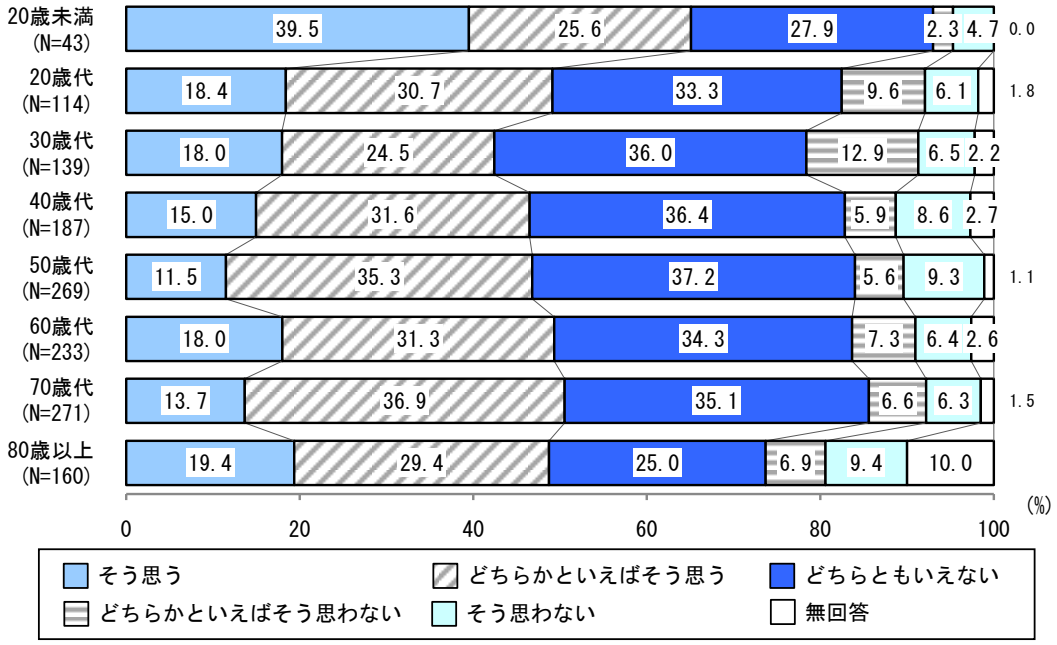
「ウ．今まで差別されてきた同和地区（被差別部落）出身者のくやしさを思えば、差別について厳しく追求するのも理解できる」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は、20歳未満が69.8%で最も高く、高齢になるほど概ね低くなる傾向にある。一方、“そう思わない”の割合は40歳代が24.1%で最も高く、次いで80歳以上が21.9%となっている。（図表3-3-5）

【図表3-3-6　経年比較　ウ.今まで差別されてきた同和地区（被差別部落）出身者のくやしさを思えば、差別について厳しく追求するのも理解できる】



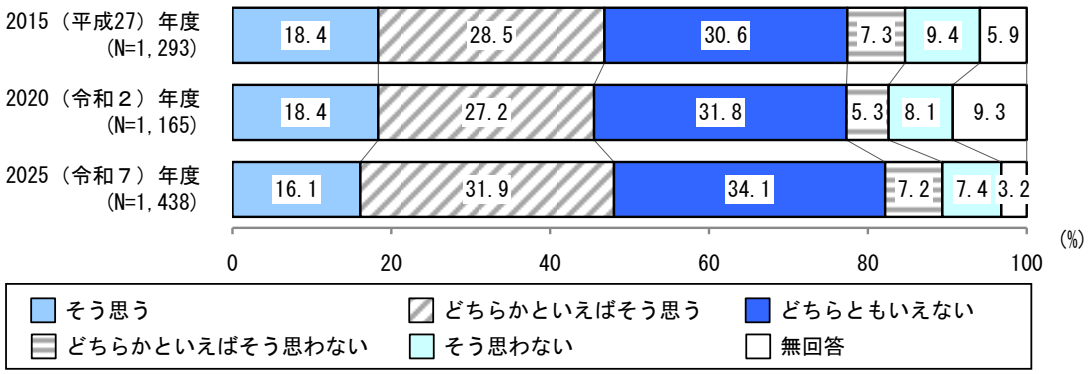
「ウ．今まで差別されてきた同和地区（被差別部落）出身者のくやしさを思えば、差別について厳しく追求するのも理解できる」を経年比較でみると、“そう思う”、“そう思わない”とも前回調査から割合は微増している。（図表3-3-6）

【図表3-3-7　年齢別　エ.部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題の解決にもプラスになる】



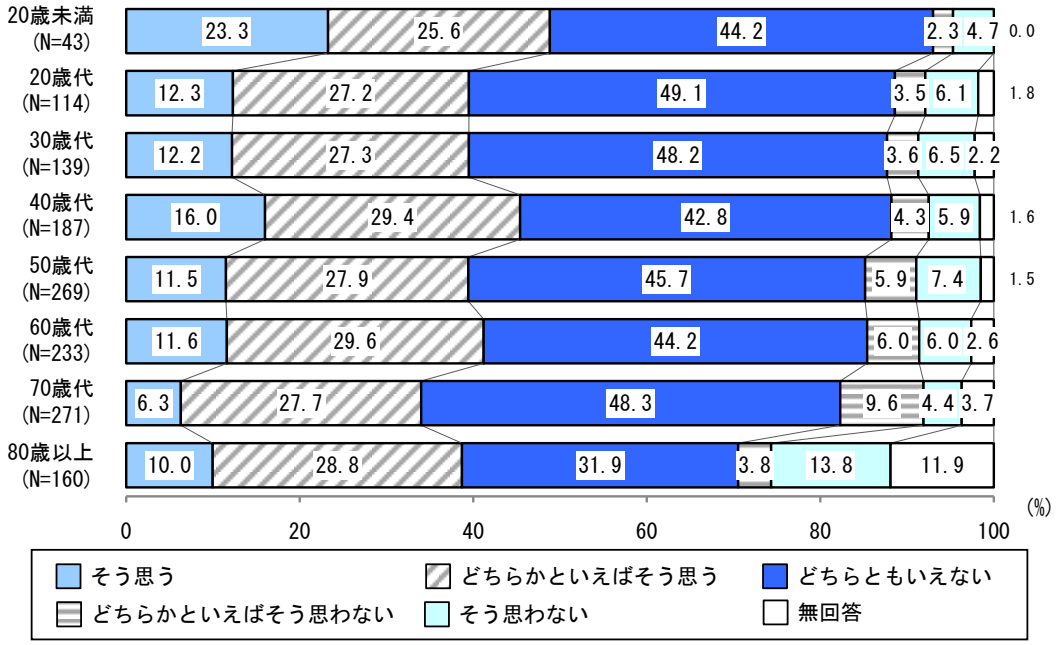
「エ．部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題の解決にもプラスになる」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳未満が65.1%で最も高く、次いで70歳代が50.6%となっている。一方、“そう思わない”の割合は、30歳代が19.4%で最も高くなっている。（図表3-3-7）

【図表3-3-8　経年比較　エ.部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題の解決にもプラスになる】



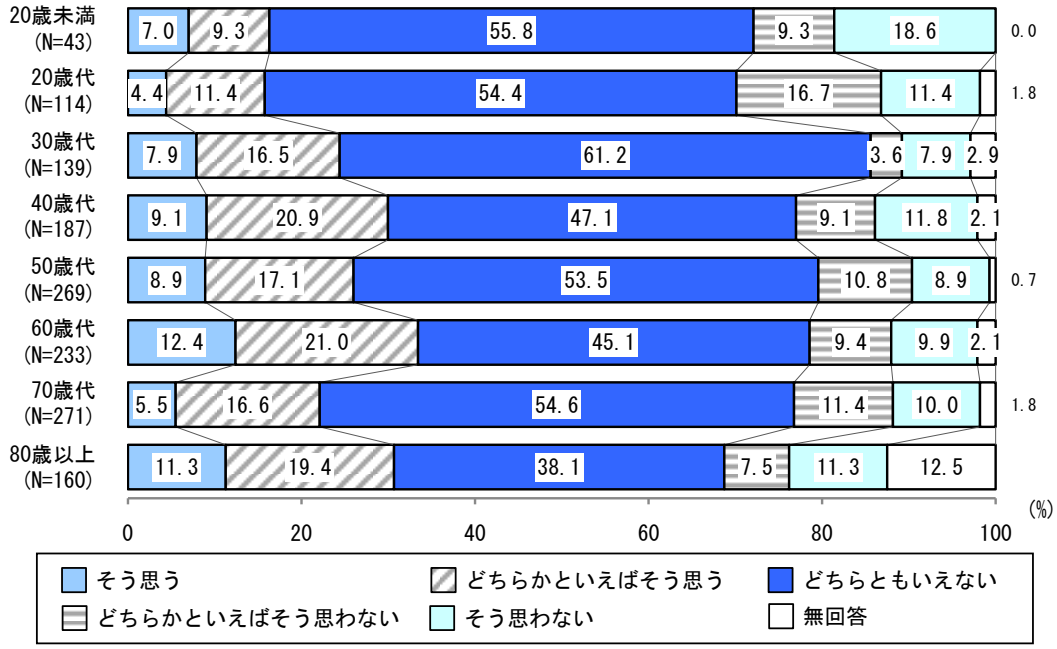
「エ．部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題の解決にもプラスになる」を経年比較でみると、“そう思う”、“そう思わない”とも前回調査から各割合が微増している。（図表3-3-8）

【図表3-3-9　年齢別　オ.同和地区（被差別部落）出身者は、差別されるくやしさを知っているだけに、差別に敏感な人が多い】



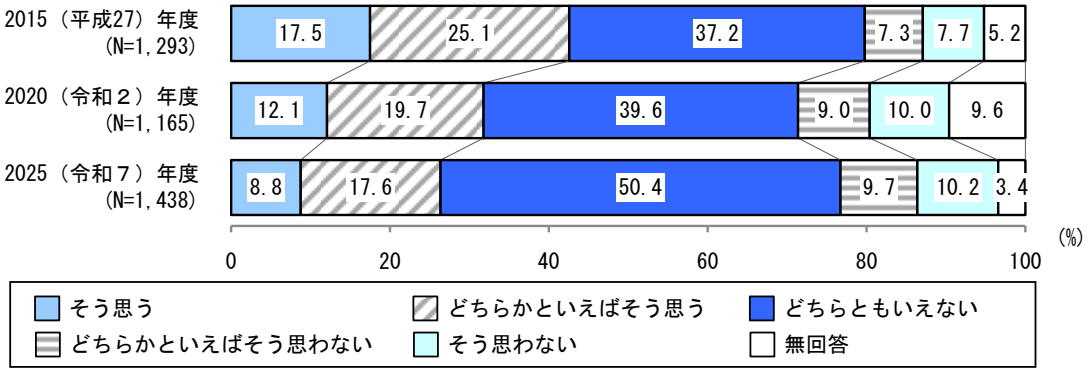
「オ．同和地区（被差別部落）出身者は、差別されるくやしさを知っているだけに、差別に敏感な人が多い」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は、いずれの年代も３割以上を占め、20歳未満が48.9%で最も高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は高齢になるほど概ね割合が高くなる傾向にあり、80歳以上が17.6%で最も高くなっている。（図表3-3-9）

【図表3-3-10　年齢別　カ.同和地区（被差別部落）出身者は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる】



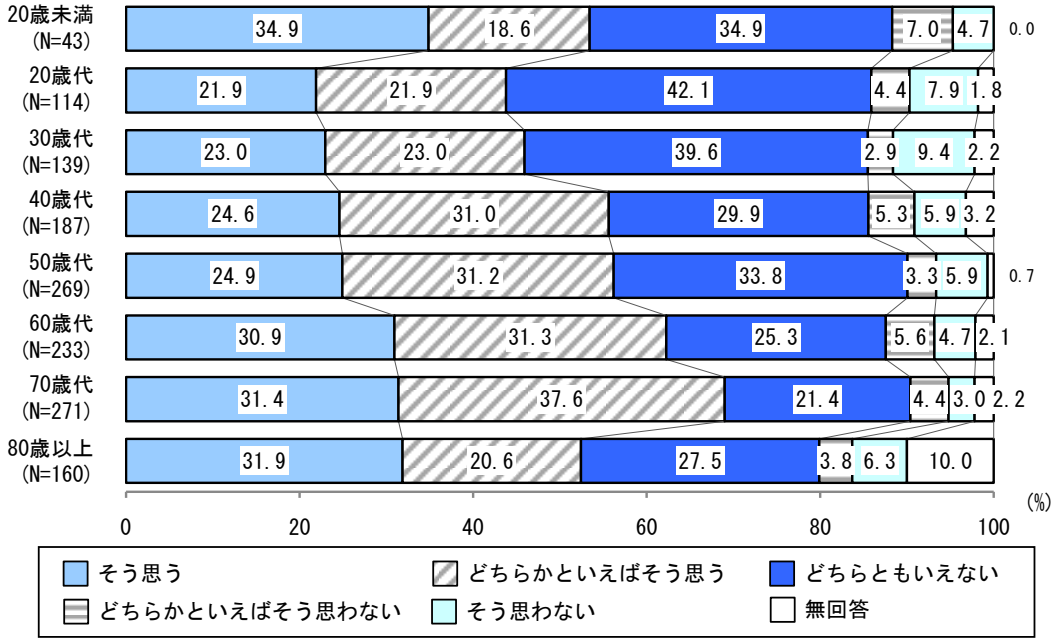
「カ．同和地区（被差別部落）出身者は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる」を年齢別でみると、いずれの年代も「どちらともいえない」が最も多い。“そう思う”の割合は60歳代が33.4%で最も高い。一方、“そう思わない”の割合は20歳代が28.1%で最も高く、次いで20歳未満が27.9%となっている。（図表3-3-10）

【図表3-3-11　経年比較　カ.同和地区（被差別部落）出身者は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる】



「カ．同和地区（被差別部落）出身者は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる」を経年比較でみると、「どちらともいえない」と“そう思わない”の割合が増加傾向の一方、“そう思う”の割合は減少傾向となっている。（図表3-3-11）

【図表3-3-12　年齢別　キ.インターネット上に同和地区（被差別部落）の所在地を載せることは部落差別を助長する深刻な問題行為だ】



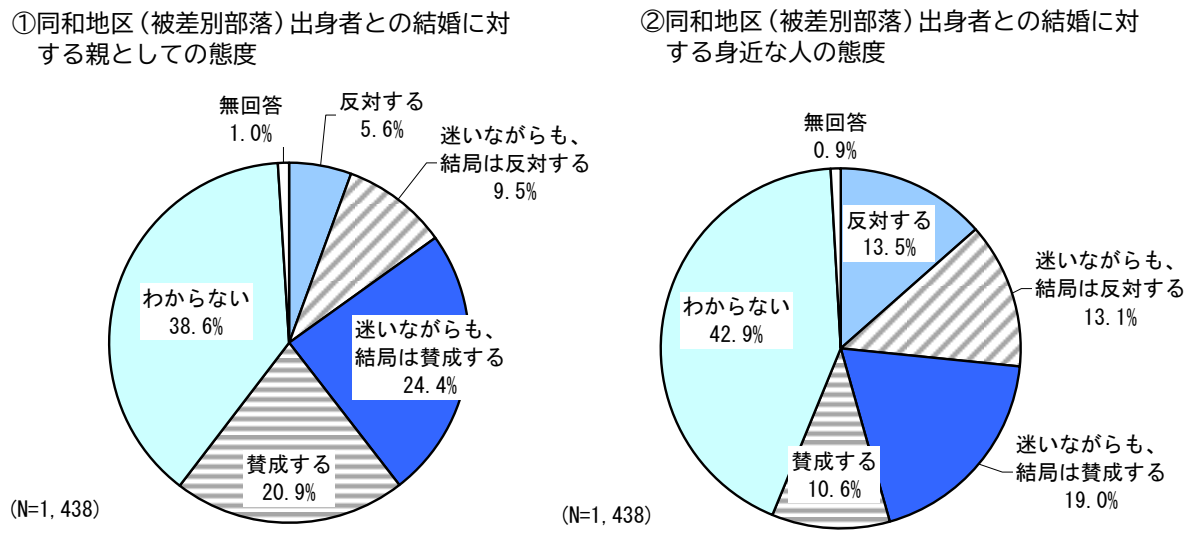
「キ．インターネット上に同和地区（被差別部落）の所在地を載せることは部落差別を助長する深刻な問題行為だ」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20・30歳代以外の年代で過半数を占め、その中でも60・70歳代が６割台で高くなっている。（図表3-3-12）

（４）同和地区（被差別部落）の方との結婚について

問11　①もし、あなたのお子さん（お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください）が恋愛をし、結婚をしたいと言っている相手が同和地区（被差別部落）出身者であった場合、あなたは親として、どのような態度をとると思いますか。（あてはまる番号１つに○）

②もし、あなたが結婚しようとしている相手が同和地区（被差別部落）出身者であった場合、あなたの身近な人（家族や親族）は、どのような態度をとると思いますか。（あてはまる番号１つに○）

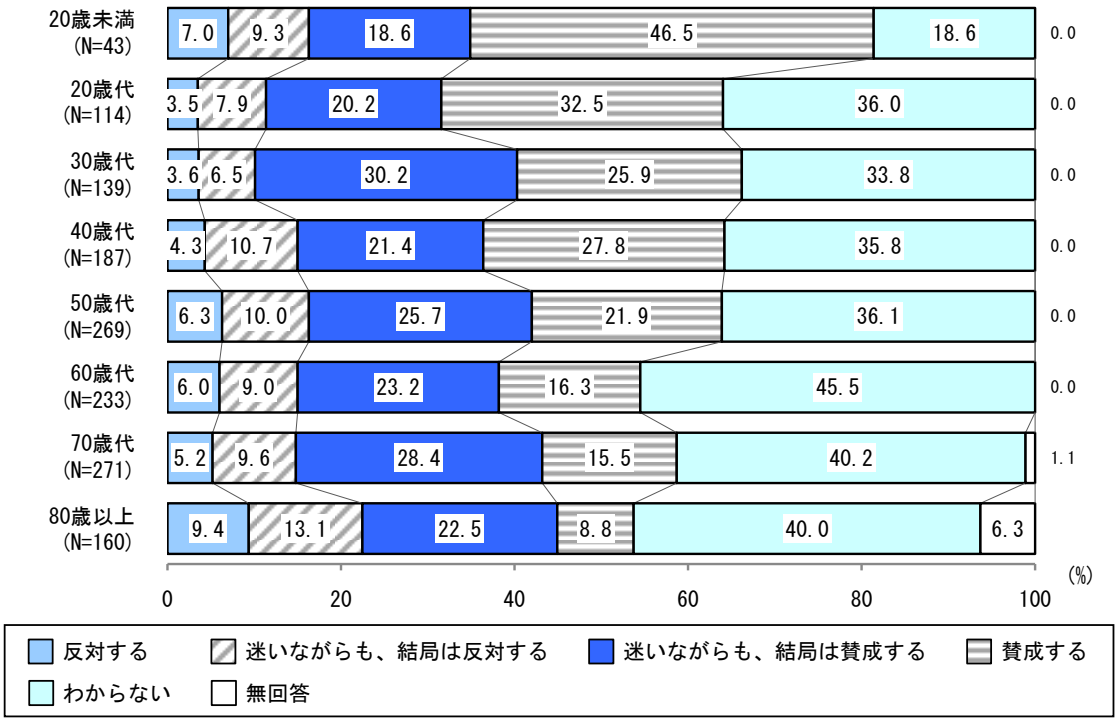
【図表3-4　同和地区（被差別部落）の方との結婚について】



同和地区（被差別部落）の方との結婚について、「①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか」の質問に対し、“賛成派”（「迷いながらも、結局は賛成する」と「賛成する」をあわせた割合）が“反対派”（「反対する」と「迷いながらも、結局は反対する」をあわせた割合）の割合を30.2ポイント上回っている。

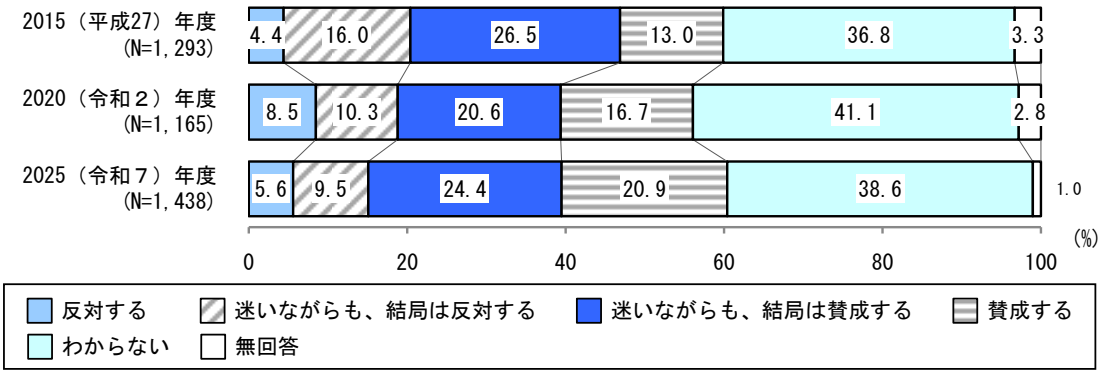
また、「②あなたの身近な人（おじ、おば、兄弟姉妹など）は、どのような態度をとると思いますか」の質問に対しては、“賛成派”の割合が“反対派”に比べ3.0ポイント上回っている。（図表3-4）

【図表3-4-1　年齢別　①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか】



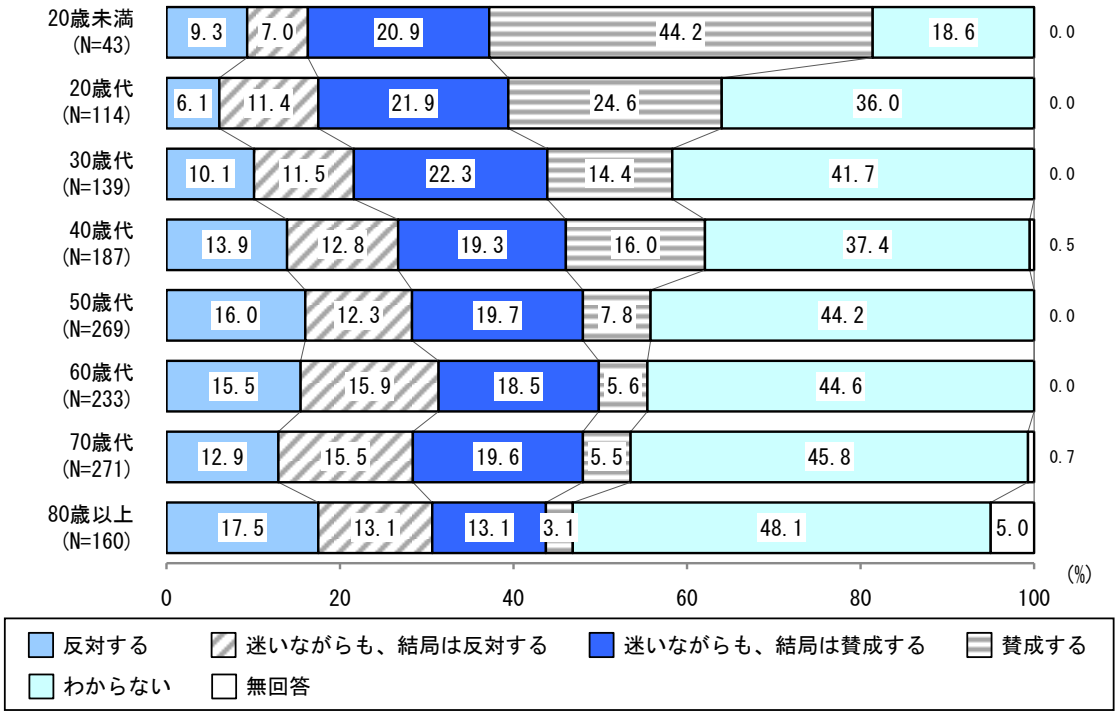
「①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか」を年齢別でみると、20歳未満は「賛成する」が46.5%にのぼり、“賛成派”が65.1%と最も高く、次いで30歳代の“賛成派”が56.1%となっている。一方、“反対派”は80歳以上が22.5%で最も高くなっている。(図表3-4-1)

【図表3-4-2　経年比較　①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか】



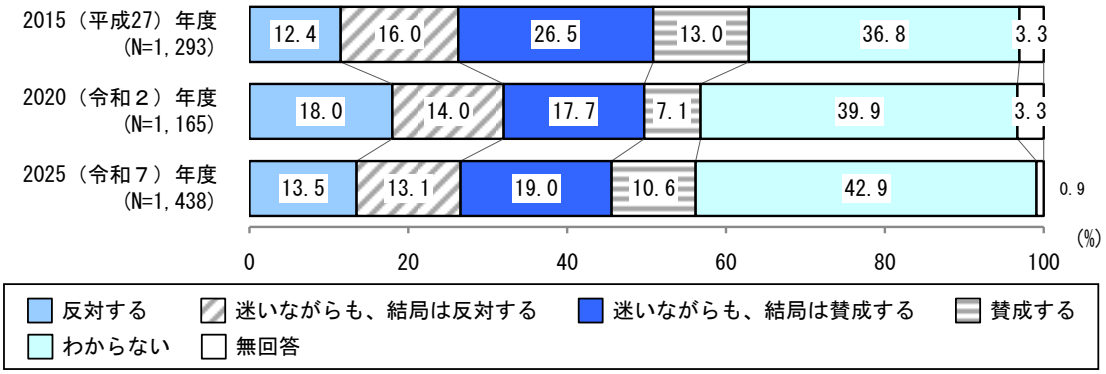
「①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか」を経年比較でみると、“反対派”は減少傾向にあり、“賛成派”は前回調査より8.0ポイント高くなっている。(図表3-4-2)

【図表3-4-3　年齢別　②あなたの身近な人は、どのような態度をとると思いますか】



「②あなたの身近な人は、どのような態度をとると思いますか」を年齢別でみると、20歳未満は「賛成する」が44.2%にのぼり、“賛成派”が65.1%と最も高く、次いで20歳代の“賛成派”が46.5%となっている。一方、“反対派”は60歳代が31.4%で最も高くなっている。(図表3-4-3)

【図表3-4-4　経年比較　②あなたの身近な人は、どのような態度をとると思いますか】

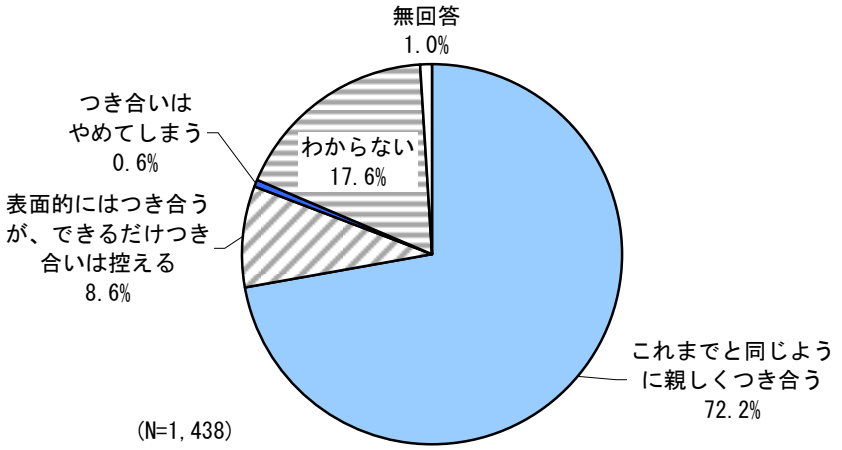


「②あなたの身近な人は、どのような態度をとると思いますか」を経年比較でみると、“反対派”は前回調査に比べ5.4ポイント低く、“賛成派”は前回調査に比べ4.8ポイント高くなっている。また、「わからない」の割合が増加傾向となっている。(図表3-4-4)

（５）日頃から親しくつきあっている人が同和地区（被差別部落）出身者であった場合

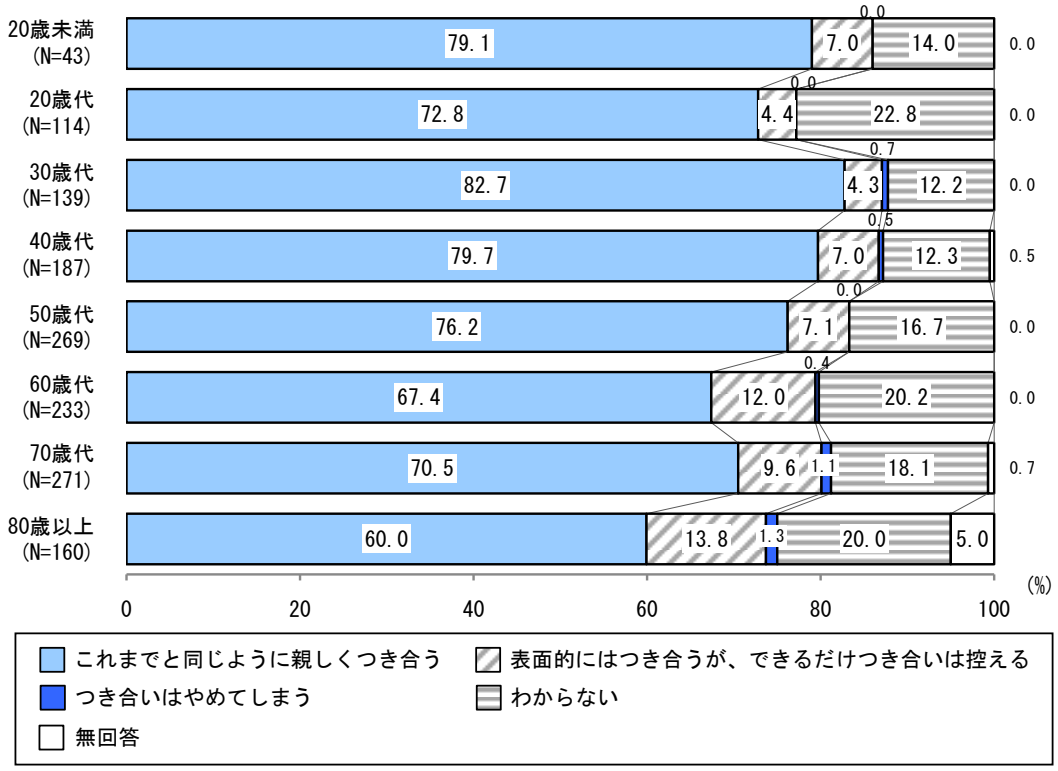
問12　もし、日頃から親しくつき合っている人が同和地区（被差別部落）出身者であることがわかった場合、あなたはどうしますか。（あてはまる番号１つに○）

【図表3-5　日頃から親しくつきあっている人が同和地区（被差別部落）出身者であった場合】



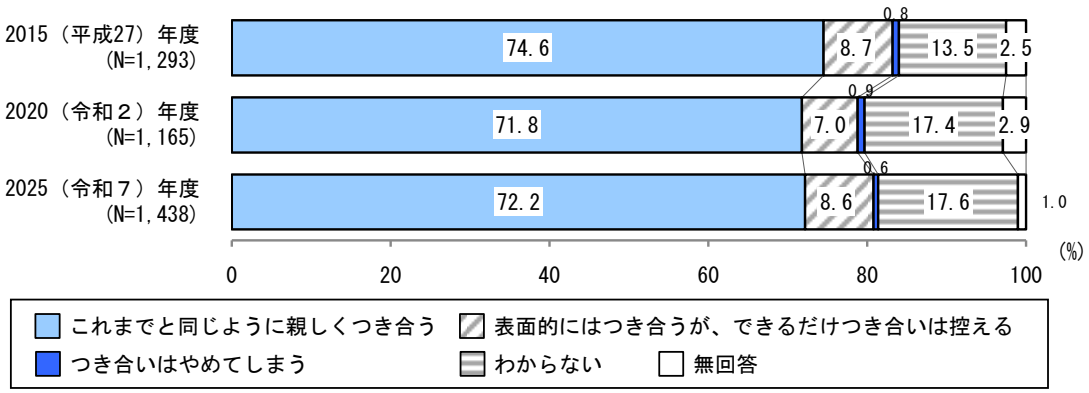
日頃から親しくつきあっている人が同和地区（被差別部落）出身者とわかった場合の接し方は、「これまでと同じように親しくつき合う」が72.2%で最も多く、次いで「表面的にはつき合うが、できるだけつき合いは控える」が8.6%となっている。一方、「わからない」が17.6%となっている。（図表3-5）

【図表3-5-1　年齢別　日頃から親しくつきあっている人が同和地区（被差別部落）出身者であった場合】



年齢別でみると、「これまでと同じように親しくつき合う」の割合は30歳代が82.7%で最も高く、それ以降の年代では低下傾向にあり、80歳以上が60.0%で最も低くなっている。「表面的にはつき合うが、できるだけつき合いは控える」の割合は60歳代と80歳以上で１割台と他の年代に比べ高くなっている。（図表3-5-1）

【図表3-5-2　経年比較　日頃から親しくつきあっている人が同和地区（被差別部落）出身者であった場合】

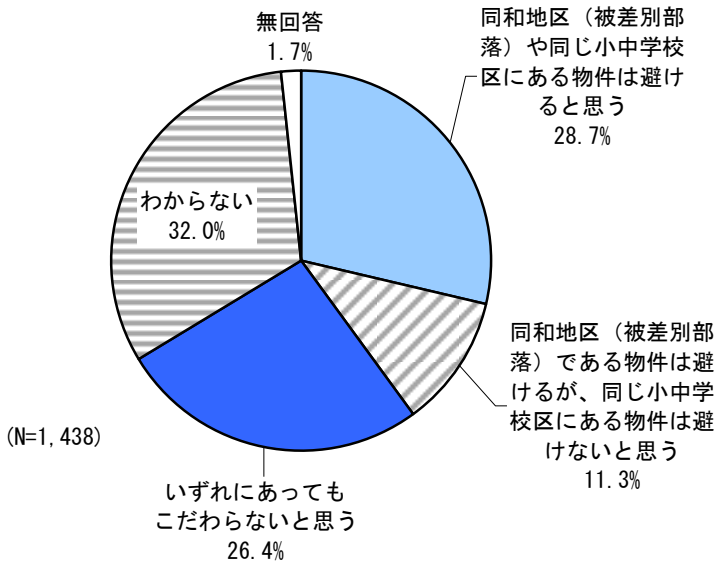


経年比較でみると、各年度とも「これまでと同じように親しくつき合う」の割合が７割台で推移している。（図表3-5-2）

（６）同和地区（被差別部落）内で住宅を購入、賃貸することについて

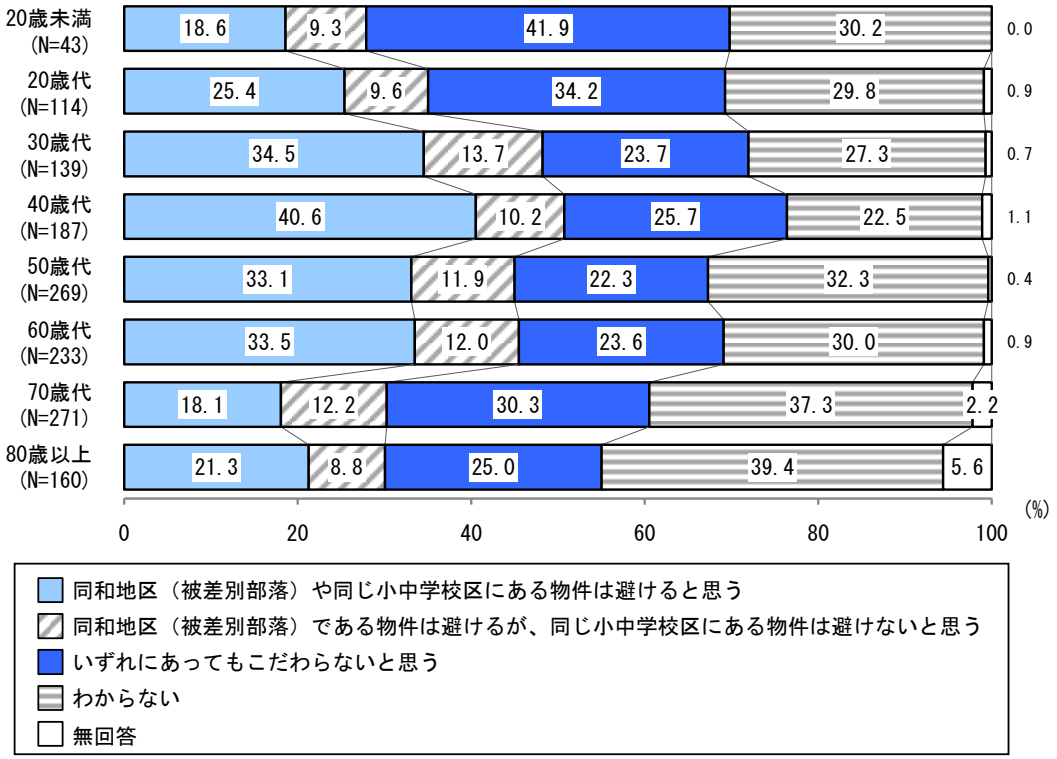
問13　もし、あなたが、家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、同和地区（被差別部落）にある物件、もしくは小中学校区に同和地区（被差別部落）がある物件ならばどのようにすると思いますか。（あてはまる番号１つに○）

【図表3-6　同和地区（被差別部落）内で住宅を購入、賃貸することについて】



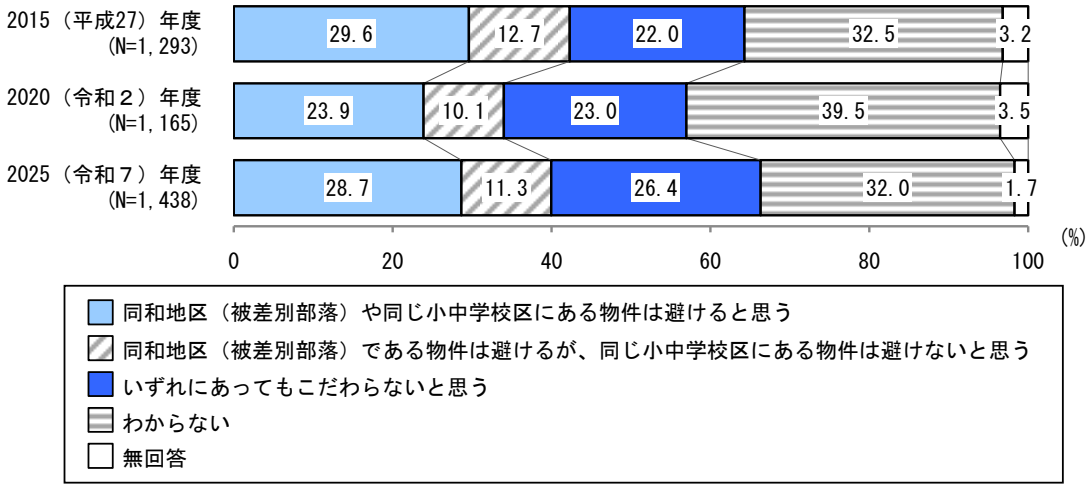
同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて、「同和地区（被差別部落）や同じ小中学校区にある物件は避けると思う」が28.7%で最も多く、次いで「いずれにあってもこだわらないと思う」が26.4%、「同和地区（被差別部落）である物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は避けないと思う」が11.3%となっている。一方で、「わからない」が32.0%となっている。（図表3-6）

【図表3-6-1　年齢別　同和地区（被差別部落）内で住宅を購入、賃貸することについて】



年齢別でみると、20歳未満、20歳代では「いずれにあってもこだわらないと思う」が最も多く、30～60歳代では「同和地区（被差別部落）や同じ小中学校区にある物件は避けると思う」が最も多くなっている。（図表3-6-1）

【図表3-6-2　経年比較　同和地区（被差別部落）内で住宅を購入、賃貸することについて】

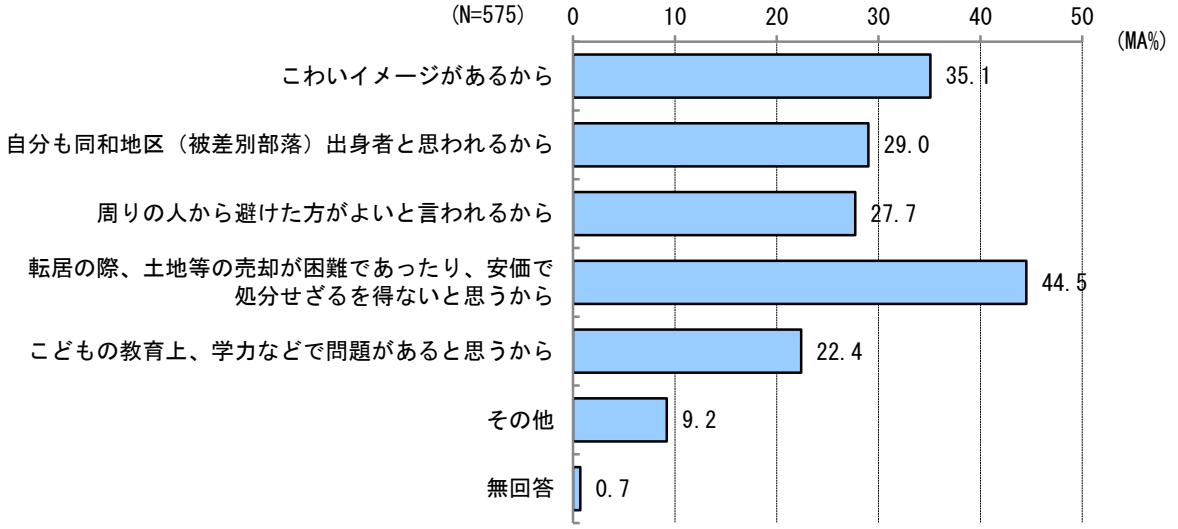


経年比較でみると、「いずれにあってもこだわらないと思う」の割合は増加傾向にあり、前々回調査より4.4ポイント高くなっている。（図表3-6-2）

（７）同和地区（被差別部落）を避ける理由

問13で、「1」「2」と答えた方にお聞きします。
問14　あなたはなぜそのように思うのですか。（あてはまる番号すべてに○）

【図表3-7　同和地区（被差別部落）を避ける理由】



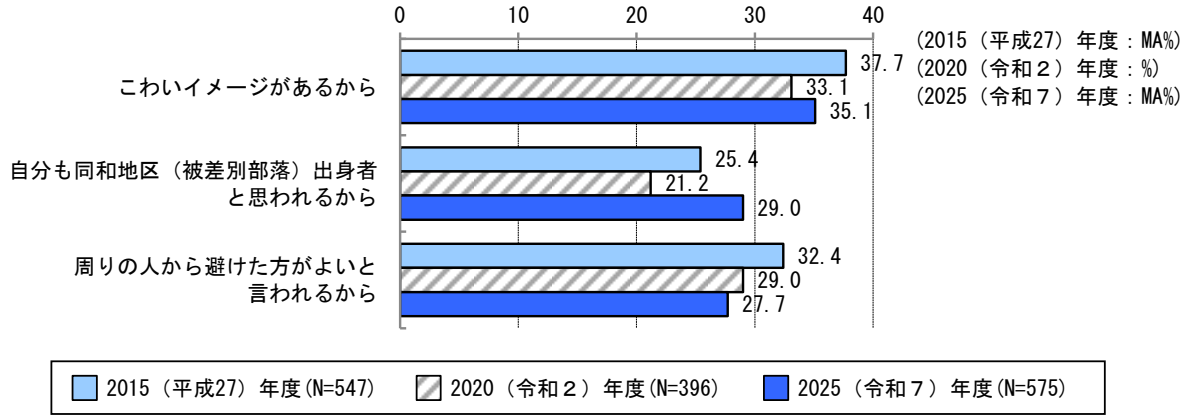
同和地区（被差別部落）内で住宅を購入、賃貸する際に同和地区（被差別部落）を避けると回答した人にその理由をたずねると、「転居の際、土地等の売却が困難であったり、安価で処分せざるを得ないと思うから」が44.5%で最も多く、次いで「こわいイメージがあるから」が35.1%、「自分も同和地区（被差別部落）出身者と思われるから」が29.0%、「周りの人から避けた方がよいと言われるから」が27.7%となっている。（図表3-7）

【図表3-7-1　年齢別　同和地区（被差別部落）を避ける理由】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	こわいイメージがあるから	自分も同和地区（被差別部落）出身者と思われるから	周りの人から避けた方がよいと言われるから	転居の際、土地等の売却が困難であったり、安価で処分せざるを得ないと思うから	こどもの教育上、学力などで問題があると思うから	その他	無回答
20歳未満	12	5	6	2	－	1	1	－
	100.0	41.7	50.0	16.7	－	8.3	8.3	－
20歳代	40	16	13	6	16	15	3	－
	100.0	40.0	32.5	15.0	40.0	37.5	7.5	－
30歳代	67	28	13	20	32	22	9	－
	100.0	41.8	19.4	29.9	47.8	32.8	13.4	－
40歳代	95	37	22	27	45	25	10	－
	100.0	38.9	23.2	28.4	47.4	26.3	10.5	－
50歳代	121	45	31	27	55	25	13	－
	100.0	37.2	25.6	22.3	45.5	20.7	10.7	－
60歳代	106	40	36	33	57	26	9	1
	100.0	37.7	34.0	31.1	53.8	24.5	8.5	0.9
70歳代	82	18	28	30	33	10	4	2
	100.0	22.0	34.1	36.6	40.2	12.2	4.9	2.4
80歳以上	48	12	17	12	15	5	4	1
	100.0	25.0	35.4	25.0	31.3	10.4	8.3	2.1

年齢別では、80歳以上は「自分も同和地区（被差別部落）出身者と思われるから」が35.4%で最も多く、20～70歳代は「転居の際、土地等の売却が困難であったり、安価で処分せざるを得ないと思うから」が最も多くなっている。（図表3-7-1）

【図表3-7-2　経年比較　同和地区（被差別部落）を避ける理由】



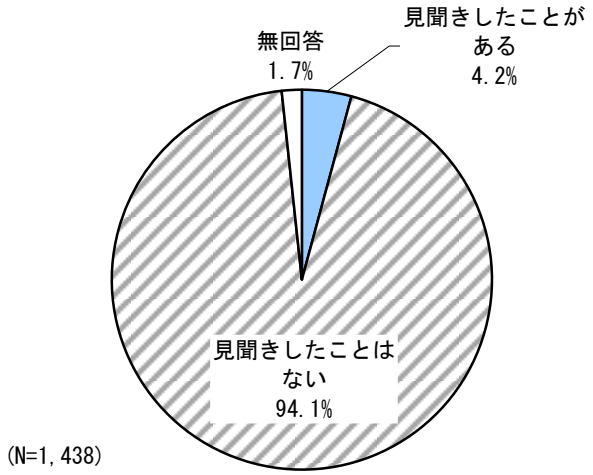
経年比較でみると、「周りの人から避けた方がよいと言われるから」の割合は減少傾向にあり、前々回調査と比べて4.7ポイント低くなっている。

なお、本設問は、前回調査は単一回答形式、前々回調査及び今回調査は複数回答形式としているため、数値を比較する際は注意が必要である。（図表3-7-2）

（８）過去５年以内に同和地区（被差別部落）の人々への差別的な言動などを見聞きした経験

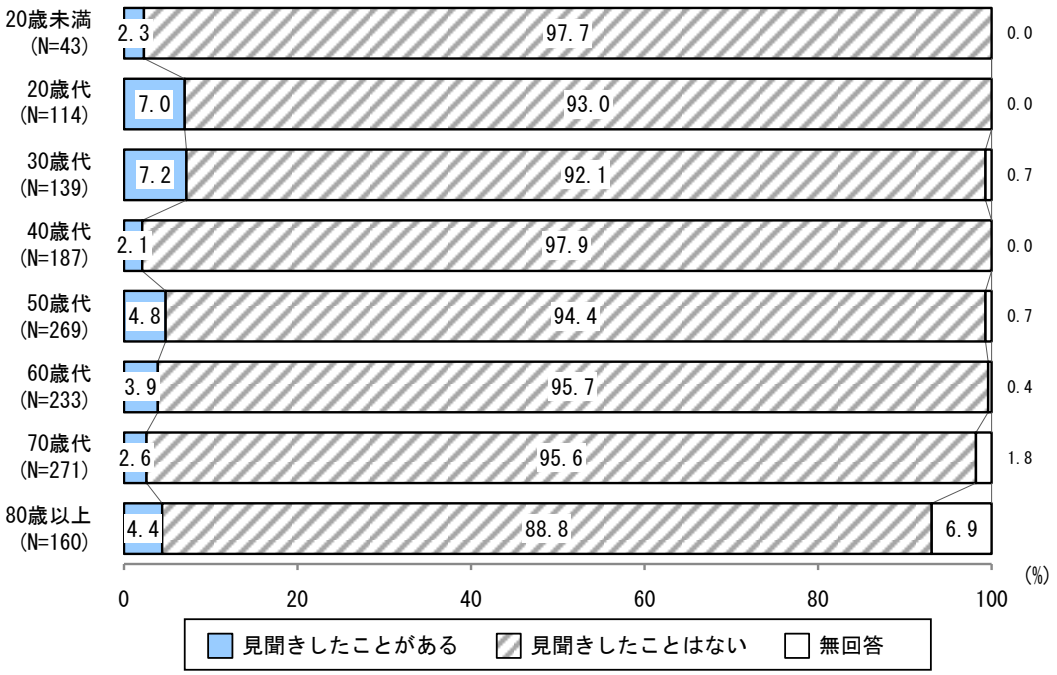
問15　あなたは、過去５年ほどの間に、同和地区（被差別部落）出身者に対する差別的な言動や落書きを見聞きしたことがありますか。（あてはまる番号１つに○）

【図表3-8　過去５年以内に同和地区（被差別部落）の人々への差別的な言動などを見聞きした経験】



過去５年以内に同和地区（被差別部落）の人々への差別的な言動などを見聞きした経験について、「見聞きしたことがある」が4.2%、「見聞きしたことはない」が94.1%となっている。（図表3-8）

【図表3-8-1　年齢別　過去５年以内に同和地区（被差別部落）の人々への差別的な言動などを見聞きした経験】



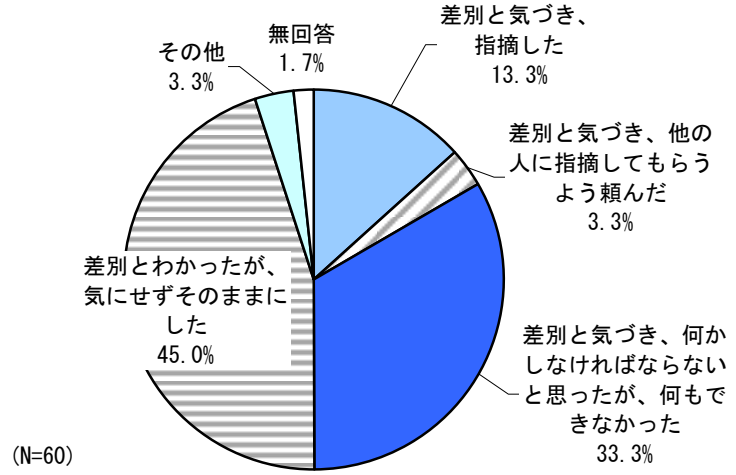
年齢別でみると、いずれの年代も「見聞きしたことはない」が９割前後を占めている。

「見聞きしたことがある」の割合は30歳代が7.2%で最も高く、次いで20歳代が7.0%、50歳代が4.8%となっている。（図表3-8-1）

（９）同和地区（被差別部落）の人々への差別を見聞きした時の反応

問15で、「1.見聞きしたことがある」と答えた方にお聞きします。
問16　その時あなたは、どうしましたか。（あてはまる番号１つに○）

【図表3-9　同和地区（被差別部落）の人々への差別を見聞きした時の反応】



過去５年以内に同和地区（被差別部落）の人々への差別的な言動などを見聞きしたことがあると回答した人に、見聞きした時の反応をたずねると、「差別とわかったが、気にせずそのままにした」が45.0%で最も多く、次いで「差別と気づき、何かしなければならないと思ったが、何もできなかった」が33.3%、「差別と気づき、指摘した」が13.3%となっている。（図表3-9）

【図表3-9-1　年齢別　同和地区（被差別部落）の人々への差別を見聞きした時の反応】

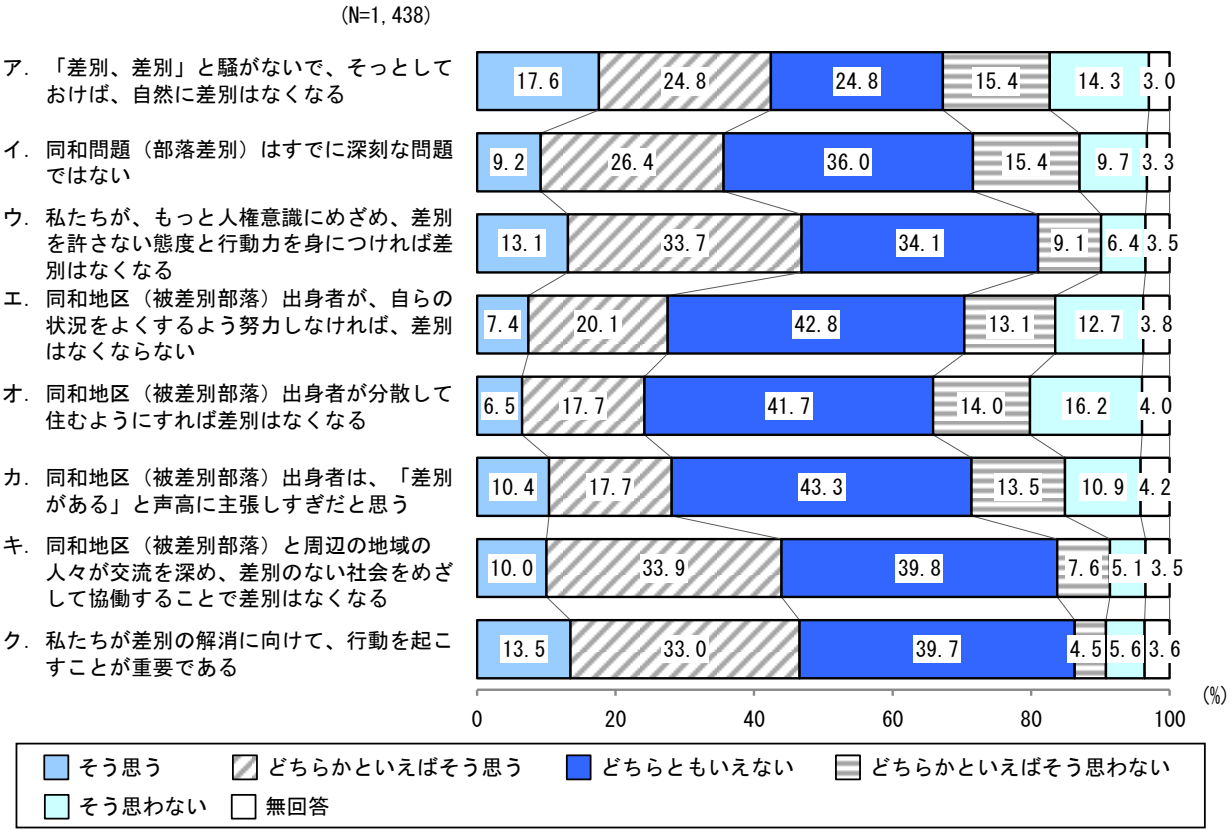
上段：回答者数（回） 下段：構成比率（%）	回答者数	差別と気づき、指摘した	差別と気づき、他の人に指摘してもらうよう頼んだ	差別と気づき、何かしなければならないと思ったが、何もできなかった	差別とわかったが、気にせずそのままにした	その他	無回答
20歳未満	1	－	－	－	1	－	－
	100.0	－	－	－	100.0	－	－
20歳代	8	1	1	2	4	－	－
	100.0	12.5	12.5	25.0	50.0	－	－
30歳代	10	－	－	3	6	－	1
	100.0	－	－	30.0	60.0	－	10.0
40歳代	4	1	－	3	－	－	－
	100.0	25.0	－	75.0	－	－	－
50歳代	13	2	1	3	6	1	－
	100.0	15.4	7.7	23.1	46.2	7.7	－
60歳代	9	3	－	3	3	－	－
	100.0	33.3	－	33.3	33.3	－	－
70歳代	7	1	－	3	2	1	－
	100.0	14.3	－	42.9	28.6	14.3	－
80歳以上	7	－	－	3	4	－	－
	100.0	－	－	42.9	57.1	－	－

年齢別では、母数が少ないため読み取りには注意が必要だが、20・30・50歳代、80歳以上では「差別とわかったが、気にせずそのままにした」が最も多くなっている。（図表3-9-1）

（10）同和問題（部落差別）をなくす方法に関する意見

問17　同和問題（部落差別）をなくすことについて、次のような考え方があります。あなたはどう思いますか。（それぞれあてはまる番号１つに○）

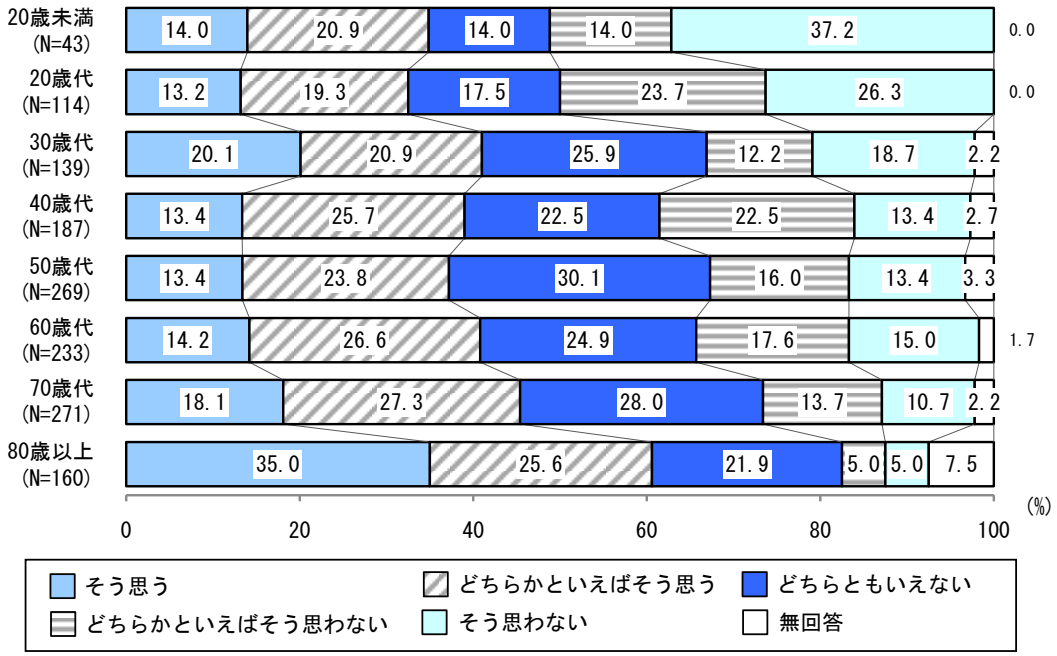
【図表3-10　同和問題（部落差別）をなくす方法に関する意見】



同和問題（部落差別）をなくす方法に関する意見についてたずねたところ、「オ．同和地区（被差別部落）出身者が分散して住むようにすれば差別はなくなる」以外の項目で“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合）が“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた割合）を上回っている。

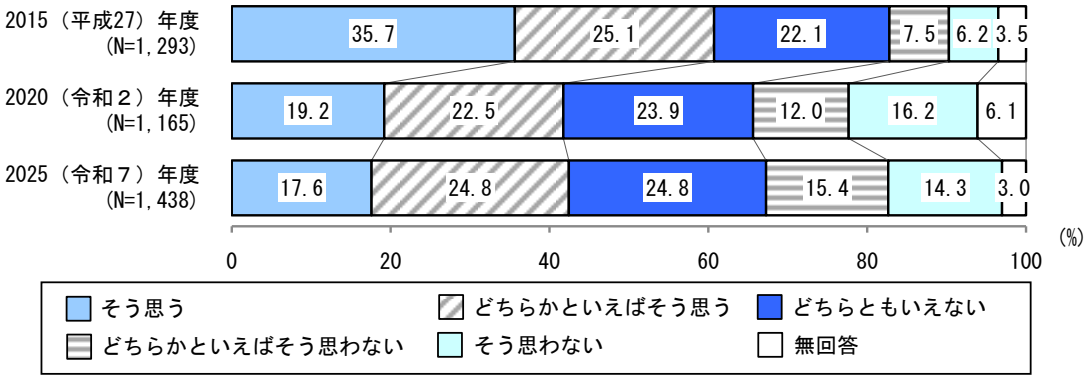
“そう思う”の割合は、「ウ．私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる」（46.8%）が最も高く、次いで「ク．私たちが差別の解消に向けて、行動を起こすことが重要である」（46.5%）、「キ．同和地区（被差別部落）と周辺の地域の人々が交流を深め、差別のない社会をめざして協働することで差別はなくなる」（43.9%）、「ア．「差別、差別」と騒がないで、そっとしておけば、自然に差別はなくなる」（42.4%）で、いずれも４割台となっている。（図表3-10）

【図表3-10-1　年齢別　ア.「差別、差別」と騒がないで、そっとしておけば、自然に差別はなくなる】



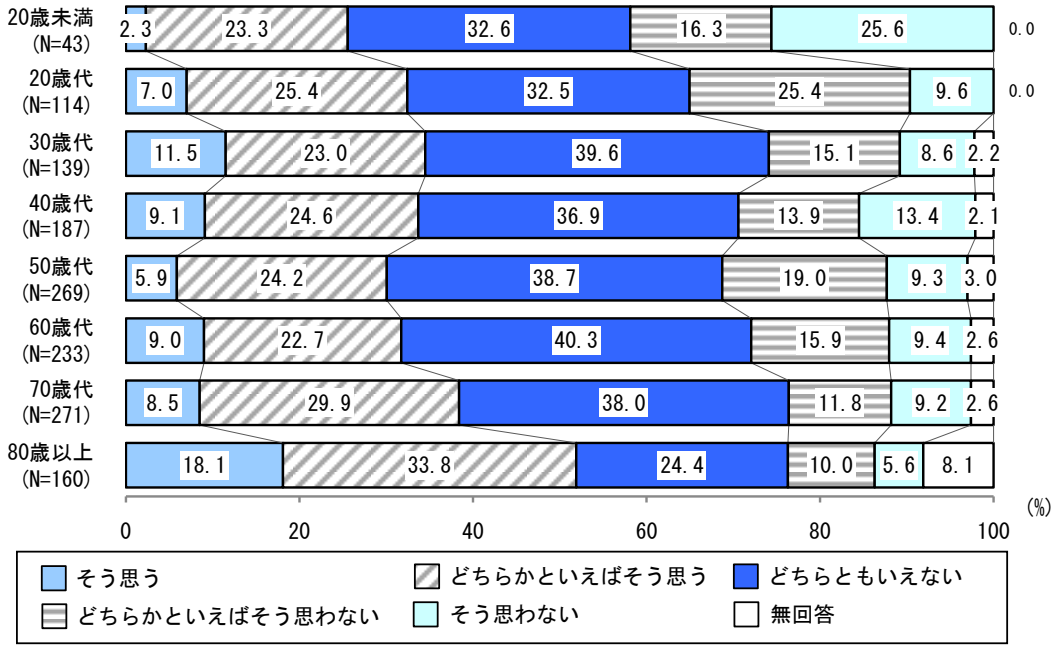
「ア.「差別、差別」と騒がないで、そっとしておけば、自然に差別はなくなる」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は80歳以上が60.6%で最も高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は20歳未満が51.2%で最も高く、次いで20歳代が50.0%となっている。(図表3-10-1)

【図表3-10-2　経年比較　ア.「差別、差別」と騒がないで、そっとしておけば、自然に差別はなくなる】



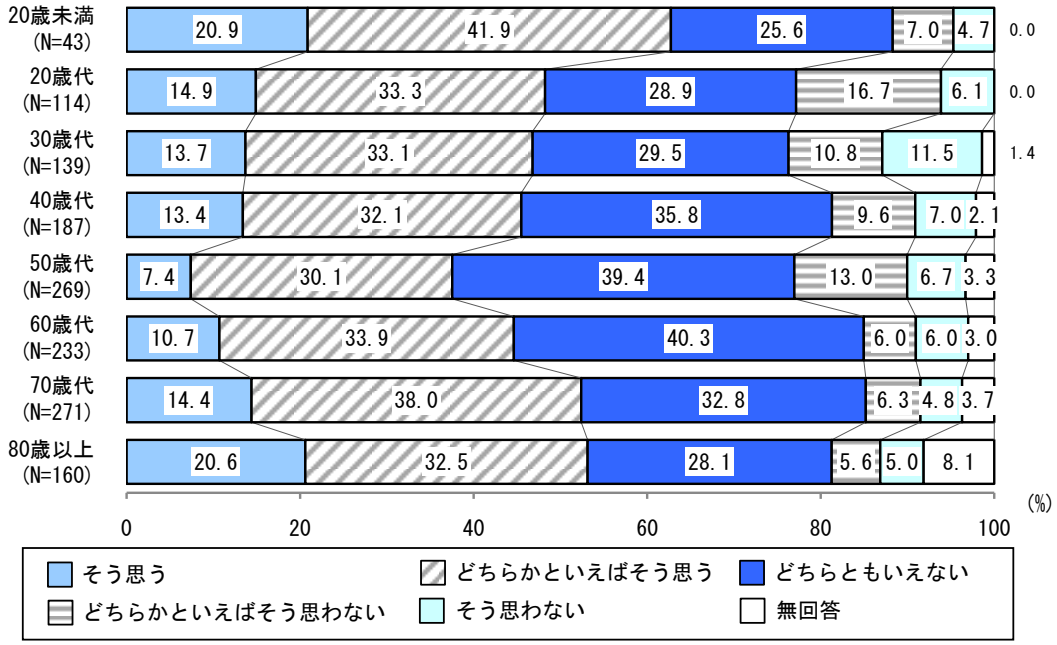
「ア.「差別、差別」と騒がないで、そっとしておけば、自然に差別はなくなる」を経年比較でみると、“そう思う”の割合は前々回調査と比べて18.4ポイント減少し、“そう思わない”の割合が前々回調査と比べて16.0ポイント増加している。(図表3-10-2)

【図表3-10-3　年齢別　イ．同和問題（部落差別）はすでに深刻な問題ではない】



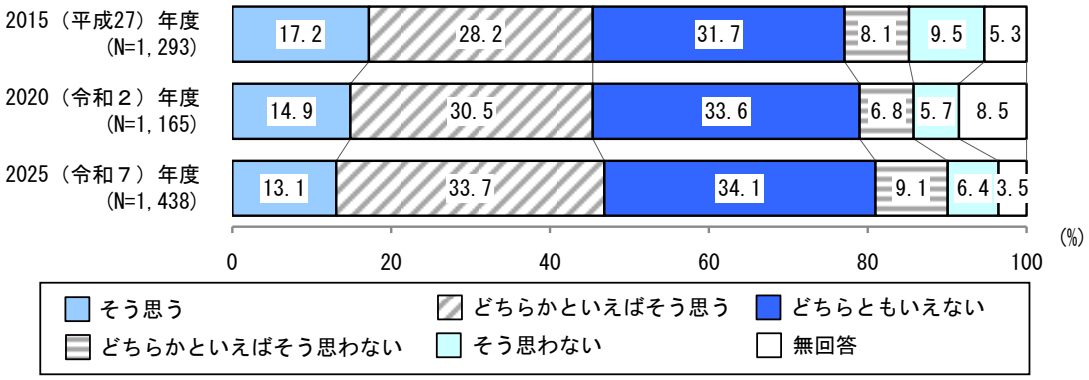
「イ．同和問題（部落差別）はすでに深刻な問題ではない」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は80歳以上が51.9%で最も高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は20歳未満が41.9%で最も高く、次いで20歳代が35.0%となっている。（図表3-10-3）

【図表3-10-4　年齢別　ウ．私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる】



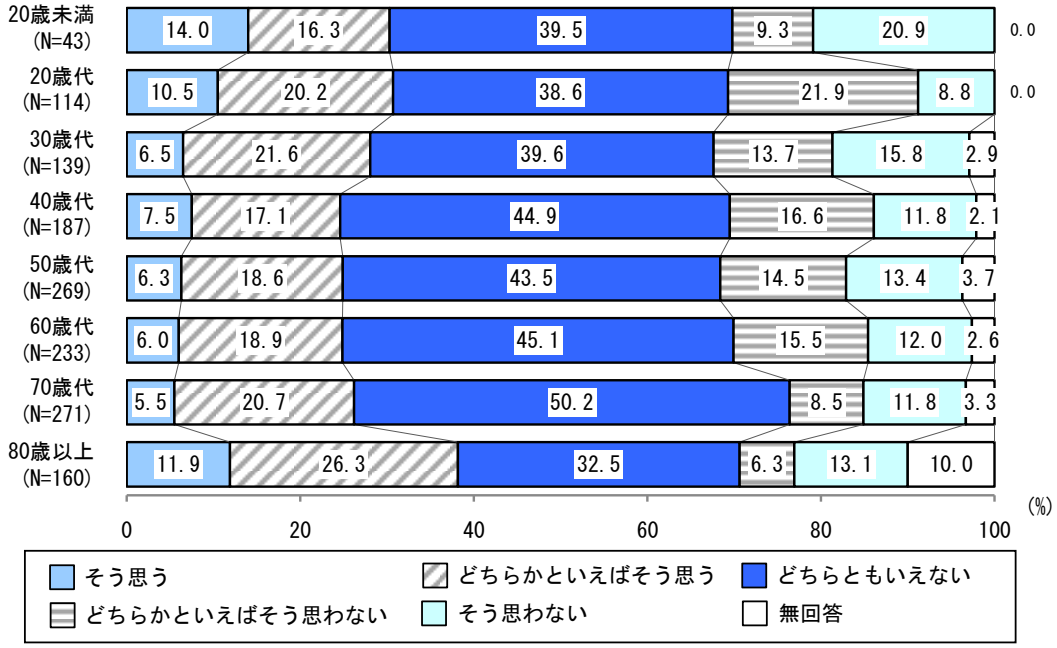
「ウ．私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳未満が62.8%で最も高く、次いで80歳以上が53.1%で、いずれの年代も“そう思う”が“そう思わない”を上回っている。（図表3-10-4）

【図表3-10-5　経年比較　ウ．私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる】



「ウ．私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる」を経年比較でみると、“そう思わない”の割合は、前回調査から3.0ポイント増加している。（図表3-10-5）

【図表3-10-6　年齢別　エ．同和地区（被差別部落）出身者が、自らの状況をよくするよう努力しなければ、差別はなくならない】

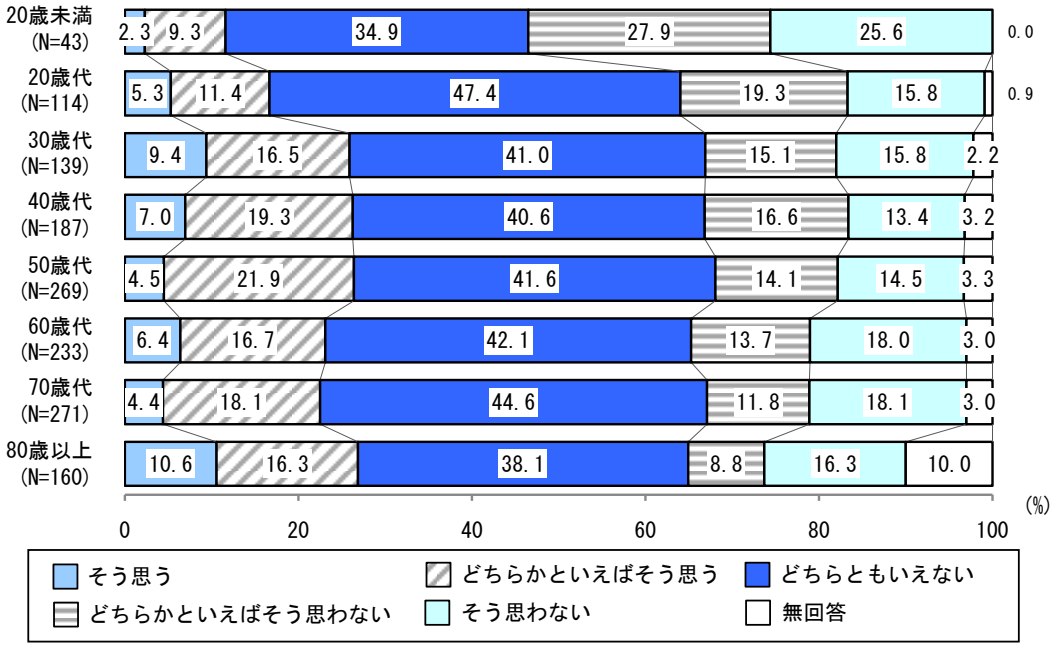


「エ．同和地区（被差別部落）出身者が、自らの状況をよくするよう努力しなければ、差別はなくならない」を年齢別でみると、いずれの年代も「どちらともいえない」が最も多い。

“そう思う”の割合は80歳以上が38.2%で最も高く、次いで20歳代が30.7%となっている。

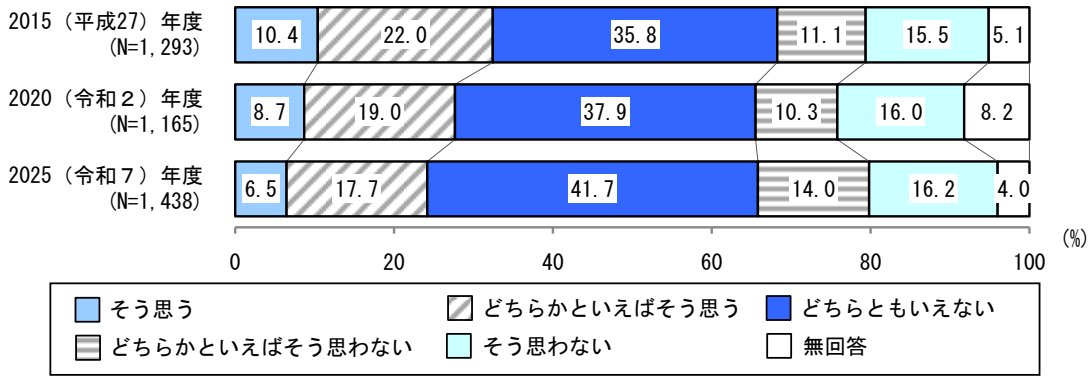
一方、“そう思わない”の割合は20歳代が30.7%で最も高く、高齢になるほど概ね低くなる傾向にある。（図表3-10-6）

【図表3-10-7　年齢別　オ．同和地区（被差別部落）出身者が分散して住むようにすれば差別はなくなる】



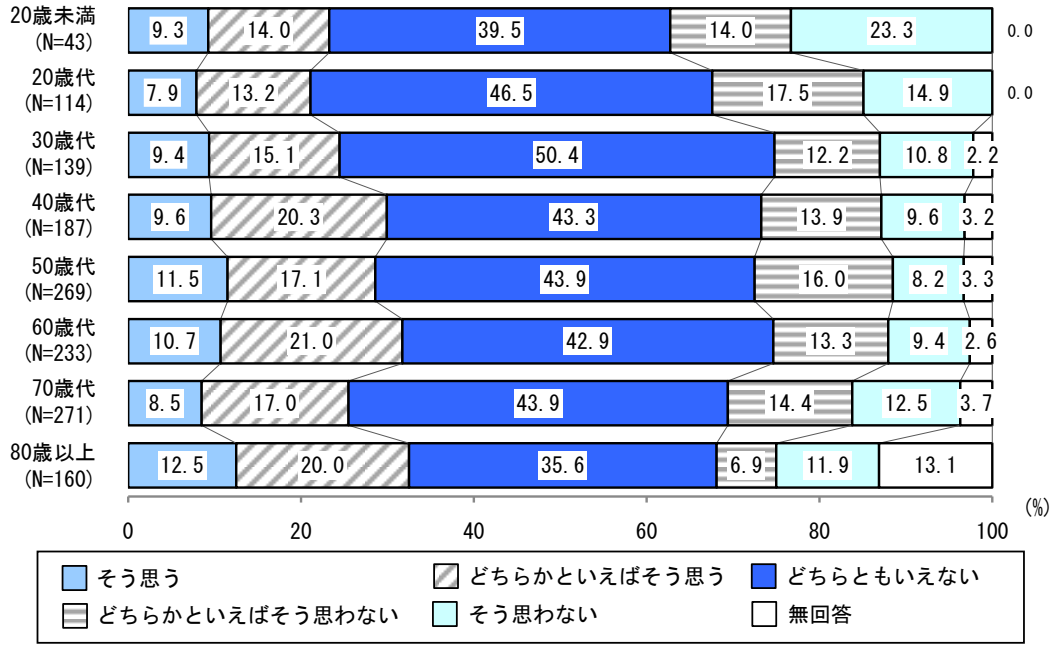
「オ．同和地区（被差別部落）出身者が分散して住むようにすれば差別はなくなる」を年齢別でみると、いずれの年代も「どちらともいえない」が最も多い。“そう思う”の割合は80歳以上が26.9%で最も高く、次いで50歳代が26.4%、40歳代が26.3%となっている。一方、“そう思わない”の割合は20歳未満が53.5%で最も高く、次いで20歳代が35.1%、60歳代が31.7%となっている。（図表3-10-7）

【図表3-10-8　経年比較　オ．同和地区（被差別部落）出身者が分散して住むようにすれば差別はなくなる】



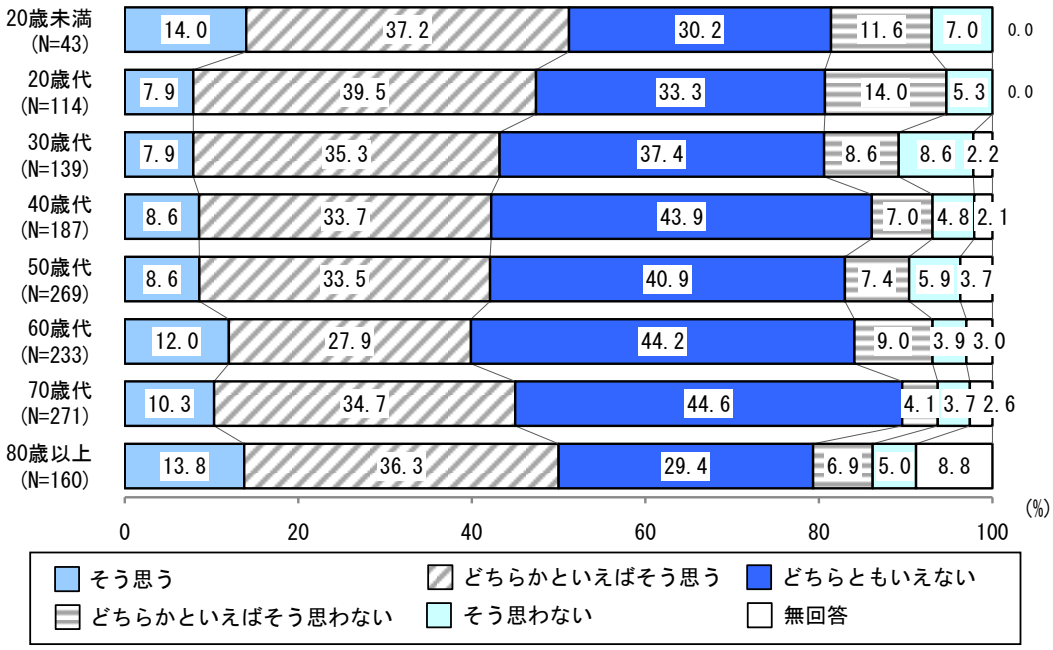
「オ．同和地区（被差別部落）出身者が分散して住むようにすれば差別はなくなる」を経年比較でみると、“そう思う”の割合は減少傾向にあり、前々回調査から8.2ポイント減少している。（図表3-10-8）

【図表3-10-9　年齢別　カ．同和地区（被差別部落）出身者は、「差別がある」と声高に主張しすぎだと思う】



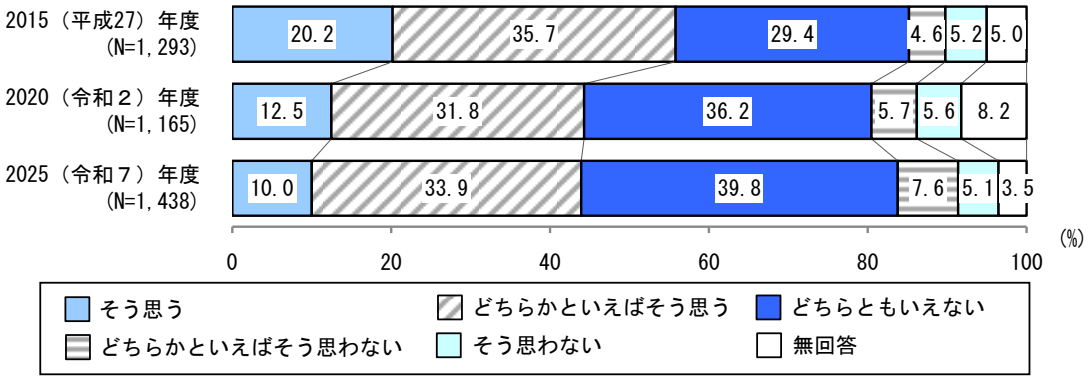
「カ．同和地区（被差別部落）出身者は、「差別がある」と声高に主張しすぎだと思う」を年齢別でみると、いずれの年代も「どちらともいえない」が最も多い。“そう思う”の割合は80歳以上が32.5%で最も高く、次いで60歳代が31.7%となっている。一方、“そう思わない”の割合は20歳未満が37.3%で最も高く、次いで20歳代が32.4%となっている。（図表3-10-9）

【図表3-10-10　年齢別　キ．同和地区（被差別部落）と周辺の地域の人々が交流を深め、差別のない社会をめざして協働することで差別はなくなる】



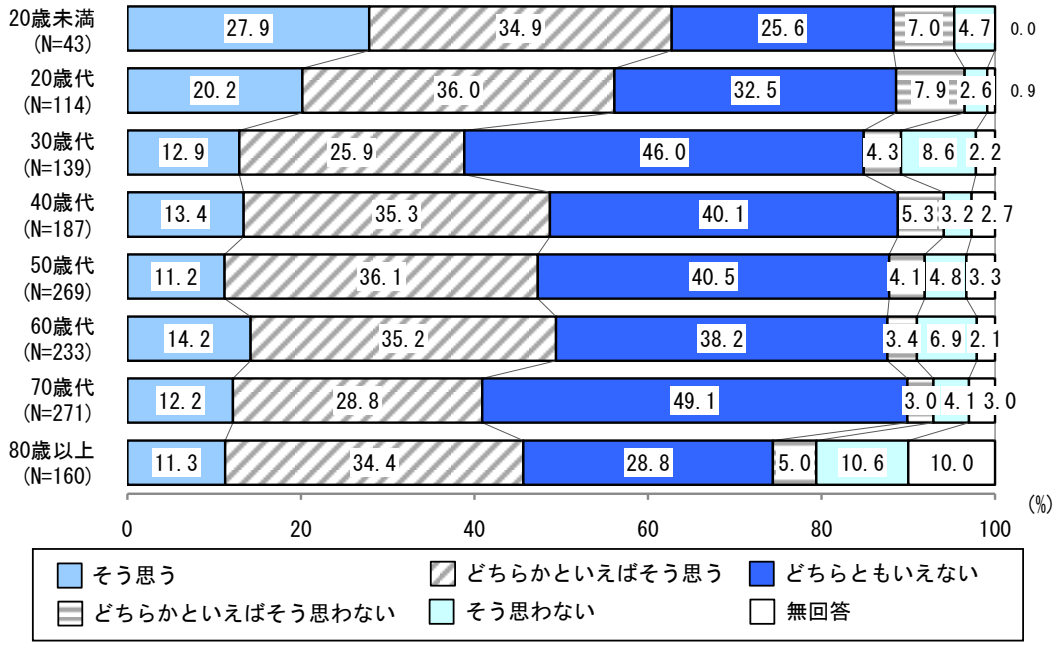
「キ．同和地区（被差別部落）と周辺の地域の人々が交流を深め、差別のない社会をめざして協働することで差別はなくなる」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳未満が51.2%で最も高く、次いで80歳以上が50.1%となっており、いずれの年代も“そう思わない”の割合を上回っている。（図表3-10-10）

【図表3-10-11　経年比較　キ．同和地区（被差別部落）と周辺の地域の人々が交流を深め、差別のない社会をめざして協働することで差別はなくなる】



「キ．同和地区（被差別部落）と周辺の地域の人々が交流を深め、差別のない社会をめざして協働することで差別はなくなる」を経年比較でみると、“そう思う”の割合は減少傾向にあり、前々回調査から12.0ポイント低くなっている。一方、「どちらともいえない」の割合は増加傾向にあり、前々回調査と比べて10.4ポイント高くなっている。（図表3-10-11）

【図表3-10-12　年齢別　ク．私たちが差別の解消に向けて、行動を起こすことが重要である】

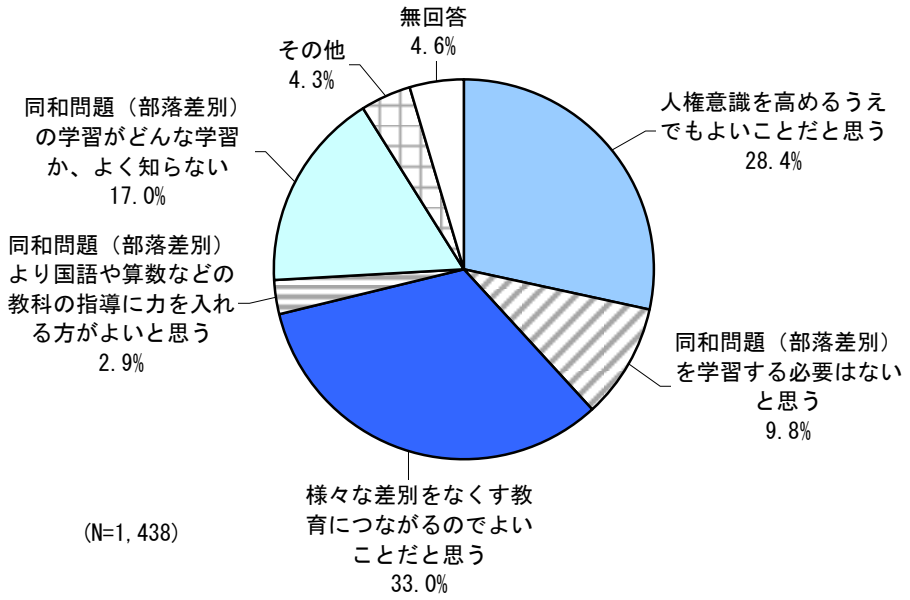


「ク．私たちが差別の解消に向けて、行動を起こすことが重要である」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳未満が62.8%で最も高く、次いで20歳代が56.2%となっており、いずれの年代も“そう思わない”を上回っている。（図表3-10-12）

（11）学校での同和教育について

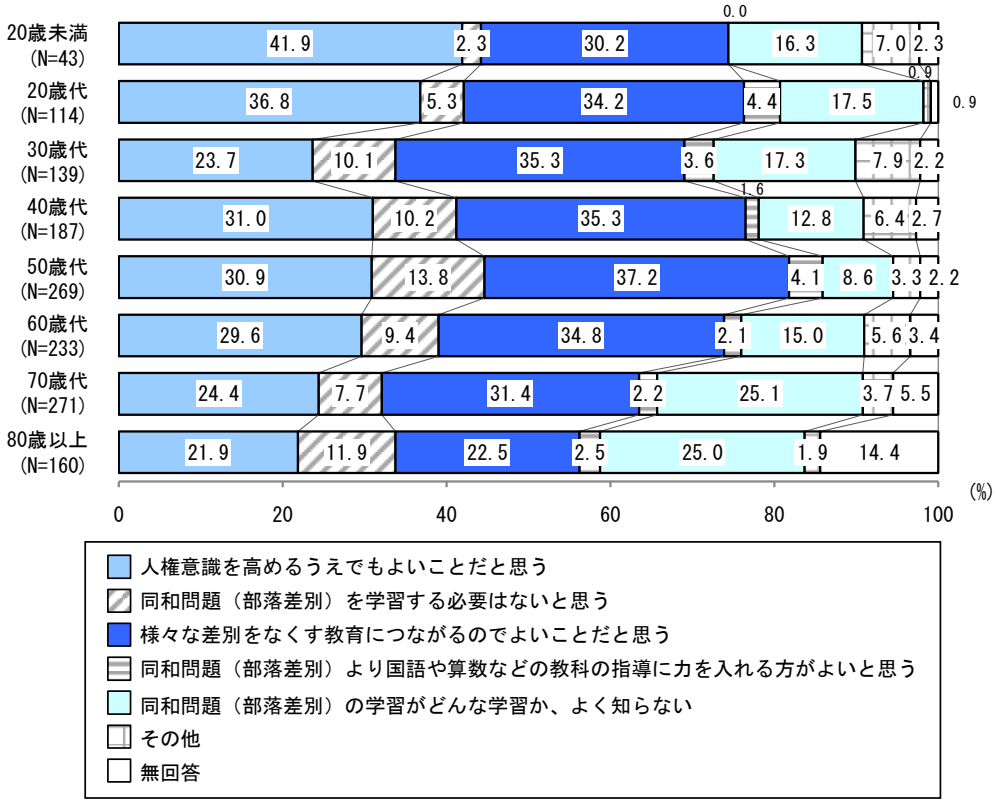
問18　堺市では、学校で人権教育の一環として同和問題（部落差別）の学習が行われていますが、あなたはどう思いますか。（あてはまる番号１つに○）

【図表3-11　学校での同和教育について】



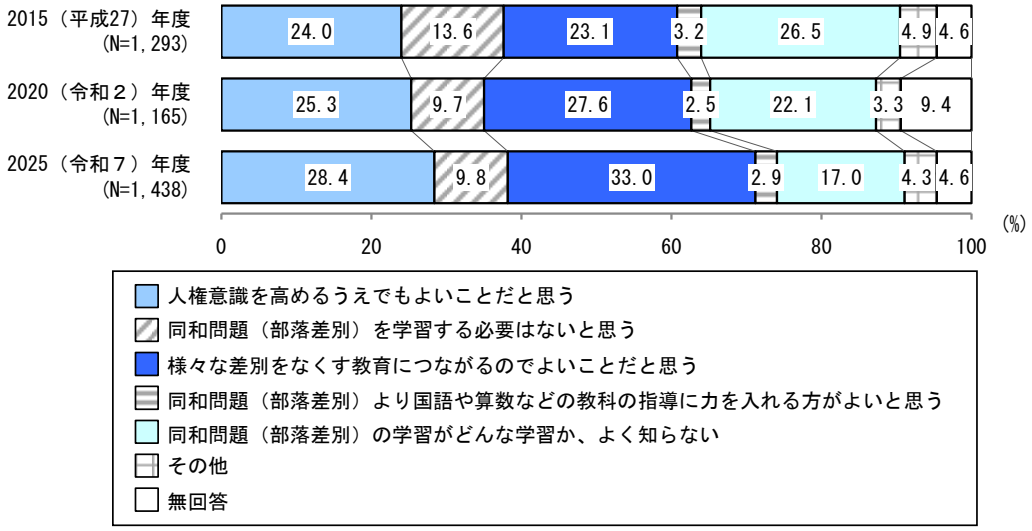
学校での同和教育については、「様々な差別をなくす教育につながるのでよいことだと思う」が33.0%で最も多く、次いで「人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」が28.4%、「同和問題（部落差別）の学習がどんな学習か、よく知らない」が17.0%となっている。（図表3-11）

【図表3-11-1　年齢別　学校での同和教育について】



年齢別でみると、20歳未満、20歳代では「人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」が最も多く、30～70歳代では「様々な差別をなくす教育につながるのでよいことだと思う」、80歳以上では「同和問題（部落差別）の学習がどんな学習か、よく知らない」が最も多くなっている。（図表3-11-1）

【図表3-11-2　経年比較　学校での同和教育について】



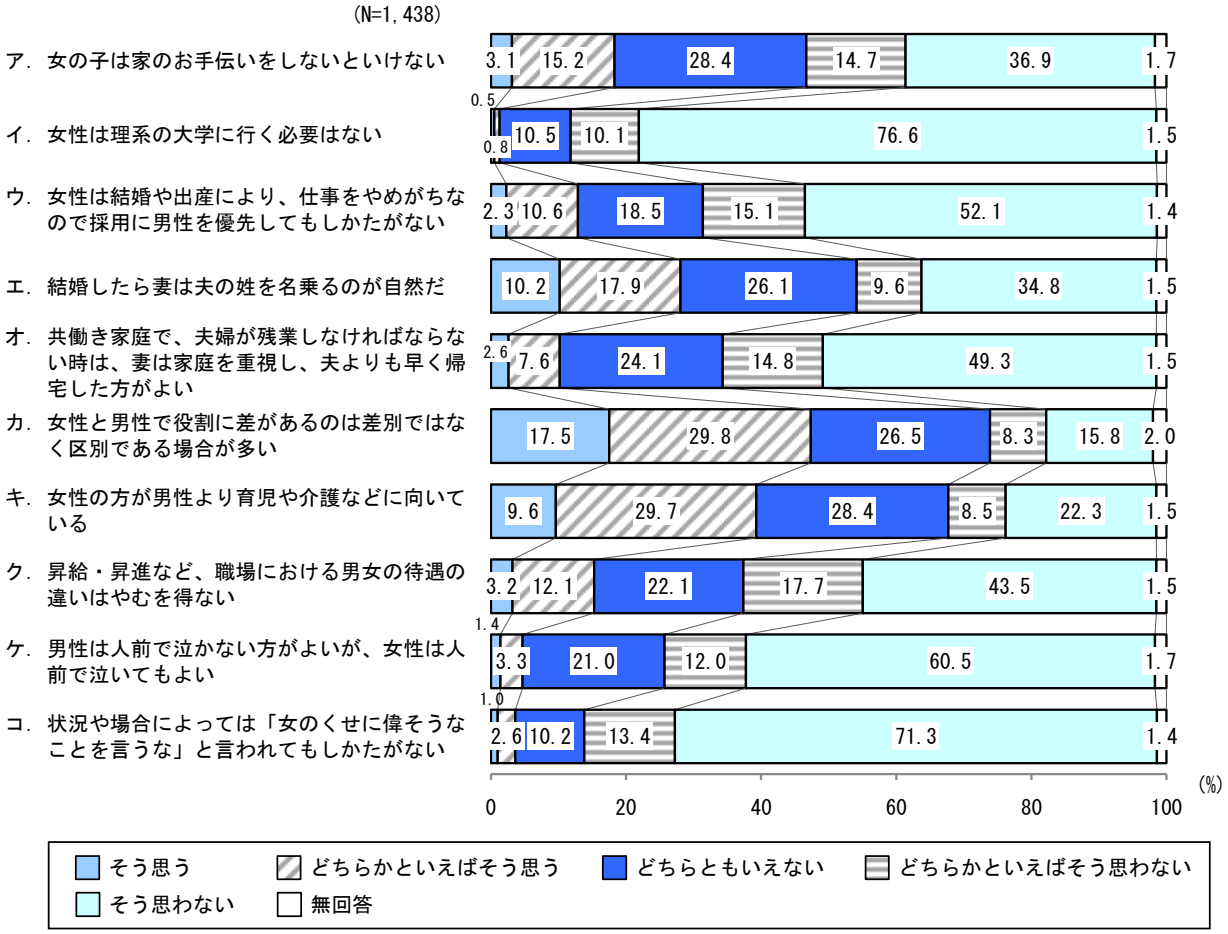
経年比較でみると、「人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」と「様々な差別をなくす教育につながるのでよいことだと思う」は増加傾向にあるが、「同和問題（部落差別）の学習がどんな学習か、よく知らない」は減少傾向にある。（図表3-11-2）

４．女性の人権について

（１）女性の人権についての考え方

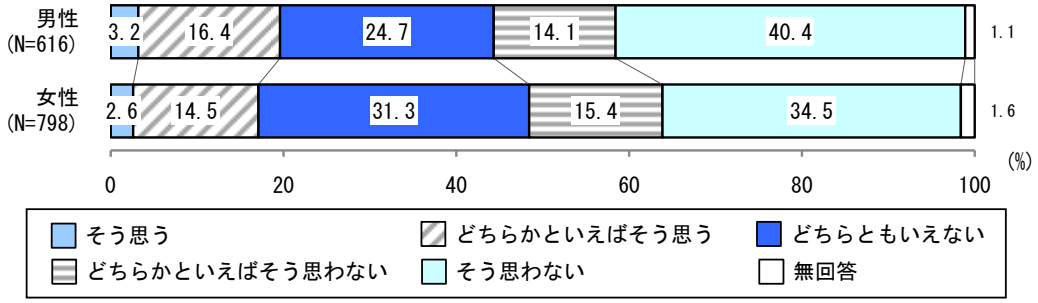
問19　次のような考え方について、あなたはどう思いますか。（それぞれあてはまる番号１つに○）

【図表4-1　女性の人権についての考え方】



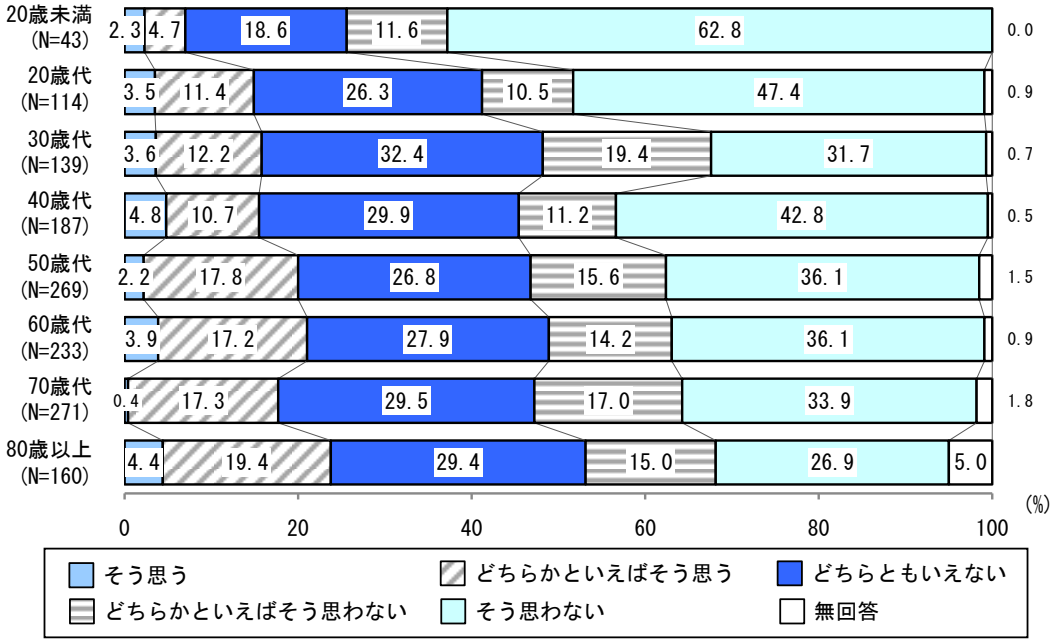
女性の人権についての考え方で、“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合）が最も高いのは「カ．女性と男性で役割に差があるのは差別ではなく区別である場合が多い」が47.3%で最も高く、次いで「キ．女性の方が男性より育児や介護などに向いている」が39.3%、「エ．結婚したら妻は夫の姓を名乗るのが自然だ」が28.1%となっている。一方、“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思う」をあわせた割合）は「イ．女性は理系の大学に行く必要はない」が86.7%で最も高く、次いで「コ．状況や場合によっては「女のくせに偉そうなことを言うな」と言われてもしかたがない」が84.7%、「ケ．男性は人前で泣かない方がよいが、女性は人前で泣いてもよい」が72.5%となっている。（図表4-1）

【図表4-1-1　性別　ア．女の子は家のお手伝いをしないといけない】



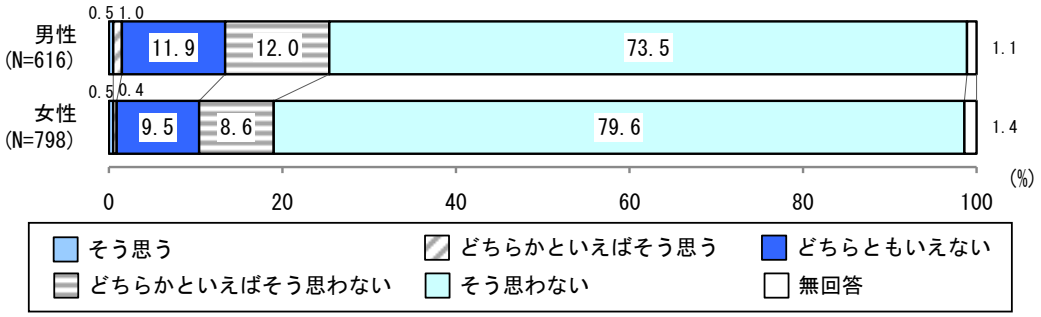
「ア．女の子は家のお手伝いをしないといけない」を性別でみると、“そう思う”の割合は女性（17.1%）に比べ男性（19.6%）のほうが2.5ポイント高くなっている。（図表4-1-1）

【図表4-1-2　年齢別　ア．女の子は家のお手伝いをしないといけない】



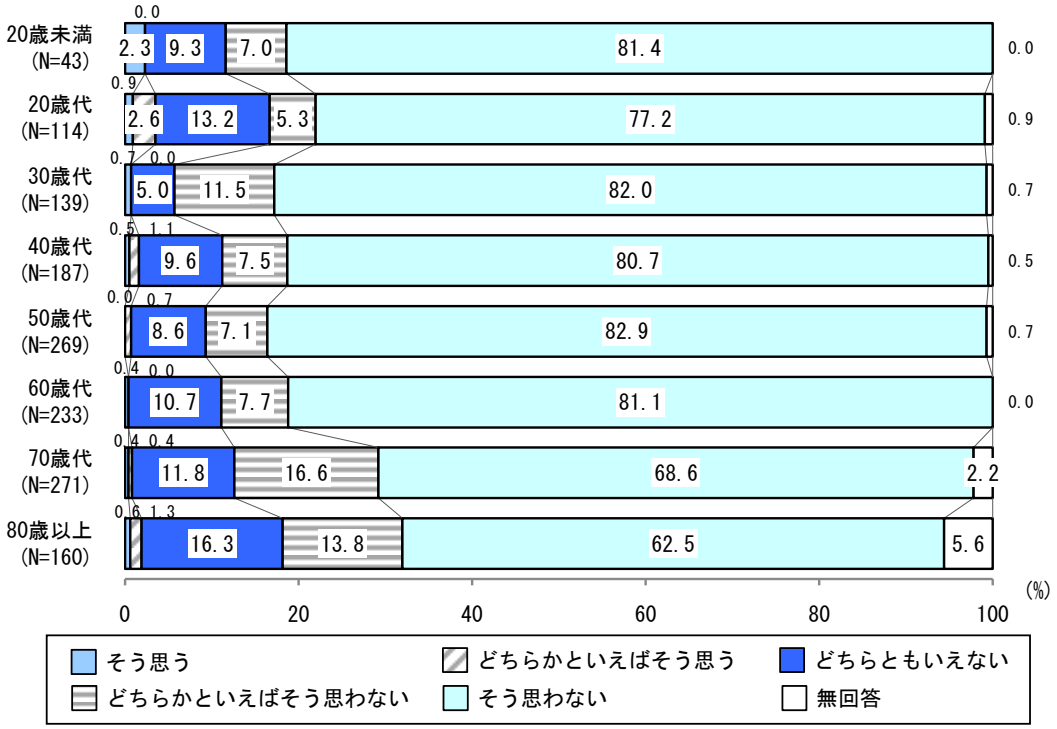
「ア．女の子は家のお手伝いをしないといけない」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は高齢になるほど高くなる傾向にある。“そう思う”の割合は、80歳以上が23.8%で最も高く、次いで60歳代が21.1%となっている。（図表4-1-2）

【図表4-1-3　性別　イ．女性は理系の大学に行く必要はない】



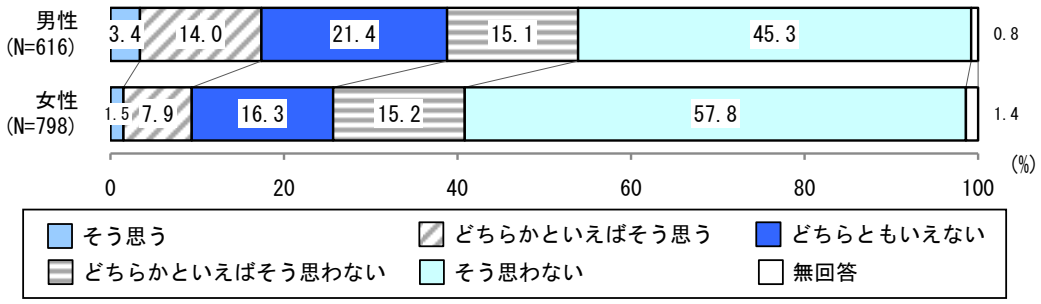
「イ．女性は理系の大学に行く必要はない」を性別でみると、“そう思う”の割合は男女とも２％に満たず、“そう思わない”の割合は男性（85.5%）に比べ女性（88.2%）のほうが2.7ポイント高くなっている。（図表4-1-3）

【図表4-1-4　年齢別　イ．女性は理系の大学に行く必要はない】



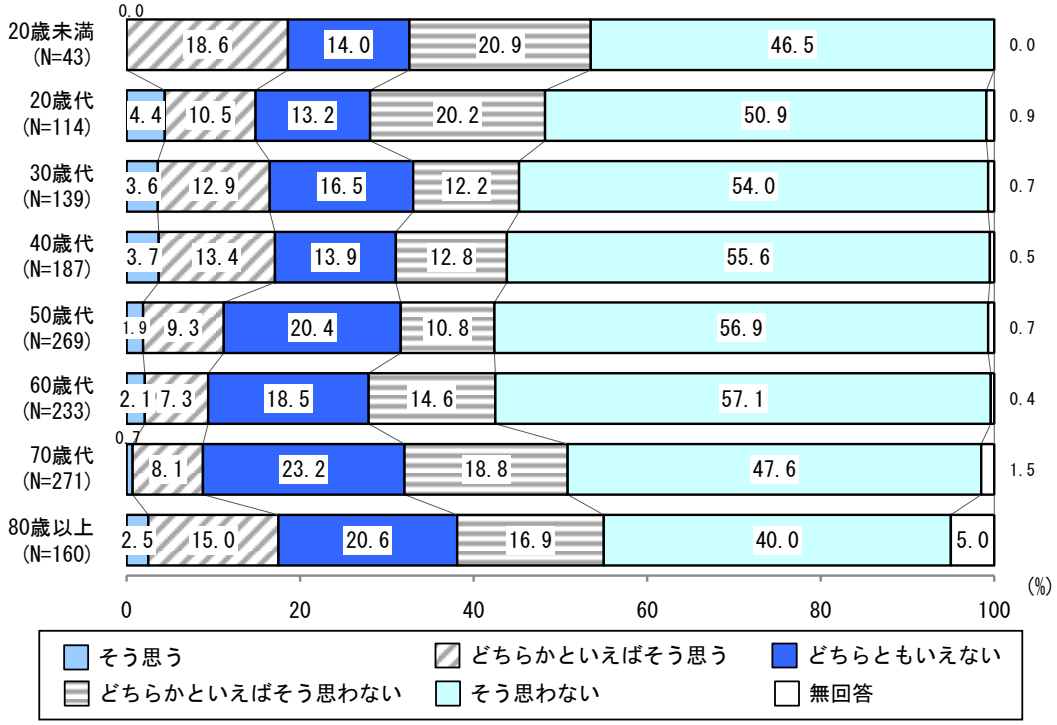
「イ．女性は理系の大学に行く必要はない」を年齢別でみると、“そう思わない”の割合は、いずれの年代も７割以上を占め、30歳代が93.5%で最も高くなっている。（図表4-1-4）

【図表4-1-5　性別　ウ．女性は結婚や出産により、仕事をやめがちなので採用に男性を優先してもしかたがない】



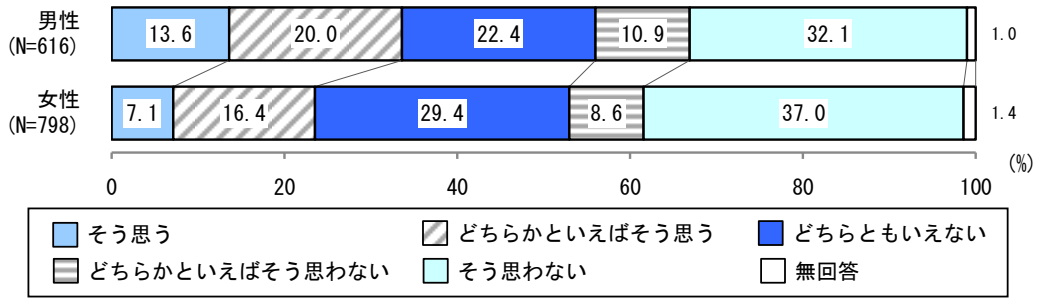
「ウ．女性は結婚や出産により、仕事をやめがちなので採用に男性を優先してもしかたがない」を性別でみると、“そう思う”の割合は女性（9.4%）に比べ男性（17.4%）のほうが8.0ポイント高い。一方、“そう思わない”の割合は男性（60.4%）より女性（73.0%）のほうが12.6ポイント高くなっている。（図表4-1-5）

【図表4-1-6　年齢別　ウ．女性は結婚や出産により、仕事をやめがちなので採用に男性を優先してもしかたがない】



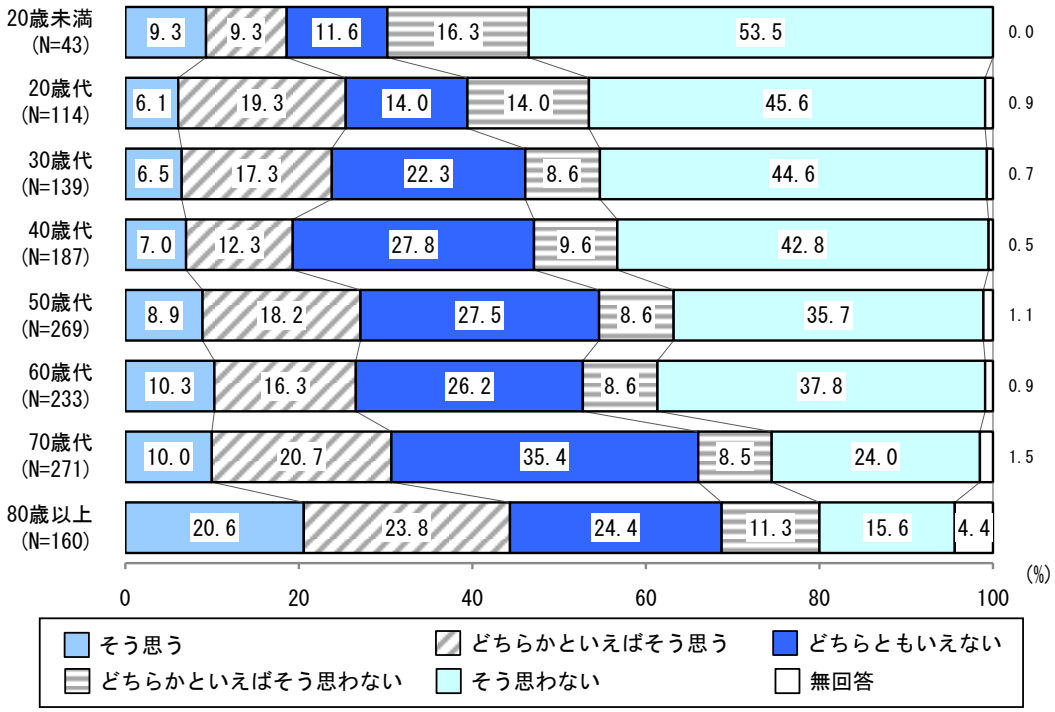
「ウ．女性は結婚や出産により、仕事をやめがちなので採用に男性を優先してもしかたがない」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳未満が18.6%で最も高く、次いで80歳以上の17.5%、40歳代の17.1%となっている。一方、“そう思わない”の割合は60歳代が71.7%で最も高く、次いで20歳代が71.1%で、いずれの年代も“そう思う”の割合を上回っている。（図表4-1-6）

【図表4-1-7　性別　エ．結婚したら妻は夫の姓を名乗るのが自然だ】



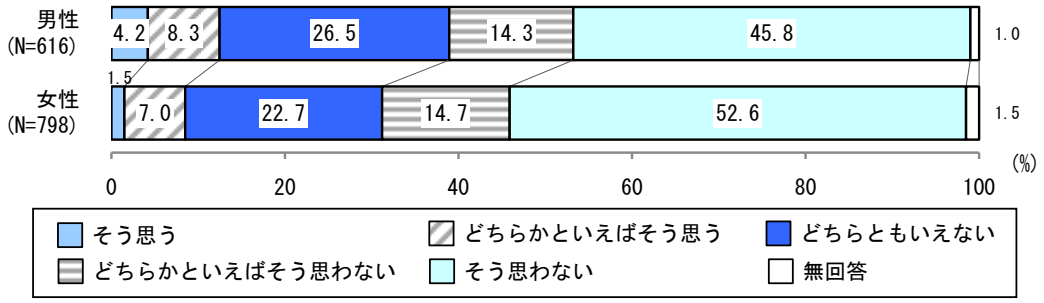
「エ．結婚したら妻は夫の姓を名乗るのが自然だ」を性別でみると、“そう思う”の割合は女性（23.5%）に比べ男性（33.6%）のほうが10.1ポイント高くなっている。（図表4-1-7）

【図表4-1-8　年齢別　エ．結婚したら妻は夫の姓を名乗るのが自然だ】



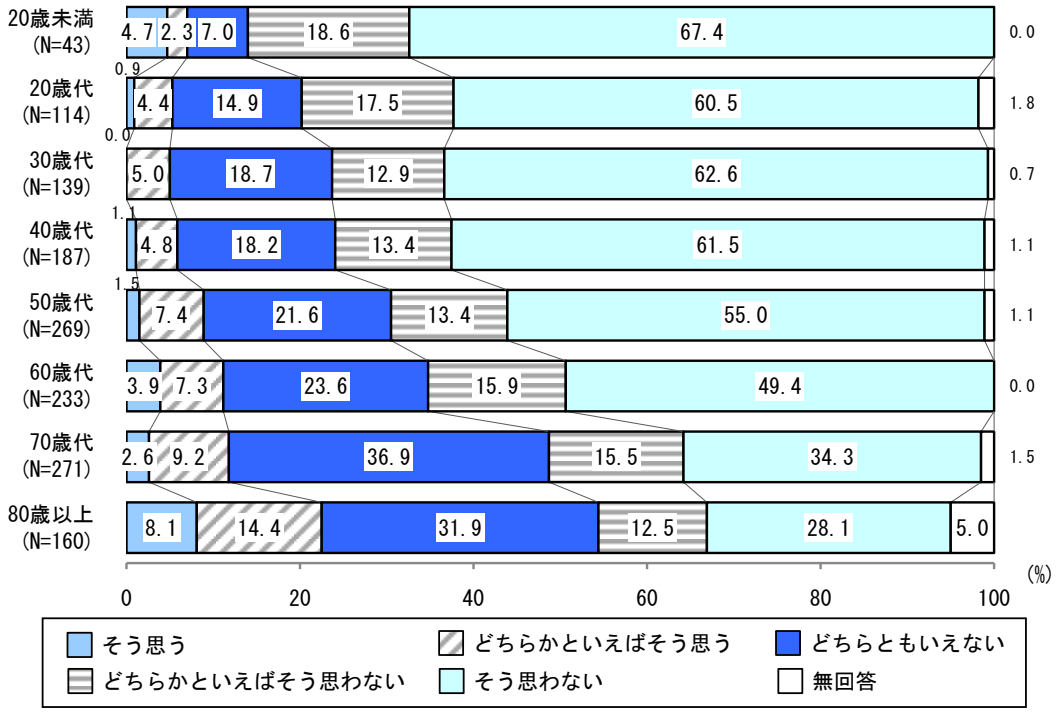
「エ．結婚したら妻は夫の姓を名乗るのが自然だ」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は80歳以上が44.4%で最も高く、次いで70歳代が30.7%となっており、70歳以上で３割を超えている。一方、“そう思わない”の割合は、20歳未満が69.8%で最も高く、次いで20歳代が59.6%、30歳代が53.2%と、40歳代までの年代では過半数を占めている。（図表4-1-8）

【図表4-1-9　性別　オ．共働き家庭で、夫婦が残業しなければならない時は、妻は家庭を重視し、夫よりも早く帰宅した方がよい】



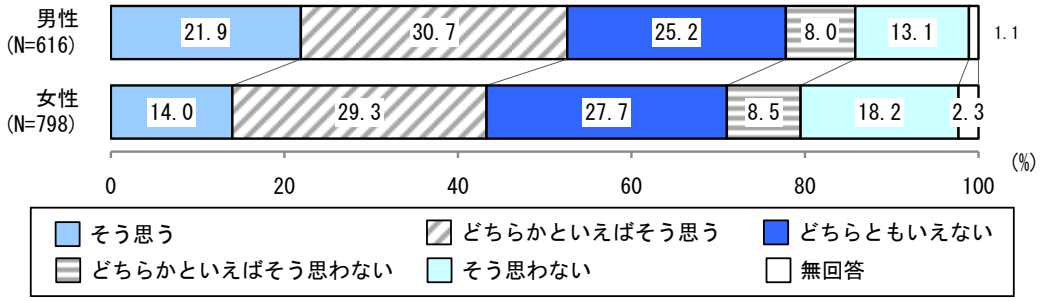
「オ．共働き家庭で、夫婦が残業しなければならない時は、妻は家庭を重視し、夫よりも早く帰宅した方がよい」を性別でみると、“そう思う”の割合は女性(8.5%)に比べ男性(12.5%)のほうが4.0ポイント高い。一方、“そう思わない”の割合は男性(60.1%)より女性(67.3%)のほうが7.2ポイント高くなっている。(図表4-1-9)

【図表4-1-10　年齢別　オ．共働き家庭で、夫婦が残業しなければならない時は、妻は家庭を重視し、夫よりも早く帰宅した方がよい】



「オ．共働き家庭で、夫婦が残業しなければならない時は、妻は家庭を重視し、夫よりも早く帰宅した方がよい」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は高齢になるほど高くなる傾向にあり、80歳以上が22.5%で最も高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は、20歳未満が86.0%で最も高く、次いで20歳代が78.0%、30歳代が75.5%と、60歳代までの年代では過半数を占めている。(図表4-1-10)

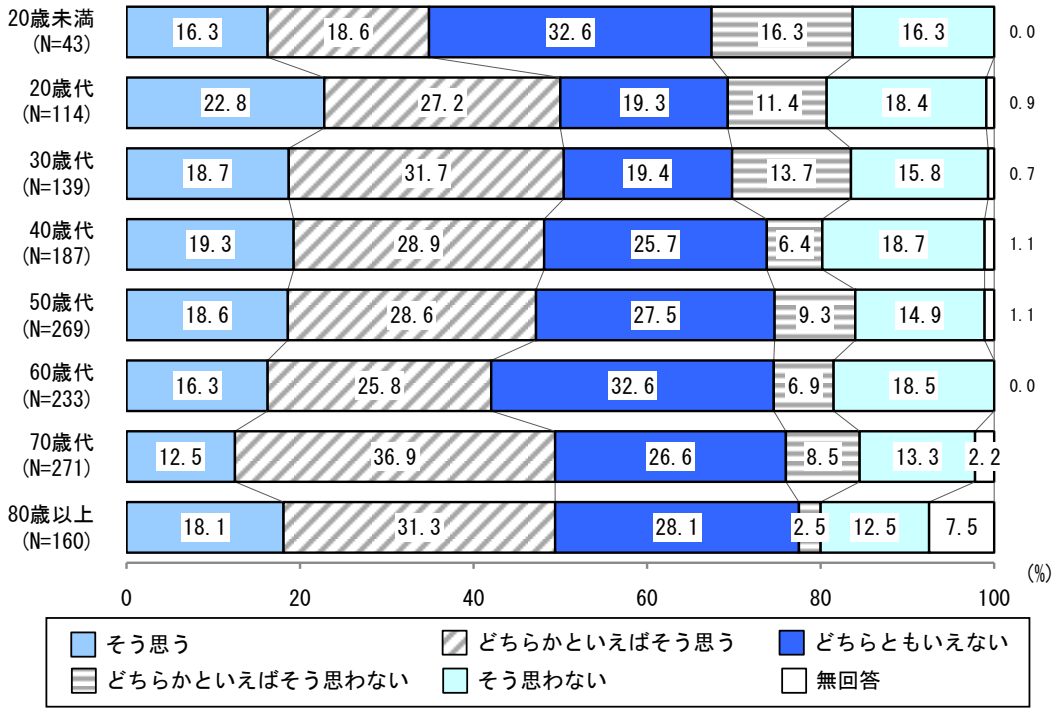
【図表4-1-11　性別　カ．女性と男性で役割に差があるのは差別ではなく区別である場合が多い】



「カ．女性と男性で役割に差があるのは差別ではなく区別である場合が多い」を性別でみると、“そう思う”の割合は女性（43.3%）に比べ男性（52.6%）のほうが9.3ポイント高い。

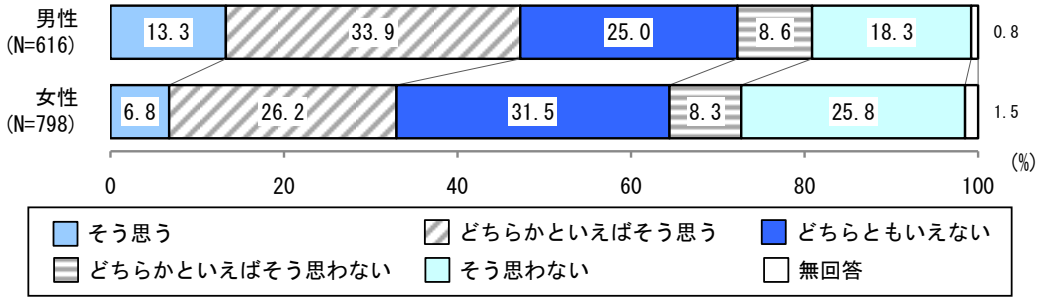
一方、“そう思わない”の割合は男性（21.1%）より女性（26.7%）のほうが5.6ポイント高くなっている。（図表4-1-11）

【図表4-1-12　年齢別　カ．女性と男性で役割に差があるのは差別ではなく区別である場合が多い】



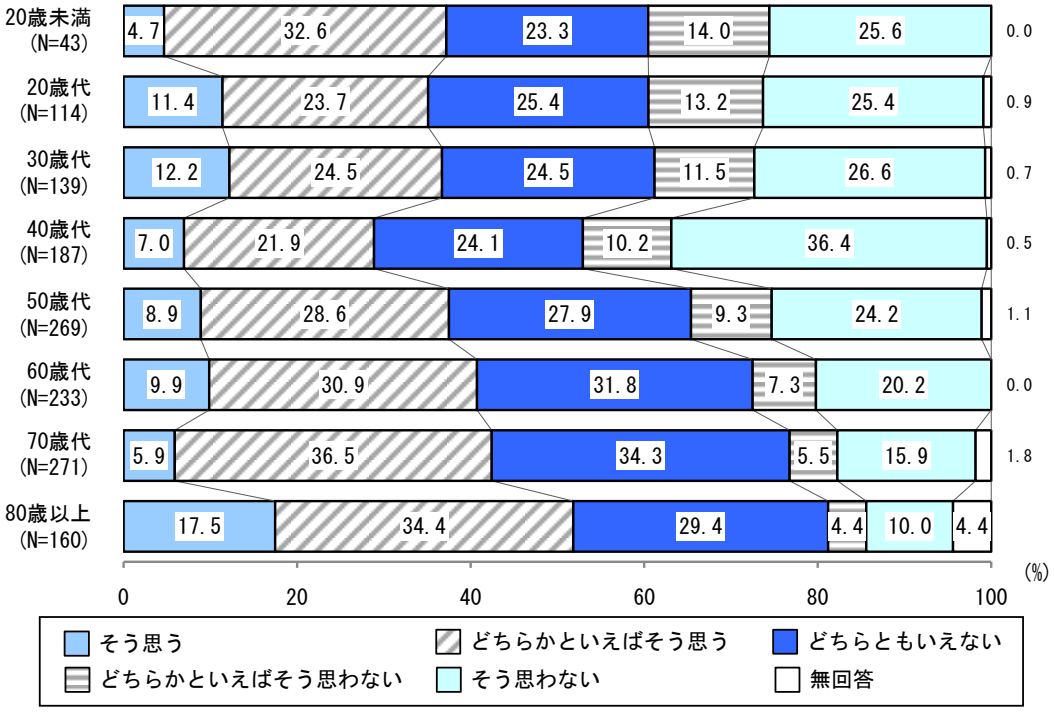
「カ．女性と男性で役割に差があるのは差別ではなく区別である場合が多い」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は30歳代が50.4%で最も高く、次いで20歳代が50.0%となっており、いずれの年代も“そう思わない”の割合を上回っている。一方、“そう思わない”の割合は、20歳未満が32.6%で最も高く、次いで20歳代が29.8%、30歳代が29.5%であり、高齢になるほど概ね低くなる傾向にある。（図表4-1-12）

【図表4-1-13　性別　キ．女性の方が男性より育児や介護などに向いている】



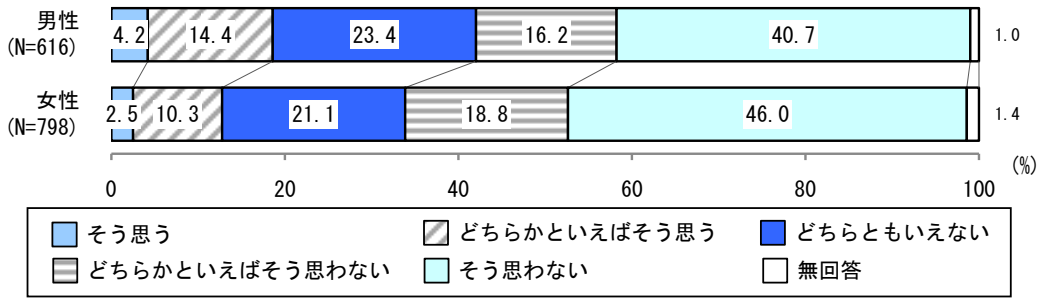
「キ．女性の方が男性より育児や介護などに向いている」を性別でみると、“そう思う”の割合は女性（33.0%）に比べ男性（47.2%）のほうが14.2ポイント高い。一方、“そう思わない”の割合は男性（26.9%）より女性（34.1%）のほうが7.2ポイント高くなっている。（図表4-1-13）

【図表4-1-14　年齢別　キ．女性の方が男性より育児や介護などに向いている】



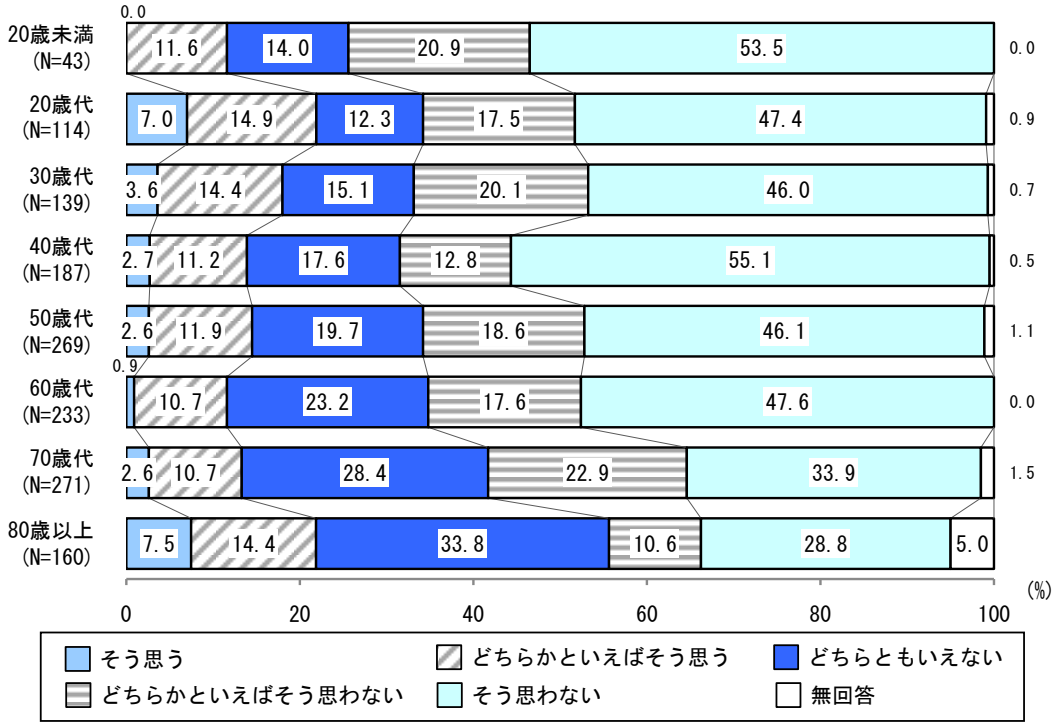
「キ．女性の方が男性より育児や介護などに向いている」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は80歳以上が51.9%で最も高く、次いで70歳代が42.4%、60歳代が40.8%と、50歳以上の年代で“そう思わない”の割合を上回っている。一方、“そう思わない”の割合は、40歳代が46.6%で最も高く、次いで20歳未満が39.6%で、50歳代以降は高齢になるほど割合が低くなっている。（図表4-1-14）

【図表4-1-15　性別　ク．昇給・昇進など、職場における男女の待遇の違いはやむを得ない】



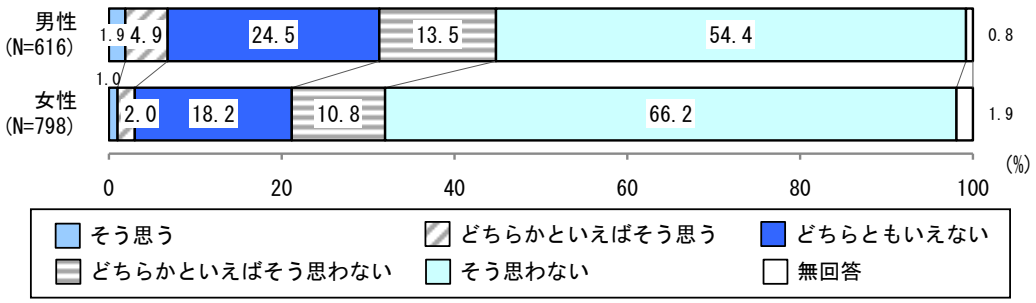
「ク．昇給・昇進など、職場における男女の待遇の違いはやむを得ない」を性別でみると、“そう思う”の割合は女性（12.8%）に比べ男性（18.6%）のほうが5.8ポイント高い。一方、“そう思わない”の割合は男性（56.9%）より女性（64.8%）のほうが7.9ポイント高くなっている。（図表4-1-15）

【図表4-1-16　年齢別　ク．昇給・昇進など、職場における男女の待遇の違いはやむを得ない】



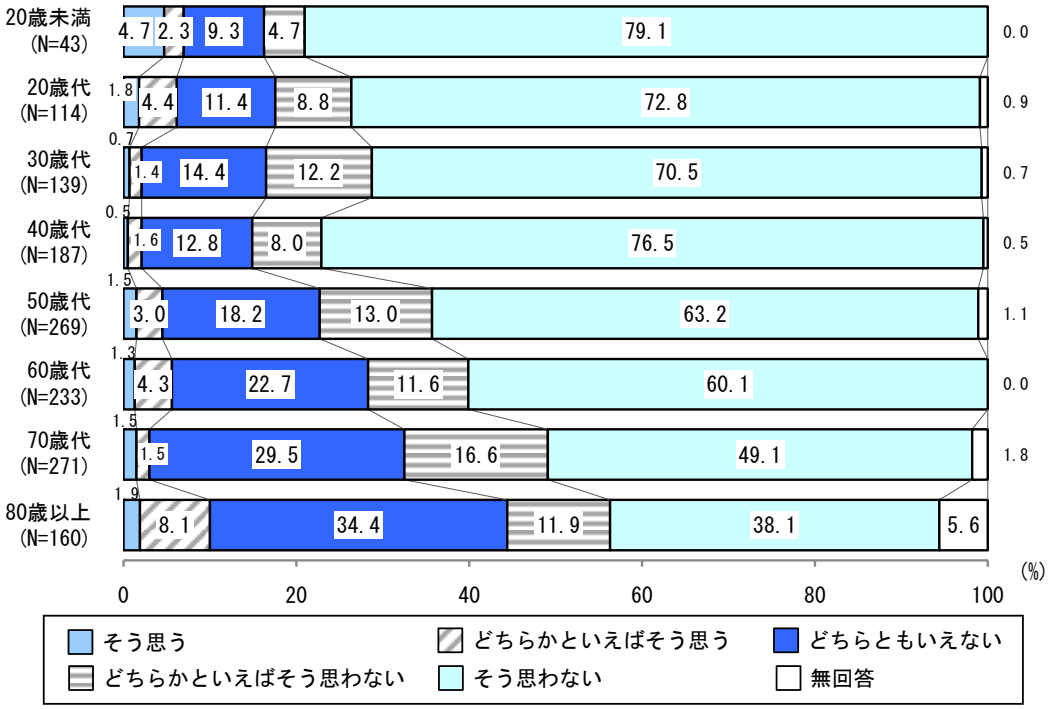
「ク．昇給・昇進など、職場における男女の待遇の違いはやむを得ない」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳代と80歳以上がともに21.9%で最も高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は、20歳未満が74.4%で最も高く、次いで40歳代が67.9%で、70歳代までの年代では過半数を占めている。（図表4-1-16）

【図表4-1-17　性別　ケ．男性は人前で泣かない方がよいが、女性は人前で泣いてもよい】



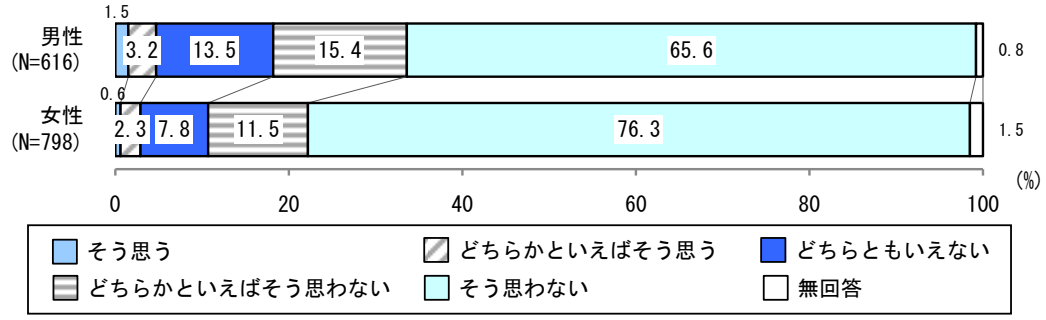
「ケ．男性は人前で泣かない方がよいが、女性は人前で泣いてもよい」を性別でみると、「どちらともいえない」の割合は女性（18.2%）に比べ男性（24.5%）のほうが6.3ポイント高い。一方、“そう思わない”の割合は男性（67.9%）に比べ女性（77.0%）のほうが9.1ポイント高くなっている。（図表4-1-17）

【図表4-1-18　年齢別　ケ．男性は人前で泣かない方がよいが、女性は人前で泣いてもよい】



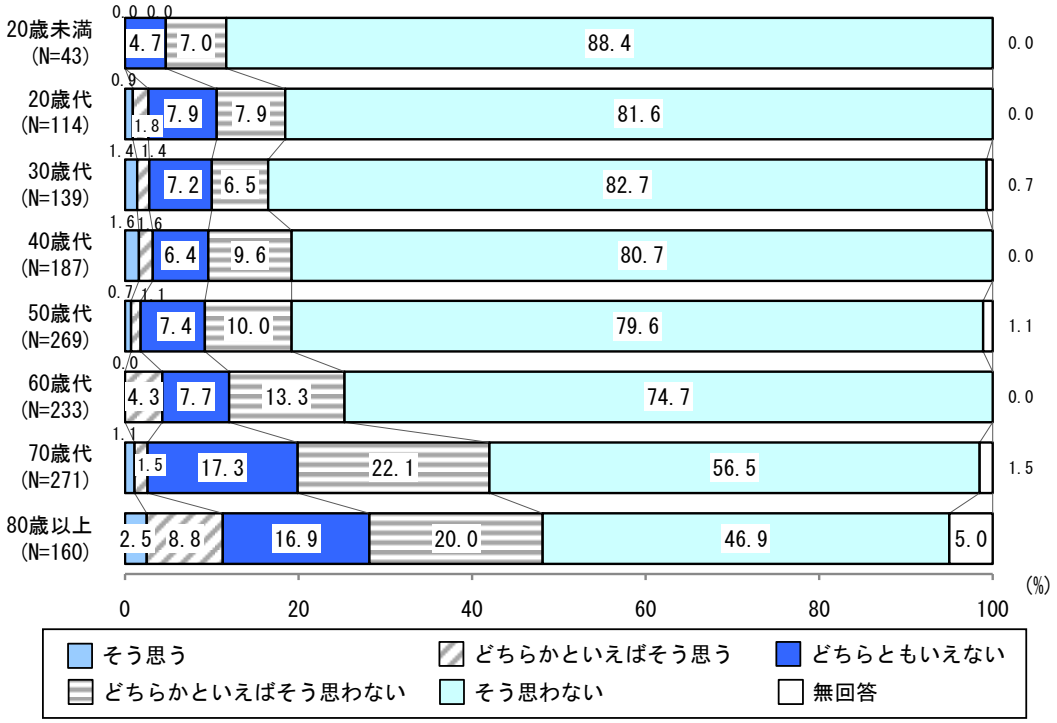
「ケ．男性は人前で泣かない方がよいが、女性は人前で泣いてもよい」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は80歳以上が10.0%で最も高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は、40歳代が84.5%で最も高く、次いで20歳未満が83.8%で、40歳代までの年代では８割台を占めている。（図表4-1-18）

【図表4-1-19　性別　コ．状況や場合によっては「女のくせに偉そうなことを言うな」と言われてもしかたがない】



「コ．状況や場合によっては「女のくせに偉そうなことを言うな」と言われてもしかたがない」を性別でみると、“そう思わない”の割合は男性（81.0%）より女性（87.8%）のほうが6.8ポイント高くなっている。（図表4-1-19）

【図表4-1-20　年齢別　コ．状況や場合によっては「女のくせに偉そうなことを言うな」と言われてもしかたがない】

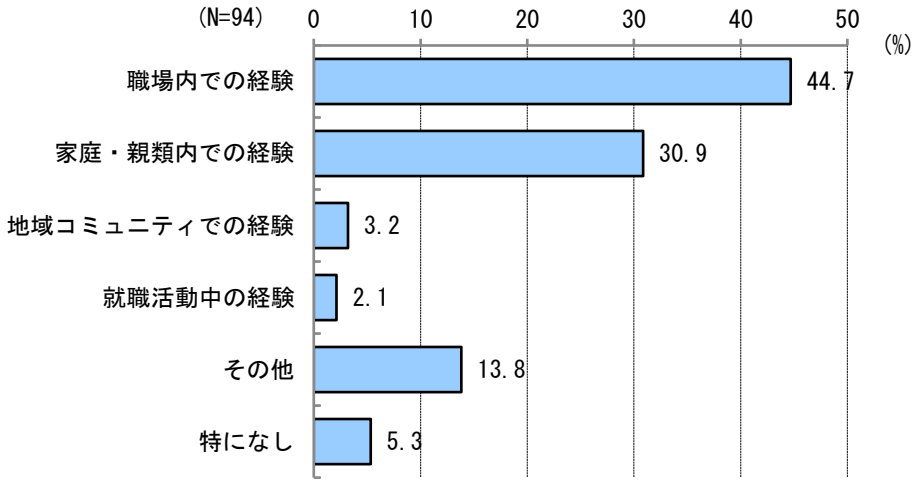


「コ．状況や場合によっては「女のくせに偉そうなことを言うな」と言われてもしかたがない」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は80歳以上が11.3%で最も高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は、20歳未満が95.4%で最も高く、次いで40歳代が90.3%で、50歳代までの年代では８割以上を占めている。（図表4-1-20）

（２）性別によって役割を決められたり待遇に差をつけられたりした経験

問20　あなたは、過去５年ほどの間に、性別によって役割を決められたり待遇に差をつけられたりした経験がありますか。もしそのような経験があれば、どのような内容であったか、覚えている範囲で記入してください。

【図表4-2　性別によって役割を決められたり待遇に差をつけられたりした経験】



【図表4-2-1　回答件数　性別によって役割を決められたり待遇に差をつけられたりした経験】

	回答者数	２０歳未満	２０歳代	３０歳代	４０歳代	５０歳代	６０歳代	７０歳代	８０歳以上	無回答
全 体	89	3	11	19	14	21	11	4	5	1
	100.0	3.4	12.4	21.3	15.7	23.6	12.4	4.5	5.6	1.1
男性	24	1	5	5	3	6	3	1	－	－
	100.0	4.2	20.8	20.8	12.5	25.0	12.5	4.2	－	－
女性	64	2	6	14	11	15	8	3	5	－
	100.0	3.1	9.4	21.9	17.2	23.4	12.5	4.7	7.8	－
無回答	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0

※「特になし」等の記載があった回答は除外して集計

【職場での経験】

（40歳代　男性）　・重いもの（作業）は男がもつ→役割であり、当然と認識している
・つけツメをしているのでできない作業があると女にいわれた→違和感がある
・男は男子便所しかそうじしないが、女は男子便所もそうじできる。→男は女トイレに入れない（女は男トイレに入れる）のはしかたない。

（30歳代　男性）　・クレーム対応は男性の仕事という雰囲気がある
・育休等のしわよせが残る人に生じる、人員増はない・男女で会費が異なることが多々ある。

（20歳代　女性）　第1子を産む前に勤務していた会社で、事務所のそうじやお茶出しなどを一方的に仕事に入れられた。他の社員（全員男性）は全くなにもしない。

（40歳代　女性）　職場で、時々ある、女性で得することもある。

（30歳代　男性）　女性を登用する必要があるからとその機会を奪われた。

（30歳代　男性）　筋肉の量が違うため、重い荷物は持たされるし、自ら、持つようにしている。これは区別だと思う。

（20歳代　女性）　職場での電話当番・お茶出し係

（80歳以上　女性）　組合の中で頑張ってきたので待遇に差別はなかった。

（40歳代　女性）　産休、育休後、部署異動させられた。

（50歳代　女性）　作業所で、女性だからと言って男性のように働けないとか身体上の欠点をあげつらう。

（20歳代　男性）　男性だから、力仕事をいつもやらされた。

（30歳代　女性）　私は、男社会の自動車販売会社に勤務しています。お客さんの車のバッテリーがあがってしまったので、ケーブルを持って、お客さんの家へ訪問しました。お客さんは65才？70才？位の男性でした。「女やのにできるんか」「男のメカニック呼んだ方がええんちゃうか」と、女性だからできない、頼りないというイメージを持たれていることに改めて気付かされました。（入社当初より、男社会で働くので、ある程度はそのような目で見られることは、覚悟はしていましたが）

（40歳代　男性）　重労働＝男性の仕事と割り振られること、とは言え、現実的に女性では役に立つことは難しい仕事であることも事実。

（70歳代　女性）　職場で頭ごなしに叱責され、その上、「ハイ」と言えと言われ、それに頭を縦に振らない私に苛立っていた。手作業からコンピューター作業になって社員を減らす際、最年長（55才）の私が無条件で、退職させられる、20年近く働いていたので1年かけて、交渉し10年程かかって退職金に見合分を得ました。退職時の内容を知らない回りの人は、私が少額でも10年近く会社から振り込ませていた私を強欲に思っていた人もいましたが、私は私のやり方で回収しました。
追伸（私までの過去退職者は全員支給されていました）

（80歳以上　女性）　国立病院の薬剤科は正規雇用は男性のみで女性は皆パート扱いでした。支給される白衣も全て男物でした。

（50歳代　男性）　本当に優秀な女性や男性が管理職に登用されるには問題ない。ただし、海外の比率を気にして、日本政府等が掲げる、女性管理職比率には疑問を感じるとともに、余計に差別を助長しているように感じる、例えば、男女の同期がいて、男の方が優秀と感じても数字を気にして女性を上げることが最近多いと感じる。

（30歳代　女性）　男性の従業員が対応する際と女性の場合とで客の態度が変わる。

（50歳代　女性）　これまでの職場も現在も、上司や役員はほぼ男性が占めています。逆にパートやアルバイトはほぼ女性です。女性の上司や役職の方を増やさなくてはとは言うものの、実際に増える様子はナシです。研修等も基本男性が優先されています。

（60歳代　男性）　同じ仕事をしても、その人との差別を感じた。

（20歳代　女性）　あります。私の職場において、女性は能力や適性、希望ではなく、性別「女性」であることだけで業務内容や上司・部下を誰にするのかなどが決められる傾向にあると思います。

（60歳代　男性）　仕事力よりゴマすりでイエスマンが出世する。

（50歳代　女性）　自身で選んだ仕事でしたが、男性と同じ、力仕事をしていました。性別を意識したつもりはありませんが、力仕事は、不利でした。「女の仕事ではない」と皆が口をそろえて言ってました。そこに、待遇はありませんでしたが…

（20歳代　女性）　バイトの内容で男性は重い荷物を運ぶ、女性は別の作業をするといった仕事分けはあったが、身体の構造上の問題はやむを得ないのかなと思う。差別には感じなかった。

（50歳代　女性）　職場で、母親は家にいた方が良い、と言われた。（その割に、仕事を終えて定時で帰るとイヤな顔をされる）義母や、義兄の嫁さんにもそう言われた。（が、仕事をやめなかったので、いろいろ言われた）夫から、私はパートで良い、と言われた。私の方が給料が良いことを伝えると、むくれた。

（60歳代　男性）　力仕事は男がやるものと女性に言われた。

（50歳代　女性）　役職を獲得しても、職場では女性が1人であることから大事な話し合いの場でも、発言しても軽く流されたり、声が届かないのか反応なく、男性役職者での話し合いが進み最後にこのように進めるから、理解できたか？で、済まされる。
（20歳代　男性）　何か作業をする際は女性は軽作業で男性は重作業のような役割分担はありました。
（30歳代　男性）　看護師は女性が多く男性の役職者が少ない。
（30歳代　男性）　職場で「今いるスタッフはみんな女性で結局いなくなるので君には仕事を覚えてほしい」と発言された。また同じ職場で女性スタッフに「もっと着るものに気配りすれば女性からモテるようになる」とも発言された。
（40歳代　女性）　職場で、上司との話し合いの際、男女関係なく話し合いはでき、意見もできるが、結局は、男性職員の意見が採用されることがほとんどで、女性の意見は反映されないのかと感じた経験がある。
　また、婚姻関係を築けるのは、男女のみで、本当に一緒に居たい人と時間・生活を共有できないのだと感じた経験がある。
（40歳代　女性）　仕事中　女性のほうが柔らかい接客ができるとして、客へのお茶出しを上司から指示された。
（20歳代　男性）　アルバイト先で男は酒の品出しを優先的に回され、女性は楽な前出しをしていた。給料に差は無い。
（50歳代　女性）　来客時のお茶出しなどの接待準備。
（40歳代　女性）　性差別においては常に受けているものだと感じている。
そもそも、同じ時間と同じ労働でも給料が違う時点で差別以外に他ならない。
結婚もしたけど、お互いフルで働いていても帰ってきて家事をするのは女性、という生活が嫌になって離婚した。
理不尽だとは思うけれど、日本はいつまでたっても高齢の政治家がでしゃばっているような国なので変わることもないだろうと思っている。なので、少子化においてもしようがないし、当たり前だと思う。女性に求めることが多すぎる。
（40歳代　男性）　運転や体力仕事は基本的に男性がやるものだと決めつけられており、実際勤めている会社でもそうなっている。逆にお茶くみなどは女性が行っている。
待遇の差は分からない。
（50歳代　男性）　①会議の準備作業で、重い資材運びは男性、お茶出しは女性と決められていた。
②介護休暇の申請をした際、「男が介護するのはおかしい」と上司に怒鳴られ、取得できなかった。
（50歳代　男性）　職場での昇進で女性が育児休業を取得したことにより、男性より遅く昇進したこと。
（50歳代　女性）　・会社に女性の役職者が殆ど居ない。
・昇給昇格のスピードが男性の方が格段に早い。
・個人的な旅行や出張の土産品のお菓子を配らせられるのは女性である。
（30歳代　女性）　女性であるため、給与が、安くなりがちで、必然的に時短勤務を取得するのは女の方。家庭を顧みない働き方の選択肢はなく、男性社員にチャンスが与えられたと感じる。
（20歳代　男性）　男女関係なく待遇は同じだが力仕事は男性だけに任せられる。
（20歳代　女性）　重いものを持つなどの力仕事は男性に任せるような風潮はある。

【家庭・親類内での経験】

（50歳代　女性）　女性は家事をしてあたりまえ。
（60歳代　女性）　両親の介護で長女であること、元看護師であることから介護することがあたり前の様に周りから言われた。
（40歳代　女性）　父親からはずっと、「女の子は」と言われて成長してきた為、具体的にこれというのは覚えていないが、今でも子供が女の子で勉強が苦手だと言うと、近しい他人からでも女の子なんやから、なんとかなるよ、というような事は言われる。
（60歳代　女性）　夫は定年し家にいる。私は仕事に行っている。少しは家事を手伝ってくれるが男と女は家事についても対等という意識は全くなく共稼ぎの時は家事育児すべてのことが女がやってあたり前だったし同居している義両親の考えもそうだったので一人背負って苦しかった。
（40歳代　女性）　家族で食事行ったとき、必ずお酒をのめないは女である（外食での話しです。）運転しなければいけない状況で、ドライバーを頼まれる。弟は男やからのめるが、私は女やからのめない。本当はのみたいのにのませてもらえない、だから、のめないダンナと結婚しました。
（60歳代　女性）　時代からしれませんが親（実家）の世話はしても、相続は長男にすべて渡すと言われました。結婚の方は相手の親と同居だったためにすべて1人で2人の親の世話をしてあたりまえと夫の姉2人は思っていて口は出すが、手は出しませんでした。しんどかったです。

（50歳代　女性）　元夫のDVで厳しい男尊女卑で自由が何一つなかった。
（30歳代　女性）　「女だから男に従え」「女が男と肩を並べて外で働くのが間違っている」「女は家で家事育児をしろ」などの発言をされた。
（80歳以上　女性）　結婚当初から家事は、自分でするものだと思って過ごして来ました。今も続いていますが、子供達から「家事の出来ない夫にしたのは、自分の責任だと」言われます。
（40歳代　女性）　女性は、家の事をしっかりやれて外で働ける。
（30歳代　女性）　男兄弟がいるが自分だけ家事手伝いをするよう幼少期から言われて育った。
（60歳代　女性）　結婚を機に会社を退職してから専業主婦をしていましたので30数年は、家の事に従事してきました。会社で働いていた頃よりも昨今のこのような男女役割に対しての問いかけに驚く事が多いです。
（80歳以上　女性）　社会で活躍したことがないのと、老後でもありますし。今迄家事は総て自分がやり、親族とのもてなしも全てこなした。当然の如くに。
（70歳代　女性）　男が上で女は下の考えで、女は家の事すべてやってあたり前の夫、コトバのボウリョク見下す。夫
（60歳代　女性）　家族から、主婦・母としての役割を求められ、体調が悪くても、自分が動かないと、家庭が成り立たたない状況が辛かった。
（70歳代　男性）　退職して家庭内で地位が落ちた。
（50歳代　女性）　私自身、仕事をするな、家にいろと家事だけしていろと家族に言われ続け専業主婦だからがまんしろと結婚した時から言われてきた。あってはいけないことだと思う。
（50歳代　女性）　女性が家事をすることが、当たり前であって、していないと、駄目な人間であるかのように言われたり、叱咤されました。
（40歳代　女性）　夫が重度の食物アレルギー持ちなので自ら料理をしてくれるのですがそれをおじに（80代）話したら「〇〇（私）は愛する人に料理してあげられないのは可哀想」と言われた。おじは全く料理はしない。おばは苦笑いだった。夫のアレルギーの話をするとだいたいの人から「〇〇（私）は大変ね（料理が）。」と言われる。高齢の女性ほど、夫が家事をすると言うと女である私を責める。おそらく自分達は仕方なくやっているのに、という気持ちからだと思う。
（50歳代　男性）　実親・義理親の入院の際の手続き・世話・退院後のケアなど女性がするべき的なおしつけ、育児や子供の教育に関して妻にまかせっきりになっていること。
（60歳代　女性）　夫は家事を100%やらない。何もできないしやろうともしない。
（60歳代　女性）　介護は女の役割。男兄弟は手伝ったりほぼしない。
（30歳代　女性）　他県ではあるが、義実家の法事や葬儀では、嫁として私がお茶出し等雑用をしなければならない。義母は指示を出すだけ、男性陣は座っているだけで良い。
（20歳代　男性）　祖母に、跡取りの役割を強要されることがある。
（40歳代　女性）　仕事をしていても、家に帰ったら家事や子育て、親の面倒を見ないといけない。親から「母親だから」という昔の概念で責められる事がある。
（30歳代　女性）　育児は女性がやって当たり前。
男性が少し子育てにかかわっただけでなぜか賞賛される。
職場の男性上司による男性重視の人事配置。
片親となると不動産賃貸で不当な扱いをされる。
高齢者の片親に対する偏見が強い。
（40歳代　女性）　家で人が集まる時（法事や季節毎の集まり）にお茶出しや配膳の準備など女の人がする事が多い。
男の人がすると周りの年配の人が女の人にさせるように促す。
（50歳代　女性）　過去5年にかぎらず子供の事、家の事は女性がするのが当たり前と言われてきたので呪いのように身体に染み付いて離れません。
（20歳未満　女性）　兄妹の中で兄は男だから家事をしなくてもいいけど妹は女だから家事しなければいけない。
（30歳代　女性）　パートなので仕方ないとは思うが、子供の体調が悪い時、妻が仕事を休むのが当たり前という態度の時。

【地域コミュニティでの経験】

（30歳代　女性）　男の大家さんに「女やからいつも家にいるだろ！」みたいな事を言われた。
（30歳代　女性）　女性であること、子連れであること、妊婦であることを理由に周囲の人々に親切にされることが多いと常に感じている。
（年齢不詳　性別不詳）　自治会活動で頑張っている地域だと認められていると思うのに、なかなか認められない社会であると思う。

【就職活動中の経験】

（20歳代　女性）　就活をしている時に、役員の方が「女性がお茶を入れた方が美味しい」と言っていた。職場では、掃除や食事の手配などの雑用は女性がやることが当然の慣習になっていた。

（30歳代　女性）　会社の面接の際に、今後の出産の予定等を細かく聞かれたことがある。（直近2年はないと回答し、採用された）

【その他】

（80歳以上　女性）　5年前なら解りますが今や女性上位、男女逆ですね。

（50歳代　女性）　良い事の女性優先で！としてもらえた時は嬉しい。優遇してもらえる時の差はありがたいが、そうでない時は悲しい。

（30歳代　女性）　男女差別は昔からあたり前の様にあったので、女はそれに慣れるものだと教育を受けて育ったので、男性を尊重しておりますが、女性が先陣を切って新たな社会をつくる未来もまた、個人の感想にはなりますが、期待をしている所存です。

（30歳代　女性）　あったと思うが、あまり覚えていない。

（20歳未満　女性）　学校の先生に男の子にやさしく、女の子に厳しい待遇をされたことがあります。

（70歳代　女性）　時代的にあたり前と思わせる様な教育を受けて育って来ました。だから特に思わず過ごして来たが現代思う事は、女性差別が有ると（今だに）思います。極端に言えば女性がリーダーになれば世界から、戦争がなくなるのではと思ったりする。

（60歳代　女性）　体力的な性差で区別された体験はあるが、社会的な性差で区別されたことはない。

（50歳代　女性）　性別より年齢で敷居が高い事があった。

（50歳代　男性）　やはり男だからとは言われる。

（50歳代　女性）　家の相続問題で司法書士へ相談したときなど、男性を連れて行くのと行かないので態度が全然違う。

（50歳代　男性）　レディースセットや女性割引。

（30歳代　女性）　パートナーと外食した際、同じものを注文したが量が明らかに違ったこと。（女性が少なく男性が多い）
保険会社から不手際があった際、男性家族と私では電話や窓口対応の仕方、謝罪に対して声のトーンも変わったこと。
いずれも男性に対応された。

（20歳未満　男性）　体育の授業内容に差があると思います。

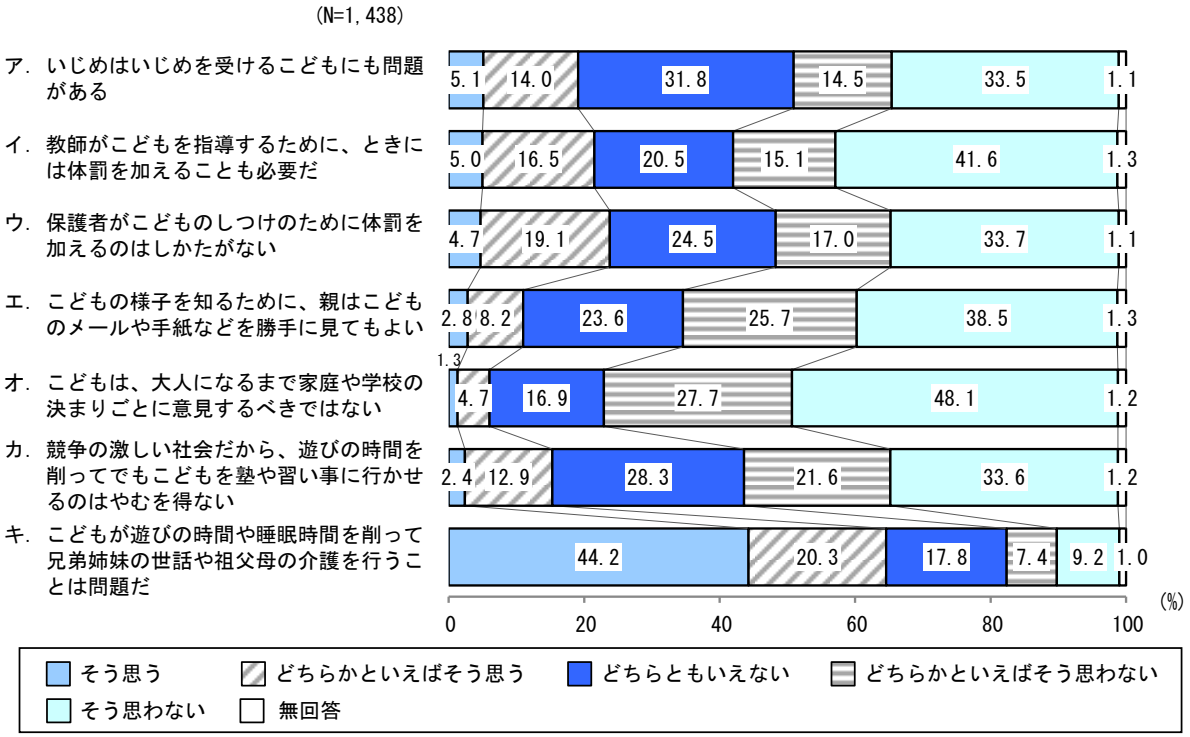
※P108～111に掲載している意見は、基本原文のままであるが、明らかな誤字脱字等は修正を行っている。

５．こどもの人権について

（１）こどもの人権についての考え方

問21　次のような考え方について、あなたはどう思いますか。（それぞれあてはまる番号１つに○）

【図表5-1　こどもの人権についての考え方】

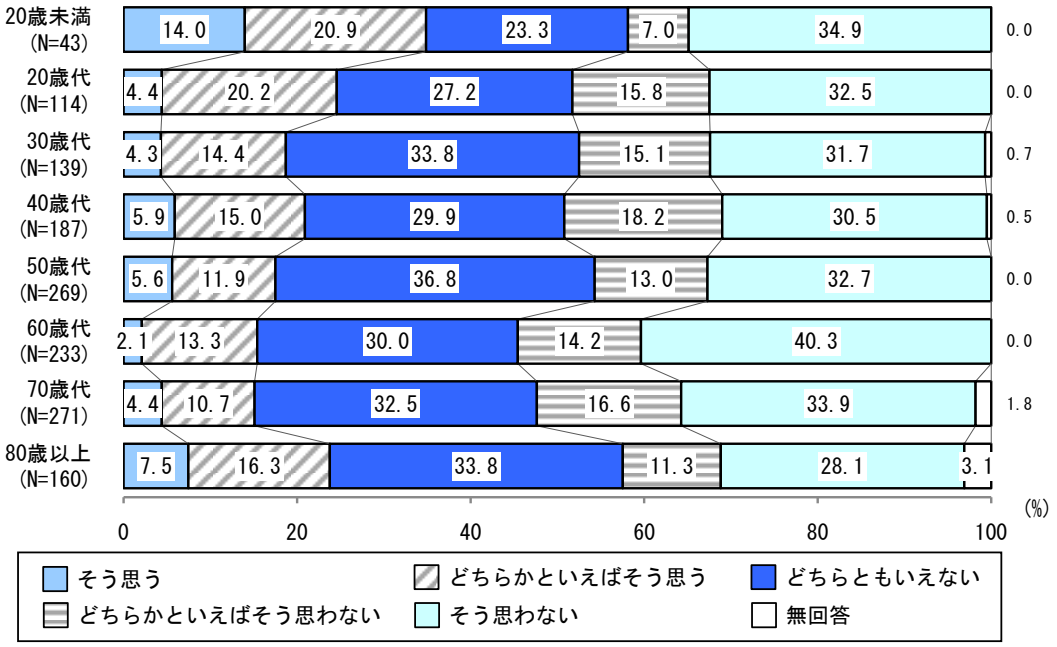


こどもの人権についての考え方は、「キ．こどもが遊びの時間や睡眠時間を削って兄弟姉妹の世話や祖父母の介護を行うことは問題だ」以外の項目では“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた割合）が“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合）に比べ高い。

“そう思わない”の割合は「オ．こどもは、大人になるまで家庭や学校の決まりごとに意見するべきではない」が75.8%で最も高く、次いで「エ．こどもの様子を知るために、親はこどものメールや手紙などを勝手に見てもよい」が64.2%、「イ．教師がこどもを指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ」が56.7%、「カ．競争の激しい社会だから、遊びの時間を削ってでもこどもを塾や習い事に行かせるのはやむを得ない」が55.2%となっている。

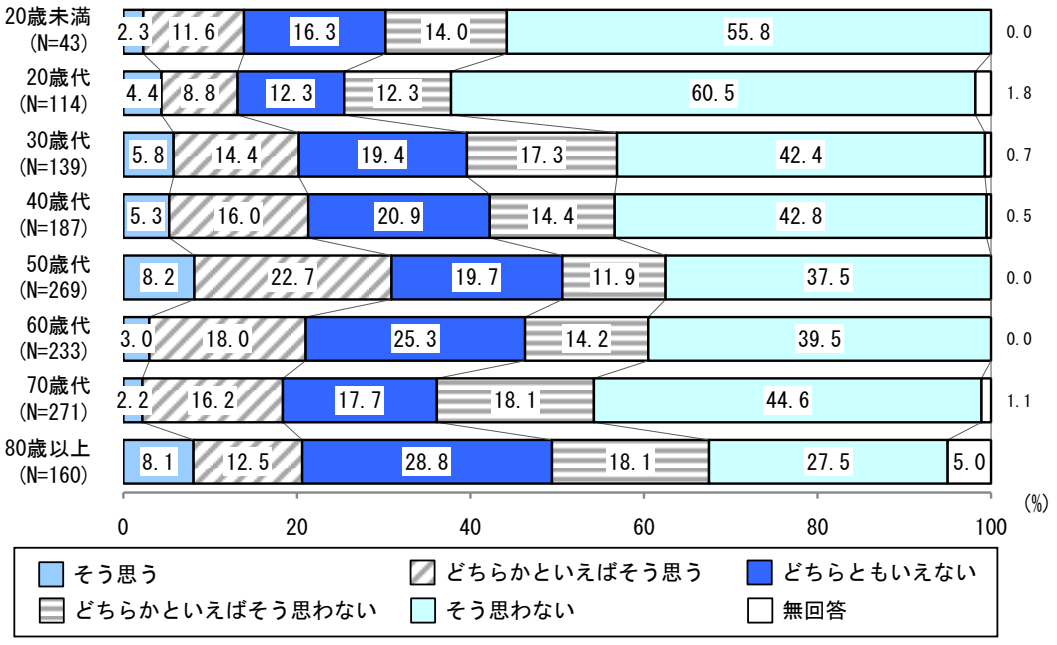
“そう思う”の割合は「キ．こどもが遊びの時間や睡眠時間を削って兄弟姉妹の世話や祖父母の介護を行うことは問題だ」が64.5%と高くなっている。（図表5-1）

【図表5-1-1　年齢別　ア.いじめはいじめを受けるこどもにも問題がある】



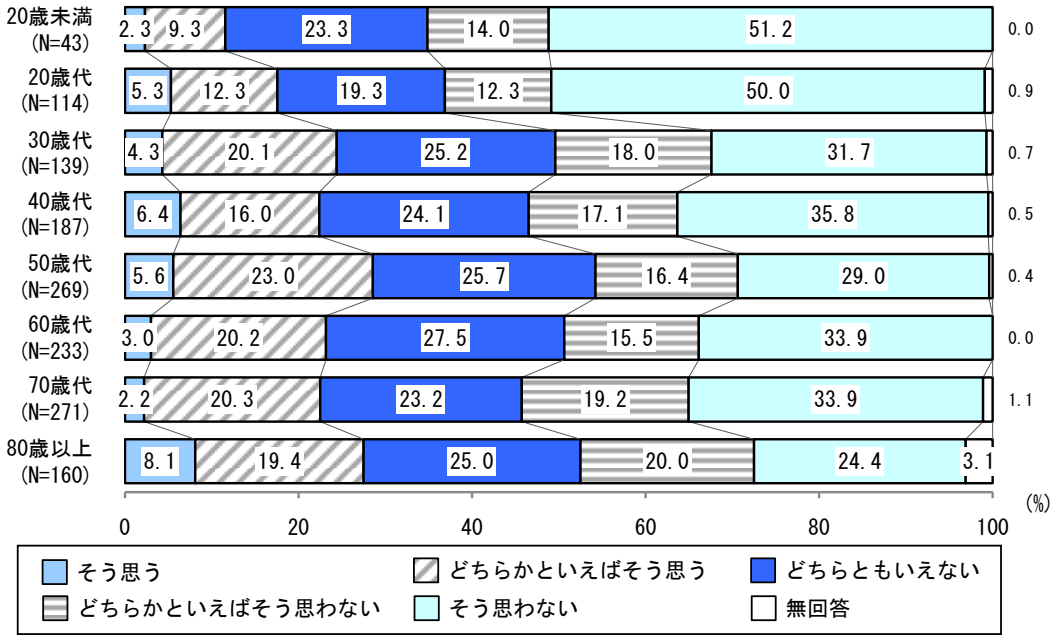
「ア．いじめはいじめを受けるこどもにも問題がある」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳未満が34.9%で最も高く、次いで20歳代が24.6%、80歳以上が23.8%となっている。一方、“そう思わない”の割合は60歳代が54.5%で最も高く、次いで70歳代が50.5%で、70歳代までの年代では４割以上となっている。（図表5-1-1）

【図表5-1-2　年齢別　イ.教師がこどもを指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ】



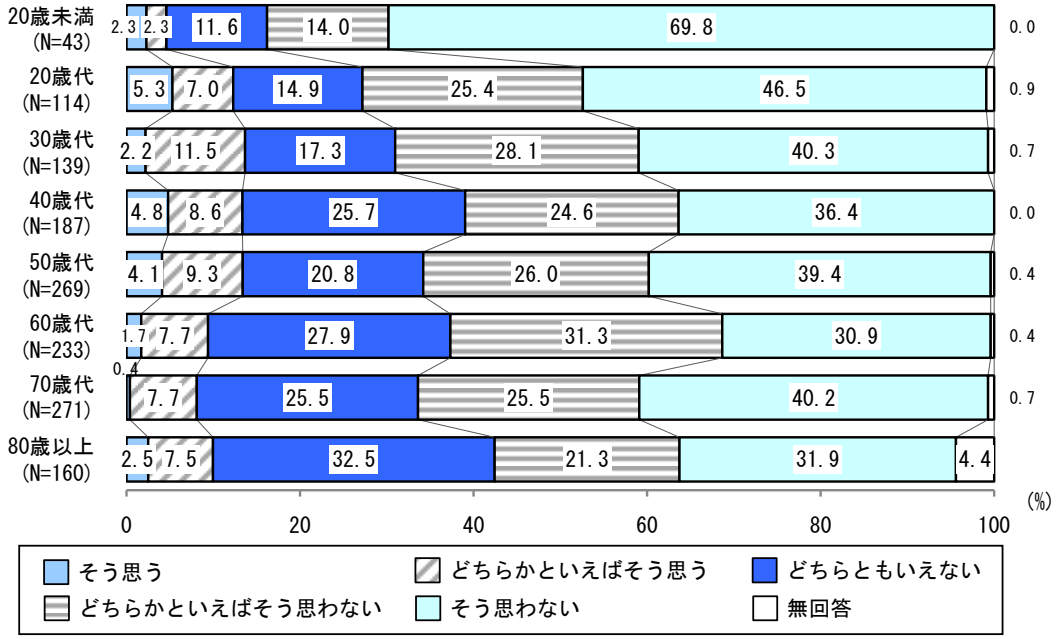
「イ．教師がこどもを指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は50歳代が30.9%で最も高く、次いで40歳代が21.3%、60歳代が21.0%となっている。一方で、“そう思わない”の割合は20歳代が72.8%で最も高く、次いで20歳未満が69.8%、70歳代が62.7%となっている。（図表5-1-2）

【図表5-1-3　年齢別　ウ.保護者がこどものしつけのために体罰を加えるのはしかたがない】



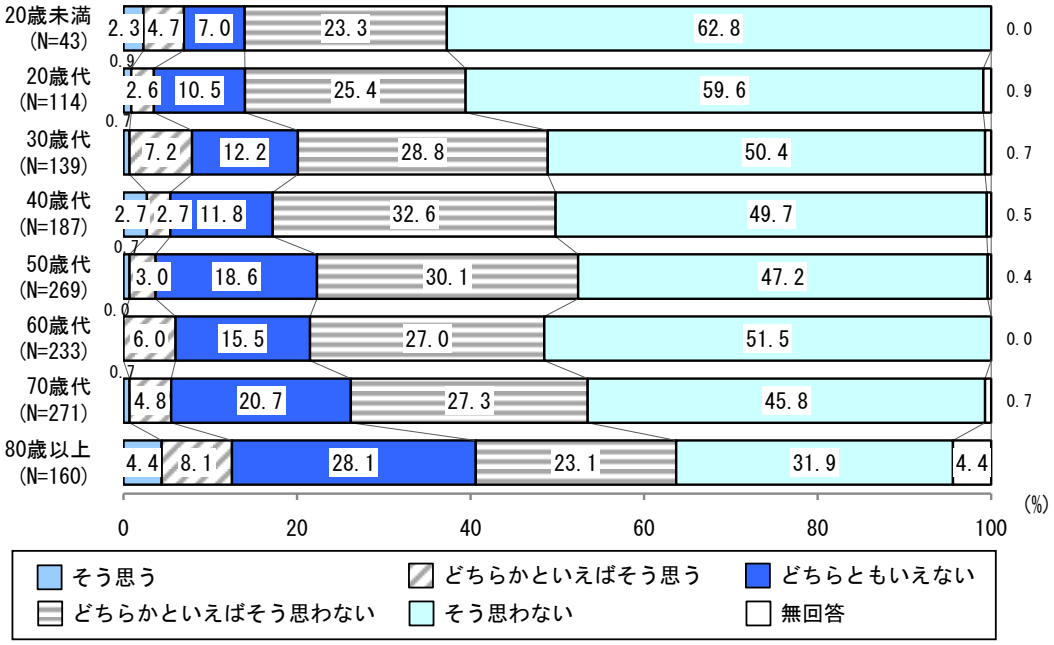
「ウ．保護者がこどものしつけのために体罰を加えるのはしかたがない」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は50歳代が28.6%で最も高く、次いで80歳以上が27.5%、30歳代が24.4%となっている。一方で、“そう思わない”の割合は20歳未満が65.2%で最も高く、次いで20歳代が62.3%、70歳代が53.1%となっている。（図表5-1-3）

【図表5-1-4　年齢別　エ.こどもの様子を知るために、親はこどものメールや手紙などを勝手に見てもよい】



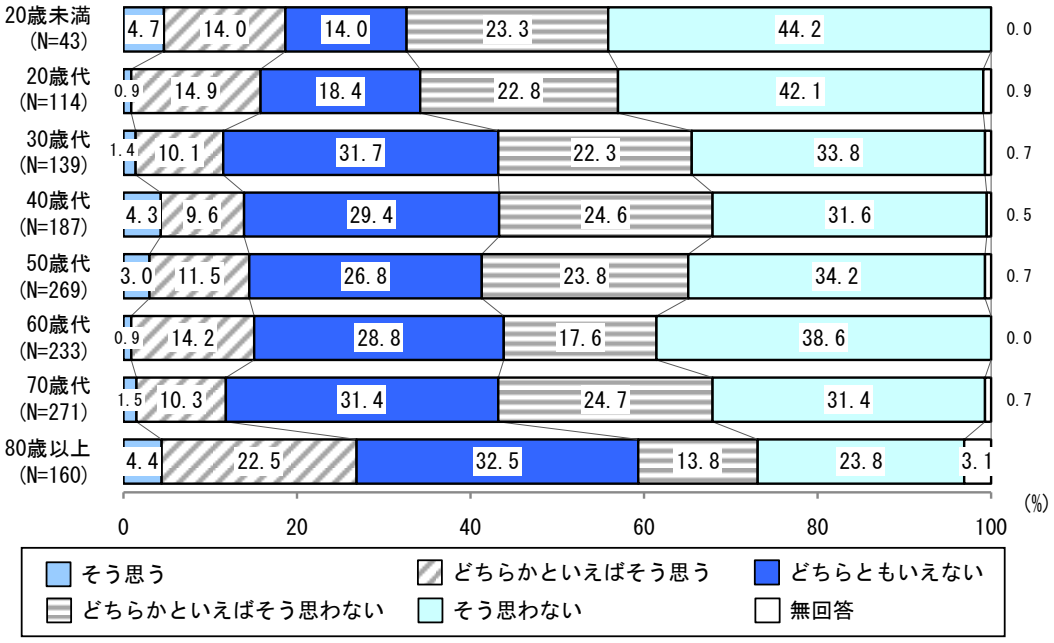
「エ．こどもの様子を知るために、親はこどものメールや手紙などを勝手に見てもよい」を年齢別でみると、“そう思わない”の割合がいずれの年代も過半数を占め、その中でも20歳未満が83.8%で最も高く、次いで20歳代が71.9%、30歳代が68.4%となっている。また、「どちらともいえない」の割合は80歳以上が32.5%で最も高くなっている。（図表5-1-4）

【図表5-1-5　年齢別　オ.こどもは、大人になるまで家庭や学校の決まりごとに意見するべきではない】



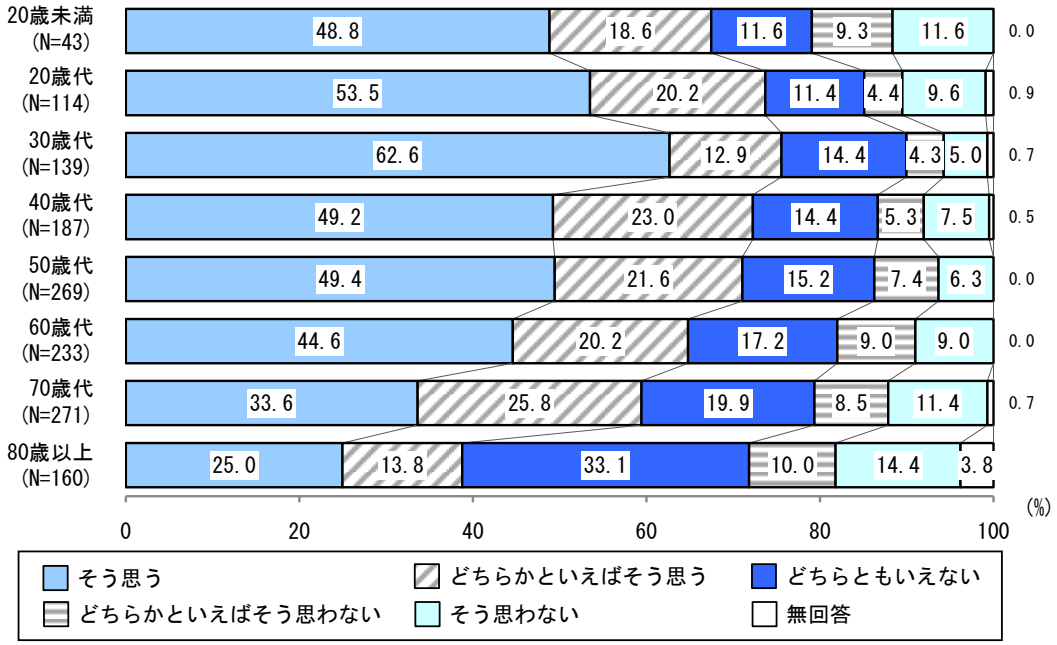
「オ．こどもは、大人になるまで家庭や学校の決まりごとに意見するべきではない」を年齢別でみると、“そう思わない”の割合がいずれの年代も過半数を占め、その中でも20歳未満が86.1%で最も高く、次いで20歳代が85.0%、40歳代が82.3%となっている。（図表5-1-5）

【図表5-1-6　年齢別　カ.競争の激しい社会だから、遊びの時間を削ってでもこどもを塾や習い事に行かせるのはやむを得ない】



「カ．競争の激しい社会だから、遊びの時間を削ってでもこどもを塾や習い事に行かせるのはやむを得ない」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は80歳以上が26.9%で最も高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は70歳代までの年代で過半数を占め、その中でも20歳未満が67.5%で最も高く、次いで20歳代が64.9%となっている。（図表5-1-6）

【図表5-1-7　年齢別　キ.こどもが遊びの時間や睡眠時間を削って兄弟姉妹の世話や祖父母の介護を行うことは問題だ】



「キ．こどもが遊びの時間や睡眠時間を削って兄弟姉妹の世話や祖父母の介護を行うことは問題だ」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は70歳代までの年代で過半数を占め、その中でも30歳代が75.5%で最も高く、40歳代以上ではその割合は低くなっている。

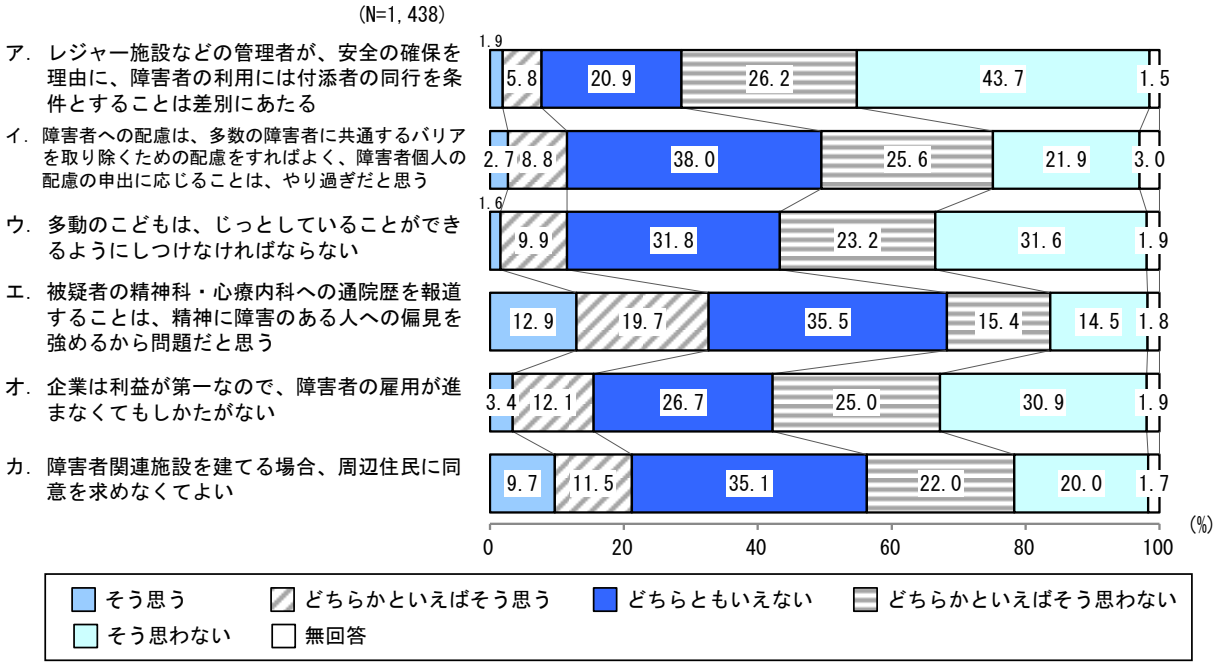
一方、“そう思わない”の割合は80歳以上が24.4%で最も高くなっている。（図表5-1-7）

6．障害者（児）の人権について

（1）障害者（児）の人権についての考え方

問22　次のような考え方について、あなたはどう思いますか。（それぞれあてはまる番号1つに○）

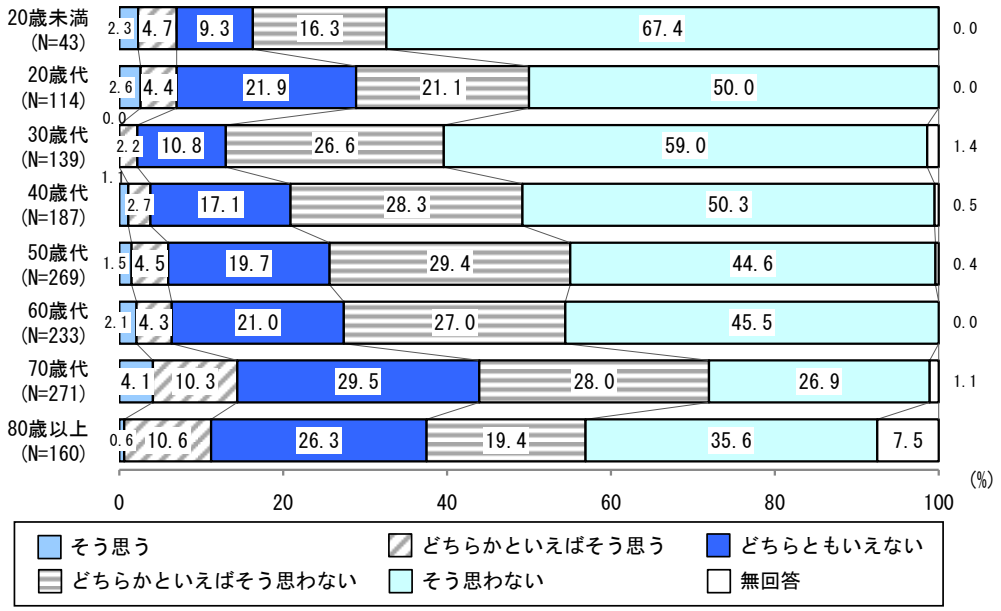
【図表6-1　障害者（児）の人権についての考え方】



障害者（児）の人権についての考え方で、“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合）の割合は、「エ．被疑者の精神科・心療内科への通院歴を報道することは、精神に障害のある人への偏見を強めるから問題だと思う」が32.6%で最も高く、それ以外の項目ではいずれも“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた割合）が“そう思う”を上回っている。

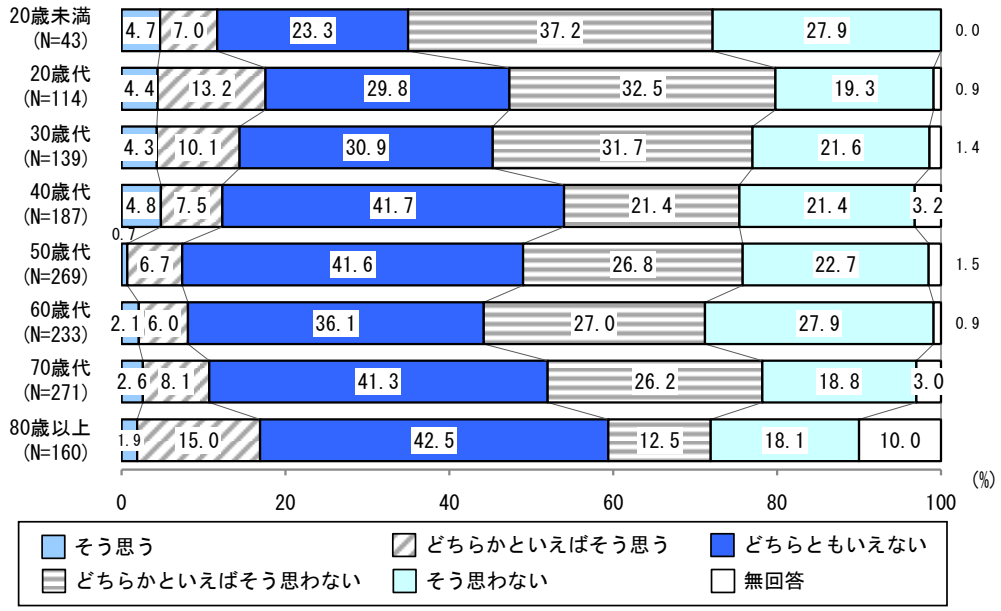
“そう思わない”の割合は「ア．レジャー施設などの管理者が、安全の確保を理由に、障害者の利用には付添者の同行を条件とすることは差別にあたる」が69.9%で最も高く、次いで「オ．企業は利益が第一なので、障害者の雇用が進まなくてもしかたがない」が55.9%、「ウ．多動のこどもは、じっとしていることができるようにしつけなければならない」が54.8%となっている。（図表6-1）

【図表6-1-1　年齢別　ア.レジャー施設などの管理者が、安全の確保を理由に、障害者の利用には付添者の同行を条件とすることは差別にあたる】



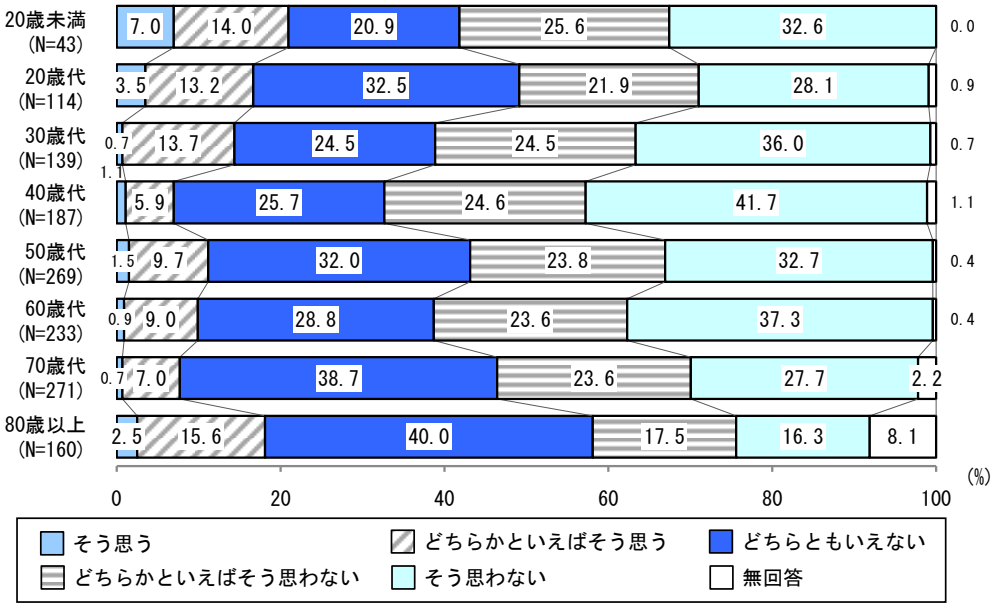
「ア．レジャー施設などの管理者が、安全の確保を理由に、障害者の利用には付添者の同行を条件とすることは差別にあたる」を年齢別でみると、“そう思わない”の割合がいずれの年代も過半数を占め、その中でも30歳代が85.6%で最も高く、次いで20歳未満が83.7%となっている。それに対し70歳代が54.9%で最も低くなっている。（図表6-1-1）

【図表6-1-2　年齢別　イ.障害者への配慮は、多数の障害者に共通するバリアを取り除くための配慮をすればよく、障害者個人の配慮の申出に応じることは、やり過ぎだと思う】



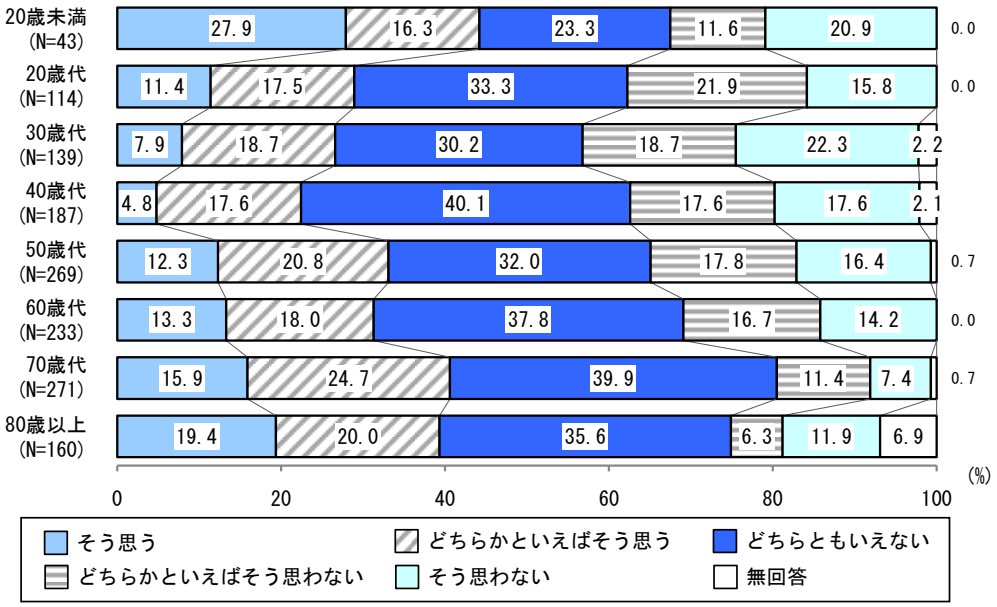
「イ．障害者への配慮は、多数の障害者に共通するバリアを取り除くための配慮をすればよく、障害者個人の配慮の申出に応じることは、やり過ぎだと思う」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳代が17.6%で最も高く、次いで80歳以上が16.9%となっている。一方、“そう思わない”の割合は20歳未満が65.1%で最も高く、70歳代までの年代では４割以上となっている。（図表6-1-2）

【図表6-1-3　年齢別　ウ.多動のこどもは、じっとしていることができるようにしつけなければならない】



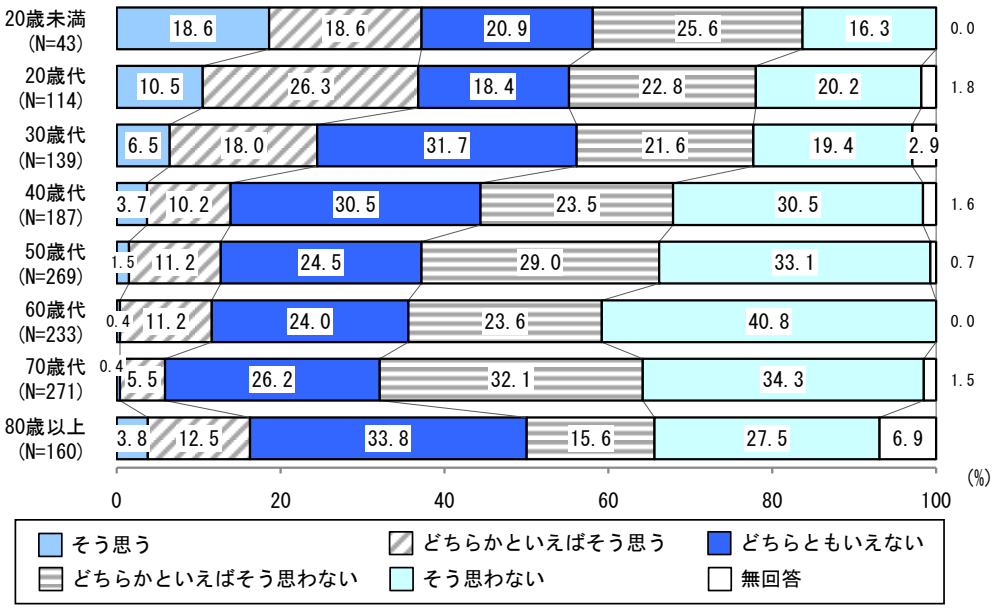
「ウ．多動のこどもは、じっとしていることができるようにしつけなければならない」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。“そう思わない”の割合は40歳代が66.3%で最も高く、次いで60歳代が60.9%、30歳代が60.5%となっている。（図表6-1-3）

【図表6-1-4　年齢別　エ.被疑者の精神科・心療内科への通院歴を報道することは、精神に障害のある人への偏見を強めるから問題だと思う】



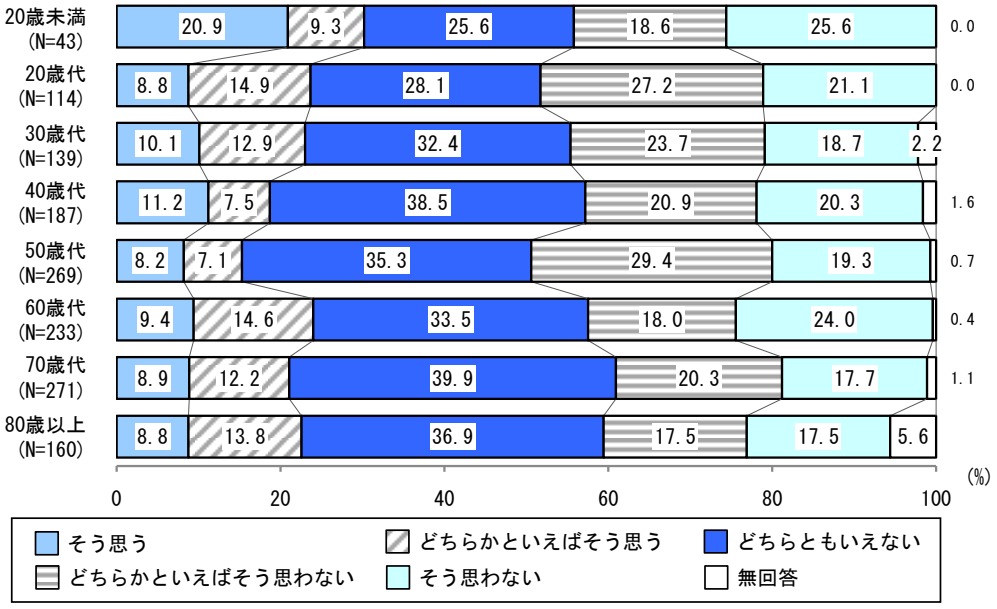
「エ．被疑者の精神科・心療内科への通院歴を報道することは、精神に障害のある人への偏見を強めるから問題だと思う」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳未満が44.2%で最も高く、次いで70歳代が40.6%となっている。一方、“そう思わない”の割合は30歳代が41.0%で最も高く、次いで20歳代が37.7%となっている。（図表6-1-4）

【図表6-1-5　年齢別　オ.企業は利益が第一なので、障害者の雇用が進まなくてもしかたがない】



「オ．企業は利益が第一なので、障害者の雇用が進まなくてもしかたがない」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳未満が37.2%で最も高く、次いで20歳代が36.8%となっている。一方、“そう思わない”の割合は70歳代が66.4%で最も高く、次いで60歳代が64.4%、50歳代が62.1%となっている。（図表6-1-5）

【図表6-1-6　年齢別　力.障害者関連施設を建てる場合、周辺住民に同意を求めなくてよい】



「カ．障害者関連施設を建てる場合、周辺住民に同意を求めなくてよい」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳未満が30.2%で最も高く、次いで60歳代が24.0%となっている。

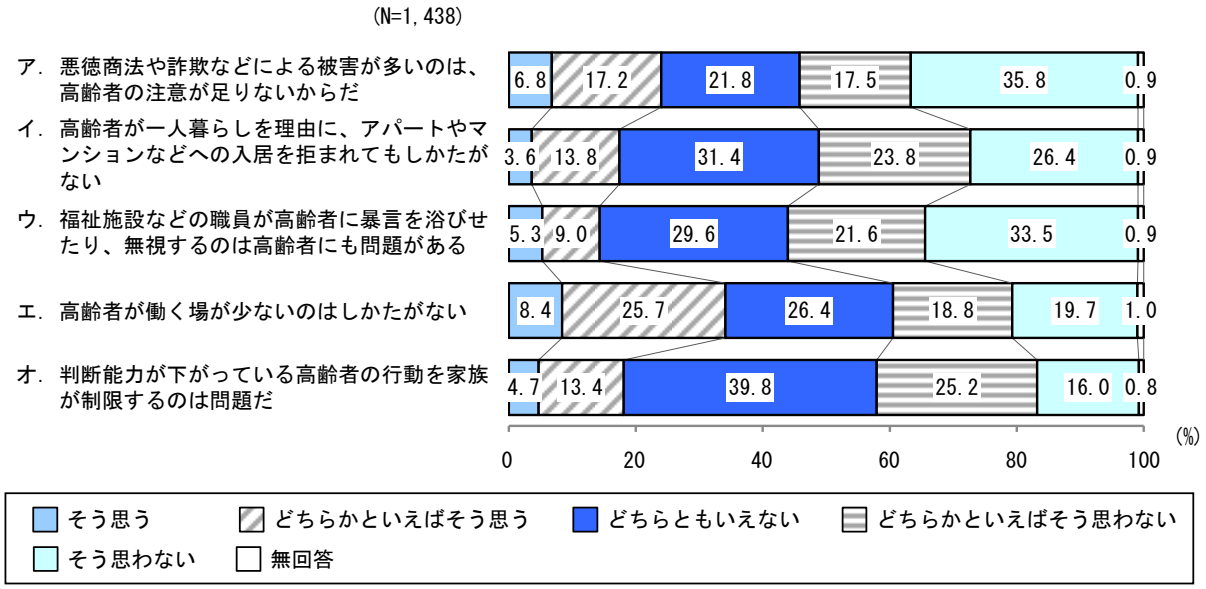
一方、“そう思わない”の割合は50歳代が48.7%で最も高く、次いで20歳代が48.3%となっている。（図表6-1-6）

7．高齢者の人権について

（1）高齢者の人権についての考え方

問23　次のような考え方について、あなたはどう思いますか。（それぞれあてはまる番号1つに○）

【図表7-1　高齢者の人権についての考え方】

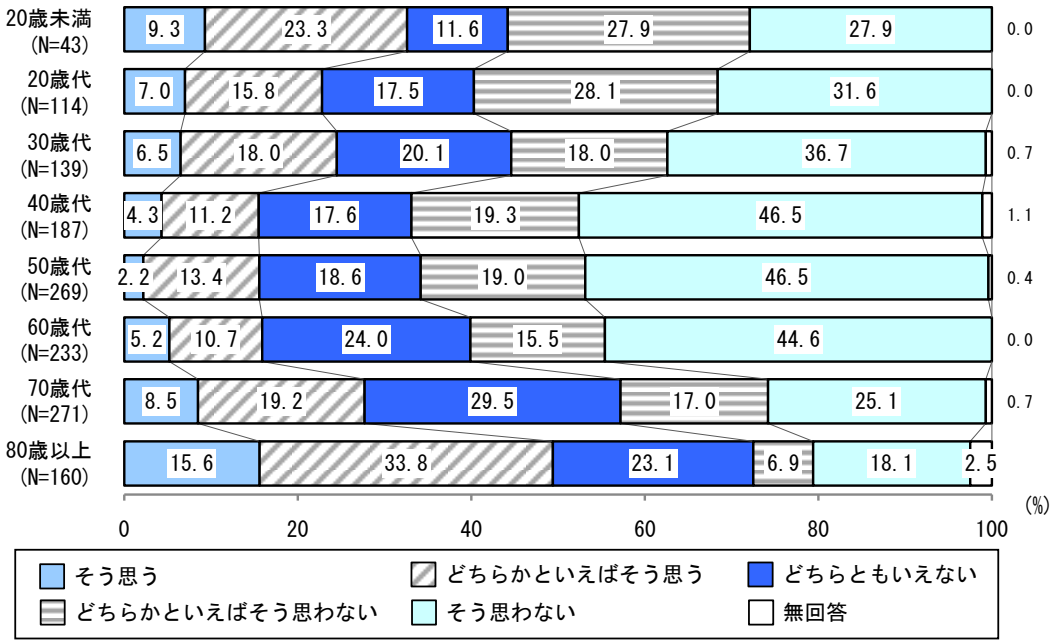


高齢者の人権についての考え方では、“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた割合）が“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合）をすべての項目で上回っている。

“そう思う”の割合は「エ．高齢者が働く場が少ないのはしかたがない」が34.1%で最も高く、次いで「ア．悪徳商法や詐欺などによる被害が多いのは、高齢者の注意が足りないからだ」が24.0%となっている。

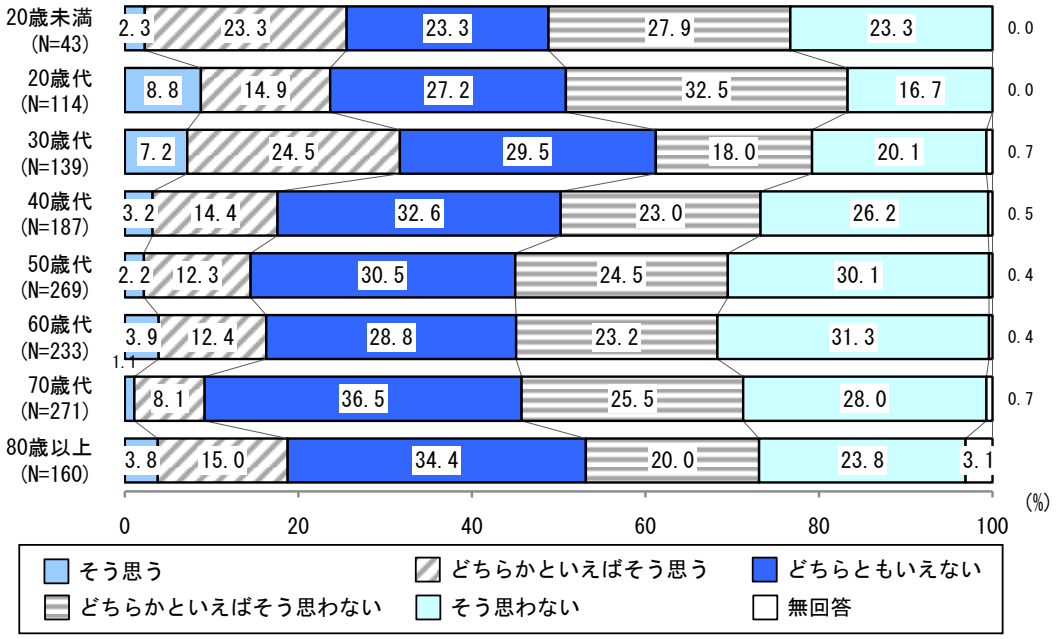
一方、“そう思わない”の割合は「ウ．福祉施設などの職員が高齢者に暴言を浴びせたり、無視するのは高齢者にも問題がある」が55.1%で最も高く、次いで「ア．悪徳商法や詐欺などによる被害が多いのは、高齢者の注意が足りないからだ」が53.3%となっている。（図表7-1）

【図表7-1-1　年齢別　ア.悪徳商法や詐欺などによる被害が多いのは、高齢者の注意が足りないからだ】



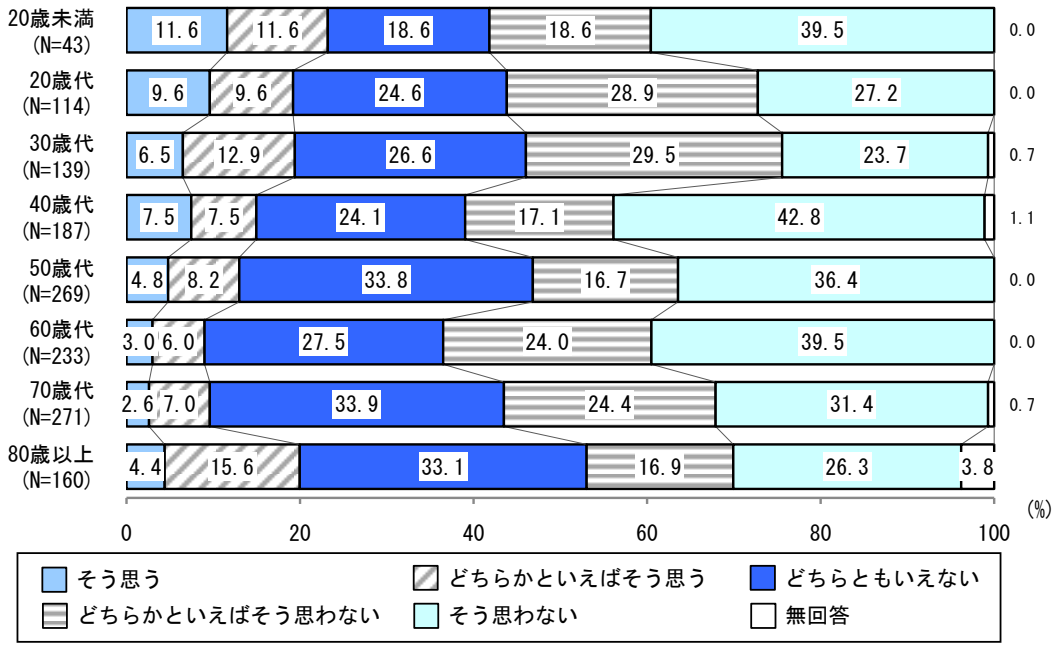
「ア．悪徳商法や詐欺などによる被害が多いのは、高齢者の注意が足りないからだ」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は80歳以上が49.4%で最も高く、次いで20歳未満が32.6%となっている。一方、“そう思わない”の割合は40歳代が65.8%で最も高く、次いで50歳代が65.5%で、60歳代までの年代では過半数を占めている。（図表7-1-1）

【図表7-1-2　年齢別　イ.高齢者が一人暮らしを理由に、アパートやマンションなどへの入居を拒まれてもしかたがない】



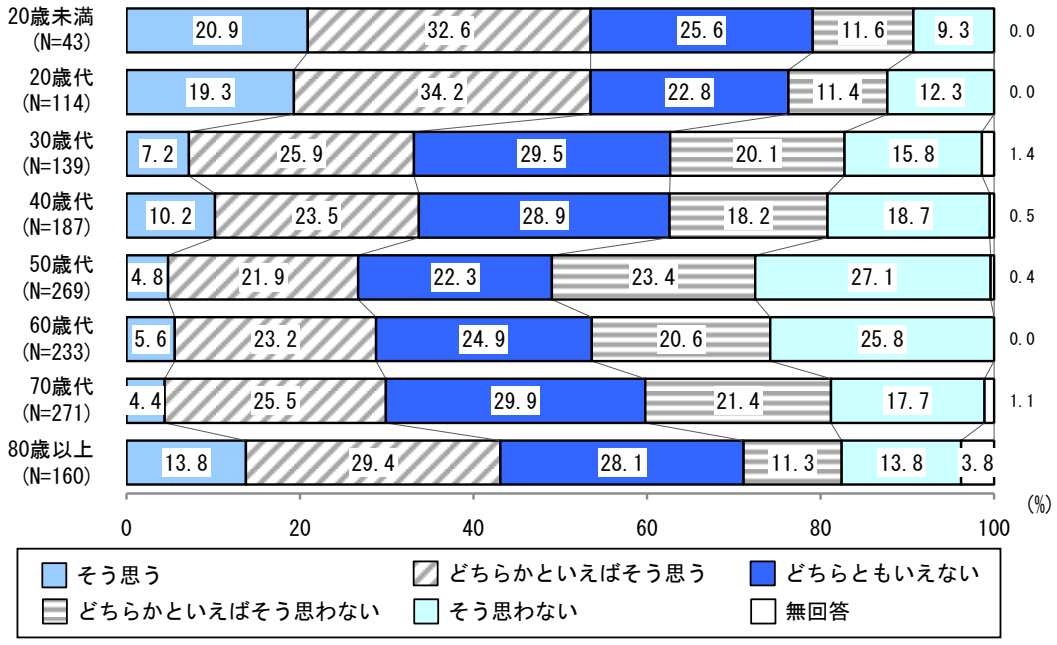
「イ．高齢者が一人暮らしを理由に、アパートやマンションなどへの入居を拒まれてもしかたがない」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は30歳代が31.7%で最も高く、次いで20歳未満が25.6%、20歳代が23.7%となっている。一方、“そう思わない”割合は50歳代が54.6%で最も高く、次いで60歳代が54.5%となっている。（図表7-1-2）

【図表7-1-3　年齢別　ウ.福祉施設などの職員が高齢者に暴言を浴びせたり、無視するのは高齢者にも問題がある】



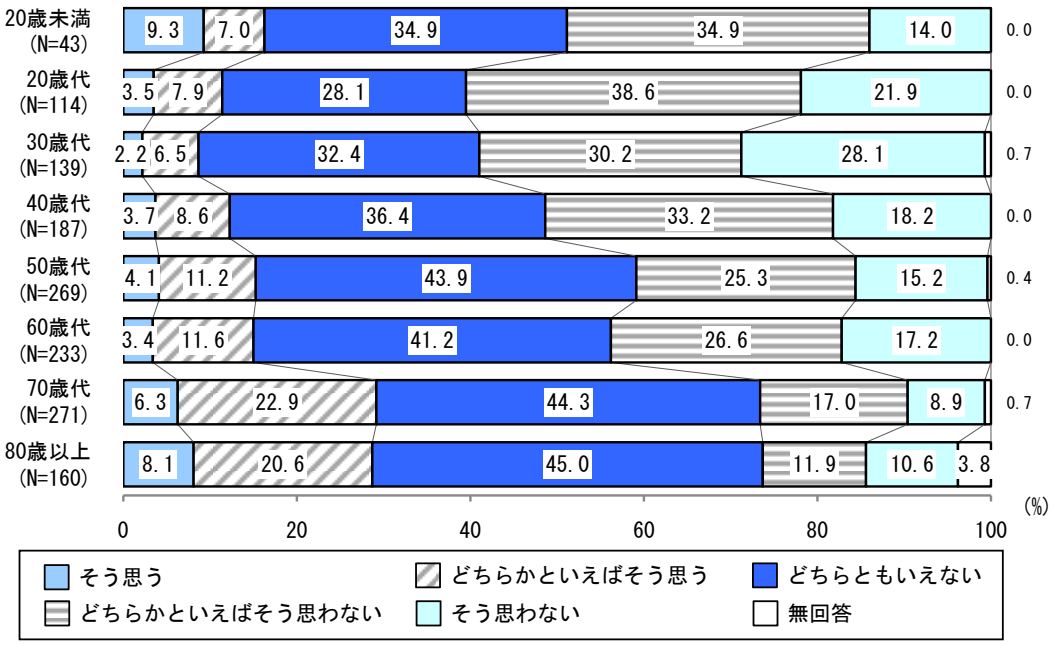
「ウ．福祉施設などの職員が高齢者に暴言を浴びせたり、無視するのは高齢者にも問題がある」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳未満が23.2%で最も高く、次いで80歳以上が20.0%となっている。一方、“そう思わない”割合は60歳代が63.5%で最も高くなっている。（図表7-1-3）

【図表7-1-4　年齢別　エ.高齢者が働く場が少ないのはしかたがない】



「エ．高齢者が働く場が少ないのはしかたがない」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳未満と20歳代がともに53.5%で最も高くなっている。一方、“そう思わない”割合は50歳代が50.5%で最も高く、次いで60歳代が46.4%となっている。（図表7-1-4）

【図表7-1-5　年齢別　オ.判断能力が下がっている高齢者の行動を家族が制限するのは問題だ】



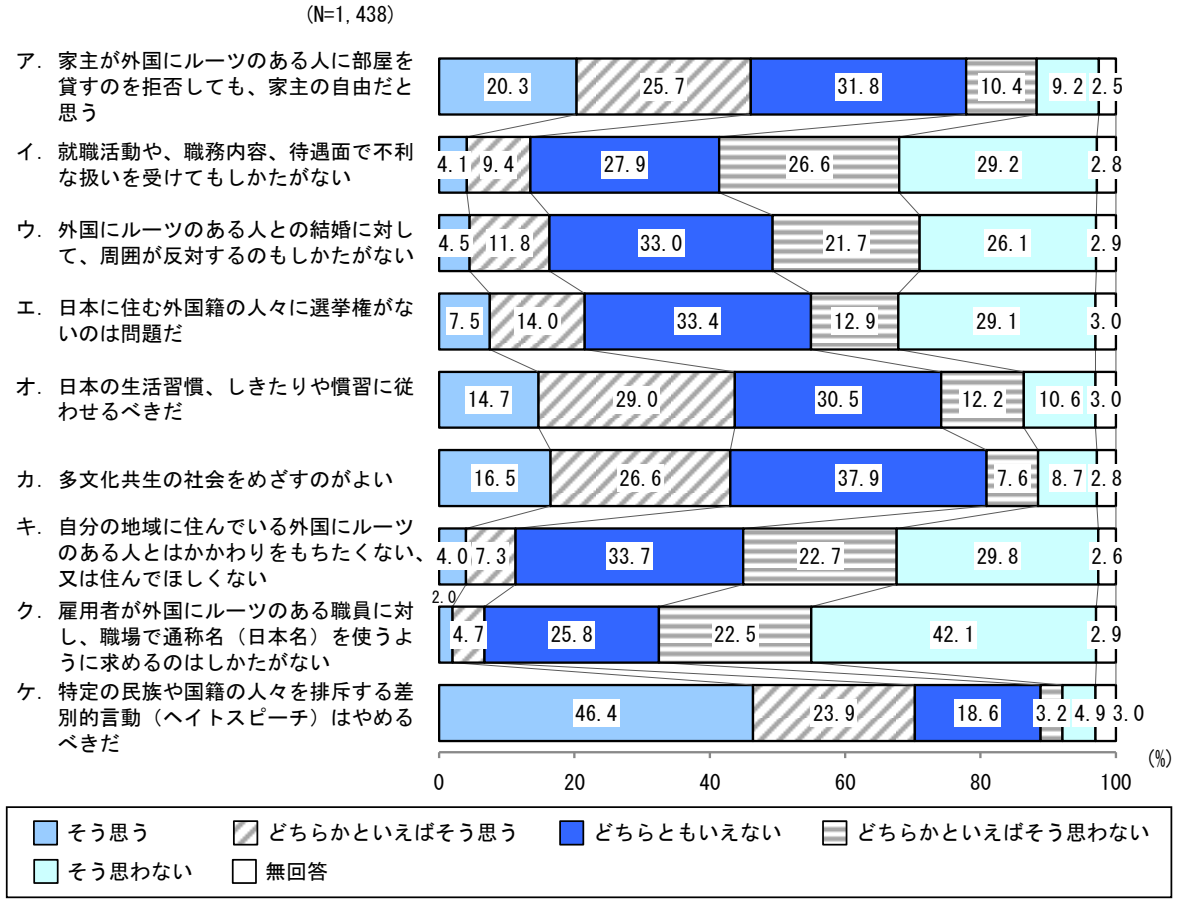
「オ．判断能力が下がっている高齢者の行動を家族が制限するのは問題だ」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は70歳代が29.2%で最も高く、次いで80歳以上が28.7%となっている。一方、“そう思わない”割合は20歳代が60.5%で最も高く、次いで30歳代が58.3%となっている。(図表7-1-5)

８．日本に住む外国にルーツのある人の人権について

（１）外国にルーツのある人への差別についての考え方

問24　次のような考え方について、あなたはどう思いますか。（それぞれあてはまる番号１つに○）

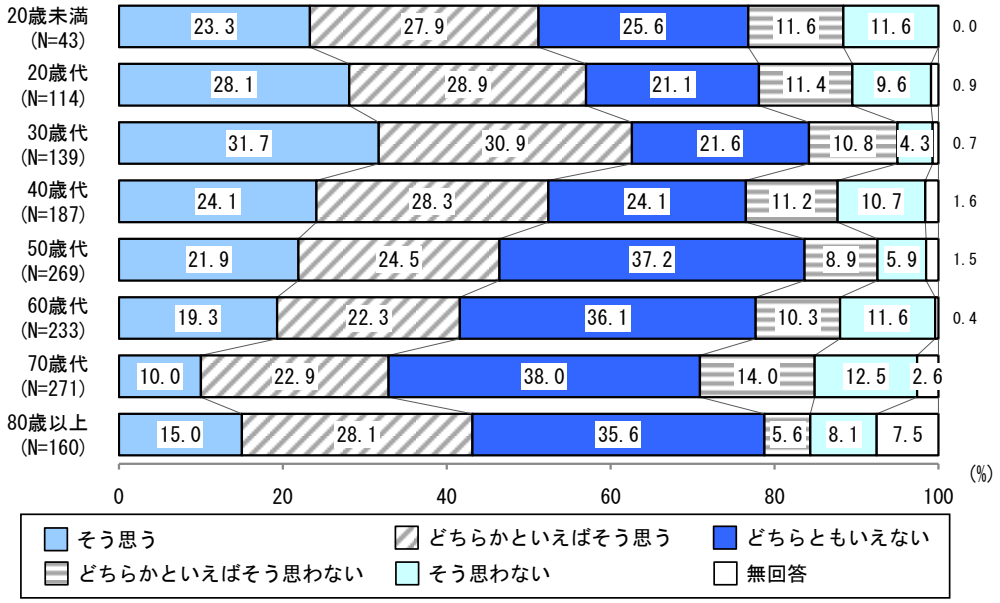
【図表8-1　外国にルーツのある人への差別についての考え方】



外国にルーツのある人への差別についての考え方で、“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合）の割合は「ケ．特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動（ヘイトスピーチ）はやめるべきだ」が70.3%で最も高く、次いで「ア．家主が外国にルーツのある人に部屋を貸すのを拒否しても、家主の自由だと思う」が46.0%、「オ．日本の生活習慣、しきたりや慣習に従わせるべきだ」が43.7%、「カ．多文化共生の社会をめざすのがよい」が43.1%となっている。

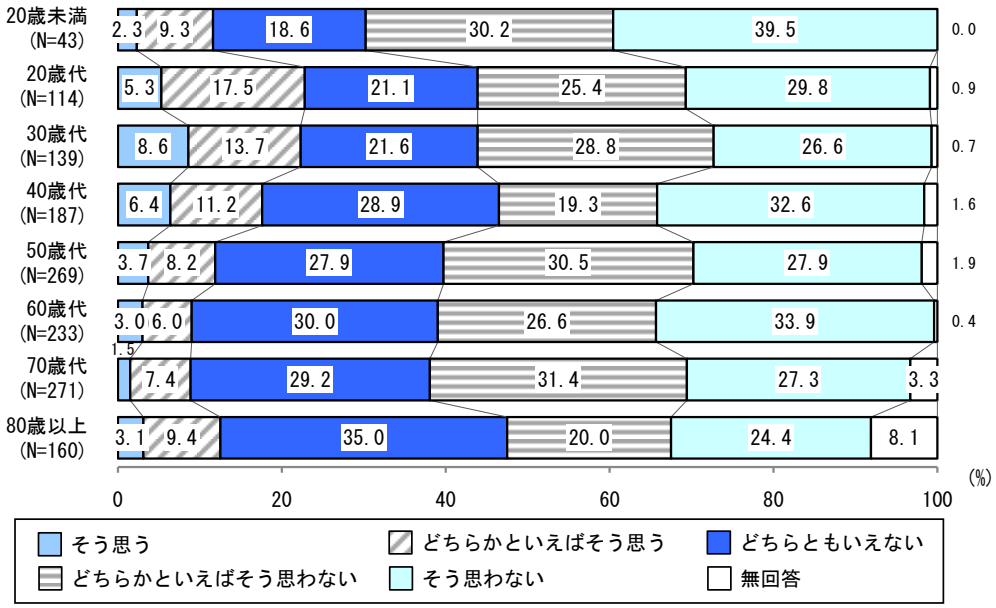
一方、“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた割合）の割合は「ク．雇用者が外国にルーツのある職員に対し、職場で通称名（日本名）を使うように求めるのはしかたがない」が64.6%で最も高く、次いで「イ．就職活動や、職務内容、待遇面で不利な扱いを受けてもしかたがない」が55.8%、「キ．自分の地域に住んでいる外国にルーツのある人とはかかわりをもちたくない、又は住んでほしくない」が52.5%となっている。（図表8-1）

【図表8-1-1　年齢別　ア.家主が部屋を貸すのを拒否しても、家主の自由だと思う】



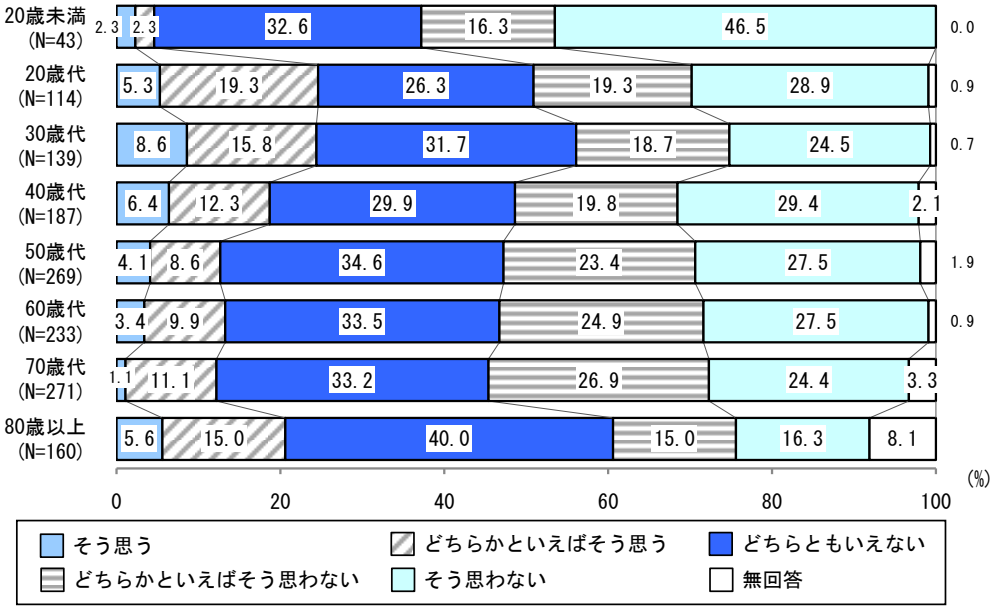
「ア．家主が外国にルーツのある人に部屋を貸すのを拒否しても、家主の自由だと思う」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は30歳代が62.6%で最も高く、次いで20歳代が57.0%となっている。一方、“そう思わない”の割合は70歳代が26.5%で最も高く、次いで20歳未満が23.2%となっている。（図表8-1-1）

【図表8-1-2　年齢別　イ.就職活動や、職務内容、待遇面で不利な扱いを受けてもしかたがない】



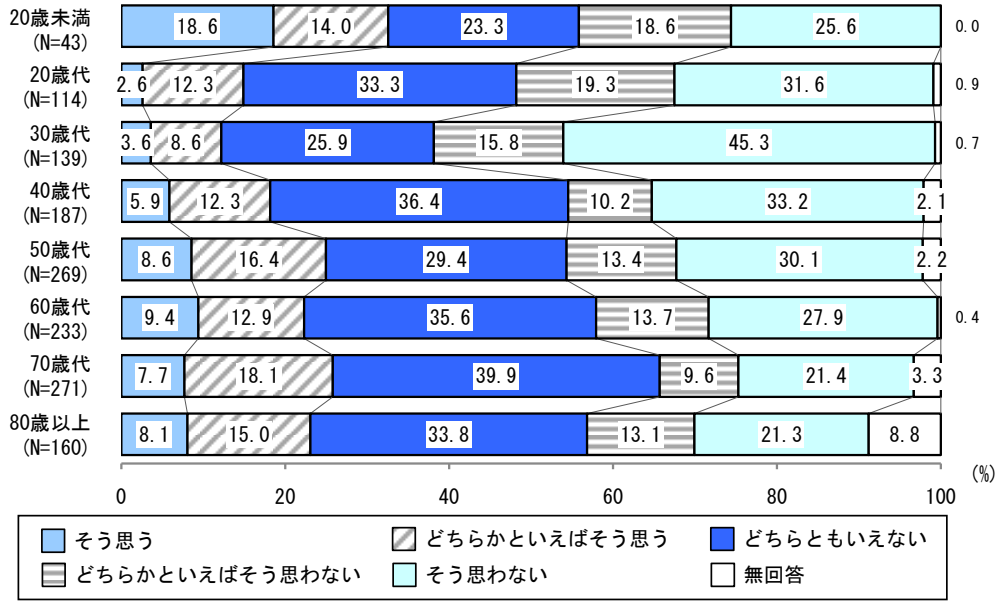
「イ．就職活動や、職務内容、待遇面で不利な扱いを受けてもしかたがない」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳代が22.8%で最も高く、次いで30歳代が22.3%となっている。一方、“そう思わない”の割合は20歳未満が69.7%で最も高く、次いで60歳代が60.5%となっている。（図表8-1-2）

【図表8-1-3　年齢別　ウ.外国にルーツのある人との結婚に対して、周囲が反対するのもしかたがない】



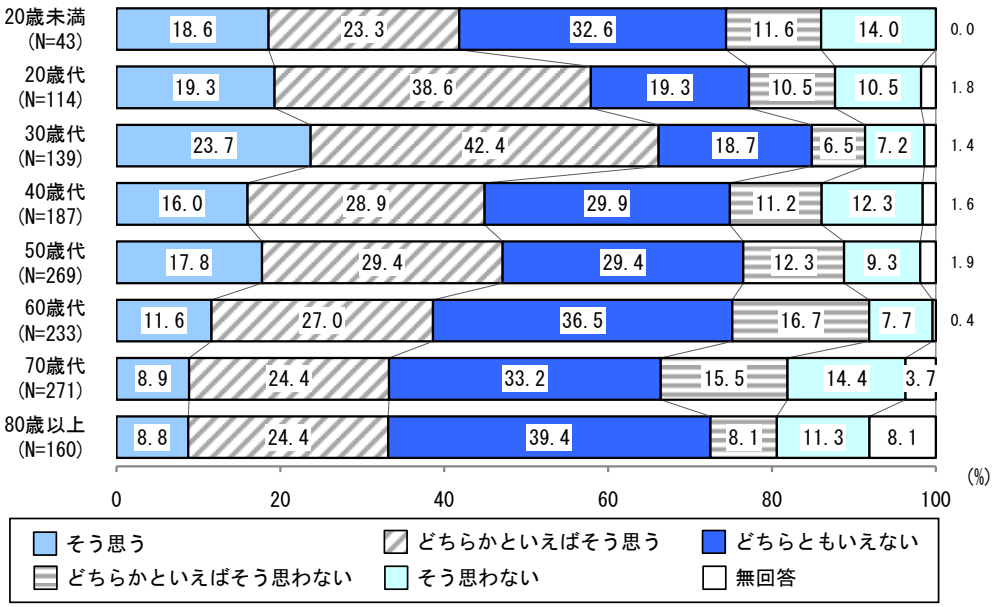
「ウ．外国にルーツのある人との結婚に対して、周囲が反対するのもしかたがない」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。“そう思わない”の割合は20歳未満が62.8%で最も高く、次いで60歳代が52.4%となっている。(図表8-1-3)

【図表8-1-4　年齢別　エ.日本に住む外国籍の人々に選挙権がないのは問題だ】



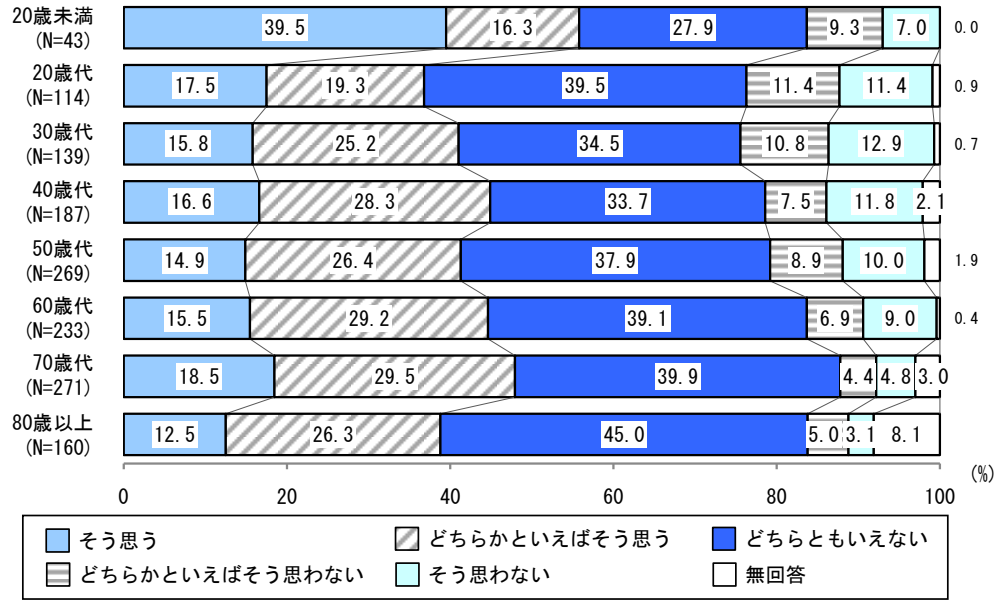
「エ．日本に住む外国籍の人々に選挙権がないのは問題だ」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。“そう思わない”の割合は30歳代が61.1%で最も高く、次いで20歳代が50.9%となっている。(図表8-1-4)

【図表8-1-5　年齢別　オ.日本の生活習慣、しきたりや慣習に従わせるべきだ】



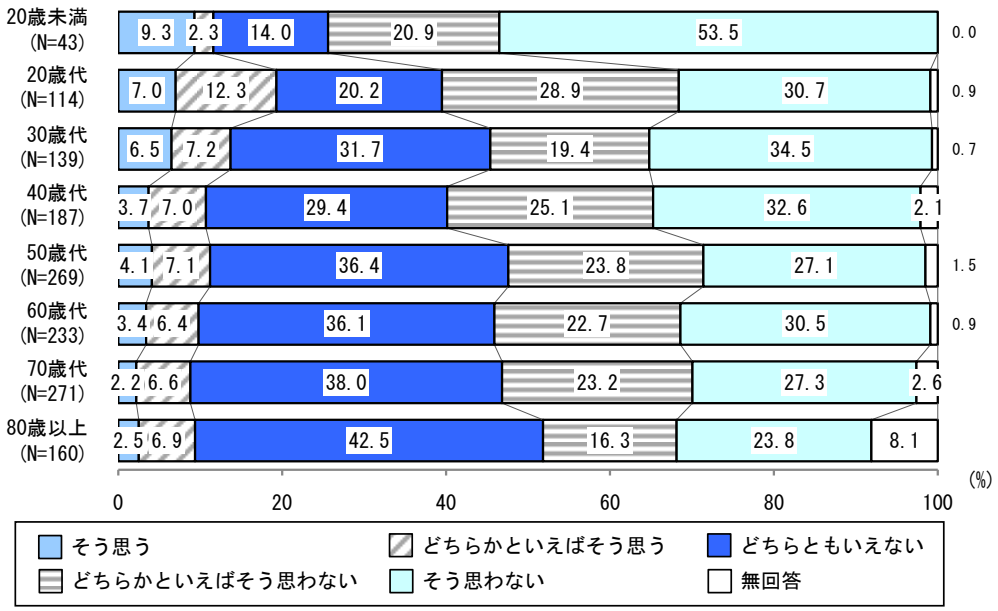
「オ．日本の生活習慣、しきたりや慣習に従わせるべきだ」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思う”が“そう思わない”を上回っている。“そう思う”の割合は30歳代が66.1%で最も高く、次いで20歳代が57.9%となっている。（図表8-1-5）

【図表8-1-6　年齢別　カ.多文化共生の社会をめざすのがよい】



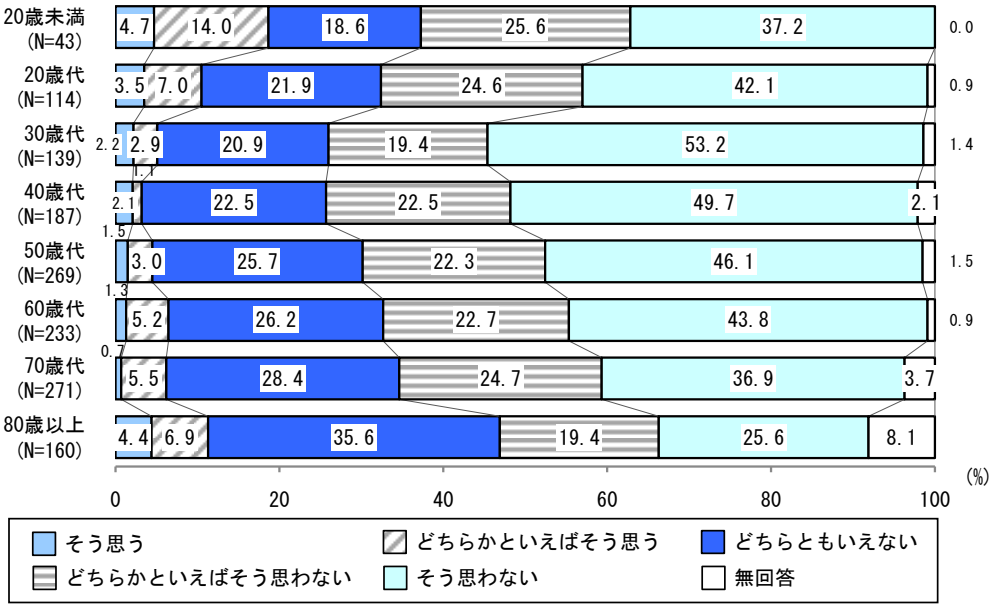
「カ．多文化共生の社会をめざすのがよい」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、“そう思う”の割合は20歳未満が55.8%で最も高く、次いで70歳代が48.0%となっている。また、「どちらともいえない」の割合は80歳以上が45.0%で最も高くなっている。（図表8-1-6）

【図表8-1-7　年齢別　キ.自分の地域に住んでいる外国にルーツのある人とはかかわりをもちたくない、又は住んでほしくない】



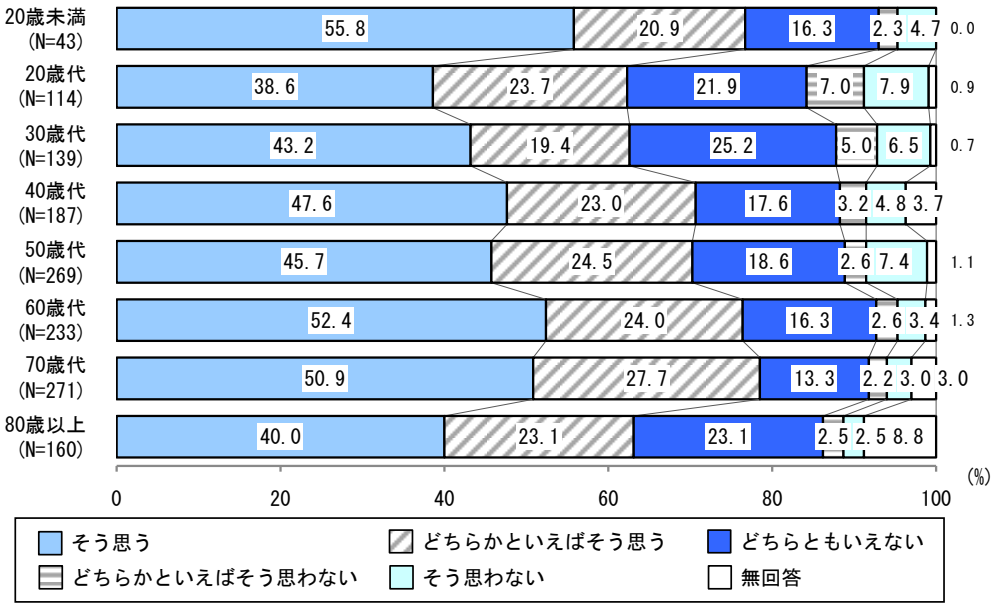
「キ．自分の地域に住んでいる外国にルーツのある人とはかかわりをもちたくない、又は住んでほしくない」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思わない”が“そう思う”を上回っており、“そう思わない”の割合は20歳未満が74.4%で最も高く、次いで20歳代が59.6%となっている。また、「どちらともいえない」の割合は80歳以上が42.5%で最も高く、その割合は高齢になるほど高くなる傾向がみられる。（図表8-1-7）

【図表8-1-8　年齢別　ク.雇用者が外国にルーツのある職員に対し、職場で通称名（日本名）を使うように求めるのはしかたがない】



「ク．雇用者が外国にルーツのある職員に対し、職場で通称名（日本名）を使うように求めるのはしかたがない」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。“そう思わない”の割合は30歳代が72.6%で最も高く、次いで40歳代が72.2%で、高齢になるほど割合が低下している。（図表8-1-8）

【図表8-1-9　年齢別　ケ.特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動（ヘイトスピーチ）はやめるべきだ】

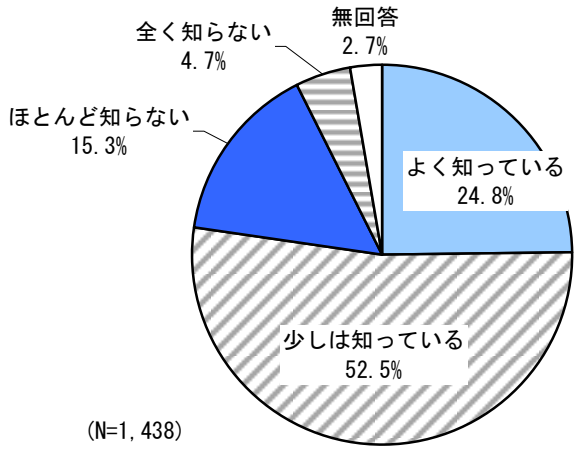


「ケ.特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動（ヘイトスピーチ）はやめるべきだ」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思う”が“そう思わない”を上回っている。“そう思う”の割合は70歳代が78.6%で最も高く、次いで20歳未満が76.7%、60歳代が76.4%となっている。（図表8-1-9）

（２）戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況

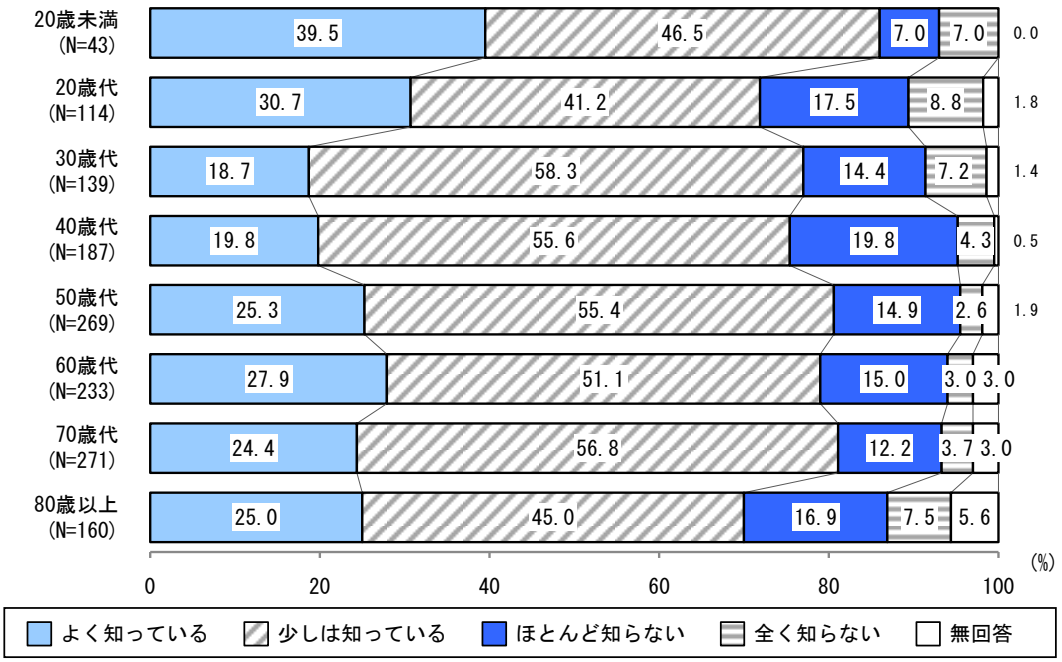
問25　あなたは、戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策を行っていたことを知っていますか。（あてはまる番号１つに○）

【図表8-2　戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況】



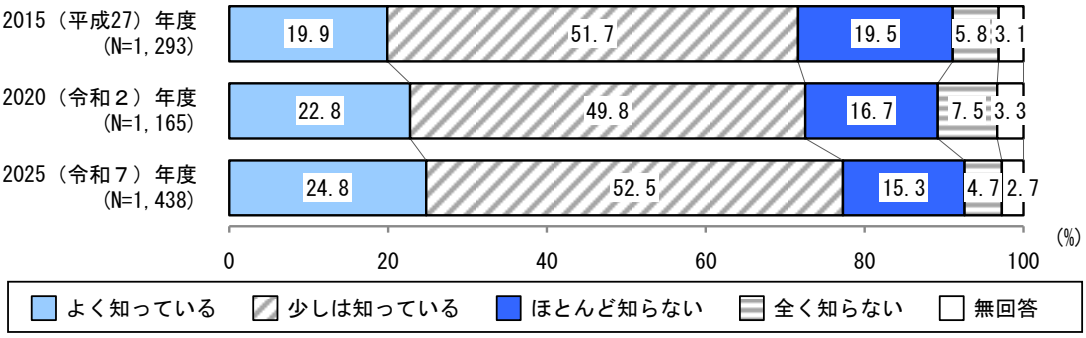
戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことについて、「少しは知っている」が52.5%で最も多く、次いで「よく知っている」が24.8%、「ほとんど知らない」が15.3%となっている。“知っている”（「よく知っている」と「少しは知っている」をあわせた割合）は77.3%である。（図表8-2）

【図表8-2-1　年齢別　戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況】



年齢別でみると、“知っている”の割合は20歳未満が86.0%で最も高く、次いで70歳代が81.2%となっている。一方、80歳以上は70.0%で最も低くなっている。（図表8-2-1）

【図表8-2-2　経年比較　戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況】



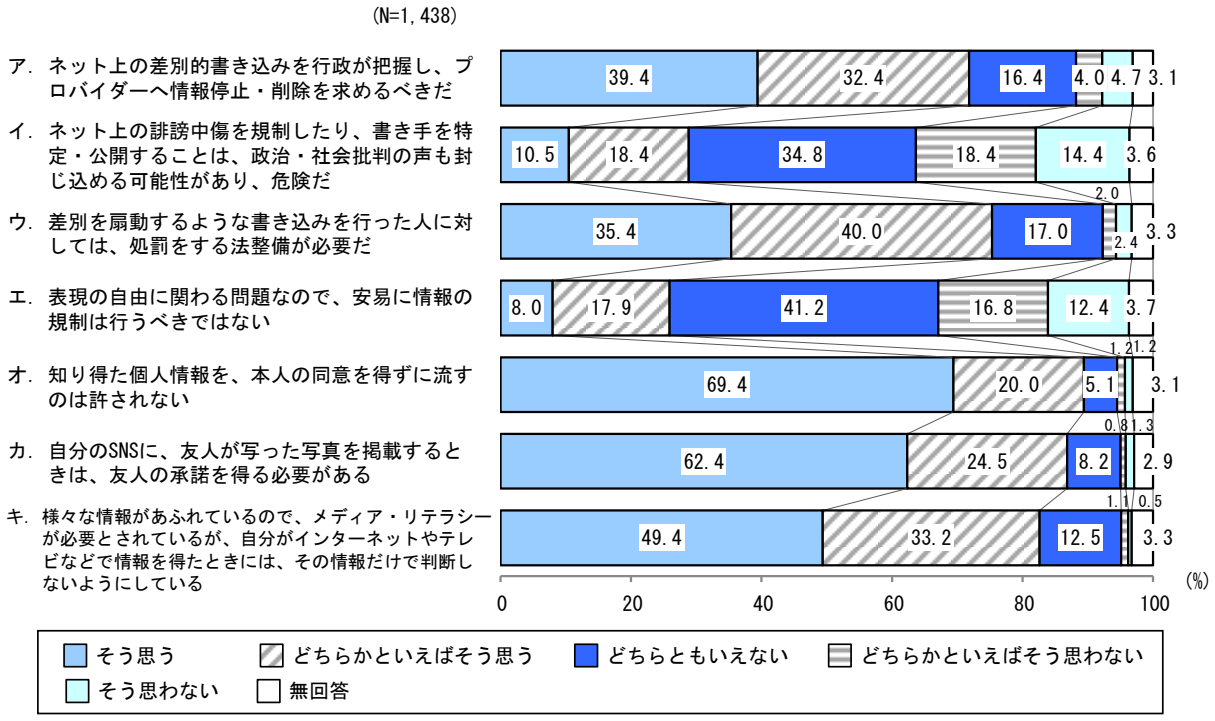
経年比較でみると、“知っている”の割合は増加傾向にあり、前々回調査からは5.7ポイント、前回調査からは4.7ポイントそれぞれ増加している。(図表8-2-2)

9．様々な人権について

（1）インターネットについての考え方

問26　インターネットに関する次の考え方について、あなたはどう思いますか。（それぞれあてはまる番号１つに○）

【図表9-1　インターネットについての考え方】

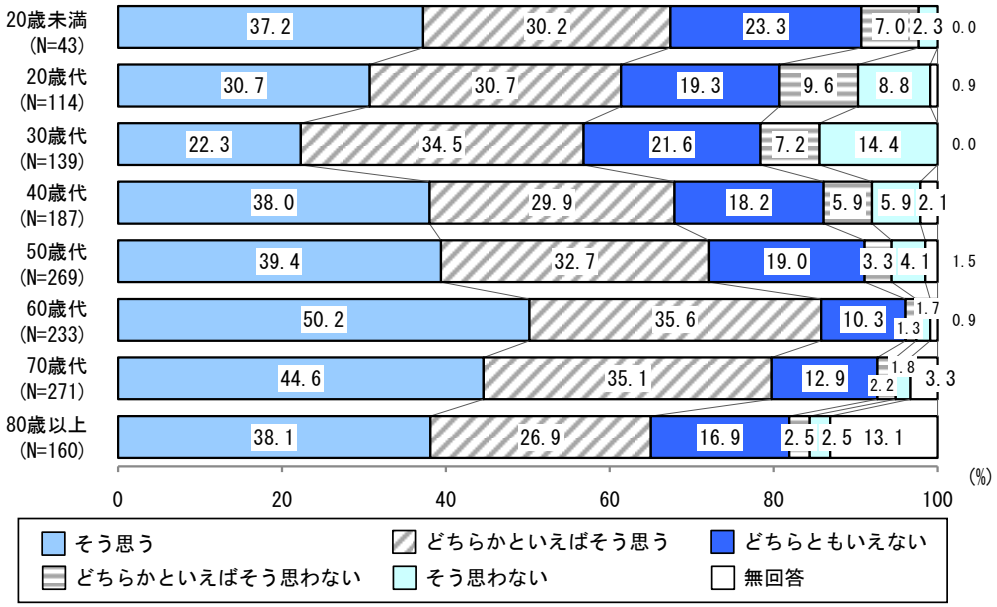


インターネットについての考え方について、“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合）は「オ．知り得た個人情報を、本人の同意を得ずに流すのは許されない」が89.4%で最も高く、次いで「カ．自分のSNSに、友人が写った写真を掲載するときは、友人の承諾を得る必要がある」が86.9%、「キ．様々な情報があふれているので、メディア・リテラシーが必要とされているが、自分がインターネットやテレビなどで情報を得たときには、その情報だけで判断しないようにしている」が82.6%、「ウ．差別を扇動するような書き込みを行った人に対しては、処罰をする法整備が必要だ」が75.4%となっている。

一方、“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた割合）は「イ．ネット上の誹謗中傷を規制したり、書き手を特定・公開することは、政治・社会批判の声も封じ込める可能性があり、危険だ」が32.8%で最も高く、次いで「エ．表現の自由に関わる問題なので、安易に情報の規制は行うべきではない」が29.2%となっている。

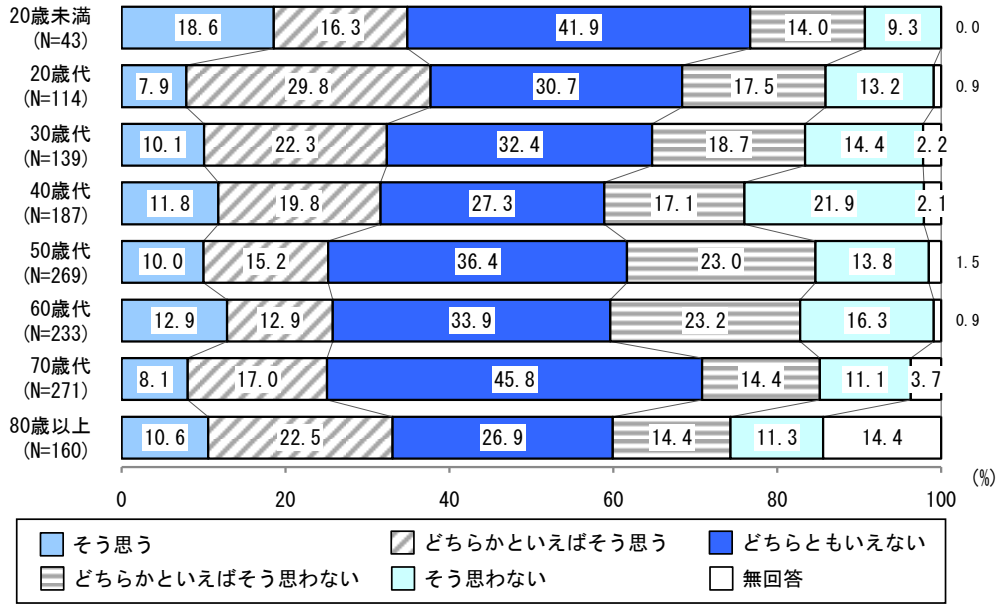
また、「イ．ネット上の誹謗中傷を規制したり、書き手を特定・公開することは、政治・社会批判の声も封じ込める可能性があり、危険だ」と「エ．表現の自由に関わる問題なので、安易に情報の規制は行うべきではない」は「どちらともいえない」の割合が最も多くなっている。（図表9-1）

【図表9-1-1　年齢別　ア.ネット上の差別的書き込みを行政が把握し、プロバイダーへ情報停止・削除を求めるべきだ】



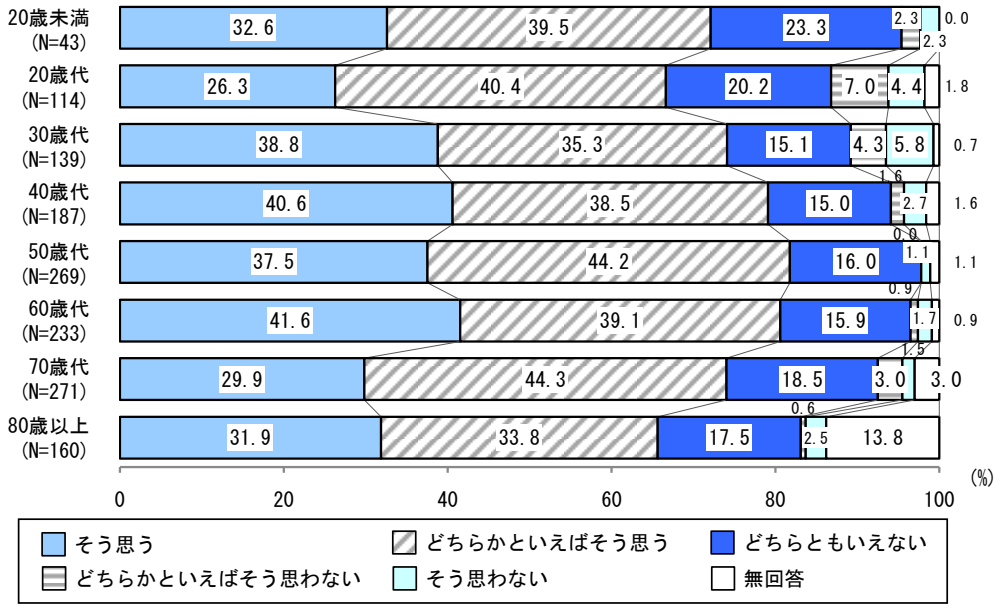
「ア．ネット上の差別的書き込みを行政が把握し、プロバイダーへ情報停止・削除を求めるべきだ」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思う”が“そう思わない”を上回っている。“そう思う”の割合は60歳代が85.8%で最も高く、次いで70歳代が79.7%、50歳代が72.1%となっている。一方、“そう思わない”の割合は30歳代が21.6%で最も高くなっている。（図表9-1-1）

【図表9-1-2　年齢別　イ.ネット上の誹謗中傷を規制したり、書き手を特定・公開することは、政治・社会批判の声も封じ込める可能性があり、危険だ】



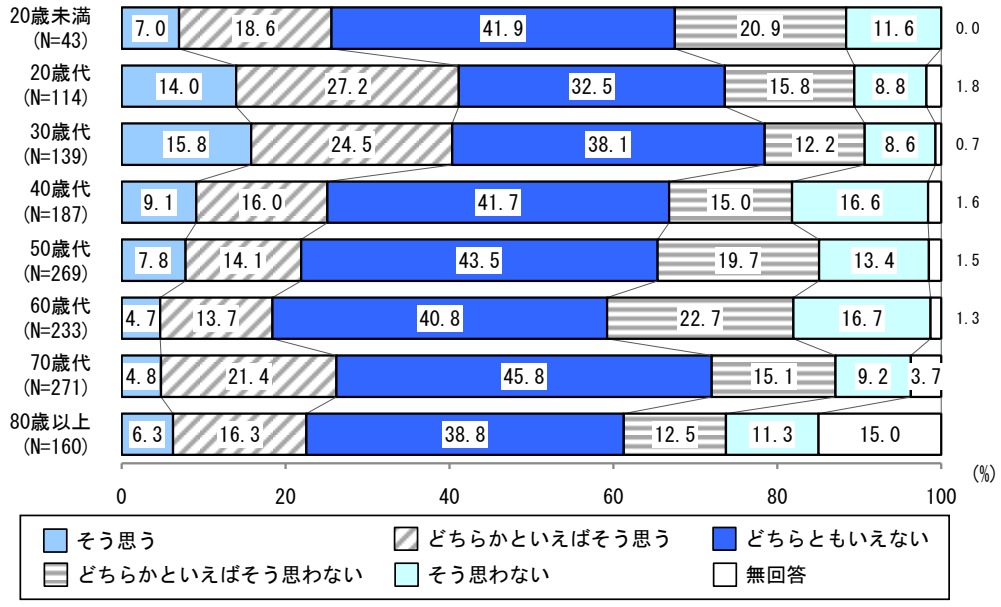
「イ．ネット上の誹謗中傷を規制したり、書き手を特定・公開することは、政治・社会批判の声も封じ込める可能性があり、危険だ」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳代が37.7%で最も高く、次いで20歳未満が34.9%となっている。一方、“そう思わない”の割合は60歳代が39.5%で最も高く、次いで40歳代が39.0%となっている。（図表9-1-2）

【図表9-1-3　年齢別　ウ.差別を扇動するような書き込みを行った人に対しては、処罰をする法整備が必要だ】



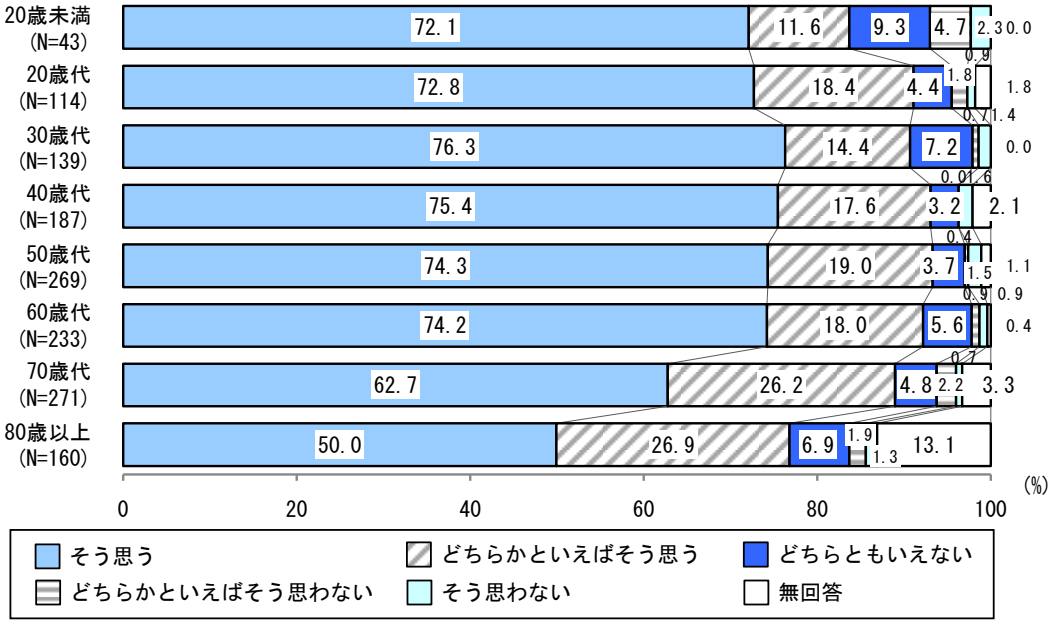
「ウ.差別を扇動するような書き込みを行った人に対しては、処罰をする法整備が必要だ」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、“そう思う”の割合は50歳代が81.7%で最も高く、次いで60歳代が80.7%となっている。(図表9-1-3)

【図表9-1-4　年齢別　エ.表現の自由に関わる問題なので、安易に情報の規制は行うべきではない】



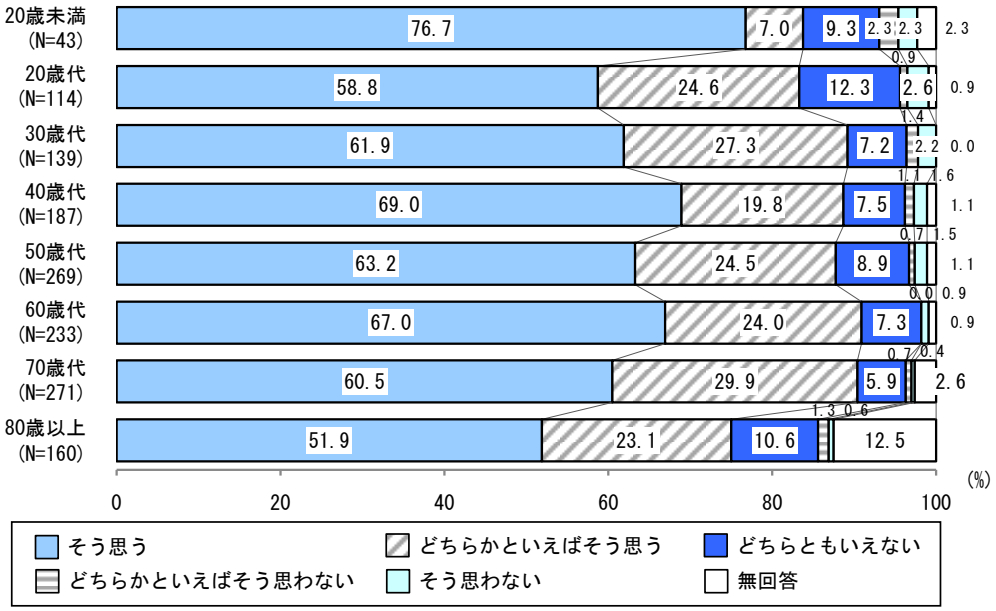
「エ. 表現の自由に関わる問題なので、安易に情報の規制は行うべきではない」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は20歳代が41.2%で最も高く、次いで30歳代が40.3%となっている。一方、“そう思わない”の割合は60歳代が39.4%で最も高く、次いで50歳代が33.1%となっている。(図表9-1-4)

【図表9-1-5　年齢別　オ.知り得た個人情報を、本人の同意を得ずに流すのは許されない】



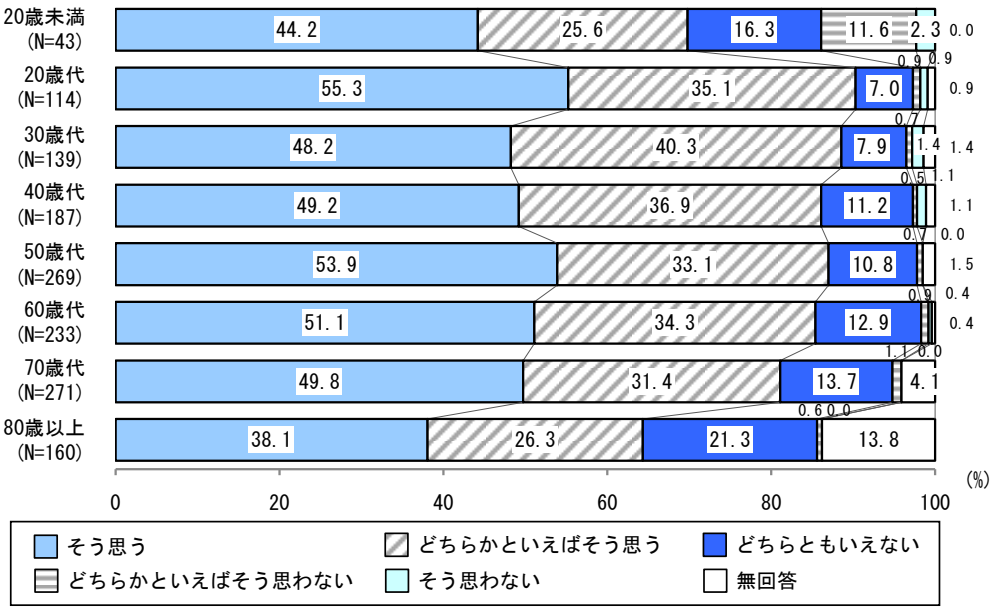
「オ.知り得た個人情報を、本人の同意を得ずに流すのは許されない」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、“そう思う”の割合は20～60歳代でそれぞれ９割台を占めている。（図表9-1-5）

【図表9-1-6　年齢別　カ.自分のSNSに、友人が写った写真を掲載するときは、友人の承諾を得る必要がある】



「カ．自分のSNSに、友人が写った写真を掲載するときは、友人の承諾を得る必要がある」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、その中でも、“そう思う”の割合は60・70歳代では９割台を占めている。（図表9-1-6）

【図表9-1-7　年齢別　キ.様々な情報があふれているので、メディア・リテラシーが必要とされているが、自分がインターネットやテレビなどで情報を得たときには、その情報だけで判断しないようにしている】

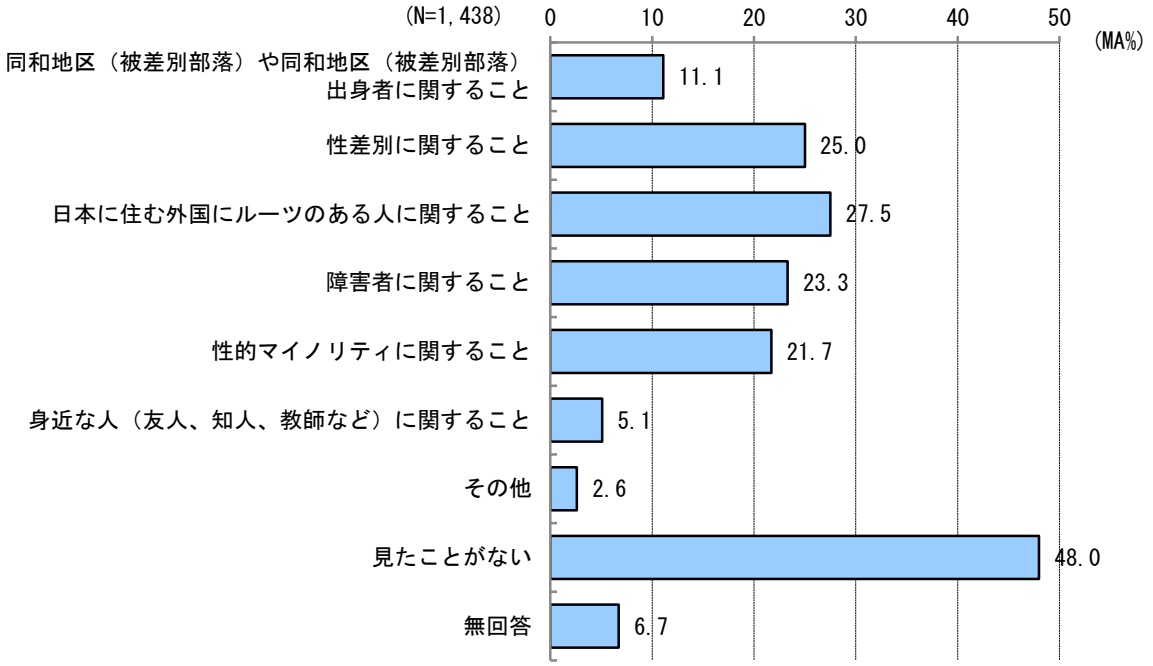


「キ．様々な情報があふれているので、メディア・リテラシーが必要とされているが、自分がインターネットやテレビなどで情報を得たときには、その情報だけで判断しないようにしている」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思う”が“そう思わない”を上回っている。“そう思う”の割合は20歳代が90.4%で最も高く、30歳代以降は割合が低くなる傾向がみられる。（図表9-1-7）

（2）インターネット上で誹謗中傷や差別を助長・誘発する書き込みを目にした経験

問27　あなたは次のことで、インターネット上で誹謗中傷や差別を助長・誘発する書き込みを見たことがありますか。（あてはまる番号すべてに○）

【図表9-2　インターネット上で誹謗中傷や差別を助長・誘発する書き込みを目にした経験】



インターネット上で誹謗中傷や差別を助長･誘発する書き込みを目にした経験については、「見たことがない」が48.0%で最も高い。

見たことがある人は45.3%で、その内容は「日本に住む外国にルーツのある人に関すること」が27.5%で最も多く、次いで「性差別に関すること」が25.0%、「障害者に関すること」が23.3%、「性的マイノリティに関すること」が21.7%となっている。（図表9-2）

【図表9-2-1　年齢別　インターネット上で誹謗中傷や差別を助長・誘発する書き込みを目にした経験】

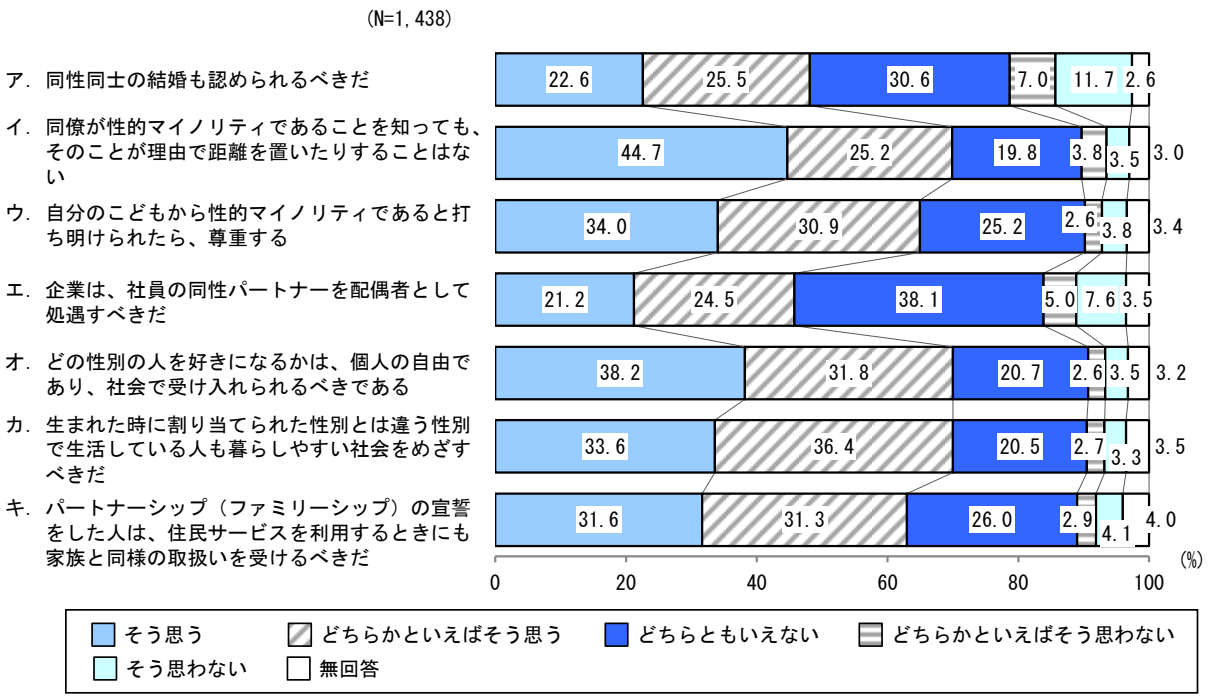
上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	同和地区（被差別部落）や同和地区（被差別部落）出身者に関すること	性差別に関すること	日本に住む外国にルーツのある人に関すること	障害者に関すること	性的マイノリティに関すること	身近な人（友人、知人、教師など）に関すること	その他	見たことがない	無回答
20歳未満	43	4	20	20	20	15	2	1	12	2
	100.0	9.3	46.5	46.5	46.5	34.9	4.7	2.3	27.9	4.7
20歳代	114	10	61	46	60	49	15	4	26	2
	100.0	8.8	53.5	40.4	52.6	43.0	13.2	3.5	22.8	1.8
30歳代	139	21	71	70	60	59	16	2	33	3
	100.0	15.1	51.1	50.4	43.2	42.4	11.5	1.4	23.7	2.2
40歳代	187	22	50	66	51	47	8	6	78	4
	100.0	11.8	26.7	35.3	27.3	25.1	4.3	3.2	41.7	2.1
50歳代	269	37	70	81	66	63	12	9	118	9
	100.0	13.8	26.0	30.1	24.5	23.4	4.5	3.3	43.9	3.3
60歳代	233	34	45	56	35	40	9	4	134	11
	100.0	14.6	19.3	24.0	15.0	17.2	3.9	1.7	57.5	4.7
70歳代	271	22	29	41	29	28	5	6	177	28
	100.0	8.1	10.7	15.1	10.7	10.3	1.8	2.2	65.3	10.3
80歳以上	160	10	11	12	12	9	5	4	101	32
	100.0	6.3	6.9	7.5	7.5	5.6	3.1	2.5	63.1	20.0

年齢別でみると、20・30歳代では「性差別に関すること」が最も多く、40歳以上では「日本に住む外国にルーツのある人に関すること」が最も多くなっている。20歳未満では「性差別に関すること」と「日本に住む外国にルーツのある人に関すること」、「障害者に関すること」が同率（46.5%）で最も多くなっている。（図表9-2-1）

（3）性的マイノリティについての考え方

問28　性的マイノリティに関する次の考え方について、あなたはどう思いますか。
（それぞれあてはまる番号１つに○）

【図表9-3　性的マイノリティについての考え方】

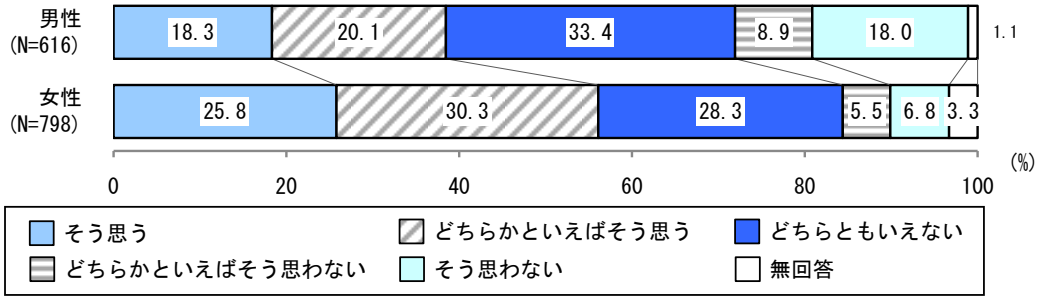


性的マイノリティについての考え方について、いずれの項目も“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合）が“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた割合）を上回っている。

“そう思う”の割合は「オ．どの性別の人を好きになるかは、個人の自由であり、社会で受け入れられるべきである」と「カ．生まれた時に割り当てられた性別とは違う性別で生活している人も暮らしやすい社会をめざすべきだ」がともに70.0%で最も高く、次いで「イ．同僚が性的マイノリティであることを知っても、そのことが理由で距離を置いたりすることはない」が69.9%となっている。

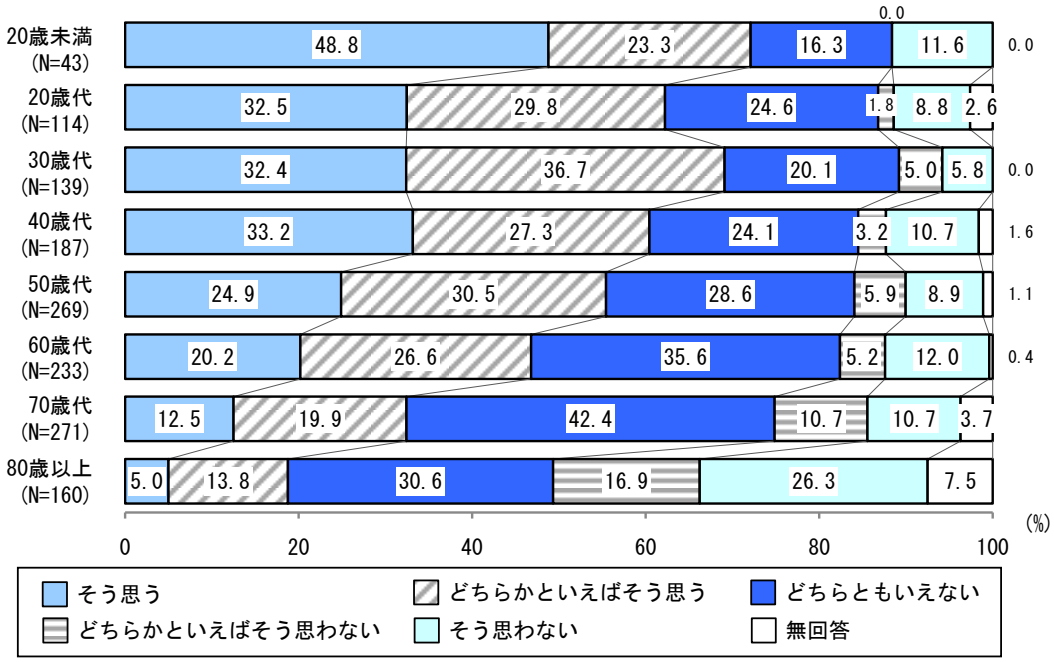
一方、“そう思わない”の割合は「ア．同性同士の結婚も認められるべきだ」が18.7%で最も高くなっている。（図表9-3）

【図表9-3-1　性別　ア.同性同士の結婚も認められるべきだ】



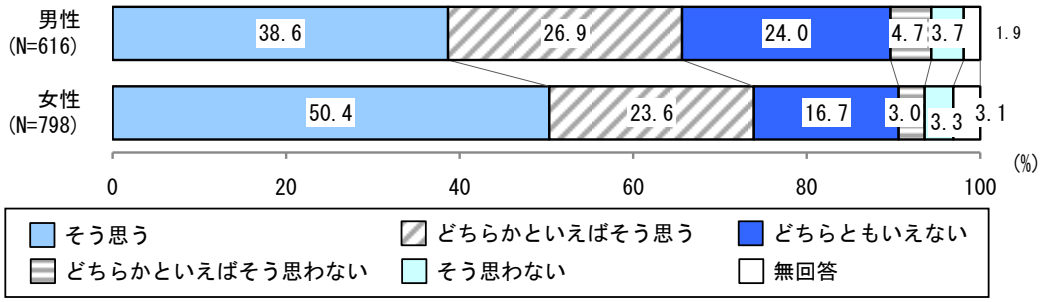
「ア．同性同士の結婚も認められるべきだ」を性別でみると、“そう思う”の割合は男性（38.4%）に比べ女性（56.1%）のほうが17.7ポイント高い。一方、“そう思わない”の割合は女性（12.3%）より男性（26.9%）のほうが14.6ポイント高くなっている。（図表9-3-1）

【図表9-3-2　年齢別　ア.同性同士の結婚も認められるべきだ】



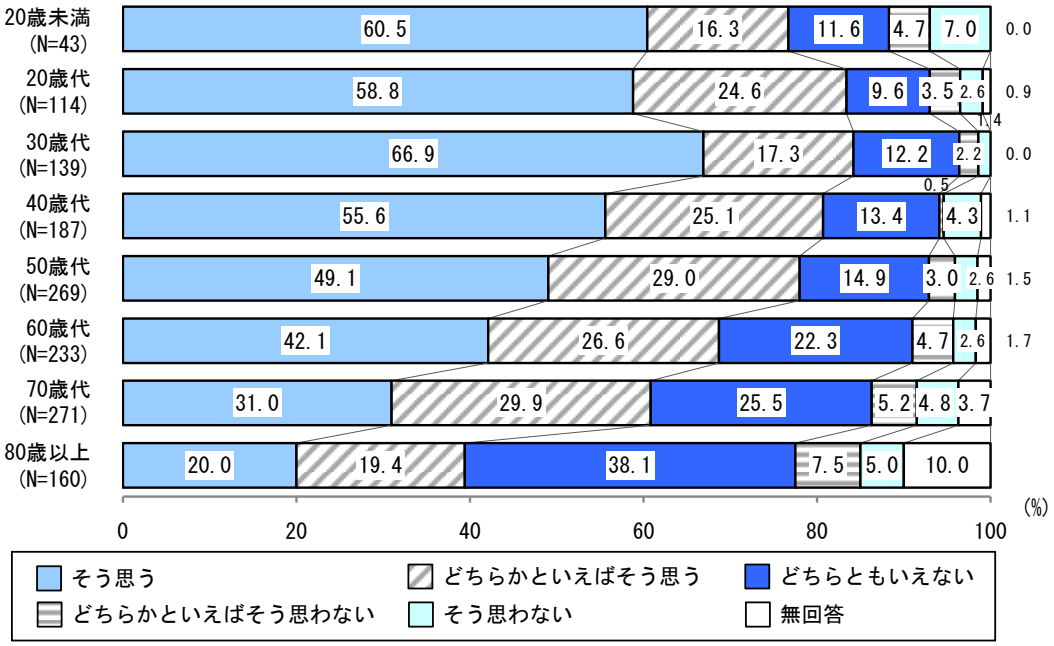
「ア．同性同士の結婚も認められるべきだ」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は、20歳未満が72.1%で最も多く、次いで30歳代が69.1%で、高齢になるほど低くなる傾向にある。一方、“そう思わない”の割合は80歳以上が43.2%で最も高くなっている。（図表9-3-2）

【図表9-3-3　性別　イ.同僚が性的マイノリティであることを知っても、そのことが理由で距離を置いたりすることはない】



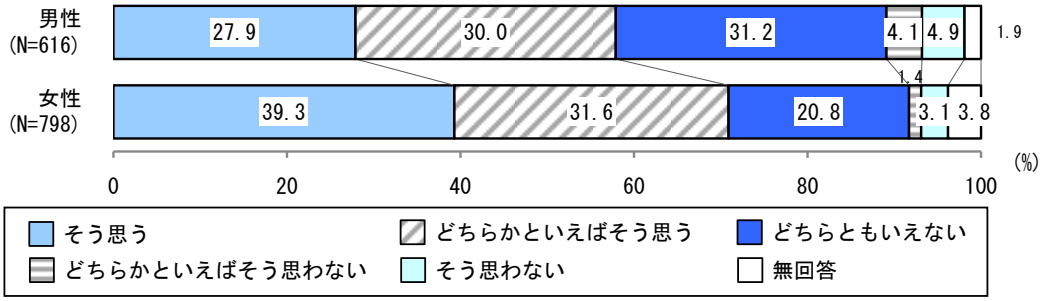
「イ．同僚が性的マイノリティであることを知っても、そのことが理由で距離を置いたりすることはない」を性別でみると、“そう思う”の割合は男性（65.5%）に比べ女性（74.0%）のほうが8.5ポイント高くなっている。（図表9-3-3）

【図表9-3-4　年齢別　イ.同僚が性的マイノリティであることを知っても、そのことが理由で距離を置いたりすることはない】



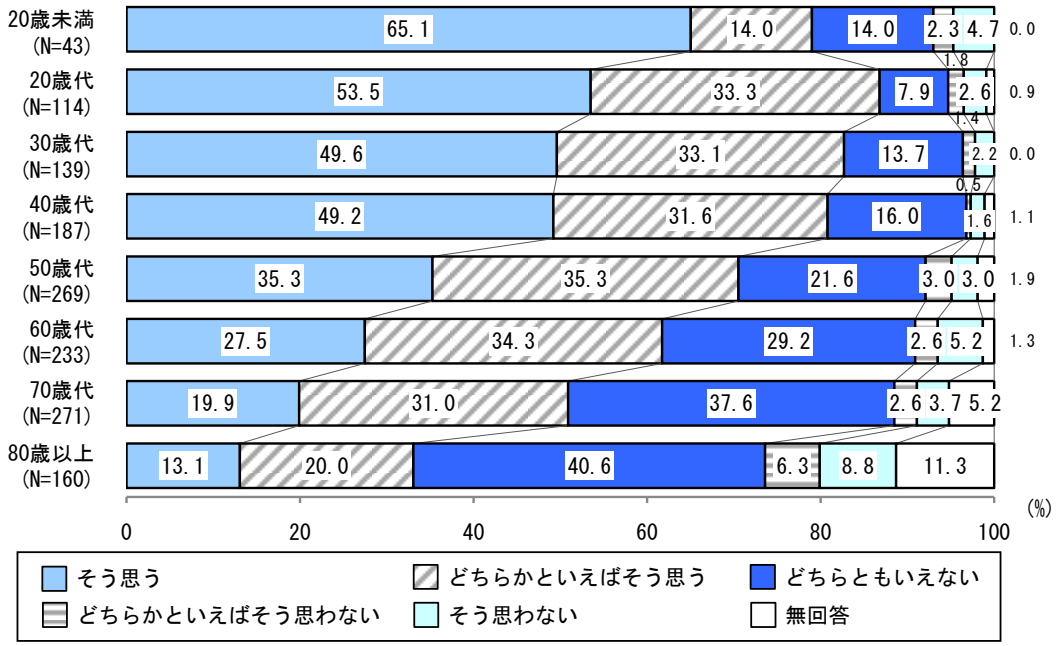
「イ．同僚が性的マイノリティであることを知っても、そのことが理由で距離を置いたりすることはない」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は、30歳代が84.2%で最も高く、次いで20歳代が83.4%で、高齢になるほど低くなる傾向にある。（図表9-3-4）

【図表9-3-5　年齢別　ウ.自分のこどもから性的マイノリティであると打ち明けられたら、尊重する】



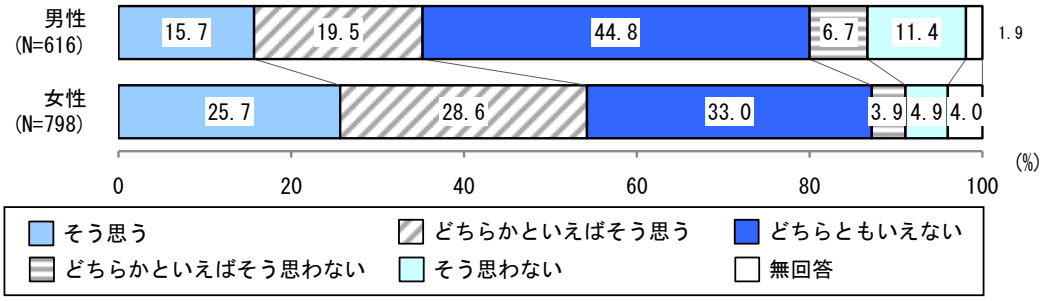
「ウ．自分のこどもから性的マイノリティであると打ち明けられたら、尊重する」を性別でみると、“そう思う”の割合は男性（57.9%）に比べ女性（70.9%）のほうが13.0ポイント高くなっている。（図表9-3-5）

【図表9-3-6　年齢別　ウ.自分のこどもから性的マイノリティであると打ち明けられたら、尊重する】



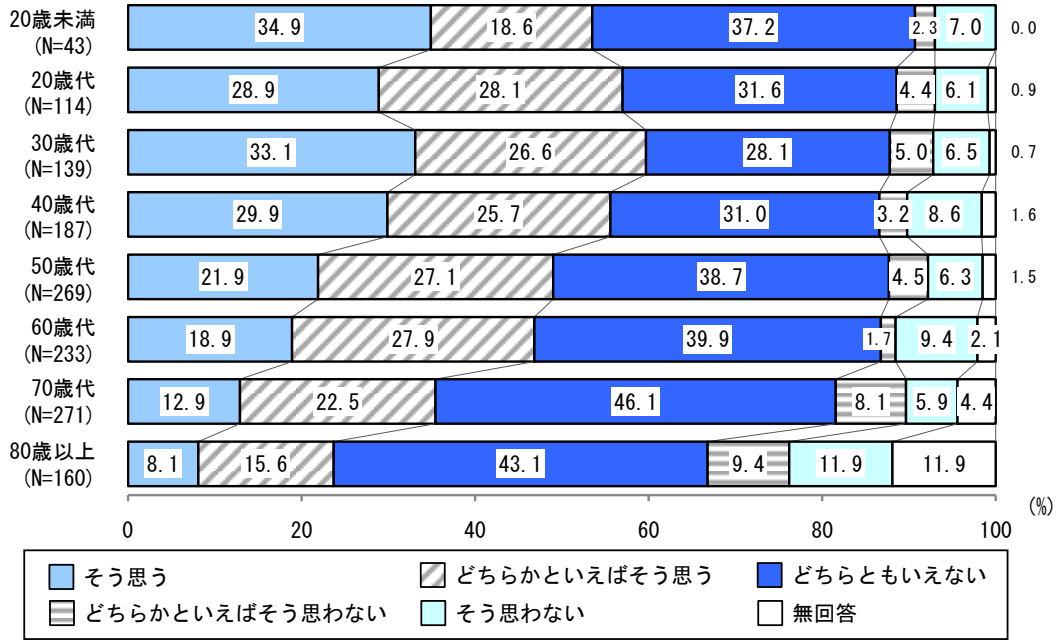
「ウ．自分のこどもから性的マイノリティであると打ち明けられたら、尊重する」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は、20歳代が86.8%で最も高く、次いで30歳代が82.7%で、高齢になるほど低くなる傾向にある。（図表9-3-6）

【図表9-3-7　性別　エ．企業は、社員の同性パートナーを配偶者として処遇すべきだ】



「エ．企業は、社員の同性パートナーを配偶者として処遇すべきだ」を性別でみると、“そう思う”の割合は男性（35.2%）に比べ女性（54.3%）のほうが19.1ポイント高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は女性（8.8%）に比べ男性（18.1%）のほうが9.3ポイント高くなっている。（図表9-3-7）

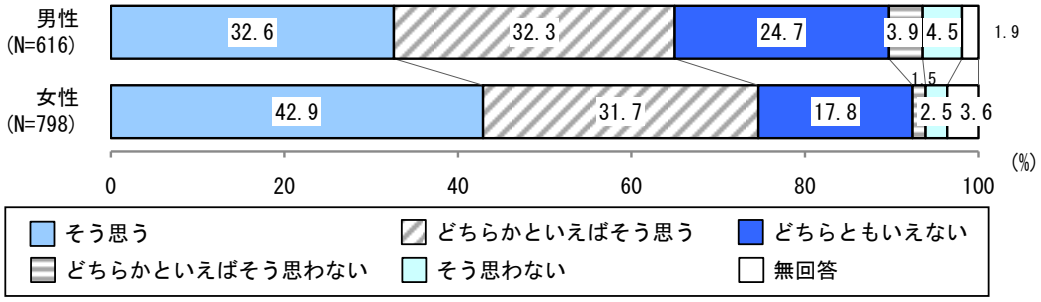
【図表9-3-8　年齢別　エ．企業は、社員の同性パートナーを配偶者として処遇すべきだ】



「エ．企業は、社員の同性パートナーを配偶者として処遇すべきだ」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は、30歳代が59.7%で最も高く、次いで20歳代が57.0%で、高齢になるほど低くなる傾向にある。

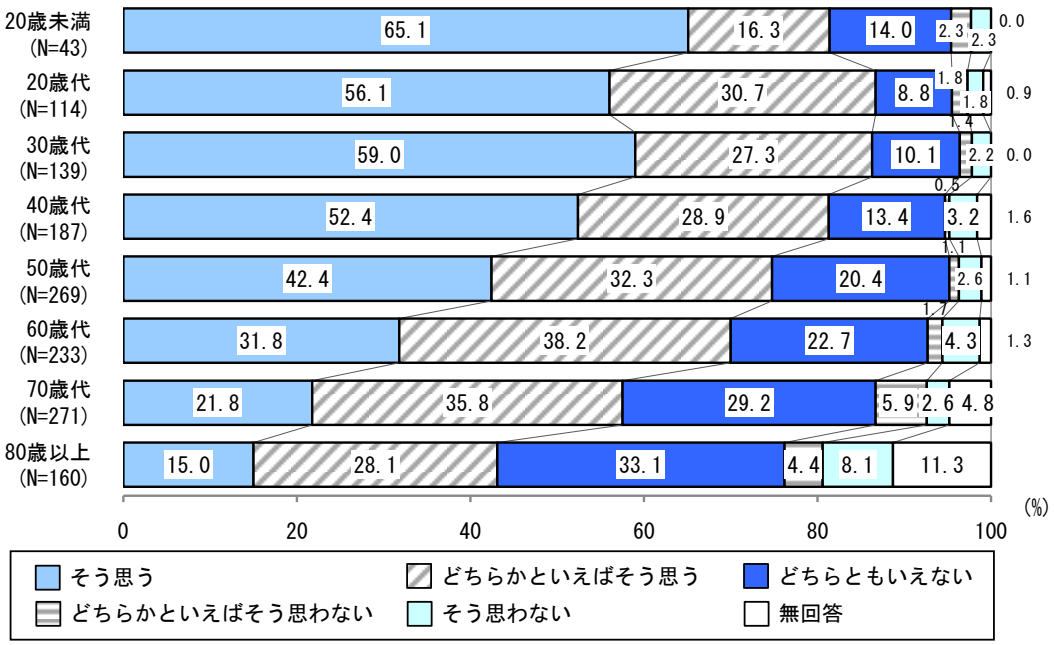
一方、“そう思わない”の割合は80歳以上が21.3%で最も高くなっている。（図表9-3-8）

【図表9-3-9　性別　オ．どの性別の人を好きになるかは、個人の自由であり、社会で受け入れられるべきである】



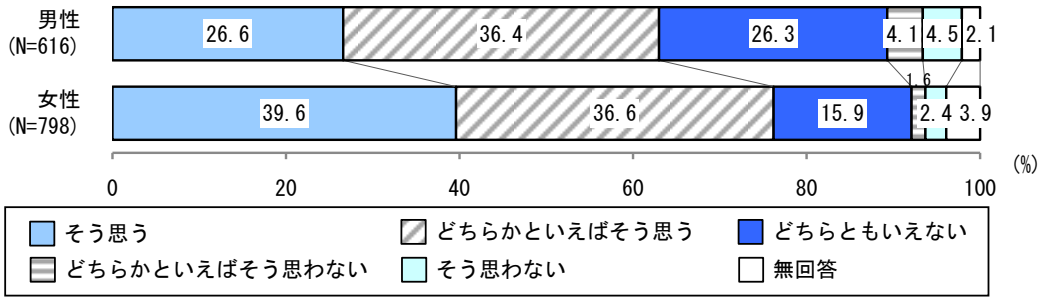
「オ．どの性別の人を好きになるかは、個人の自由であり、社会で受け入れられるべきである」を性別でみると、“そう思う”の割合は男性（64.9%）に比べ女性（74.6%）のほうが9.7ポイント高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は女性(4.0%)に比べ男性(8.4%)のほうが4.4ポイント高くなっている。（図表9-3-9）

【図表9-3-10　年齢別　オ．どの性別の人を好きになるかは、個人の自由であり、社会で受け入れられるべきである】



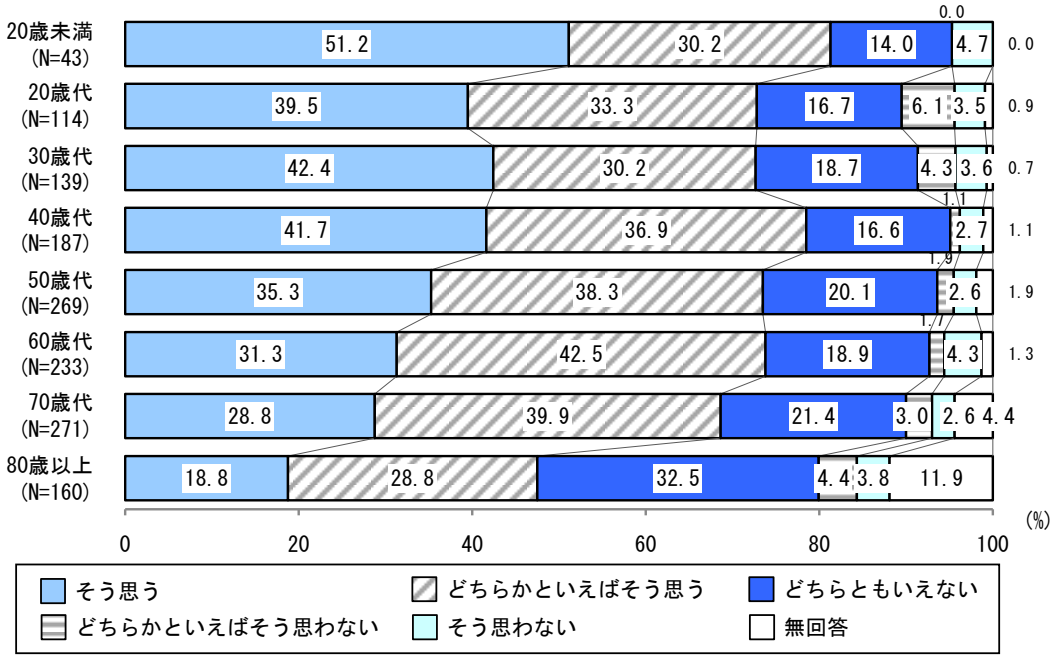
「オ．どの性別の人を好きになるかは、個人の自由であり、社会で受け入れられるべきである」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は、20歳代が86.8%で最も高く、次いで30歳代が86.3%で、高齢になるほど低くなる傾向にある。（図表9-3-10）

【図表9-3-11　性別　カ.生まれた時に割り当てられた性別とは違う性別で生活している人も暮らしやすい社会をめざすべきだ】



「カ．生まれた時に割り当てられた性別とは違う性別で生活している人も暮らしやすい社会をめざすべきだ」を性別でみると、“そう思う”の割合は男性（63.0%）に比べ女性（76.2%）のほうが13.2ポイント高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は女性（4.0%）に比べ男性（8.6%）のほうが4.6ポイント高くなっている。（図表9-3-11）

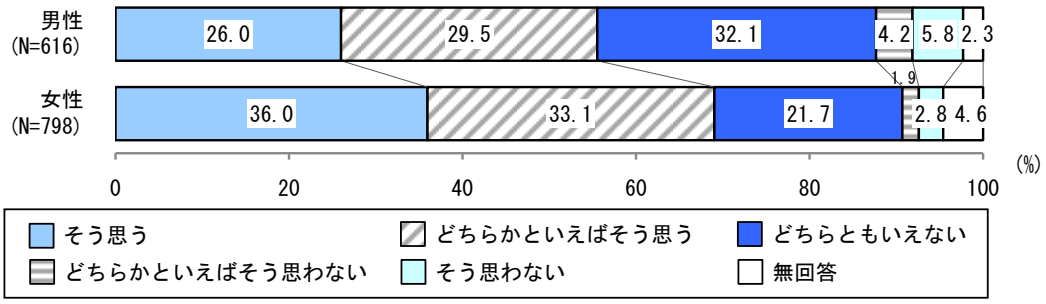
【図表9-3-12　年齢別　カ.生まれた時に割り当てられた性別とは違う性別で生活している人も暮らしやすい社会をめざすべきだ】



「カ．生まれた時に割り当てられた性別とは違う性別で生活している人も暮らしやすい社会をめざすべきだ」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は、20歳未満が81.4%で最も高く、次いで40歳代が78.6%で、高齢になるほど低くなる傾向にある。

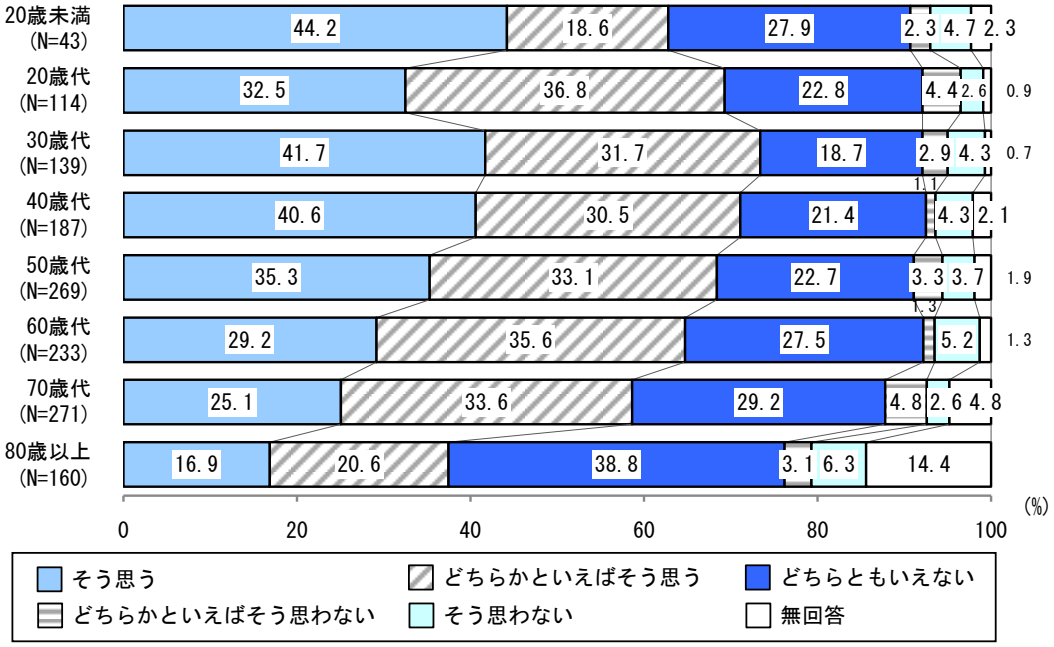
また、「どちらともいえない」の割合は80歳以上が32.5%で最も高くなっている。（図表9-3-12）

【図表9-3-13　性別　キ.パートナーシップ（ファミリーシップ）の宣誓をした人は、住民サービスを利用するときにも家族と同様の取扱いを受けるべきだ】



「キ．パートナーシップ（ファミリーシップ）の宣誓をした人は、住民サービスを利用するときにも家族と同様の取扱いを受けるべきだ」を性別でみると、“そう思う”の割合は男性（55.5%）に比べ女性（69.1%）のほうが13.6ポイント高くなっている。一方、“そう思わない”の割合は女性（4.7%）に比べ男性（10.0%）のほうが5.3ポイント高くなっている。（図表9-3-13）

【図表9-3-14　年齢別　キ.パートナーシップ（ファミリーシップ）の宣誓をした人は、住民サービスを利用するときにも家族と同様の取扱いを受けるべきだ】



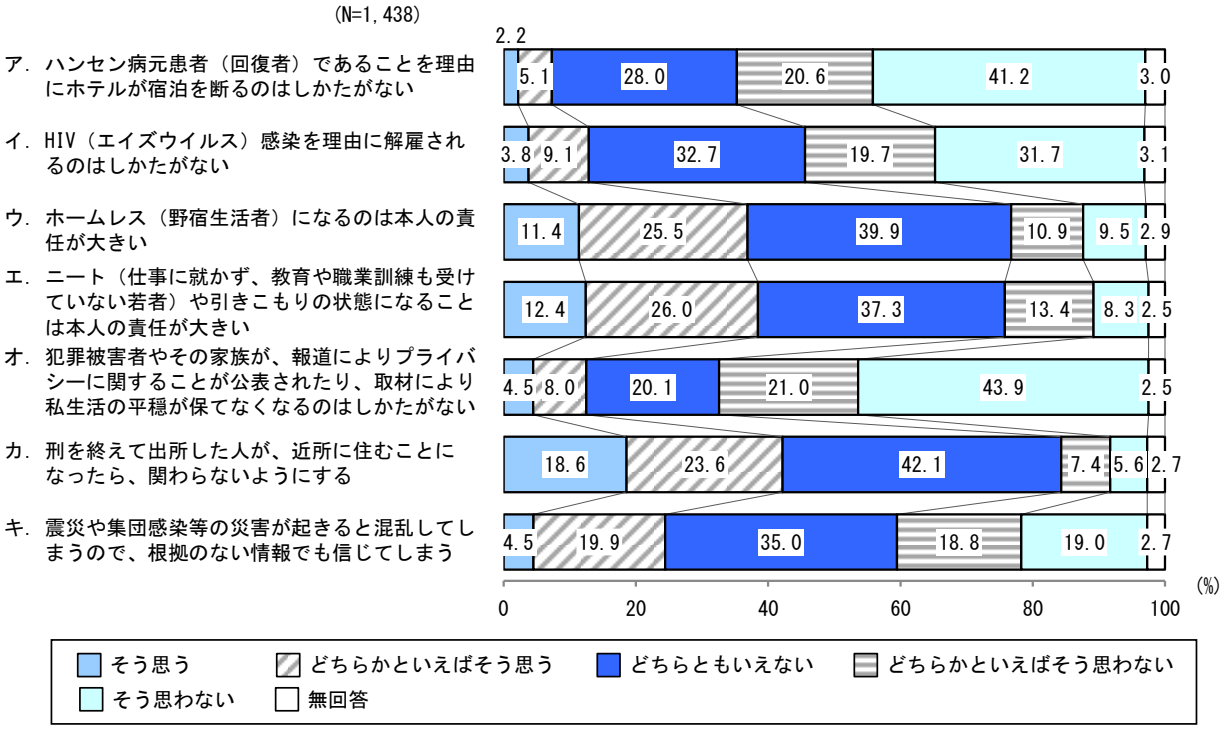
「キ．パートナーシップ（ファミリーシップ）の宣誓をした人は、住民サービスを利用するときにも家族と同様の取扱いを受けるべきだ」を年齢別でみると、“そう思う”の割合は30歳代までは上昇しているが、40歳代以降は高齢になるほど低くなる傾向にある。

また、「どちらともいえない」の割合は80歳以上が38.8%で最も高くなっている。（図表9-3-14）

（4）様々な人権問題についての考え方

問29　次のような考え方について、あなたはどう思いますか。（それぞれあてはまる番号１つに○）

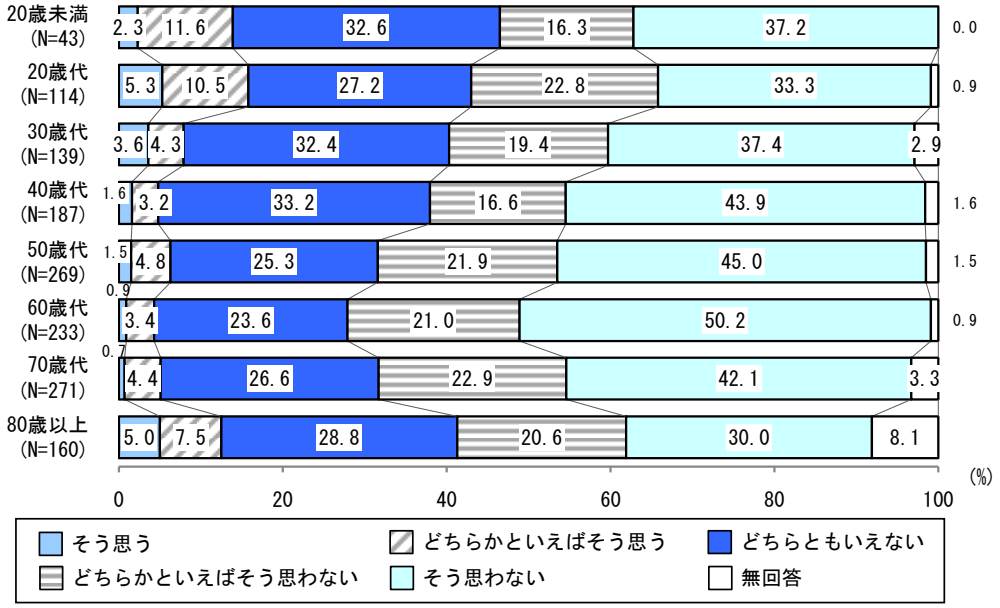
【図表9-4　様々な人権問題についての考え方】



様々な人権問題についての考え方で、“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合）が“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた割合）を上回る項目は、割合が高い順に「カ．刑を終えて出所した人が、近所に住むことになったら、関わらないようにする」(42.2%)、「エ．ニート（仕事に就かず、教育や職業訓練も受けていない若者）や引きこもりの状態になることは本人の責任が大きい」（38.4%）、「ウ．ホームレス（野宿生活者）になるのは本人の責任が大きい」(36.9%）となっている。

一方、“そう思わない”の割合は「オ．犯罪被害者やその家族が、報道によりプライバシーに関することが公表されたり、取材により私生活の平穏が保てなくなるのはしかたがない」が64.9%で最も高く、次いで「ア．ハンセン病元患者（回復者）であることを理由にホテルが宿泊を断るのはしかたがない」(61.8%）となっている。（図表9-4）

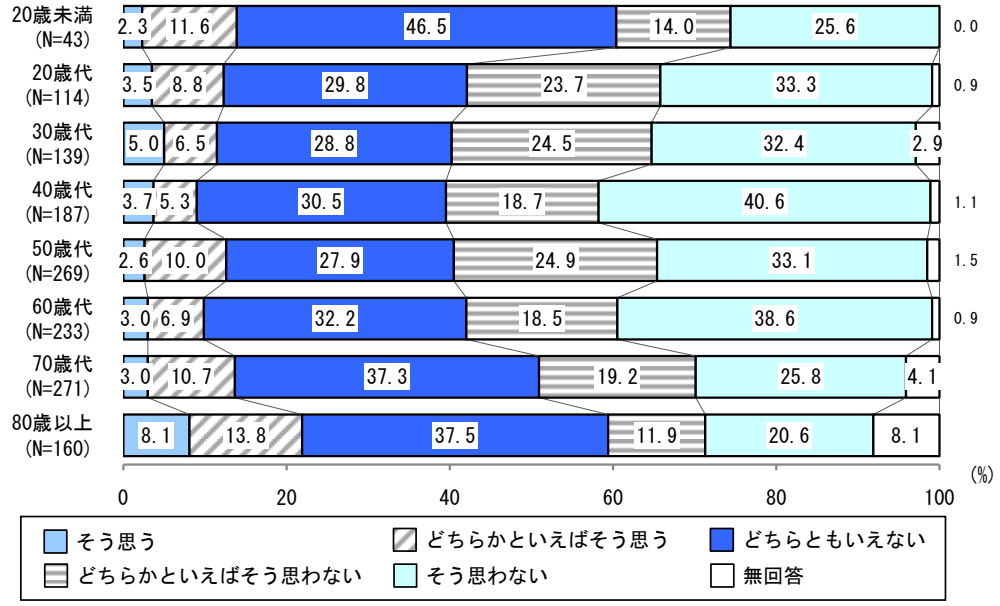
【図表9-4-1　年齢別　ア.ハンセン病元患者（回復者）であることを理由にホテルが宿泊を断るのはしかたがない】



「ア．ハンセン病元患者（回復者）であることを理由にホテルが宿泊を断るのはしかたがない」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。

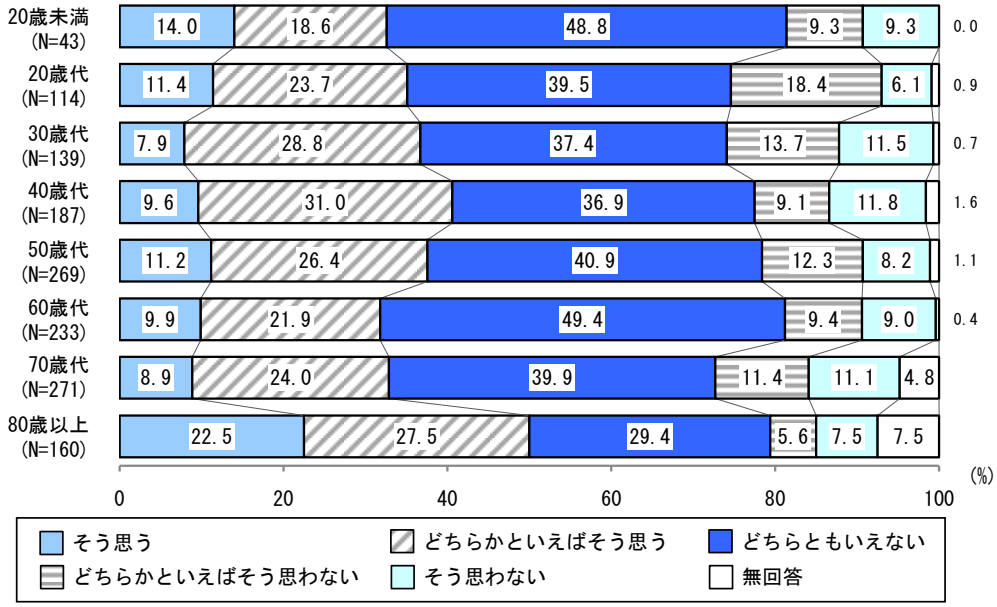
“そう思わない”の割合は60歳代が71.2%で最も高く、次いで50歳代が66.9%、70歳代が65.0%となっている。（図表9-4-1）

【図表9-4-2　年齢別　イ.HIV（エイズウイルス）感染を理由に解雇されるのはしかたがない】



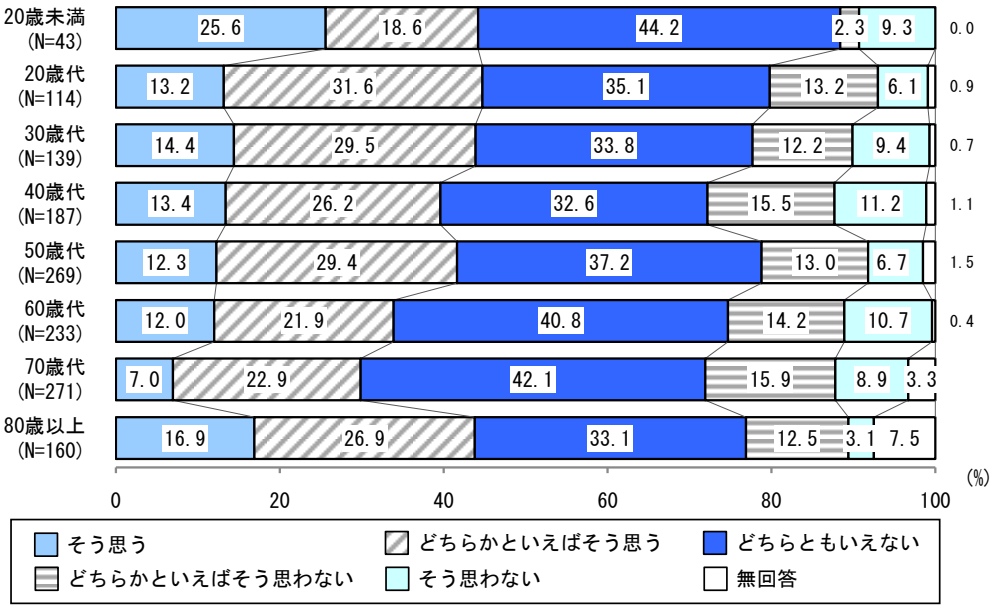
「イ．HIV（エイズウイルス）感染を理由に解雇されるのはしかたがない」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。“そう思わない”の割合は40歳代が59.3%で最も高く、次いで50歳代が58.0%、60歳代が57.1%となっている。（図表9-4-2）

【図表9-4-3　年齢別　ウ.ホームレス（野宿生活者）になるのは本人の責任が大きい】



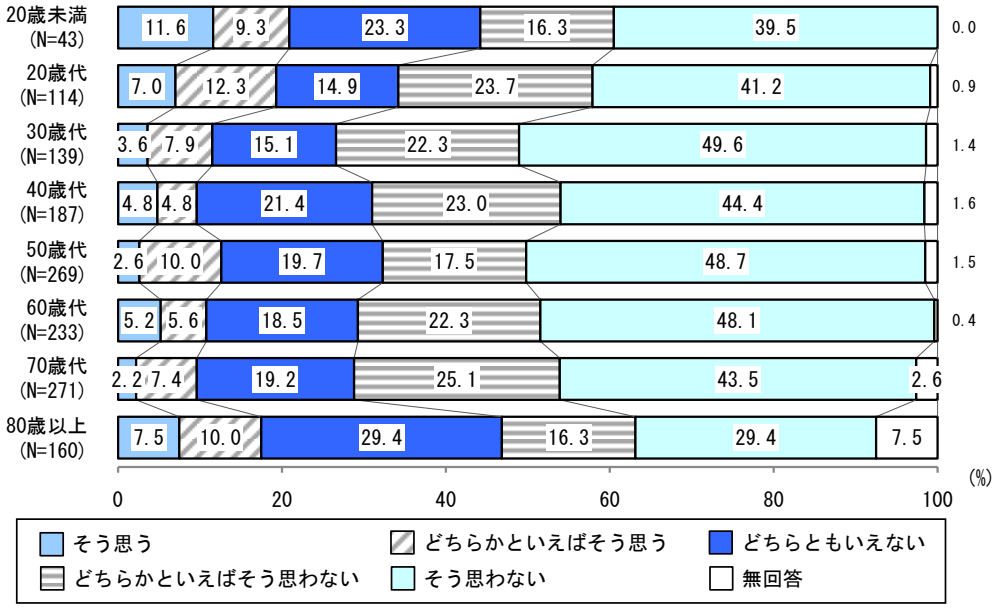
「ウ．ホームレス（野宿生活者）になるのは本人の責任が大きい」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思う”が“そう思わない”を上回ってる。“そう思う”の割合は80歳以上が50.0%で最も高く、次いで40歳代が40.6%となっている。（図表9-4-3）

【図表9-4-4　年齢別　エ.ニート（仕事に就かず、教育や職業訓練も受けていない若者）や引きこもりの状態になることは本人の責任が大きい】



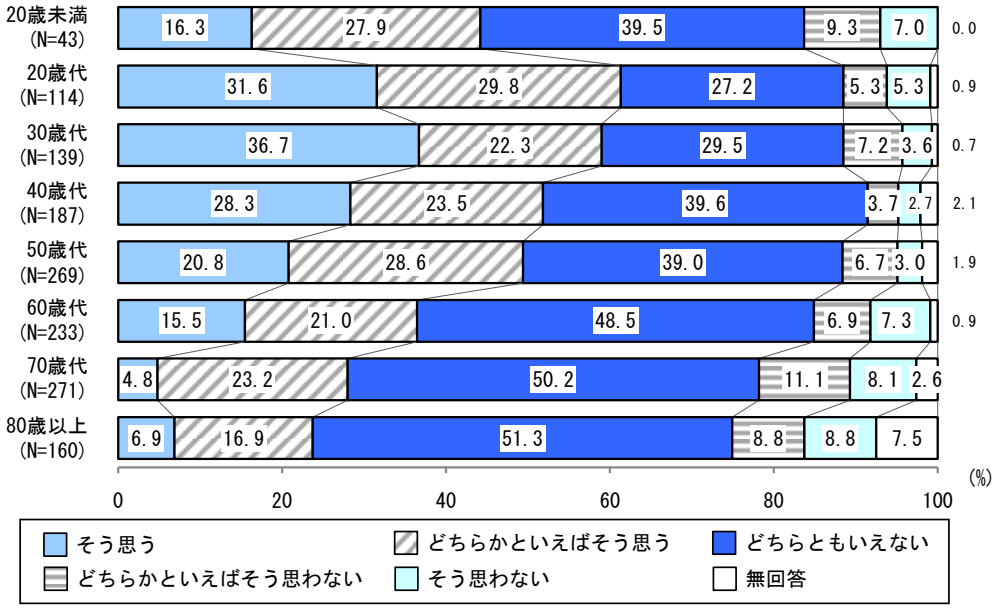
「エ．ニート（仕事に就かず、教育や職業訓練も受けていない若者）や引きこもりの状態になることは本人の責任が大きい」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思う”が“そう思わない”を上回っている。“そう思う”の割合は20歳代が44.8%で最も高く、次いで20歳未満が44.2%となっている。（図表9-4-4）

【図表9-4-5　年齢別　オ.犯罪被害者やその家族が、報道によりプライバシーに関することが公表されたり、取材により私生活の平穏が保てなくなるのはしかたがない】



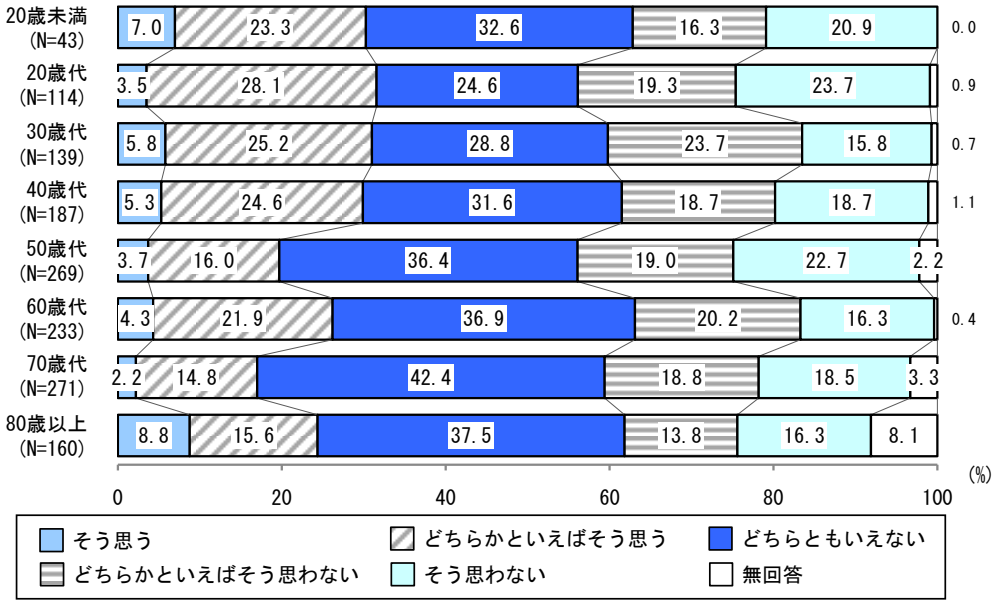
「オ．犯罪被害者やその家族が、報道によりプライバシーに関することが公表されたり、取材により私生活の平穏が保てなくなるのはしかたがない」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。“そう思わない”の割合は30歳代が71.9%で最も高く、次いで60歳代が70.4%となっている。（図表9-4-5）

【図表9-4-6　年齢別　カ.刑を終えて出所した人が、近所に住むことになったら、関わらないようにする】



「カ．刑を終えて出所した人が、近所に住むことになったら、関わらないようにする」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思う”が“そう思わない”を上回っている。“そう思う”の割合は20歳代が61.4%で最も高く、次いで30歳代が59.0%で、高齢になるほど低くなる傾向にある。（図表9-4-6）

【図表9-4-7　年齢別　キ.震災や集団感染等の災害が起きると混乱してしまうので、根拠のない情報でも信じてしまう】



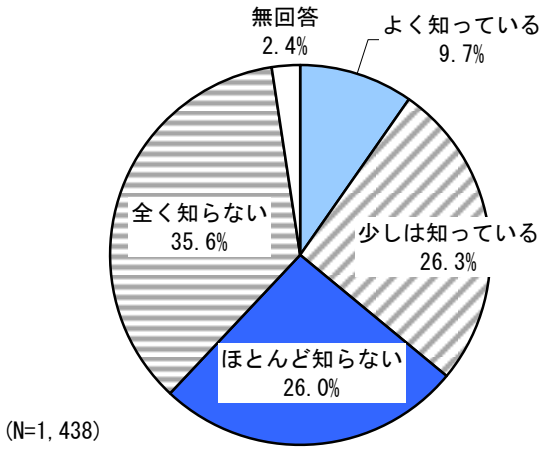
「キ．震災や集団感染等の災害が起きると混乱してしまうので、根拠のない情報でも信じてしまう」を年齢別でみると、いずれの年代も“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。“そう思わない”の割合は20歳代が43.0%で最も高く、次いで50歳代が41.7%となっている。一方、“そう思う”の割合は20歳代が31.6%で最も高く、次いで30歳代が31.0%、20歳未満が30.3%となっている。（図表9-4-7）

10. ダイバーシティについて

（1）ダイバーシティについての認知状況

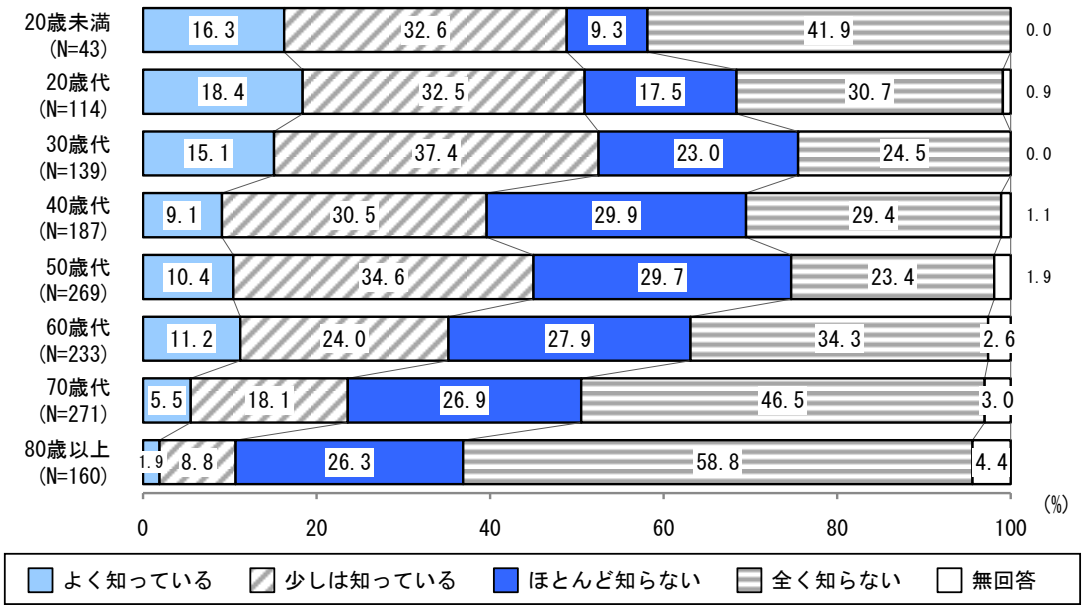
問30　あなたは、「ダイバーシティ」という言葉を知っていますか。
（あてはまる番号１つに○）

【図表10-1　ダイバーシティについての認知状況】



ダイバーシティについて、「全く知らない」が35.6%で最も多く、次いで「少しは知っている」が26.3%で、“知っている”（「よく知っている」と「少しは知っている」をあわせた割合）は36.0%となっている。（図表10-1）

【図表10-1-1　年齢別　ダイバーシティについての認知状況】

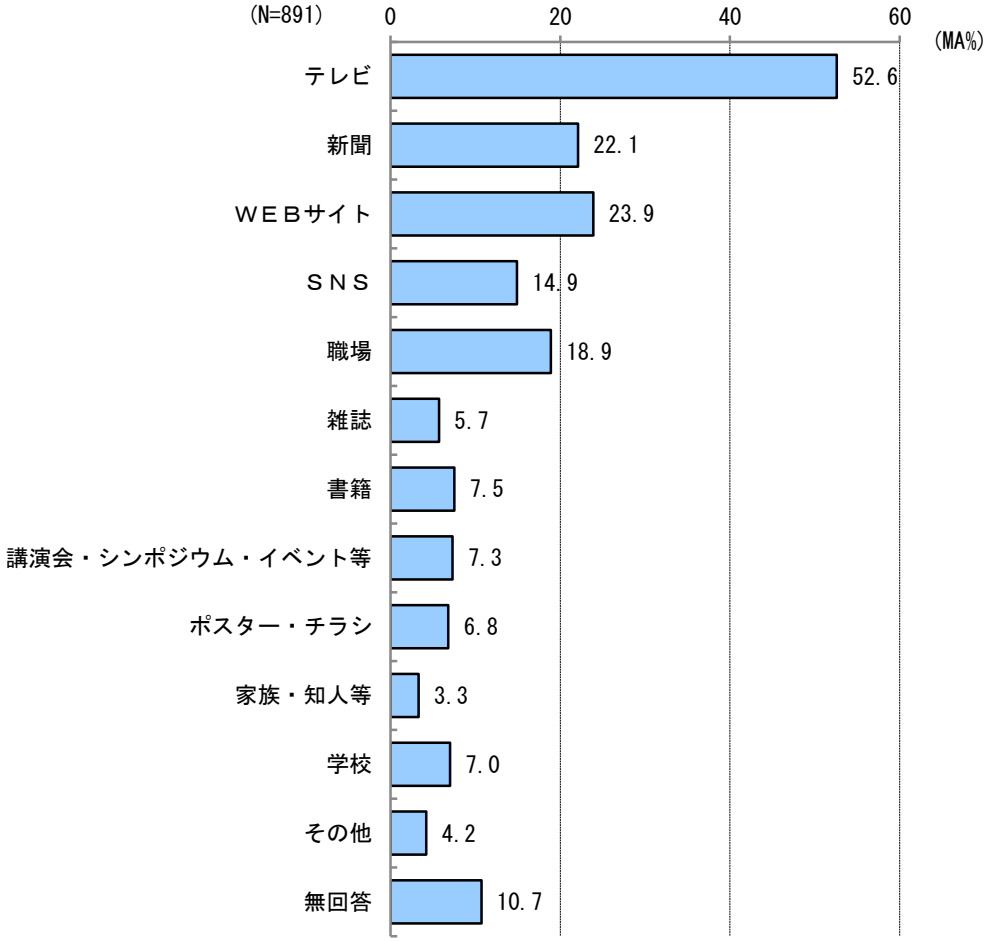


年齢別でみると、“知っている”の割合は30歳代が52.5%で最も高く、次いで20歳代が50.9%となっている。一方で、“知らない”（「ほとんど知らない」と「全く知らない」をあわせた割合）は、20歳未満と40歳以上の年代で高く、その中でも80歳以上が85.1%で最も高くなっている。（図表10-1-1）

（２）ダイバーシティという言葉を知った（又は聞いた）きっかけ

問30で、「1」「2」「3」と答えた方にお聞きします。
問31　あなたが、「ダイバーシティ」という言葉を知った（又は聞いた）きっかけは何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

【図表10-2　ダイバーシティという言葉を知った（又は聞いた）きっかけ】



「ダイバーシティ」という言葉を“知っている”またはほとんど知らないと回答した人に、言葉を知った（又は聞いた）きっかけをたずねると、「テレビ」が52.6%で最も多く、次いで「ＷＥＢサイト」が23.9%、「新聞」が22.1%、「職場」が18.9%となっている。（図表10-2）

【図表10-2-1　年齢別　ダイバーシティという言葉を知った（又は聞いた）きっかけ】

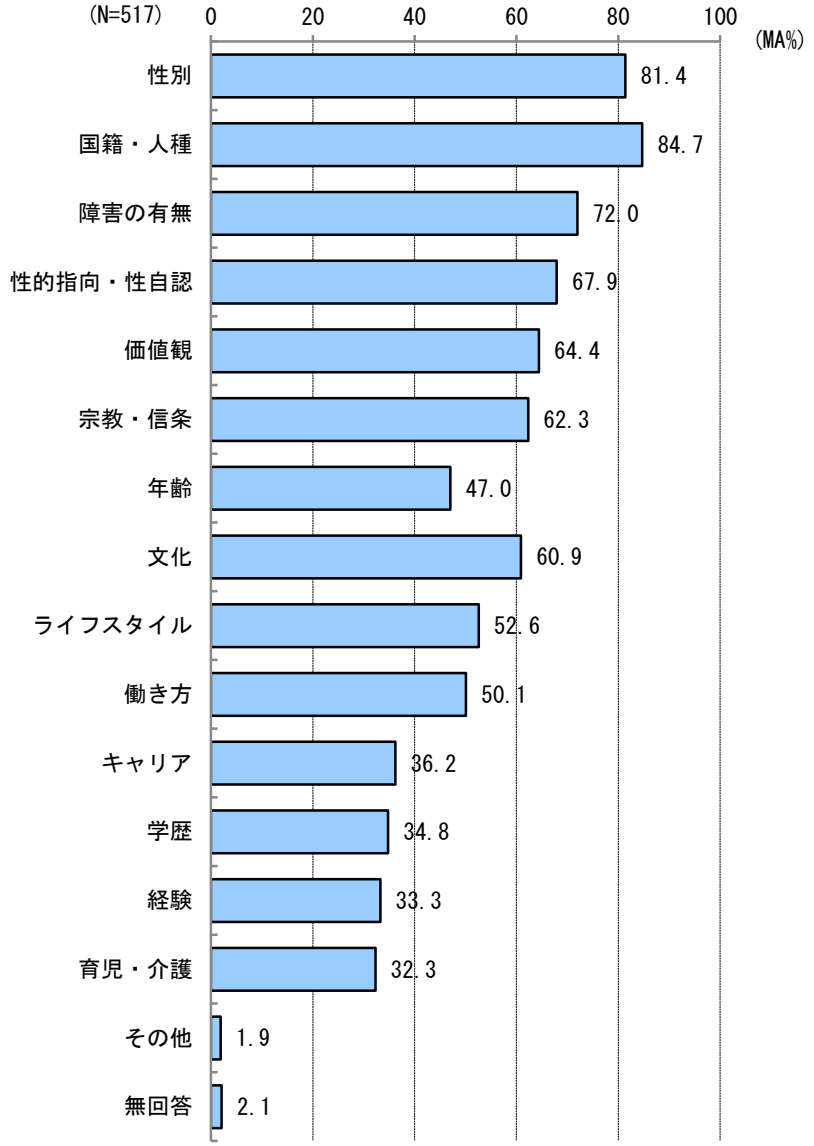
上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	テレビ	新聞	WEBサイト	SNS	職場	雑誌	書籍	講演会・シンポジウム・イベント等	ポスター・チラシ	家族・知人等	学校	その他	無回答
20歳未満	25	8	－	2	7	－	－	2	1	2	－	17	1	1
	100.0	32.0	－	8.0	28.0	－	－	8.0	4.0	8.0	－	68.0	4.0	4.0
20歳代	78	43	8	23	22	16	1	6	5	6	2	25	3	4
	100.0	55.1	10.3	29.5	28.2	20.5	1.3	7.7	6.4	7.7	2.6	32.1	3.8	5.1
30歳代	105	60	13	35	27	31	3	6	7	13	4	7	2	8
	100.0	57.1	12.4	33.3	25.7	29.5	2.9	5.7	6.7	12.4	3.8	6.7	1.9	7.6
40歳代	130	75	16	38	17	30	2	5	5	8	2	5	3	11
	100.0	57.7	12.3	29.2	13.1	23.1	1.5	3.8	3.8	6.2	1.5	3.8	2.3	8.5
50歳代	201	103	39	56	26	43	16	21	16	12	7	2	8	26
	100.0	51.2	19.4	27.9	12.9	21.4	8.0	10.4	8.0	6.0	3.5	1.0	4.0	12.9
60歳代	147	76	38	32	18	38	12	12	16	9	3	2	8	10
	100.0	51.7	25.9	21.8	12.2	25.9	8.2	8.2	10.9	6.1	2.0	1.4	5.4	6.8
70歳代	137	70	53	18	10	8	13	10	14	8	7	3	10	20
	100.0	51.1	38.7	13.1	7.3	5.8	9.5	7.3	10.2	5.8	5.1	2.2	7.3	14.6
80歳以上	59	31	30	7	4	1	3	5	1	3	3	－	2	11
	100.0	52.5	50.8	11.9	6.8	1.7	5.1	8.5	1.7	5.1	5.1	－	3.4	18.6

年齢別でみると、20歳未満では「学校」が最も多く、20歳代以上の各年代では「テレビ」が最も多くなっている。これに次いで30～50歳代では「WEBサイト」、60歳代以上では「新聞」となっている。（図表10-2-1）

（3）ダイバーシティにあてはまる項目

問30で、「1」「2」と答えた方にお聞きします。
問32　次のうち、「ダイバーシティ」にあてはまると思う項目は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

【図表10-3　ダイバーシティにあてはまる項目】



「ダイバーシティ」という言葉を“知っている”と回答した人に、「ダイバーシティ」にあてはまると思う項目をたずねると、「国籍・人種」が84.7%で最も多く、次いで「性別」が81.4%、「障害の有無」が72.0%、「性的指向・性自認」が67.9%となっている。（図表10-3）

【図表10-3-1　年齢別　ダイバーシティにあてはまる項目】

上段：回答者数（回） 下段：構成比率（%）	回答者数	性別	国籍・人種	障害の有無	性的指向・性自認	価値観	宗教・信条	年齢	文化	ライフスタイル	働き方	キャリア	学歴	経験	育児・介護	その他	無回答
20歳未満	21	17	17	13	12	14	12	7	14	14	14	10	11	10	8	－	－
	100.0	81.0	81.0	61.9	57.1	66.7	57.1	33.3	66.7	66.7	66.7	47.6	52.4	47.6	38.1	－	－
20歳代	58	51	50	43	42	40	39	25	45	39	36	26	19	20	22	－	－
	100.0	87.9	86.2	74.1	72.4	69.0	67.2	43.1	77.6	67.2	62.1	44.8	32.8	34.5	37.9	－	－
30歳代	73	55	58	49	47	43	40	37	46	36	38	27	21	22	28	1	3
	100.0	75.3	79.5	67.1	64.4	58.9	54.8	50.7	63.0	49.3	52.1	37.0	28.8	30.1	38.4	1.4	4.1
40歳代	74	63	65	48	53	44	43	33	48	32	39	28	26	25	27	1	2
	100.0	85.1	87.8	64.9	71.6	59.5	58.1	44.6	64.9	43.2	52.7	37.8	35.1	33.8	36.5	1.4	2.7
50歳代	121	95	102	85	81	74	69	57	64	59	55	34	38	33	25	3	1
	100.0	78.5	84.3	70.2	66.9	61.2	57.0	47.1	52.9	48.8	45.5	28.1	31.4	27.3	20.7	2.5	0.8
60歳代	82	72	70	63	56	55	54	40	44	38	37	28	30	29	25	1	2
	100.0	87.8	85.4	76.8	68.3	67.1	65.9	48.8	53.7	46.3	45.1	34.1	36.6	35.4	30.5	1.2	2.4
70歳代	64	53	56	55	44	49	47	32	40	38	31	24	24	23	23	2	2
	100.0	82.8	87.5	85.9	68.8	76.6	73.4	50.0	62.5	59.4	48.4	37.5	37.5	35.9	35.9	3.1	3.1
80歳以上	17	11	15	12	12	10	15	8	10	10	5	7	8	7	6	－	1
	100.0	64.7	88.2	70.6	70.6	58.8	88.2	47.1	58.8	58.8	29.4	41.2	47.1	41.2	35.3	－	5.9

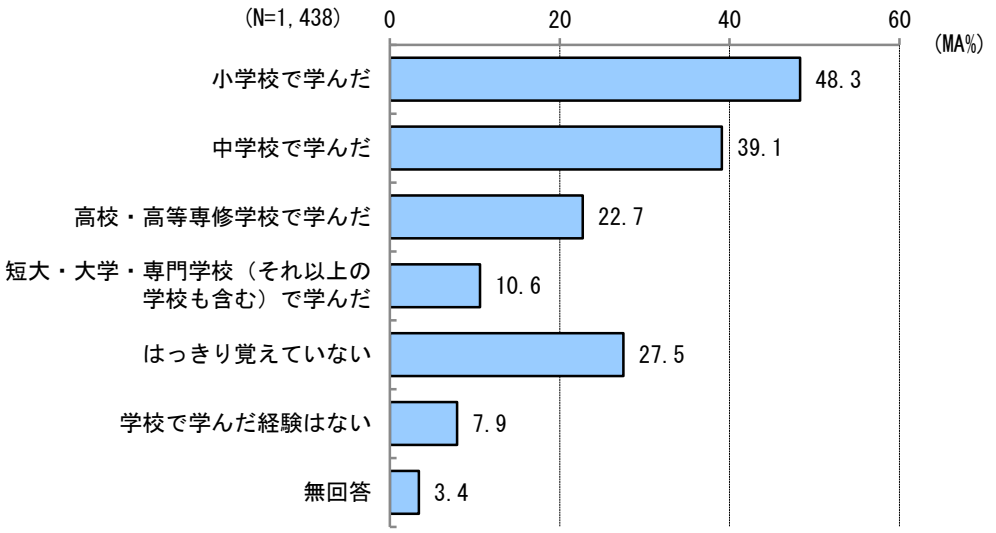
年齢別でみると、20歳未満では「性別」と「国籍・人種」が最も多く、20歳代と60歳代は「性別」が最も多くなってる。30～50歳代と70歳代では「国籍・人種」が最も多く、80歳以上では「国籍・人種」と「宗教・信条」が最も多くなっている。（図表10-3-1）

11. 人権問題の啓発活動について

（1）人権についての学習の経験

問33　あなたは学校で人権について学んだ経験はありますか。（あてはまる番号すべてに○）

【図表11-1　人権についての学習の経験】



学校で人権について学んだ経験について、「小学校で学んだ」が48.3%で最も多く、次いで「中学校で学んだ」が39.1%、「はっきり覚えていない」が27.5%、「高校・高等専修学校で学んだ」が22.7%となっている。（図表11-1）

【図表11-1-1　年齢別　人権についての学習の経験】

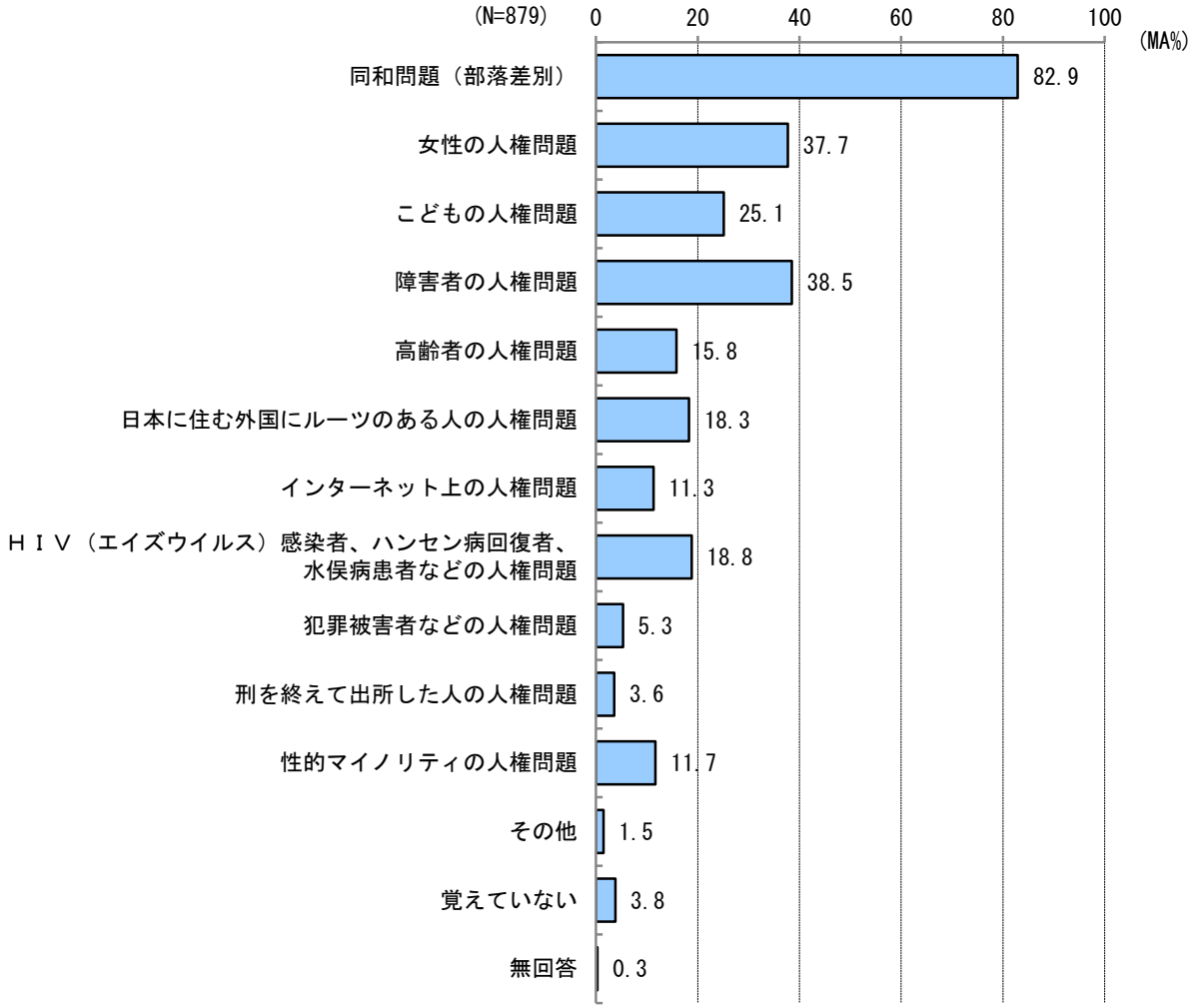
上段：回答者数（回） 下段：構成比率（%）	回答者数	小学校で学んだ	中学校で学んだ	高校・高等専修学校で学んだ	短大・大学・専門学校（それ以上の学校も含む）で学んだ	はっきり覚えていない	学校で学んだ経験はない	無回答
20歳未満	43	33	38	32	7	2	－	－
	100.0	76.7	88.4	74.4	16.3	4.7	－	－
20歳代	114	70	68	56	36	23	3	－
	100.0	61.4	59.6	49.1	31.6	20.2	2.6	－
30歳代	139	97	82	56	32	24	5	－
	100.0	69.8	59.0	40.3	23.0	17.3	3.6	－
40歳代	187	136	96	47	25	32	3	2
	100.0	72.7	51.3	25.1	13.4	17.1	1.6	1.1
50歳代	269	186	123	51	23	50	2	3
	100.0	69.1	45.7	19.0	8.6	18.6	0.7	1.1
60歳代	233	124	88	44	18	54	13	6
	100.0	53.2	37.8	18.9	7.7	23.2	5.6	2.6
70歳代	271	37	46	33	8	128	50	13
	100.0	13.7	17.0	12.2	3.0	47.2	18.5	4.8
80歳以上	160	6	16	6	3	77	38	19
	100.0	3.8	10.0	3.8	1.9	48.1	23.8	11.9

年齢別でみると、20歳未満では「中学校で学んだ」が最も多く、20～60歳代では「小学校で学んだ」が最も多くなっている。（図表11-1-1）

（２）学校で学んだ人権問題の分野

問33で「1～4」と答えた方にお聞きします。
問34　それはどのような分野でしたか。（あてはまる番号すべてに○）

【図表11-2　学校で学んだ人権問題の分野】



学校で人権について学んだ経験があると回答した人に、学校で学んだ人権問題の分野をたずねると、「同和問題(部落差別)」が82.9%で最も多く、次いで「障害者の人権問題」が38.5%、「女性の人権問題」が37.7%、「こどもの人権問題」が25.1%となっている。(図表11-2)

【図表11-2-1　年齢別　学校で学んだ人権問題の分野】

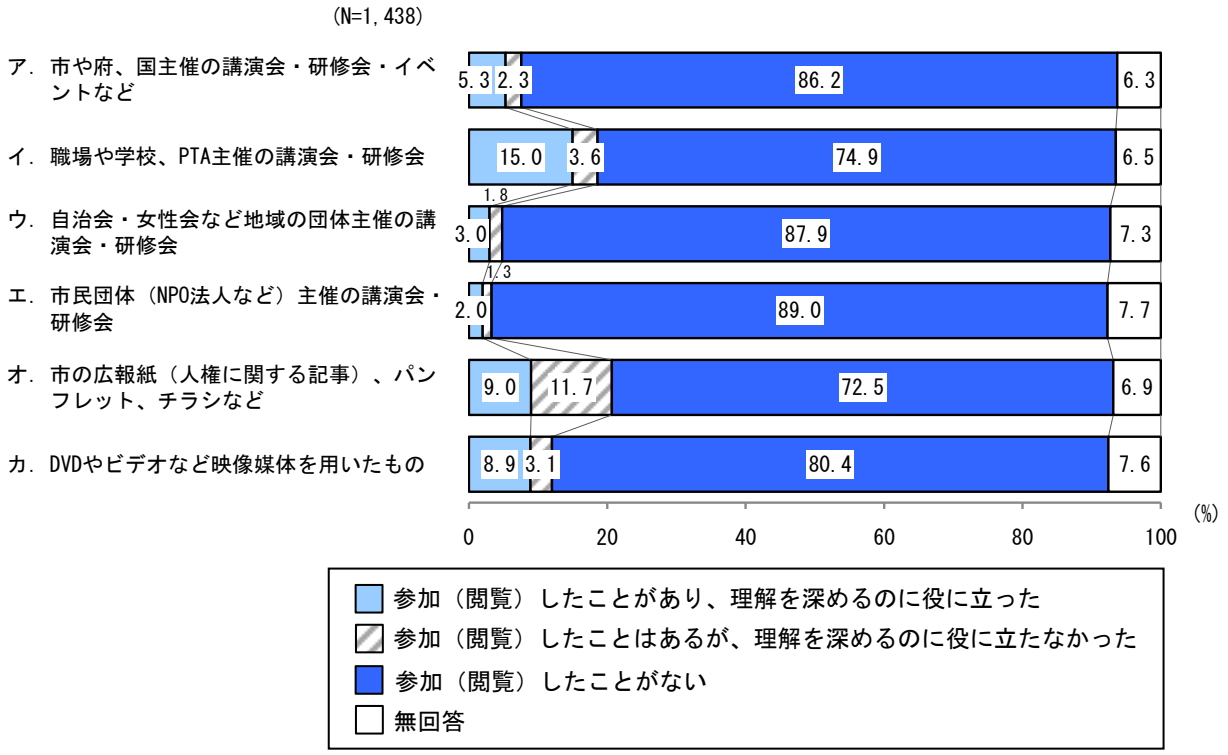
上段：回答者数（回） 下段：構成比率（MA%）	回答者数	同和問題（部落差別）	女性の人権問題	こどもの人権問題	障害者の人権問題	高齢者の人権問題	日本に住む外国にルーツのある人の人権問題	インターネット上の人権問題	HIV（エイズウイルス）感染者、ハンセン病回復者、水俣病患者などの人権問題	犯罪被害者などの人権問題	刑を終えて出所した人の人権問題	性的マイノリティの人権問題	その他	覚えていない	無回答
20歳未満	41	29	29	21	25	14	16	19	14	4	1	18	－	1	－
	100.0	70.7	70.7	51.2	61.0	34.1	39.0	46.3	34.1	9.8	2.4	43.9	－	2.4	－
20歳代	88	51	53	46	48	27	23	36	26	10	7	34	1	7	－
	100.0	58.0	60.2	52.3	54.5	30.7	26.1	40.9	29.5	11.4	8.0	38.6	1.1	8.0	－
30歳代	110	75	60	46	60	29	25	21	35	10	5	21	3	5	－
	100.0	68.2	54.5	41.8	54.5	26.4	22.7	19.1	31.8	9.1	4.5	19.1	2.7	4.5	－
40歳代	150	130	61	39	52	19	38	10	36	4	4	15	－	8	1
	100.0	86.7	40.7	26.0	34.7	12.7	25.3	6.7	24.0	2.7	2.7	10.0	－	5.3	0.7
50歳代	214	198	56	25	64	17	24	2	21	5	3	2	4	6	－
	100.0	92.5	26.2	11.7	29.9	7.9	11.2	0.9	9.8	2.3	1.4	0.9	1.9	2.8	－
60歳代	160	151	36	20	42	13	22	8	18	7	3	7	1	4	－
	100.0	94.4	22.5	12.5	26.3	8.1	13.8	5.0	11.3	4.4	1.9	4.4	0.6	2.5	－
70歳代	80	66	26	18	28	12	10	1	9	5	6	4	3	2	2
	100.0	82.5	32.5	22.5	35.0	15.0	12.5	1.3	11.3	6.3	7.5	5.0	3.8	2.5	2.5
80歳以上	26	22	8	4	15	6	1	1	3	2	3	1	1	－	－
	100.0	84.6	30.8	15.4	57.7	23.1	3.8	3.8	11.5	7.7	11.5	3.8	3.8	－	－

年齢別でみると、20歳未満は「同和問題（部落差別）」と「女性の人権問題」がともに70.7%で最も多く、20歳代では「女性の人権問題」、30歳代以上では「同和問題（部落差別）」が最も多くなっている。（図表11-2-1）

（３）人権に関する講演会や研修会などへの参加又は資料などの閲覧経験

問35　あなたは過去５年ほどの間に、人権についての講演会や研修会などに参加、又は資料などを閲覧したことはありますか。（それぞれあてはまる番号1つに○）

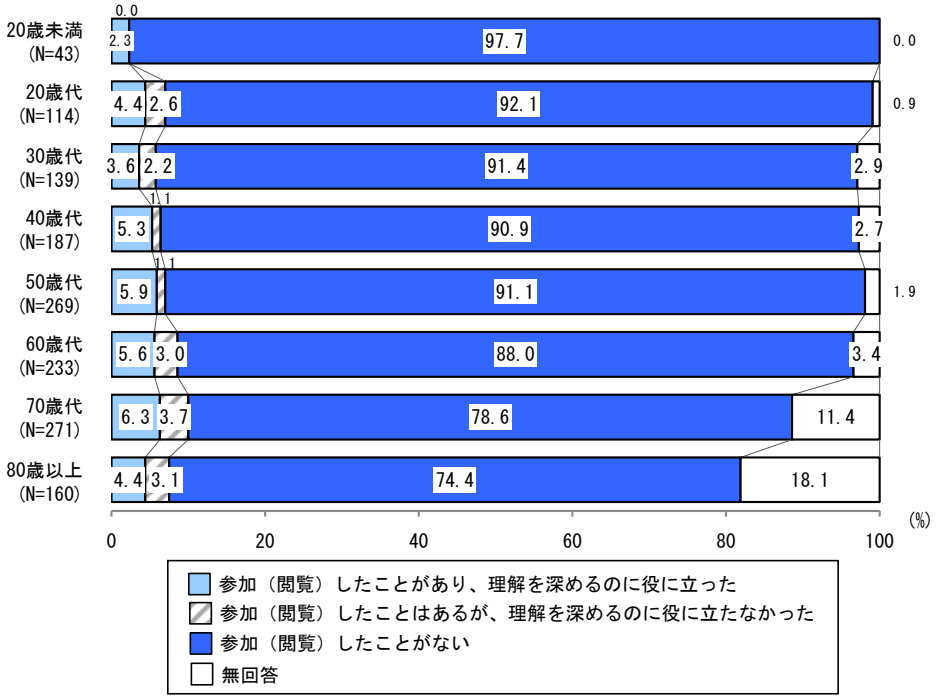
【図表11-3　人権に関する講演会や研修会などへの参加又は資料などの閲覧経験】



人権に関する講演会や研修会などへの参加又は資料などの閲覧経験については、いずれの項目も「参加（閲覧）したことがない」が最も多く、７割以上を占めている。

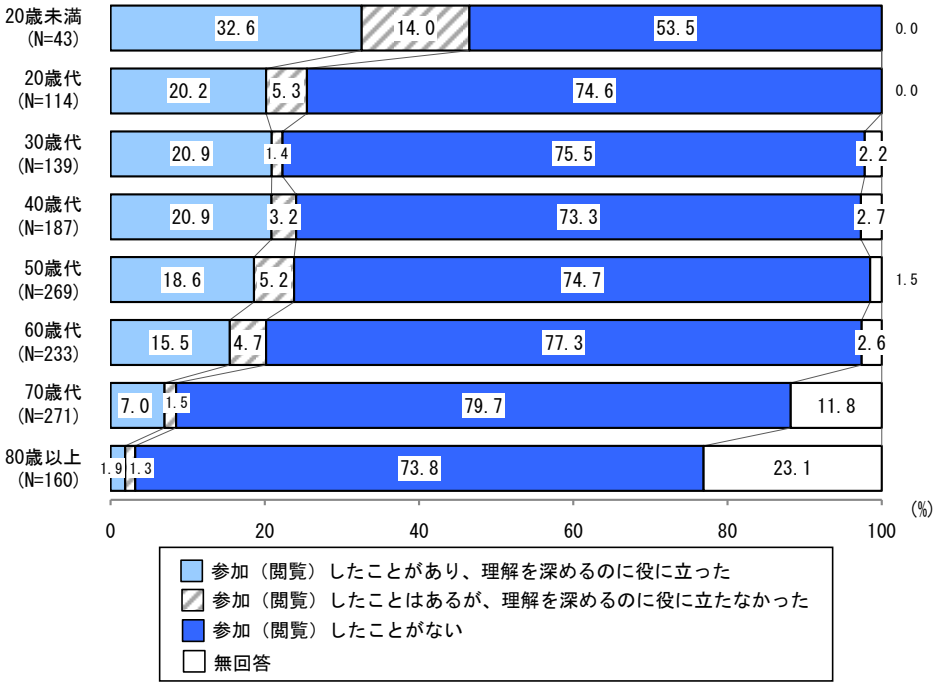
「参加（閲覧）したことがあり、理解を深めるのに役に立った」の割合は“イ．職場や学校、PTA主催の講演会・研修会”が15.0%で最も高く、「参加（閲覧）したことはあるが、理解を深めるのに役に立たなかった」の割合は“オ．市の広報紙（人権に関する記事）、パンフレット、チラシなど”が11.7%で最も高くなっている。（図表11-3）

【図表11-3-1　年齢別　ア．市や府、国主催の講演会・研修会・イベントなど】



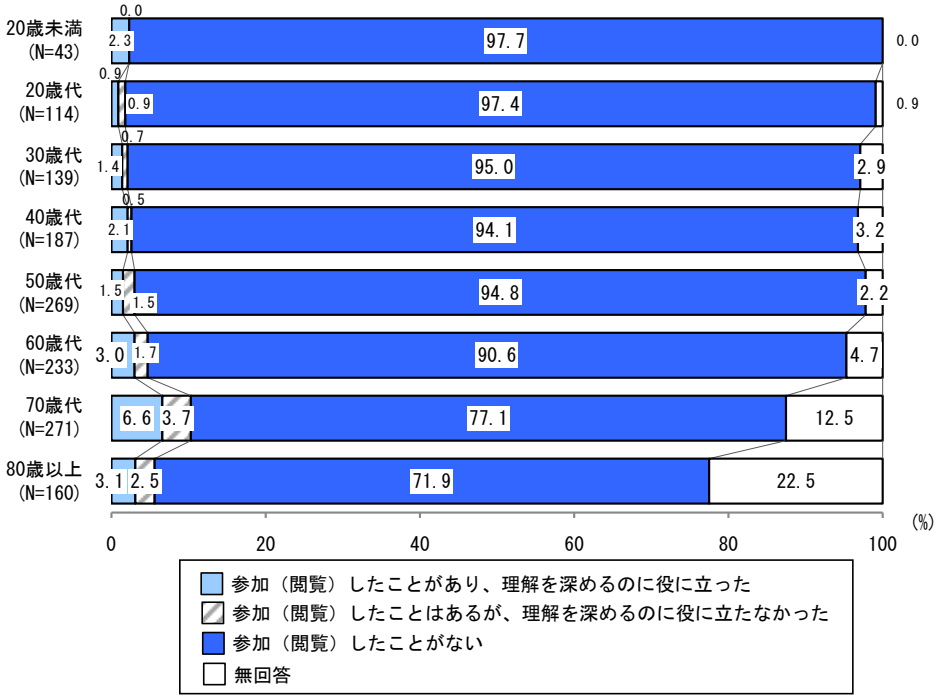
「ア．市や府、国主催の講演会・研修会・イベントなど」を年齢別でみると、いずれの年代も「参加（閲覧）したことがない」の割合が７割以上を占め、20歳未満が97.7%で最も高く、次いで20歳代が92.1%となっている。（図表11-3-1）

【図表11-3-2　年齢別　イ．職場や学校、PTA主催の講演会・研修会】



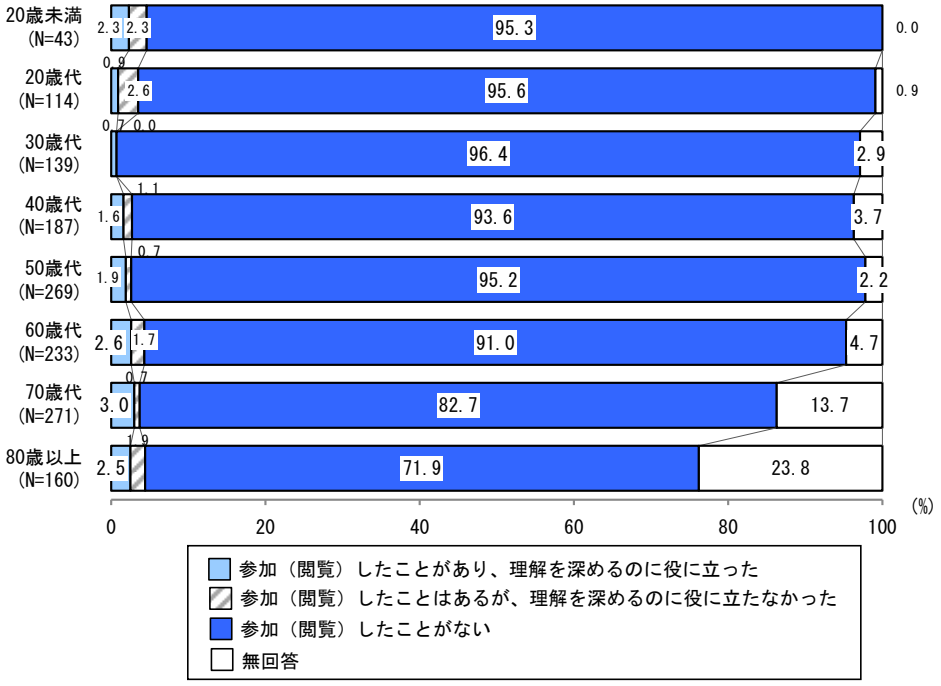
「イ．職場や学校、PTA主催の講演会・研修会」を年齢別でみると、「参加（閲覧）したことがあり、理解を深めるのに役に立った」の割合は20歳未満が32.6%で最も高い。「参加（閲覧）したことがない」の割合は70歳代が79.7%で最も高く、次いで60歳代が77.3%となっている。（図表11-3-2）

【図表11-3-3　年齢別　ウ．自治会・女性会など地域の団体主催の講演会・研修会】



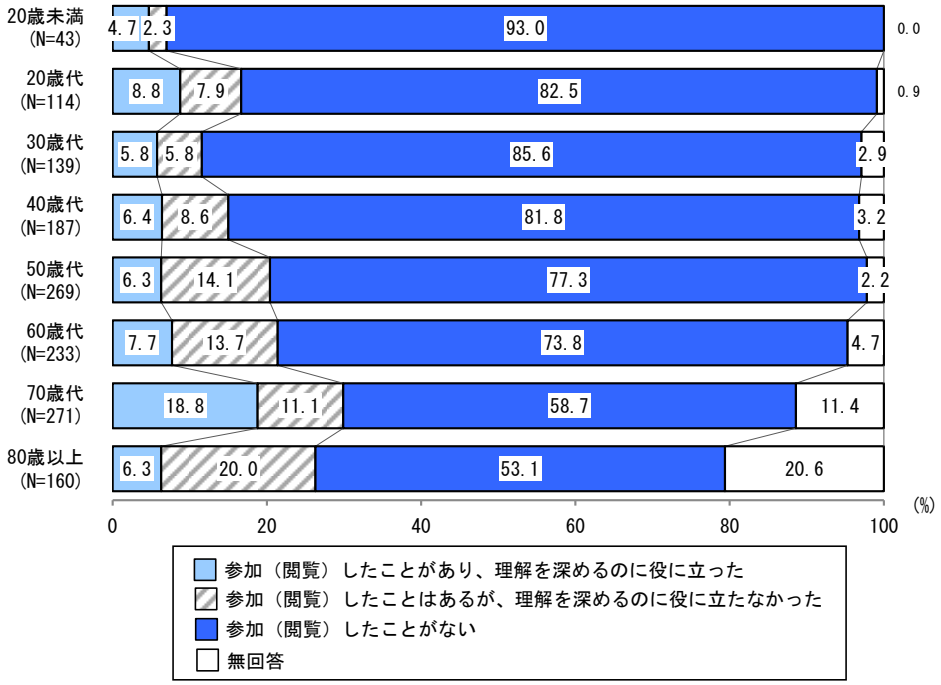
「ウ．自治会・女性会など地域の団体主催の講演会・研修会」を年齢別でみると、いずれの年代も「参加（閲覧）したことがない」の割合が７割以上を占め、20歳未満が97.7%で最も高く、次いで20歳代が97.4%となっている。（図表11-3-3）

【図表11-3-4　年齢別　エ．市民団体（NPO法人など）主催の講演会・研修会】



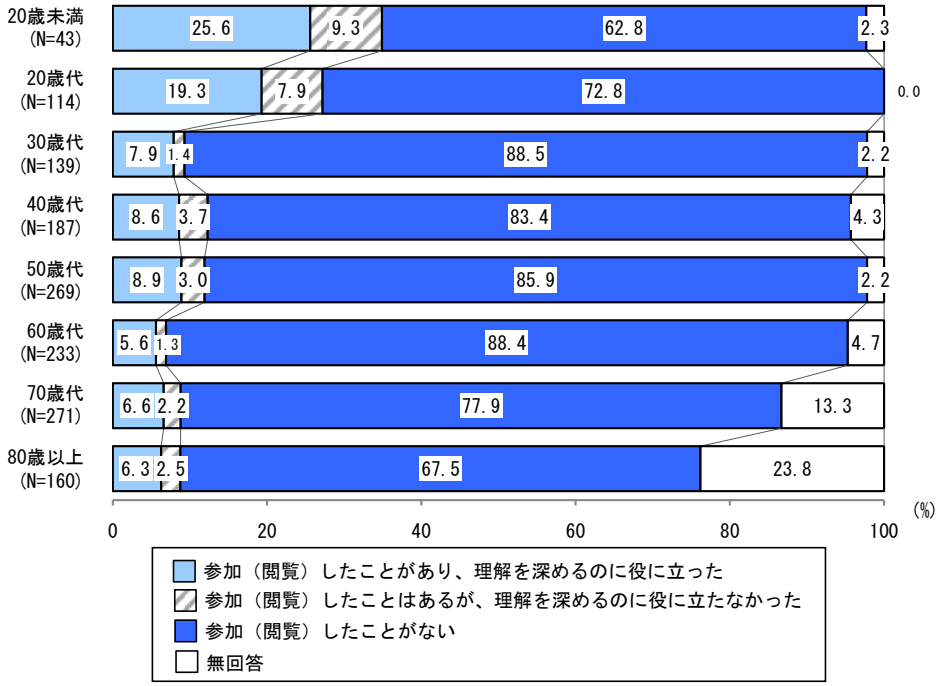
「エ．市民団体（NPO法人など）主催の講演会・研修会」を年齢別でみると、いずれの年代も「参加（閲覧）したことがない」の割合が７割以上を占め、30歳代が96.4%で最も高く、次いで20歳代が95.6%となっている。（図表11-3-4）

【図表11-3-5　年齢別　オ．市の広報紙（人権に関する記事）、パンフレット、チラシなど】



「オ．市の広報紙（人権に関する記事）、パンフレット、チラシなど」を年齢別でみると、「参加（閲覧）したことがあり、理解を深めるのに役に立った」の割合は70歳代が18.8%で最も高くなっている。「参加（閲覧）したことがない」の割合は20歳未満が93.0%で最も高く、次いで30歳代が85.6%となっている。（図表11-3-5）

【図表11-3-6　年齢別　カ．DVDやビデオなど映像媒体を用いたもの】

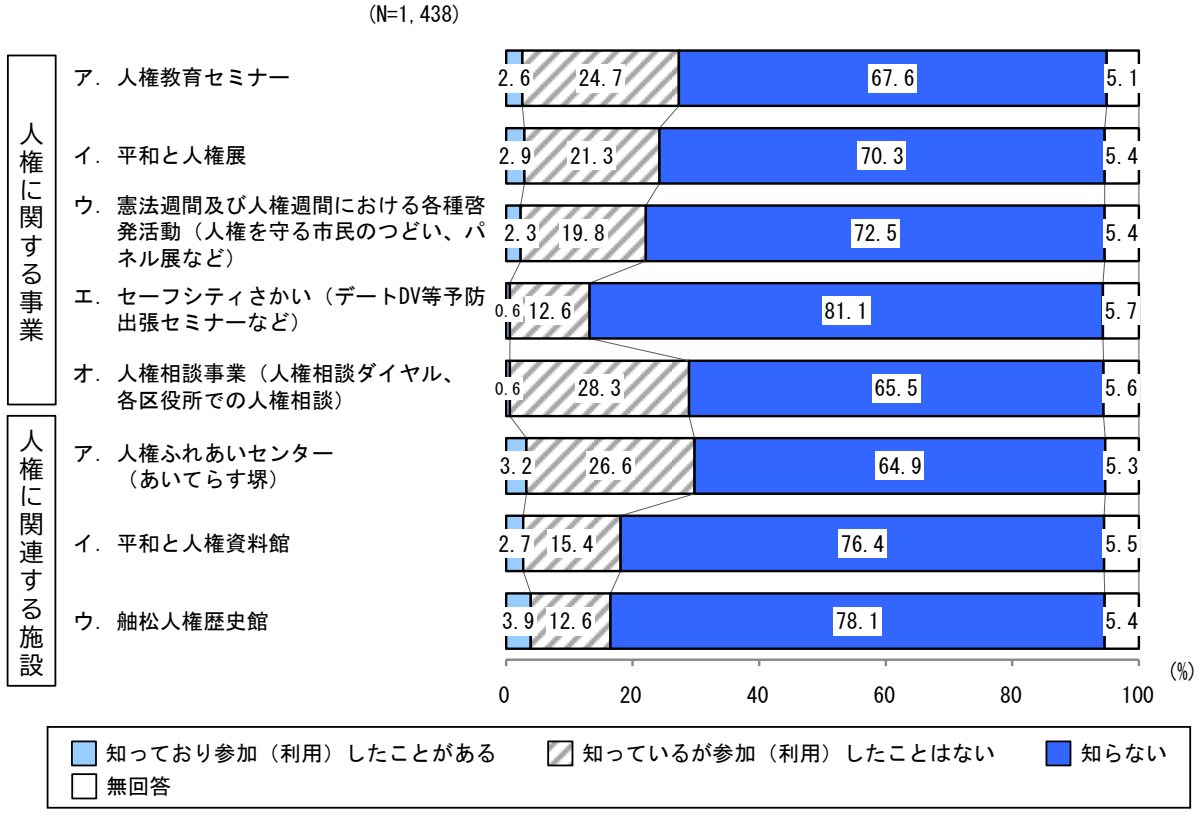


「カ．DVDやビデオなど映像媒体を用いたもの」を年齢別でみると、「参加（閲覧）したことがあり、理解を深めるのに役に立った」の割合は20歳未満が25.6%で最も高い。「参加（閲覧）したことがない」の割合は30歳代が88.5%で最も高く、次いで60歳代が88.4%となっている。（図表11-3-6）

（４）堺市の人権に関する事業についての認知状況

問36　あなたは、堺市等が実施する人権に関する事業や人権に関する施設を知っていますか。また、過去５年ほどの間に参加・利用したことがありますか。
（それぞれあてはまる番号1つに○）

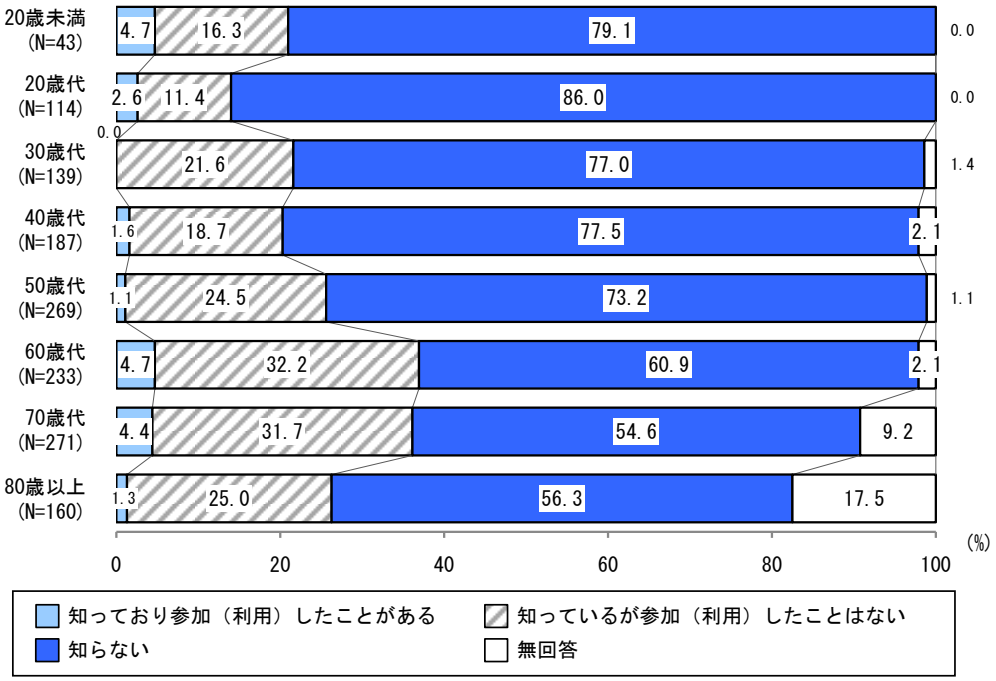
【図表11-4　堺市の人権に関する事業についての認知状況】



堺市の人権に関する事業についての認知状況については、「知っており参加（利用）したことがある」の割合はいずれも５％に満たない。「知っているが参加（利用）したことはない」の割合は「[事業]オ．人権相談事業（人権相談ダイヤル、各区役所での人権相談）」が28.3%で最も高く、“知っている”（「知っており参加（利用）したことがある」と「知っているが参加（利用）したことはない」をあわせた割合）は「[施設]ア．人権ふれあいセンター（あいてらす堺）」が29.8%で最も高く、次いで「[事業]オ．人権相談事業（人権相談ダイヤル、各区役所での人権相談）」が28.9%、「[事業]ア．人権教育セミナー」が27.3%となっている。

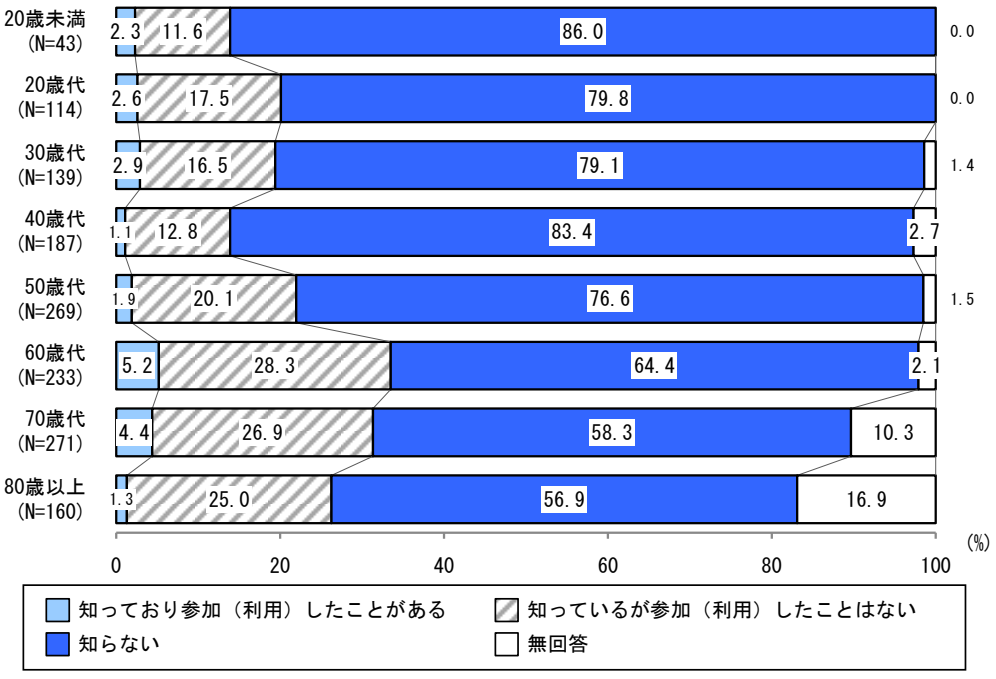
一方、「知らない」の割合は「[事業]エ．セーフシティさかい（デートDV等予防出張セミナーなど）」が81.1%で最も高く、次いで「[施設]ウ．舳松人権歴史館」が78.1%となっている。（図表11-4）

【図表11-4-1　年齢別　[事業]ア.人権教育セミナー】



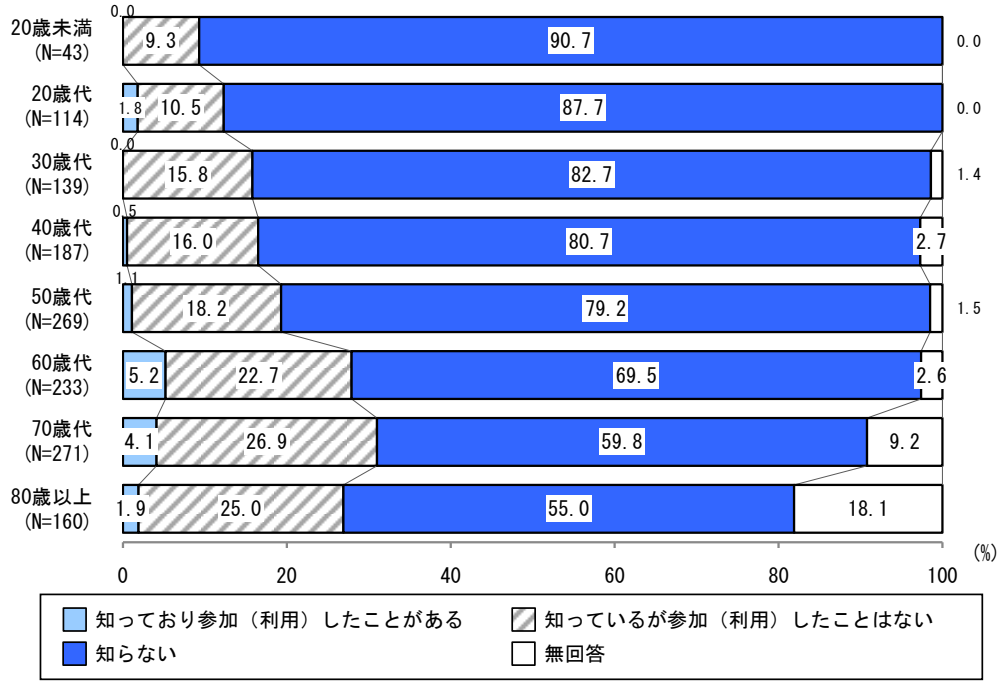
「ア.人権教育セミナー」を年齢別でみると、“知っている”の割合は60歳代が36.9%で最も高く、次いで70歳代が36.1%となっている。一方、「知らない」の割合は20歳代が86.0%で最も高くなっている。（図表11-4-1）

【図表11-4-2　年齢別　[事業]イ.平和と人権展】



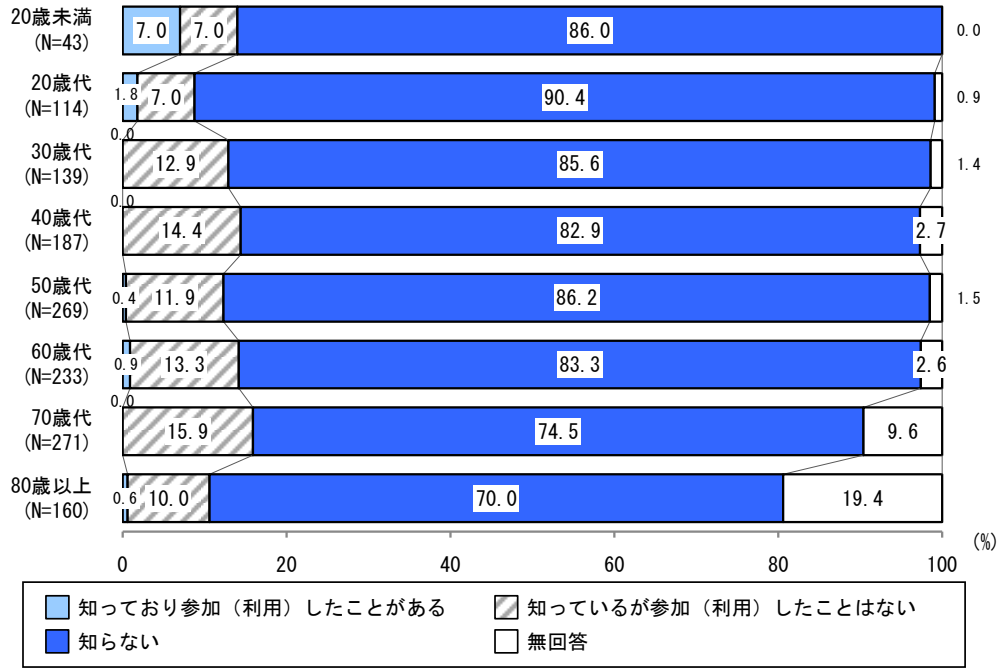
「イ．平和と人権展」を年齢別でみると、“知っている”の割合は60歳代が33.5%で最も高く、次いで70歳代が31.3%となっている。一方、「知らない」の割合は20歳未満が86.0%で最も高くなっている。（図表11-4-2）

【図表11-4-3　年齢別　[事業]ウ.憲法週間及び人権週間における各種啓発活動（人権を守る市民のつどい、パネル展 など)】



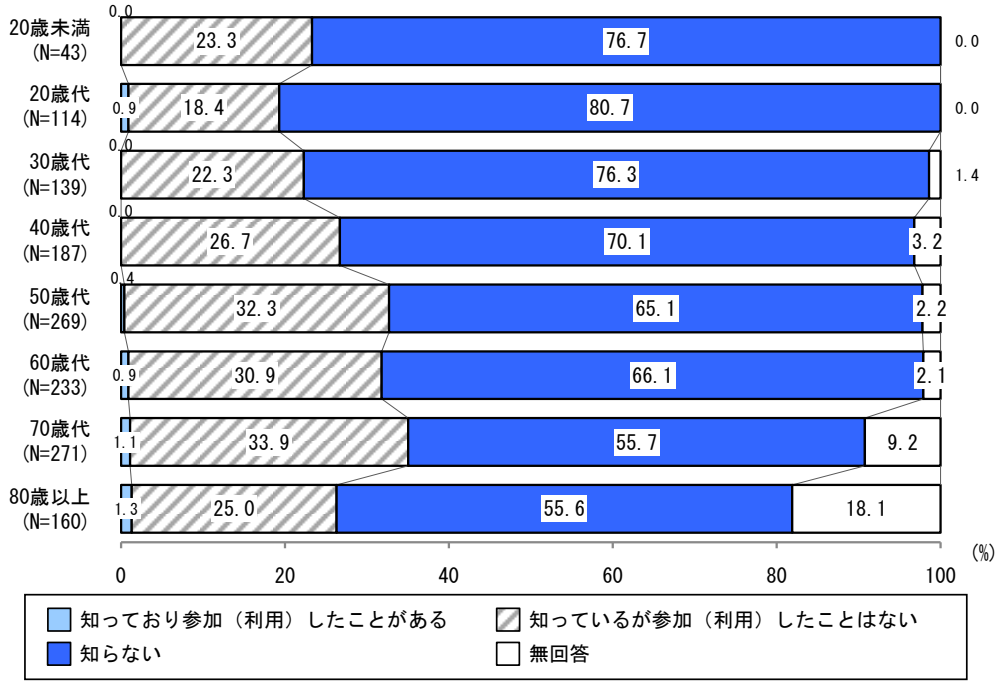
「ウ．憲法週間及び人権週間における各種啓発活動（人権を守る市民のつどい、パネル展など)」を年齢別でみると、“知っている”の割合は70歳代が31.0%で最も高く、次いで60歳代が27.9%となっている。一方、「知らない」の割合は20歳未満が90.7%で最も高くなっている。（図表11-4-3）

【図表11-4-4　年齢別　[事業]エ.セーフシティさかい（デートDV等予防出張セミナー など)】



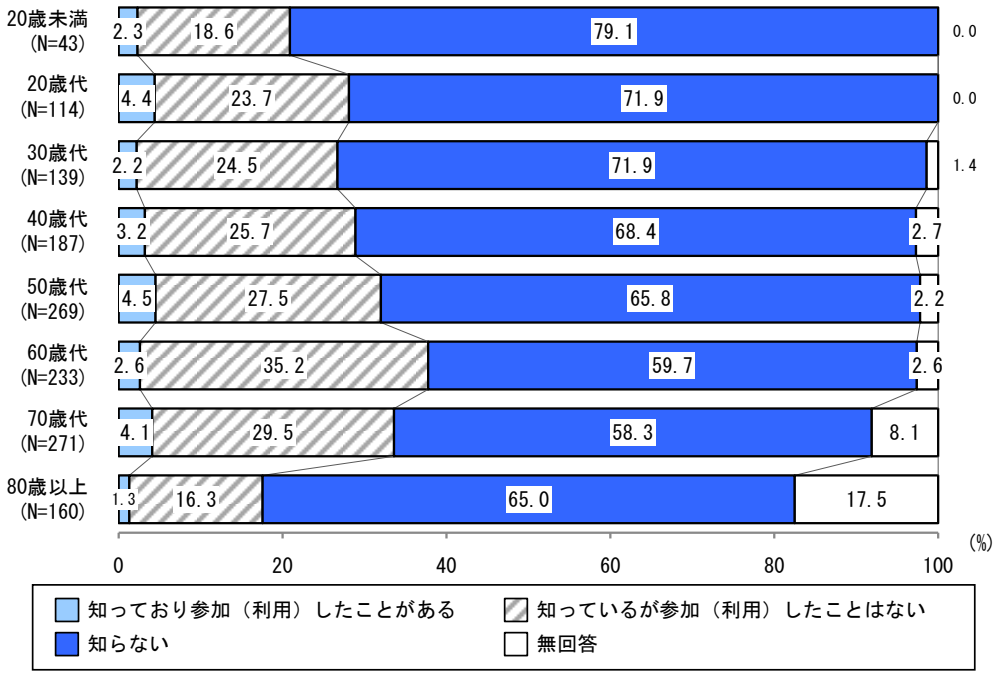
「エ．セーフシティさかい（デートDV等予防出張セミナーなど)」を年齢別でみると、“知っている”の割合は70歳代が15.9%で最も高い。一方、「知らない」の割合は、20歳代が90.4%で最も高く、他の年代も７～８割台を占めている。（図表11-4-4）

【図表11-4-5　年齢別　[事業]オ.人権相談事業（人権相談ダイヤル、各区役所での人権相談)】



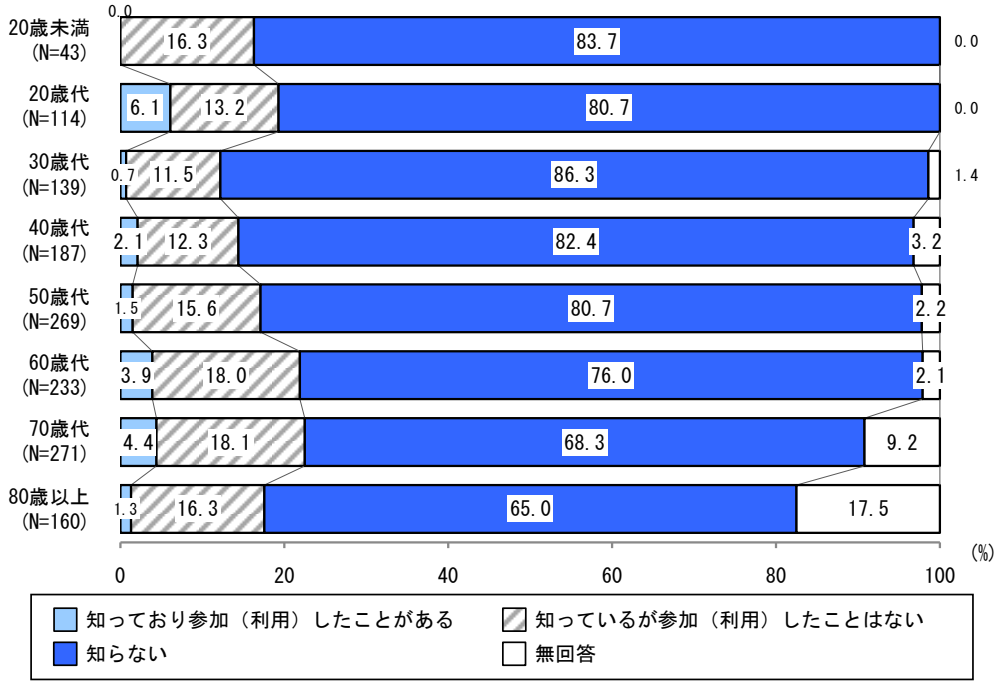
「オ.人権相談事業(人権相談ダイヤル、各区役所での人権相談)」を年齢別でみると、“知っている”の割合は70歳代が35.0%で最も高く、次いで50歳代が32.7%となっている。一方、「知らない」の割合は20歳代が80.7%で最も高くなっている。(図表11-4-5)

【図表11-4-6　年齢別　[施設]ア. 人権ふれあいセンター（あいてらす堺)】



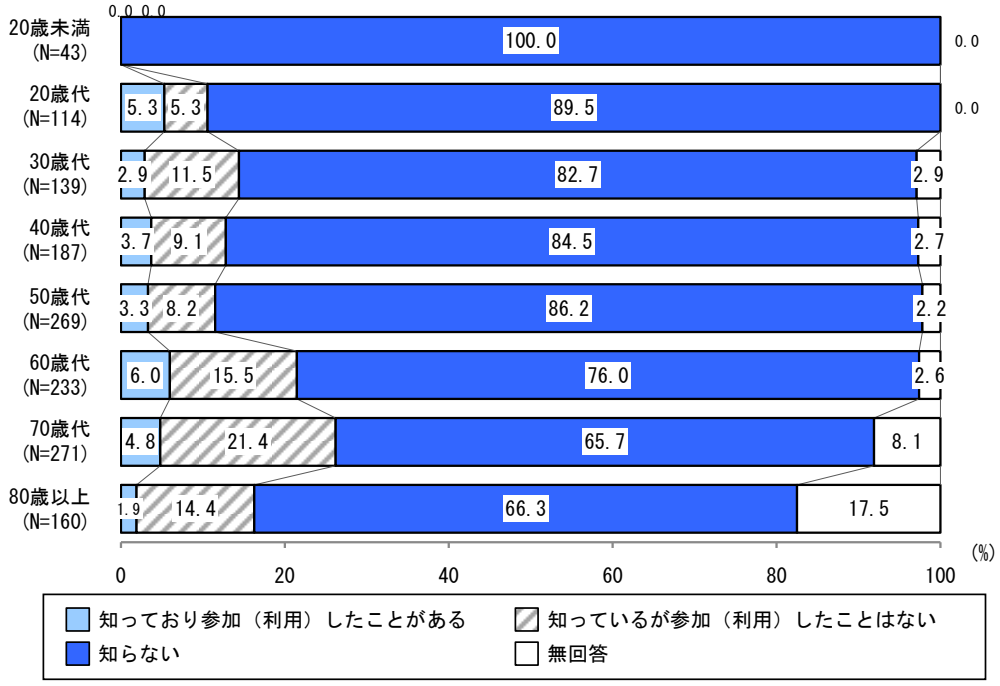
「ア. 人権ふれあいセンター（あいてらす堺)」を年齢別でみると、“知っている”の割合は60歳代が37.8%で最も高く、次いで70歳代が33.6%となっている。一方、「知らない」の割合は20歳未満が79.1%で最も高くなっている。(図表11-4-6)

【図表11-4-7　年齢別　[施設]イ.平和と人権資料館】



「イ．平和と人権資料館」を年齢別でみると、“知っている”の割合は70歳代が22.5%で最も高く、次いで60歳代が21.9%となっている。一方、「知らない」の割合は、20歳未満及び20～50歳代では８割台を占め、その中でも30歳代が86.3%で最も高い。（図表11-4-7）

【図表11-4-8　年齢別　[施設]ウ.舳松人権歴史館】



「ウ．舳松人権歴史館」を年齢別でみると、“知っている”の割合は70歳代が26.2%で最も高く、次いで60歳代が21.5%となっている。一方、「知らない」の割合はいずれの年代も６割以上を占め、その中でも20歳未満が100.0%で最も高くなっている。（図表11-4-8）